

糸島市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
調査結果報告書

令和5年3月
糸 島 市

目 次

I. 調査の概要及び回答者特性	1
1 調査実施の概要	1
（1）調査の目的	1
（2）調査の対象と調査地域	1
（3）調査方法	1
（4）調査期間	1
（5）調査項目	1
（6）回収状況	2
（7）調査結果利用上の留意事項	2
2 日常生活圏域について	3
3 回答者の基本属性	7
（1）性別	7
（2）年齢構成	7
（3）住まいの状況	7
（4）要介護度	8
（5）生活機能低下者の該当状況	8
（6）日常生活圏域の状況	10
4 家族や生活状況について	11
（1）家族構成	11
（2）介護・介助の必要度合い	12
（3）介護・介助が必要になった主な原因	13
（4）主に介護・介助を受けている人	15
（5）現在の暮らしの経済的状況	18
II. 調査結果	21
1 生活機能	21
（1）運動器	21
（2）閉じこもり	24
（3）転倒	32
（4）栄養	35
（5）口腔機能	41
（6）認知症	45
（7）虚弱	48
（8）生活機能の低下状況	52
2 日常生活	54
（1）手段的自立度（IADL）低下者	54
（2）社会参加者	56
（3）友人・知人と会う頻度	63
（4）この1か月に会った友人・知人の数	65
（5）よく会う友人・知人との関係	67

3	健康・疾病	70
	(1) 主観的健康感(あなたの健康状態)	70
	(2) 有病率(現在、治療中または後遺症のある病気)	72
4	生活習慣	75
	(1) 肥満	75
	(2) 飲酒の頻度	78
	(3) 喫煙の頻度	80
5	介護・介護予防	82
	(1) 普段の生活における介護・介助の必要性	82
	(2) 介護が必要になった際の意向	84
	(3) 介護予防の必要性	86
	(4) 介護予防が必要な理由	87
	(5) 介護予防のために実践していること	89
	(6) 介護予防を目的とした活動への参加経験	91
	(7) 参加したい介護予防の取組	93
	(8) 最期をどこで迎えたいか	96
	(9) フレイルの認知状況	98
6	相談・支援	99
	(1) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手	99
	(2) 地域包括支援センターの認知度	101
	(3) 高齢化に対応するために望まれる活動・体制	103
7	地域社会への参加等に関する意識	106
	(1) 趣味の有無	106
	(2) 生きがいの有無	107
	(3) 現在、感じている生きがい(喜びや楽しみ)の程度	108
	(4) 生きがいを感じる時	109
	(5) 自主的に行われている活動への参加意向	112
	(6) 自主的に行われている活動に参加するためのきっかけ	115
	(7) 参加したい団体や組織	118
	(8) 地域の奉仕活動に参加するための条件	121
	(9) 健康づくり活動や趣味のグループに参加者として参加したいか	124
	(10) 健康づくり活動や趣味のグループに企画・運営(お世話役)として参加したいか	125
	(11) あなたができる地域支援や協力	126
Ⅲ. 日常生活圏域の特性		131
1	前原東圏域の特性	131
2	前原西圏域の特性	132
3	前原圏域の特性	139
4	二丈圏域の特性	143
5	志摩圏域の特性	147
Ⅳ. 集計結果		153

I 調査概要及び回答者特性

調査概要及び回答者特性

1 調査実施の概要

(1) 調査の目的

本調査は、高齢者の生活状況や健康状態、社会参加に関する意識などを把握し、健康寿命の延伸に向けた健康づくり・生きがいづくりの取組への個別的な支援に活用します。

また、日常生活圏域ごとの特性から地域課題を把握して、今後の保健福祉行政に活かすとともに「糸島市高齢者保健福祉計画・第9期（令和6年度～8年度）介護保険事業計画」を策定する際の基礎資料とします。

(2) 調査の対象と調査地域

調査対象：令和4年9月30日現在市内に居住する65歳以上の高齢者5,000人
(要介護認定者を除く)

調査地域：市内全域（日常生活圏域5圏域）

(3) 調査方法

配布：郵送

回収：郵送または各校区コミュニティセンター、健康福祉センターあごら・ふれあい、高齢者福祉施設二丈苑、介護予防センターはつらつ館に設置の回収箱に投函

(4) 調査期間

令和4年11月1日（火）～ 令和4年11月30日（水）

(5) 調査項目

- ・家族や生活状況について
- ・からだを動かすことについて
- ・食べることについて
- ・毎日の生活について
- ・地域での活動について
- ・たすけあいについて
- ・健康について
- ・認知症にかかる相談窓口の把握について
- ・介護予防について
- ・地域での支援・高齢者福祉サービスについて
- ・地域社会への参加等に関する意識について

(6) 回収状況

圏域名	配布数	有効回収数	有効回収率
前原東	1,000	657	65.7%
前原西	1,000	675	67.5%
前原	1,000	663	66.3%
二丈	1,000	626	62.6%
志摩	1,000	650	65.0%
合計	5,000	3,271	65.4%
属性不明	—	16	—
総 数	5,000	3,287	65.7%

要介護度別	配布数	有効回収数	有効回収率
一般高齢者	4,623	3,034	65.6%
事業対象者	45	26	57.8%
要支援	332	211	63.6%
要支援1	155	103	66.5%
要支援2	177	108	61.0%
合計	5,000	3,271	65.4%
属性不明	—	16	—
総 数	5,000	3,287	65.7%

(7) 調査結果利用上の留意事項

- ・文章や表、グラフ中の回答割合（相対度数）は百分比のポイント以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならないことがあります。
- ・2つ以上の回答を求めた（複数回答）質問の場合、その回答割合の合計は原則として100%を超えます。
- ・数表等に記載された「N」は、回答割合算出上の基数（回答者数）を示しており、回答の割合はNを分母とした回答割合です。
- ・グラフ中の市全体「N」は、属性不明の回答者数を含んでいるため、属性別の回答者数の合計と一致しません。
- ・前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化された回答者を基数として算出しています。
- ・文中では選択肢（変数）を「 」で示しています。選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがあります。また、2つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示しています。
- ・無回答を除いてクロス集計した結果の回答割合（相対度数）は、無回答を含む単純集結果の割合（相対度数）と一致していない場合があります。

2 日常生活圏域について

本市では、5つの日常生活圏域を設定しており、各圏域の地域包括支援センターを中核として、地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に行い、生活支援・介護予防の一体的な支援と地域包括ケアシステムの構築を推進しています。

調査結果は、日常生活圏域ごとに、高齢者の個別のニーズを集約し、地域課題を抽出します。



項目	内容	
総人口	103,508 人	
高齢者人口	30,986 人 (前期高齢者 15,971 人 / 後期高齢者 14,997 人)	
高齢化率	29.9% (前期高齢者 15.4% / 後期高齢者 14.5%)	
総世帯数	45,249 世帯	
認定者数	4,672 人 (うち1号 4,598 人)	
	要支援1・2認定者	1,615 人 (うち1号 1,588 人)
	要介護1～5認定者	3,057 人 (うち1号 3,010 人)
認定率	14.8% (1号被保険者)	
地域包括支援センター	5か所	

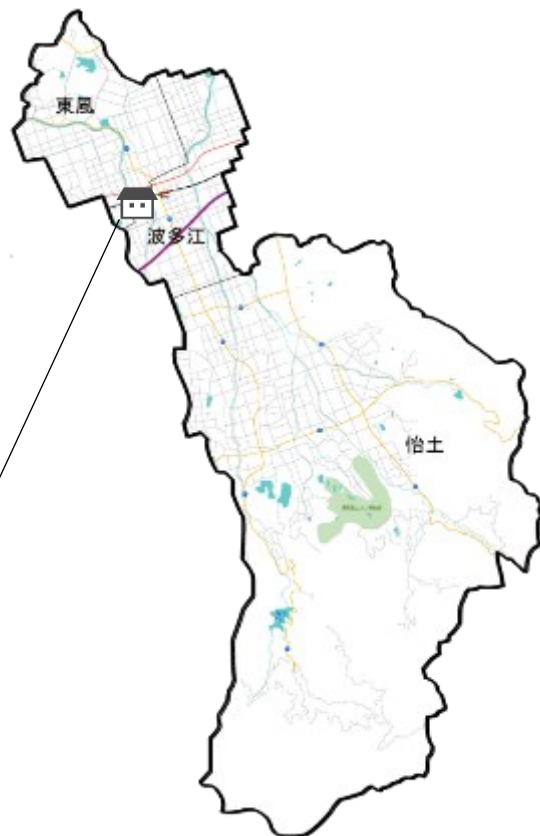
(令和4年9月末現在)

【前原東圏域】

単位：人、%

小学校区	総人口	前期高齢者	後期高齢者	高齢者数合計	高齢化率
波多江	12,391	1,714	1,650	3,364	27.1%
東風	9,541	1,066	948	2,014	21.1%
怡土	6,990	1,480	1,289	2,769	39.6%
合計	28,922	4,260	3,887	8,147	28.2%

(令和4年9月末現在)



糸島市前原東地域包括支援センター
【波多江・東風・怡土校区担当】
 住所：潤 1-22-1
 市健康福祉センターあごら内

【前原西圏域】

単位：人、%

小学校区	総人口	前期高齢者	後期高齢者	高齢者数合計	高齢化率
前原	12,295	1,659	1,450	3,109	25.3
南風	8,571	940	913	1,853	21.6
加布	7,476	1,328	1,301	2,629	35.2
合	28,342	3,927	3,664	7,591	26.8

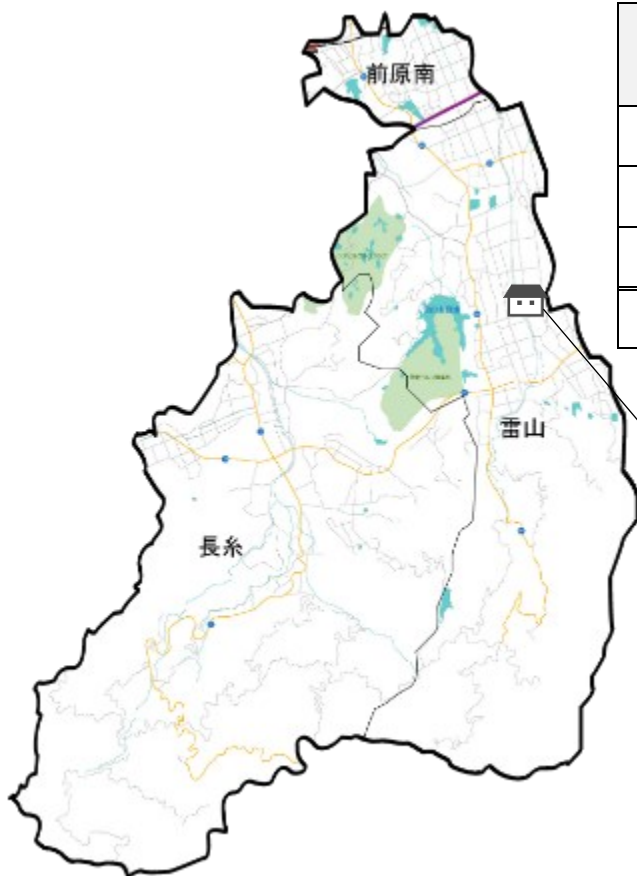
(令和4年9月末現在)



糸島市前原西地域包括支援センター
【前原・南風・加布里校区担当】
 住所：富 508-4
 特別養護老人ホーム富の里内

【前原圏域】

単位：人、%



小学校区	総人口	前期高齢者	後期高齢者	高齢者数合計	高齢化率
前原南	11,123	1,385	1,308	2,693	24.2
長糸	1,907	381	342	723	37.9
雷山	3,877	654	565	1,219	31.4
合計	16,907	2,420	2,215	4,635	27.4

(令和4年9月末現在)

糸島市前原地域包括支援センター
 【前原南・長糸・雷山校区担当】
 住所：高上 171
 特別養護老人ホームマイネスハウス内

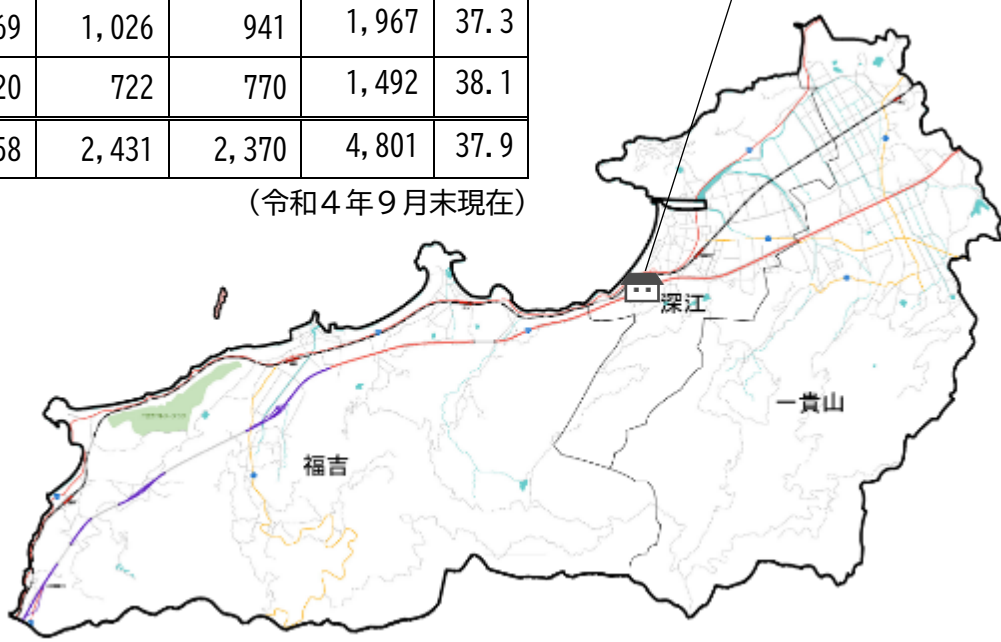
【二丈圏域】

単位：人、%

小学校区	総人口	前期高齢者	後期高齢者	高齢者数合計	高齢化率
一貴山	3,469	683	659	1,342	38.7
深江	5,269	1,026	941	1,967	37.3
福吉	3,920	722	770	1,492	38.1
合計	12,658	2,431	2,370	4,801	37.9

(令和4年9月末現在)

糸島市二丈地域包括支援センター
 【一貴山・深江・福吉校区担当】
 住所：二丈深江 1293-1
 市高齢者福祉施設二丈苑内

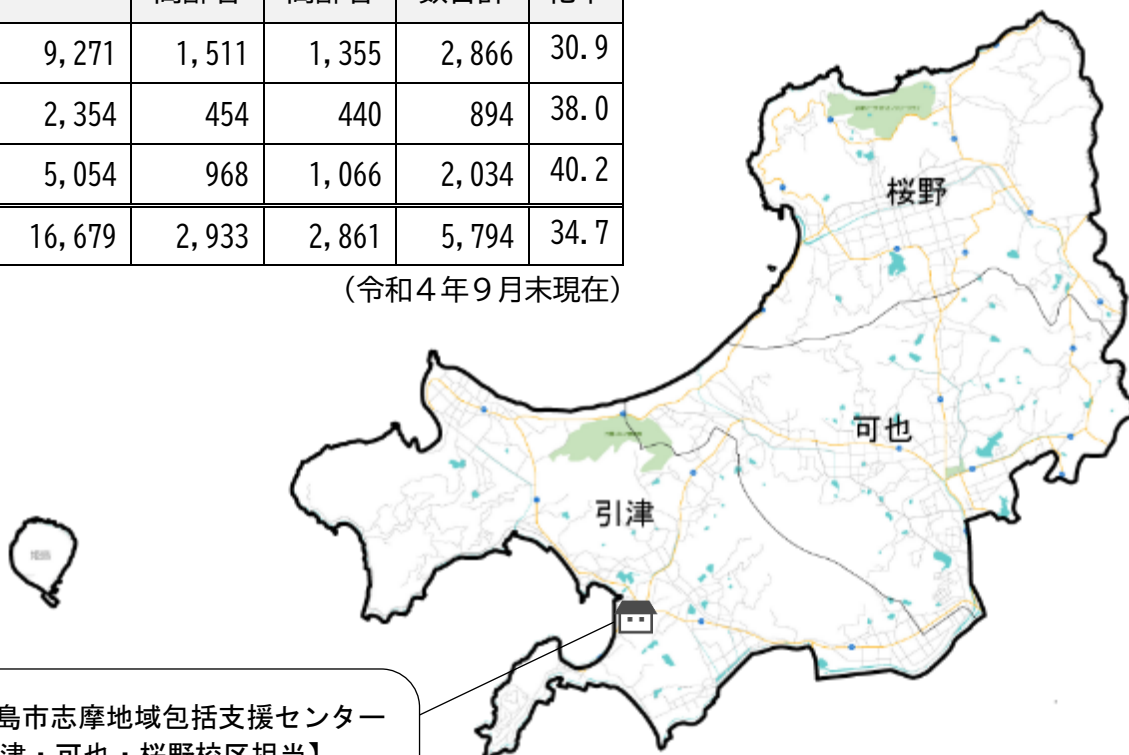


【志摩圏域】

単位：人、%

小学校区	総人口	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢 化率
可也	9,271	1,511	1,355	2,866	30.9
桜野	2,354	454	440	894	38.0
引津	5,054	968	1,066	2,034	40.2
合計	16,679	2,933	2,861	5,794	34.7

(令和4年9月末現在)

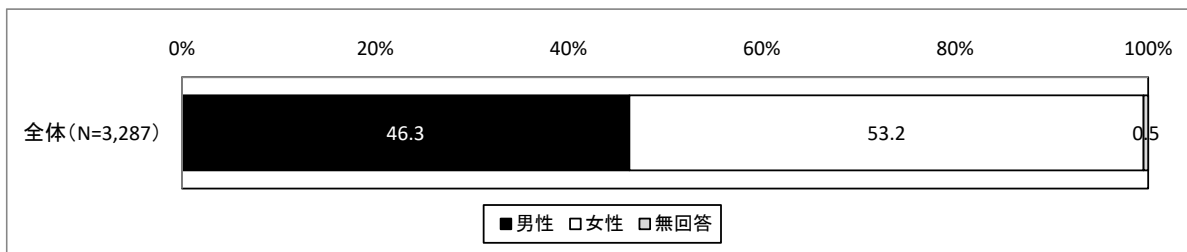


糸島市志摩地域包括支援センター
 【引津・可也・桜野校区担当】
 住所：志摩久家 2527-2
 特別養護老人ホーム志摩園内

3 回答者の基本属性

(1) 性別

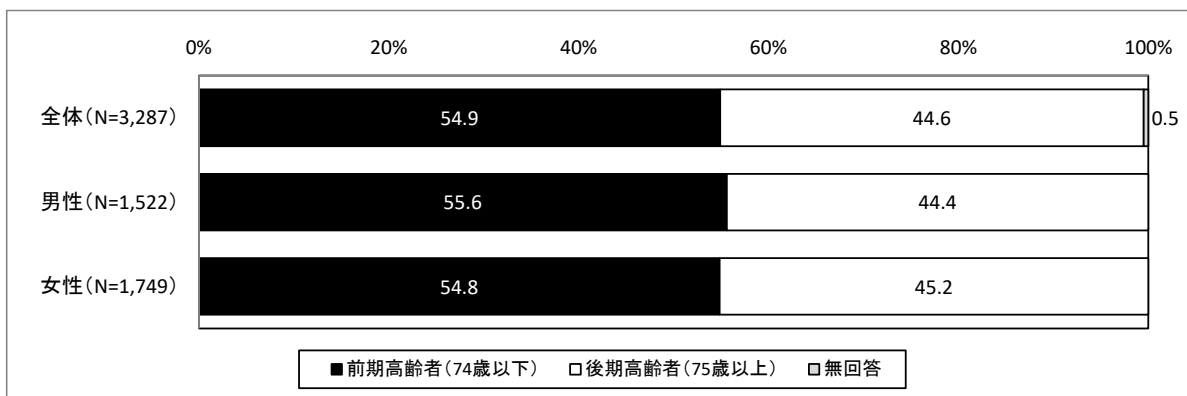
回答者の性別構成をみると男性 46.3%、女性 53.2%となっている。



(2) 年齢構成

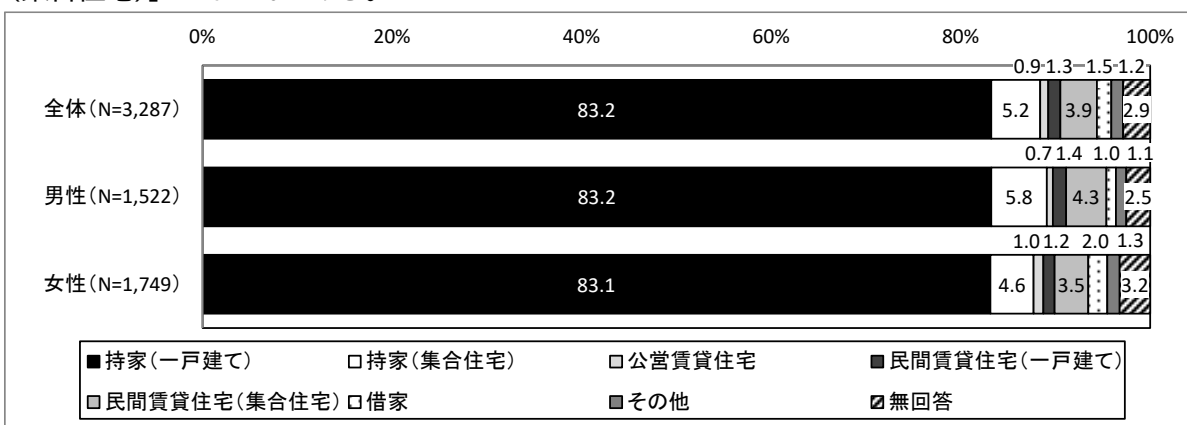
回答者の年齢構成をみると、市全体では 74 歳以下が 54.9%、75 歳以上が 44.6%となっている。

性別で年齢構成をみると女性の 75 歳以上は男性よりやや高く、45.2%となっている。



(3) 住まいの状況

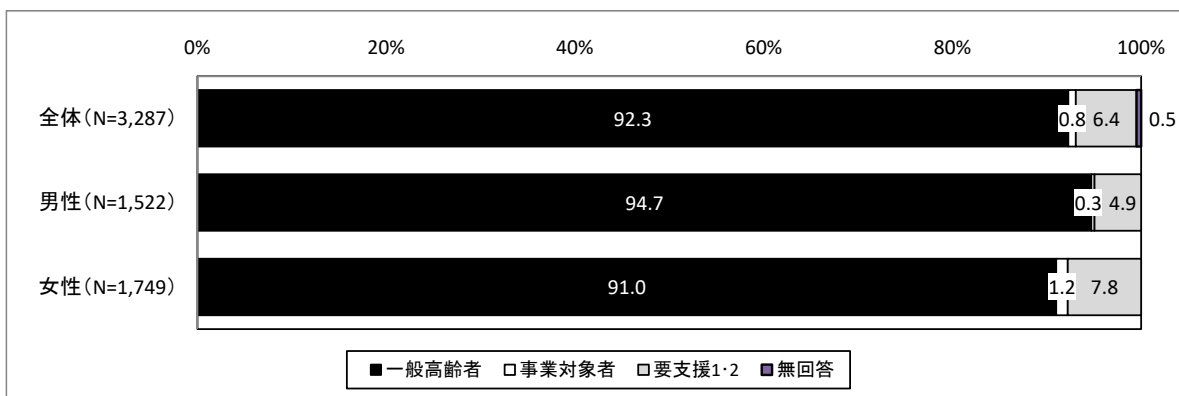
回答者の住まいの状況をみると、市全体では「持家（一戸建て）」が最も高く 83.2%となっており、次いで「持家（集合住宅）」が 5.2%である。



(4) 要介護度

回答者の要介護度をみると、いずれの属性においても一般高齢者が大半を占めている。

性別では男性の要支援1・2は4.9%であるのに、女性では7.8%であり、女性の方が多くなっている。



(5) 生活機能低下者の該当状況

【性別・年代別】

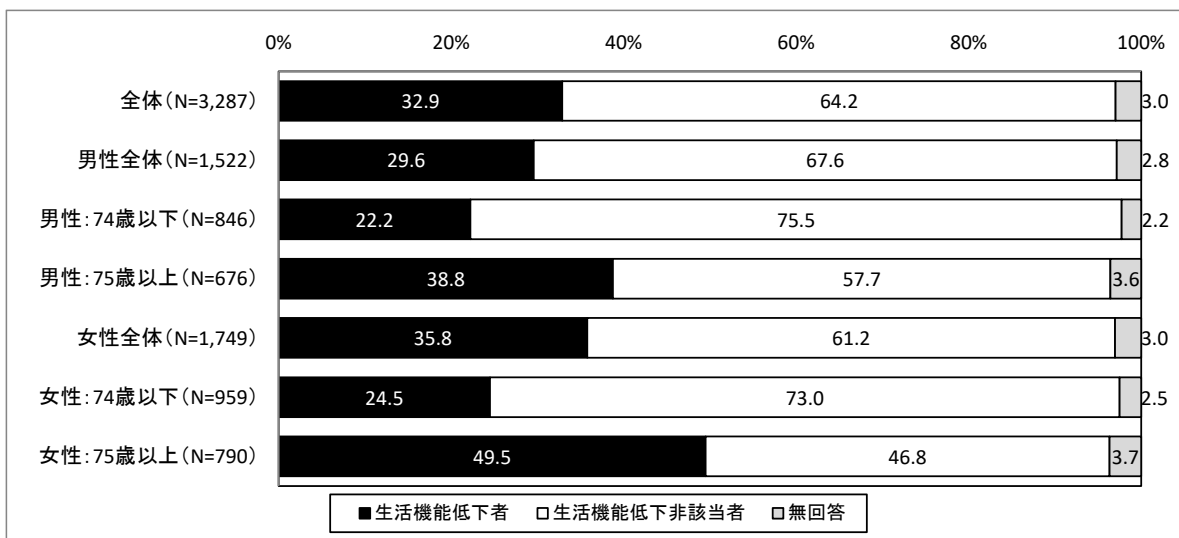
生活機能低下者(※1)の該当状況をみると、市全体での生活機能低下者は32.9%、生活機能低下非該当者(※2)は64.2%となっている。

性別でみると男性29.6%、女性35.8%となっている。

年代別では、74歳以下の年代では男性22.2%、女性24.5%となっており大きな差はないものの、75歳以上の年代においては男性38.8%、女性49.5%となっており、女性の生活機能低下者の数が増加している。

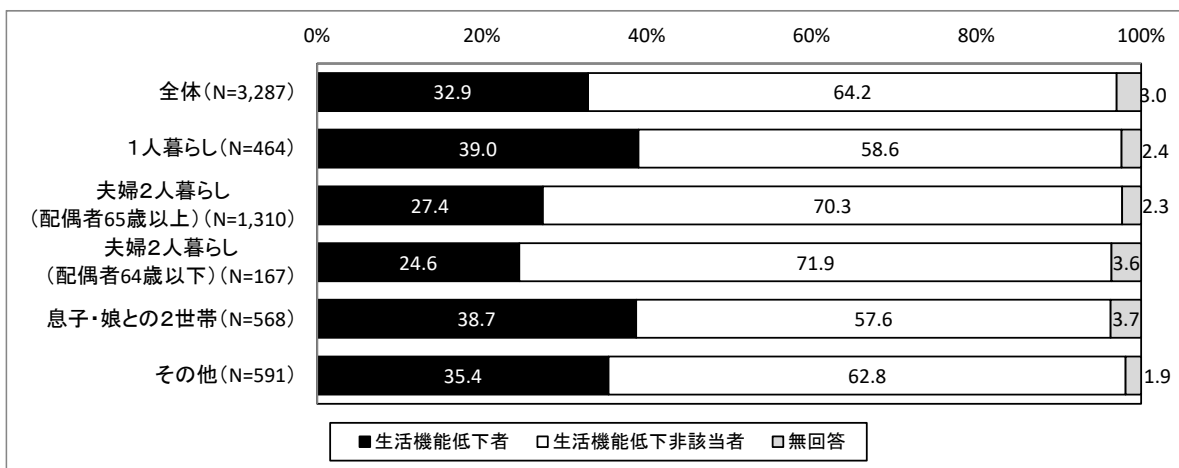
(※1) 生活機能低下者…将来、介護が必要となるおそれの高い状態にある高齢者

(※2) 生活機能低下非該当者…现阶段では、生活機能(運動器、栄養、口腔機能、虚弱)のいずれにも問題がないと判定された高齢者



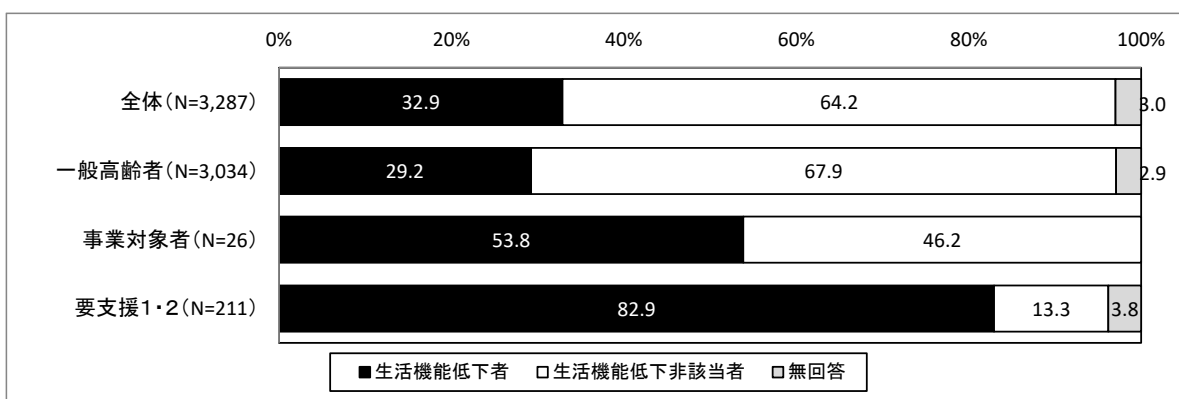
【家族構成別】

家族構成別にみると、生活機能低下者の割合は「一人暮らし」家庭で39.0%、次いで「息子・娘と2世帯」家庭で38.7%となっている。



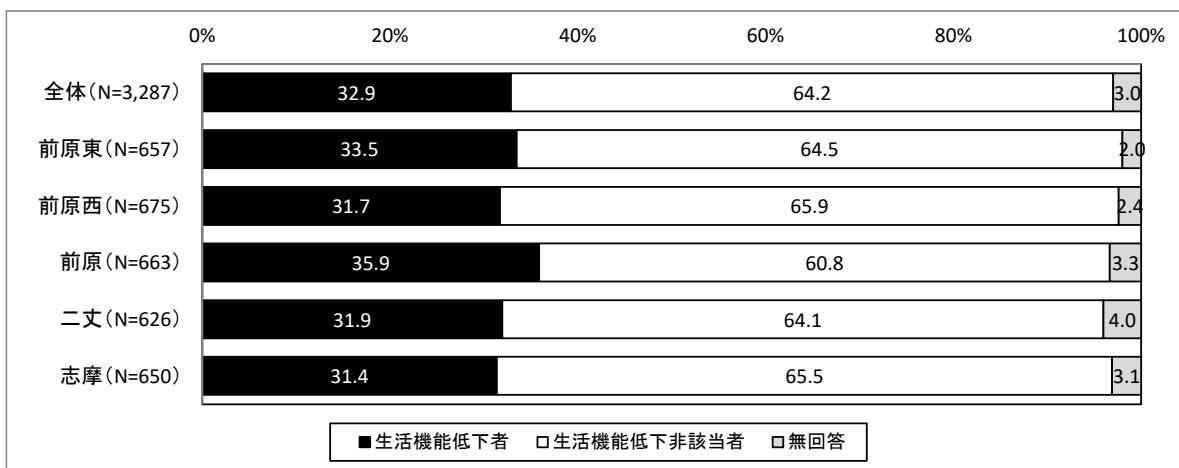
【要介護度別】

要介護度別でみると、生活機能低下者の割合には大きな差がある。一般高齢者では生活機能低下者が29.2%であるのに対し、事業対象者では53.8%、要支援1・2では82.9%にも上る。



【圏域別】

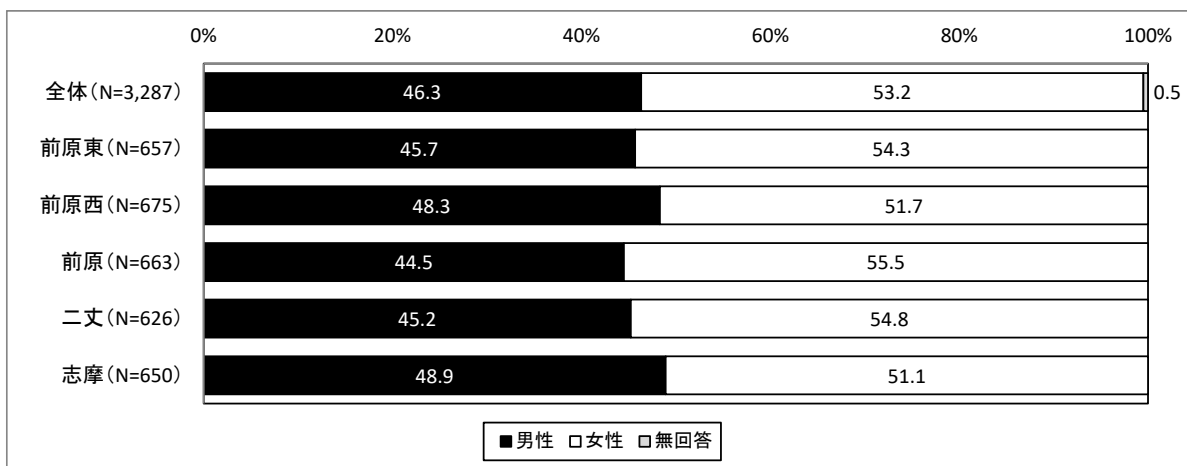
圏域別では、前原圏域で「生活機能低下者」が35.9%とやや高くなっている。他圏域については大きな差はない。



(6) 日常生活圏域の状況

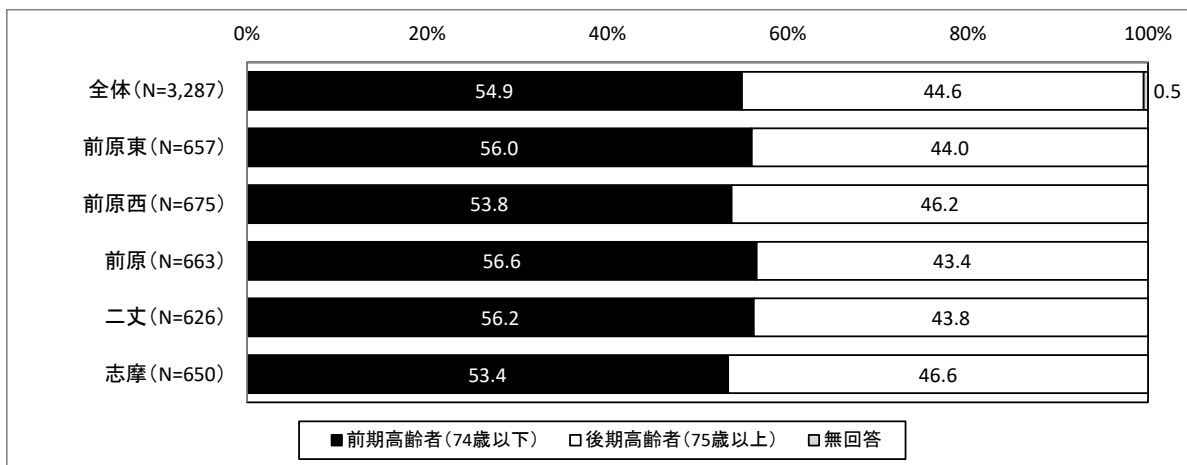
【性別】

すべての日常生活圏域において男性が40%台、女性が50%台となっている。



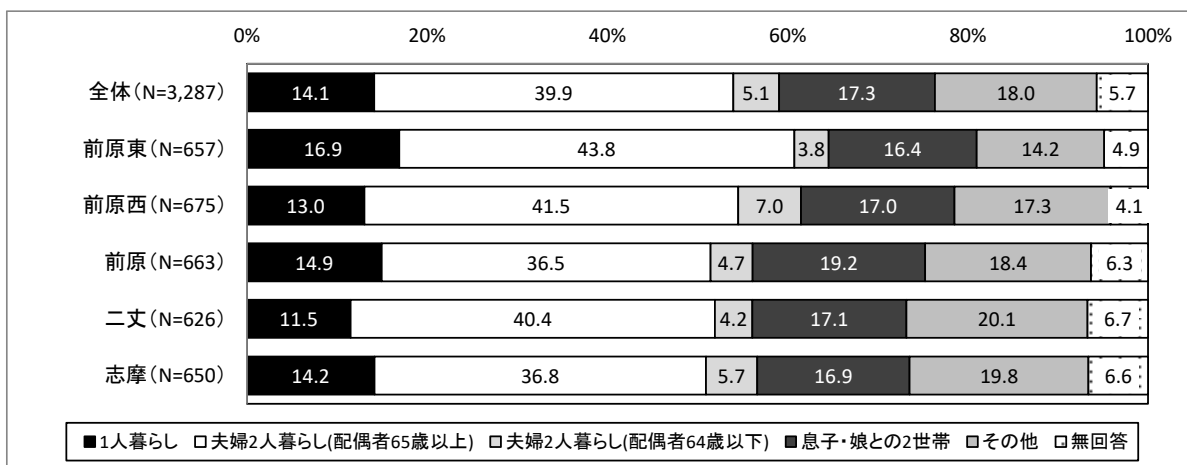
【年代別】

年代構成をみるとすべての日常生活圏域において74歳以下が50%台、75歳以上が40%台となっている。



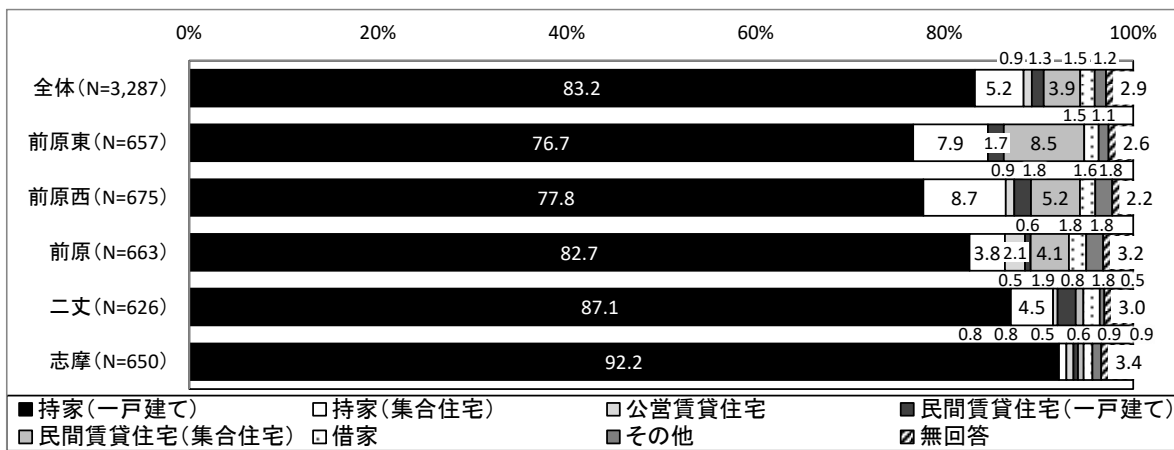
【家族構成別】

家族構成を圏域別で見ると前原東圏域は「一人暮らし」家庭が16.9%と他圏域よりもやや高くなっている。また「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」も前原東圏域でやや高くなっており43.8%となっている。



【住まいの状況別】

住まいの状況を圏域別でみると「持家（一戸建て）」において前原東圏域が76.7%、前原西圏域が77.8%と他圏域よりも低くなっている。また志摩圏域においては、「持家（一戸建て）」が92.2%と他圏域より高くなっている。

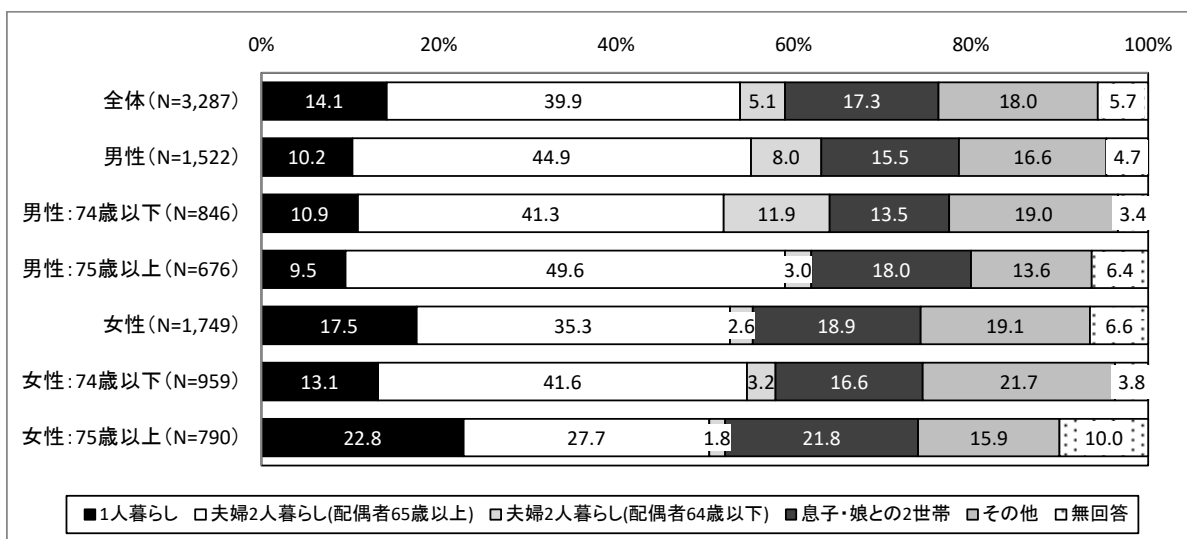


4 家族や生活状況について

(1) 家族構成

回答者の家族構成をみると、いずれの項目においても「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が最も高くなっている（市全体では39.9%）。「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が最も高いのは男性75歳以上の回答者で49.6%となっている。一方、女性75歳以上の回答者は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が27.7%で他の項目と比較して低くなっている。

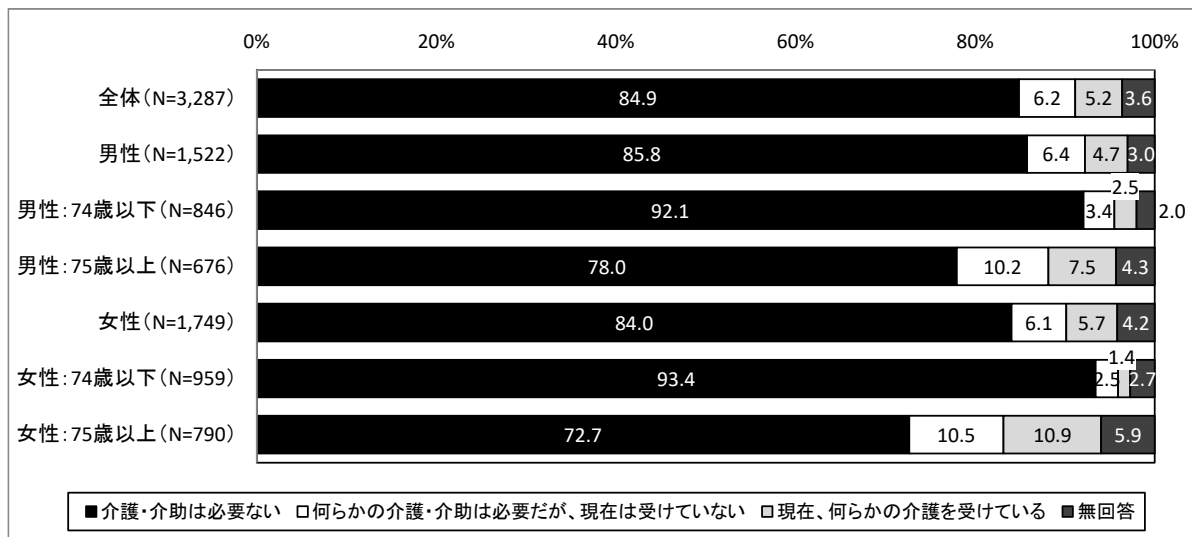
性別では「一人暮らし」の割合は男性10.2%、女性17.5%であり、男性に比較し女性の「一人暮らし」が1.5倍以上高くなっている。



(2) 介護・介助の必要度合い

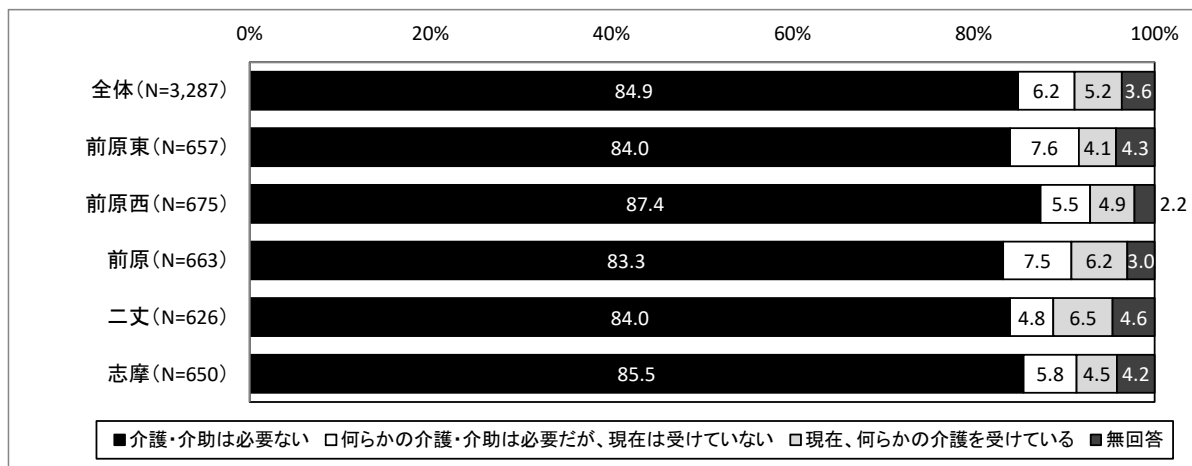
市全体でみると、「介護・介助は必要ない」が最も高く 84.9%となっている。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.2%、「現在、何らかの介護を受けている」が5.2%となっている。

性別でみると、男性は「介護・介助は必要ない」が85.8%で、女性は84.0%である。性年代別では男女ともに75歳以上で「介護・介助は必要ない」の割合が大きく減少しており、特に女性は男性よりも減少の幅が大きくなっている。



【圏域別】

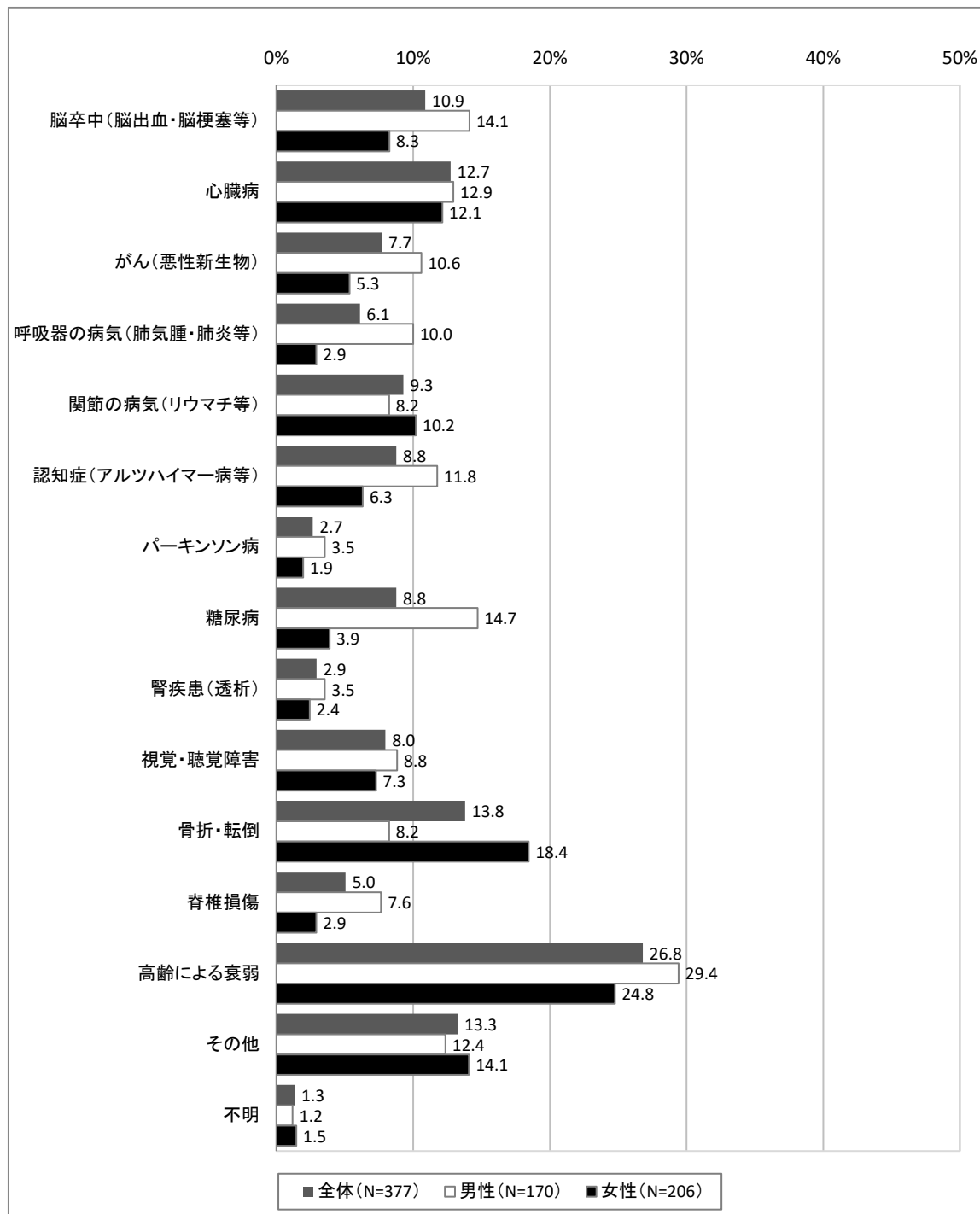
圏域別では、前原西圏域で「介護・介助は必要ない」が87.4%とやや高くなっている。他圏域については大きな差はない。



(3) 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）

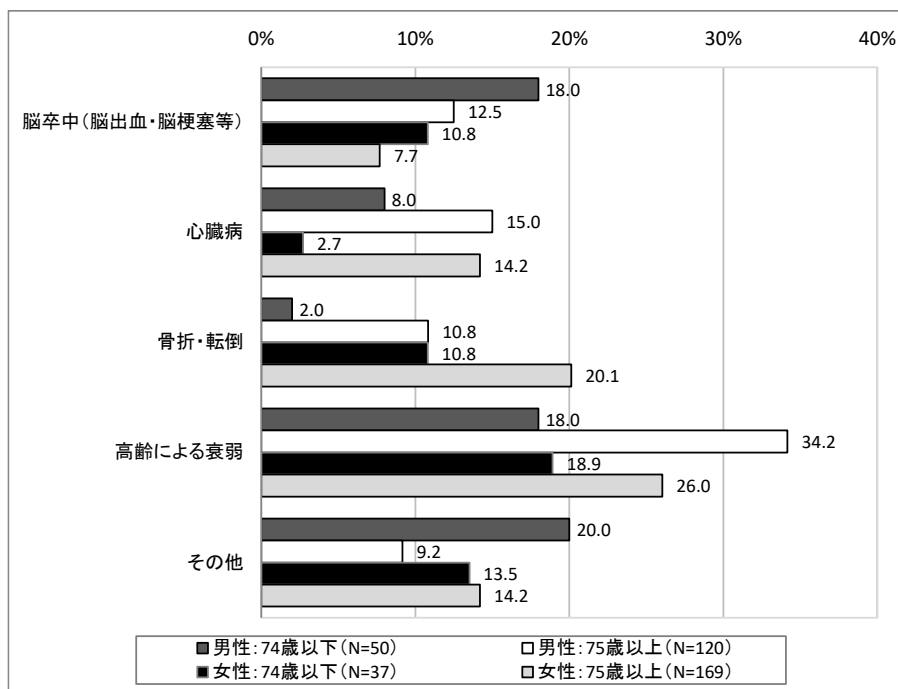
市全体でみると、介護・介助が必要となった原因として最も高いのは「高齢による衰弱」であり 26.8%となっている。次いで「骨折・転倒」が13.8%、「その他」が13.3%となっている。

性別でみると男性は「糖尿病」14.7%、「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」10.0%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」14.1%、「認知症（アルツハイマー病等）」11.8%などで市全体よりも3ポイント以上高くなっている。一方、女性は「骨折・転倒」18.4%、「関節の病気（リウマチ等）」10.2%などで市全体よりも高くなっている。



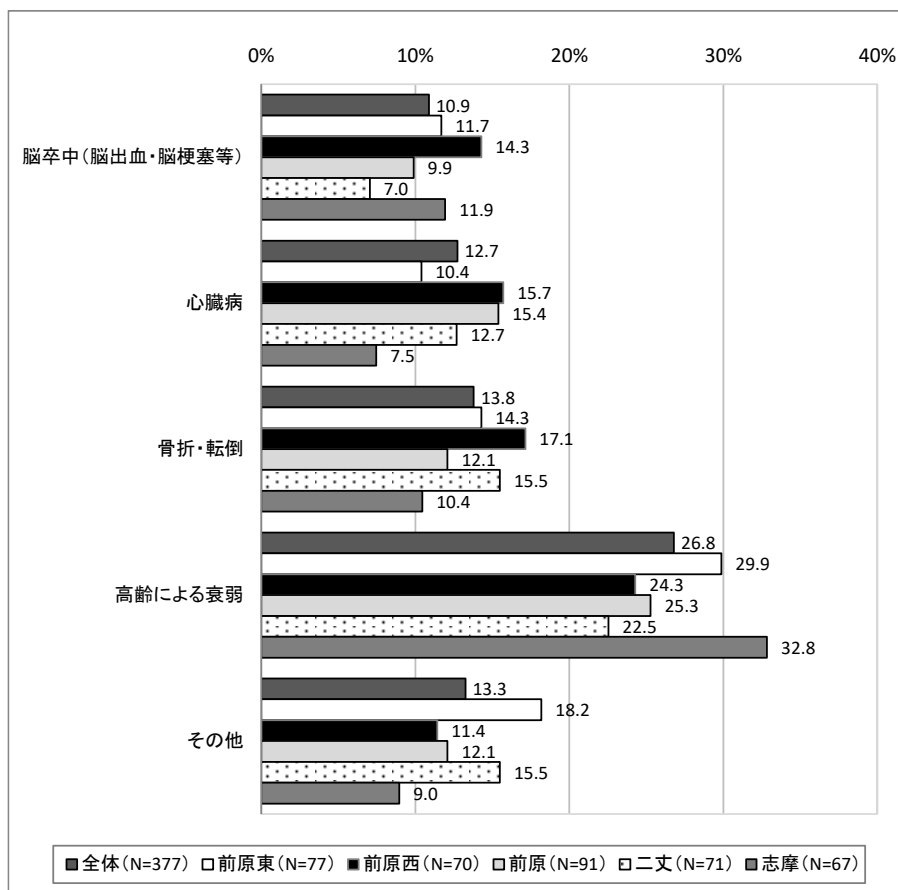
【性別・年代別（上位5項目）】

「高齢による衰弱」は75歳以上の年代において急激に高くなっている。また、「骨折・転倒」は女性75歳以上で顕著に高くなっている。



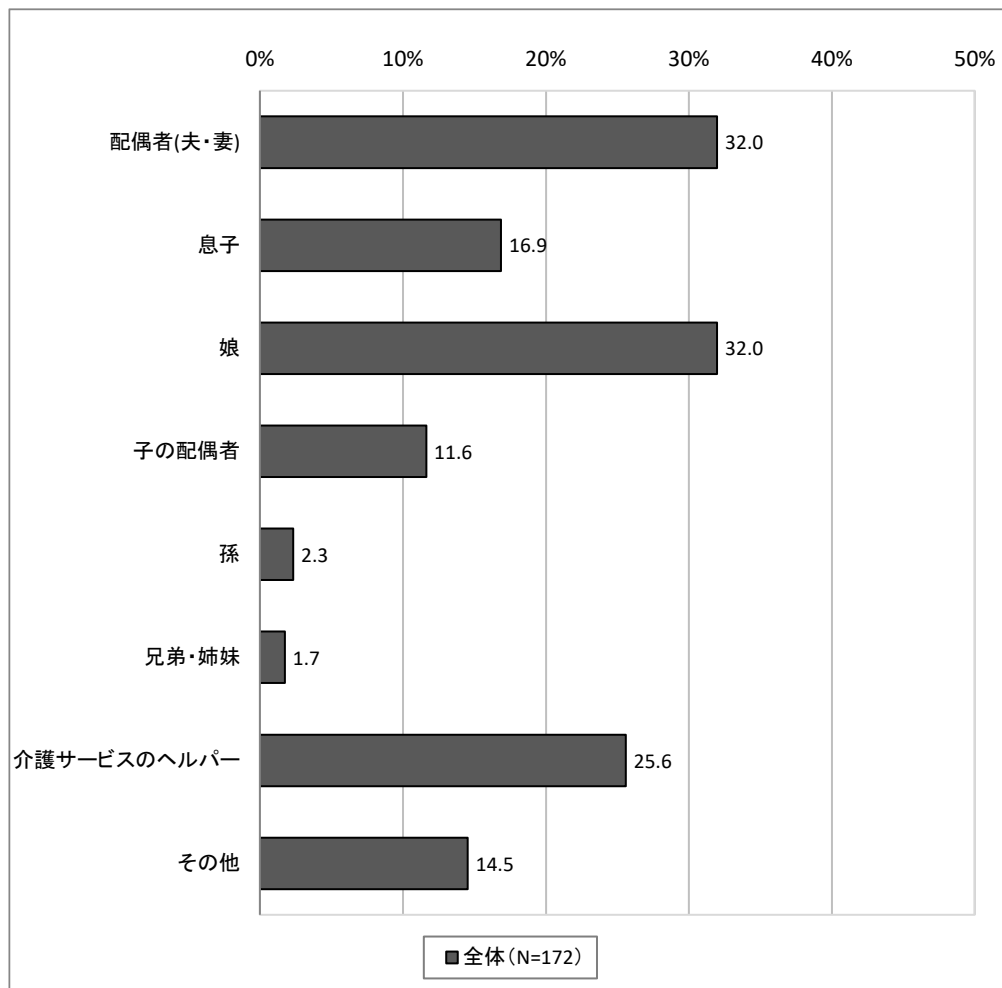
【圏域別（上位5項目）】

前原西圏域では「脳卒中」が14.3%と他圏域よりも高い。二丈圏域では「脳卒中」の割合が7.0%と他圏域と比較して低い。志摩圏域では「高齢による衰弱」が32.8%と他圏域と比較して高くなっており、「心臓病」が7.5%と他圏域と比較して低くなっている。



(4) 主に介護・介助を受けている人（複数回答）

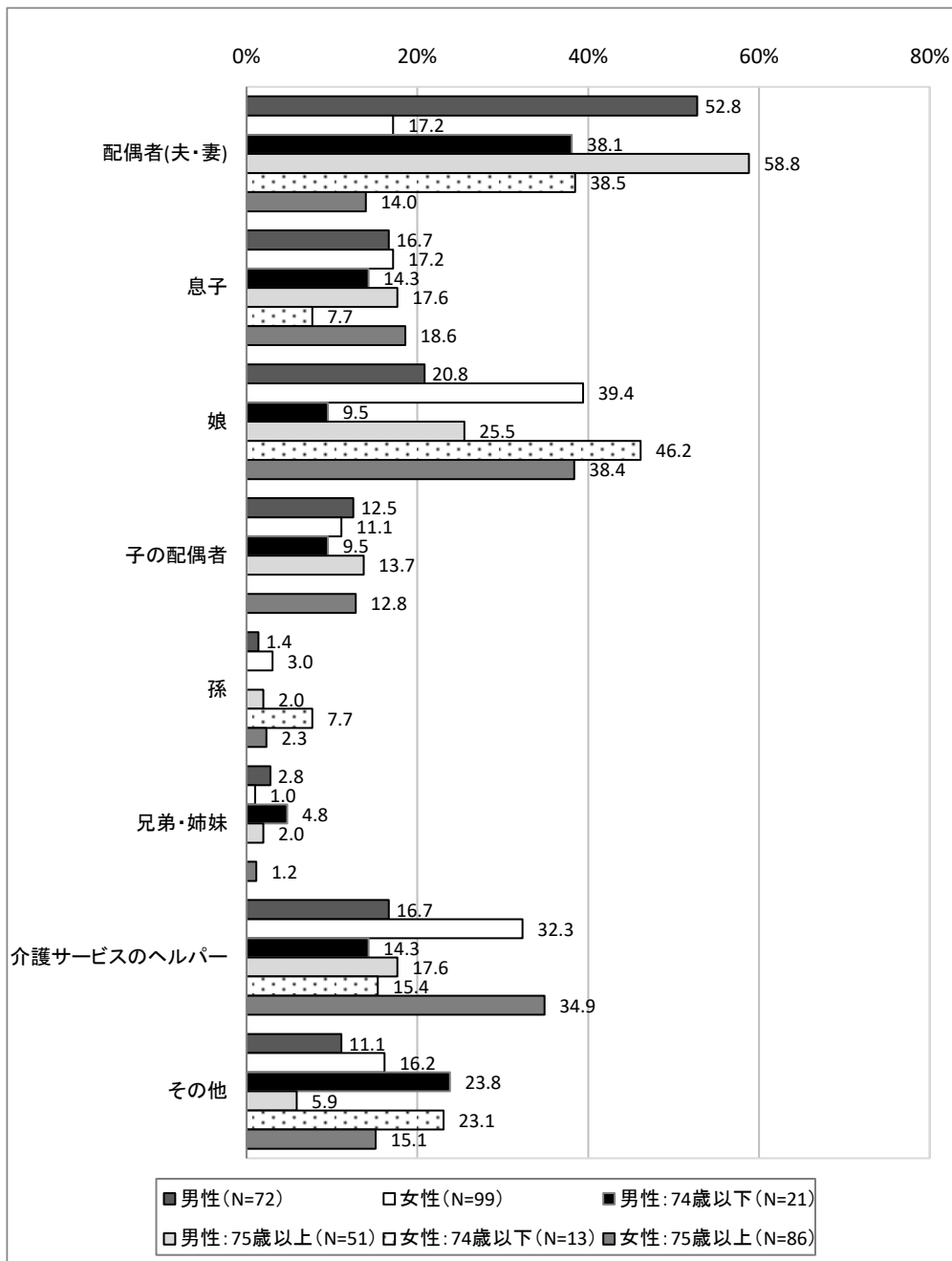
市全体でみると、「配偶者（夫・妻）」、「娘」が 32.0%で最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」の 25.6%、「息子」の 16.9%が続いている。



【性別・年代別】

性別で見ると、介護者の割合は「配偶者（夫・妻）」において「男性」が52.8%、女性が17.2%と男性が非常に高くなっている。また、「娘」においては女性が39.4%、「男性」が20.8%と女性の方が高くなっており、「介護サービスのヘルパー」も男性より女性の方が高い。

年代別では「配偶者（夫・妻）」は男性の75歳以上で58.8%と非常に高くなっており、女性の75歳以上では14.0%と低くなっている。「娘」に関しては、女性の74歳以下が46.2%と高く、男性の74歳以下は9.5%と非常に少ない。



【圏域別（上位5項目）】

市全体で割合が高かった上位五項目に着目し、圏域別の分析を行った。ただし、以下の分析は回答者数が少ないため、参考程度にとどめる必要がある。

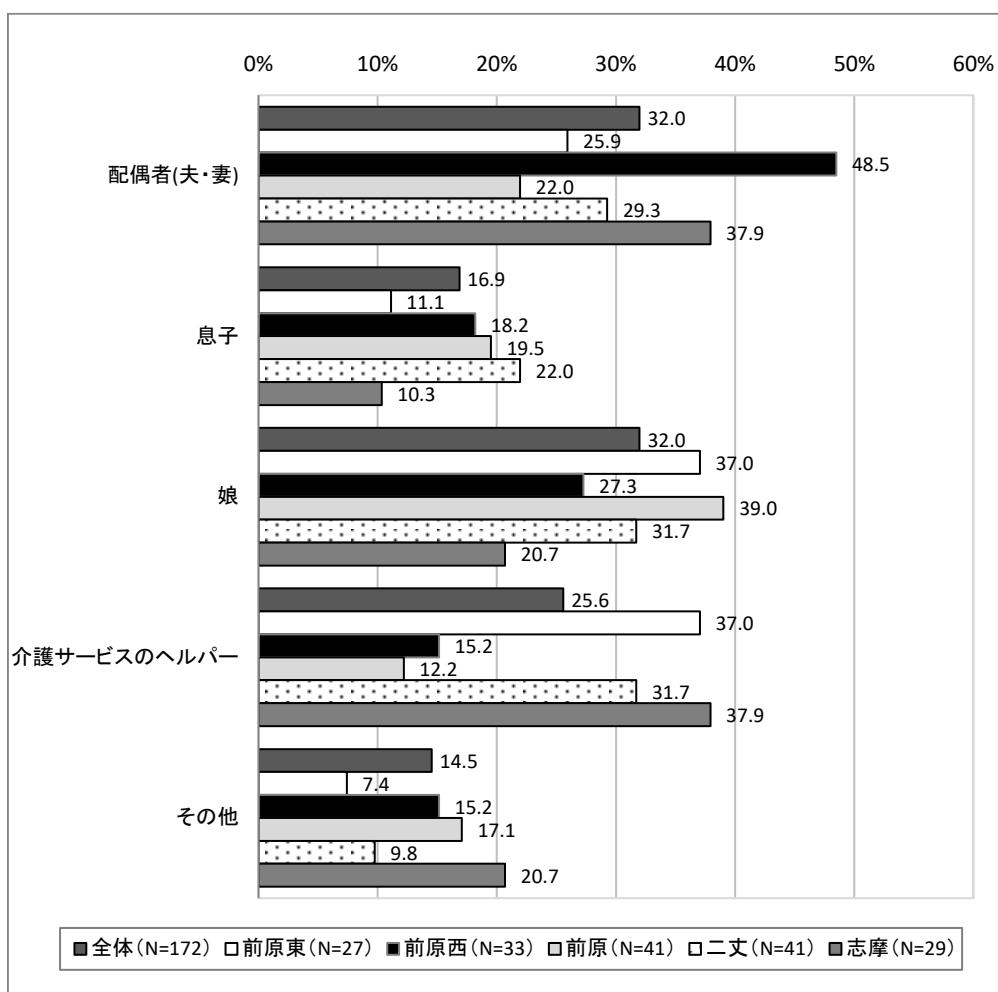
前原東圏域については「娘」と「介護サービスのヘルパー」の項目が市全体よりも高く、「配偶者（夫・妻）」と「息子」が低くなっている。

前原西圏域は、他圏域と比較し「配偶者（夫・妻）」の割合が非常に高く 48.5%にも上る。一方、「介護サービスのヘルパー」の割合が市全体より低く、身内による介護が行われている。

前原圏域は、「娘」の割合が市全体よりも高くなっている。一方、「介護サービスのヘルパー」が最も低く、介護サービスを利用せず、身内での介護が行われているようである。

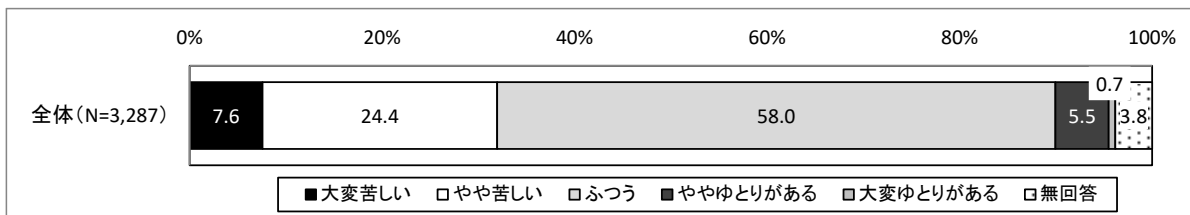
二丈圏域については「介護サービスのヘルパー」の項目が市全体よりも高く、「配偶者（夫・妻）」が若干低くなっている。

志摩圏域は「娘」が他圏域と比較し明確に低く 20.7%、同様に「息子」の項目でも低くなっている。一方、「介護サービスのヘルパー」37.9%や「配偶者（夫・妻）」37.9は他圏域よりも高くなっている。



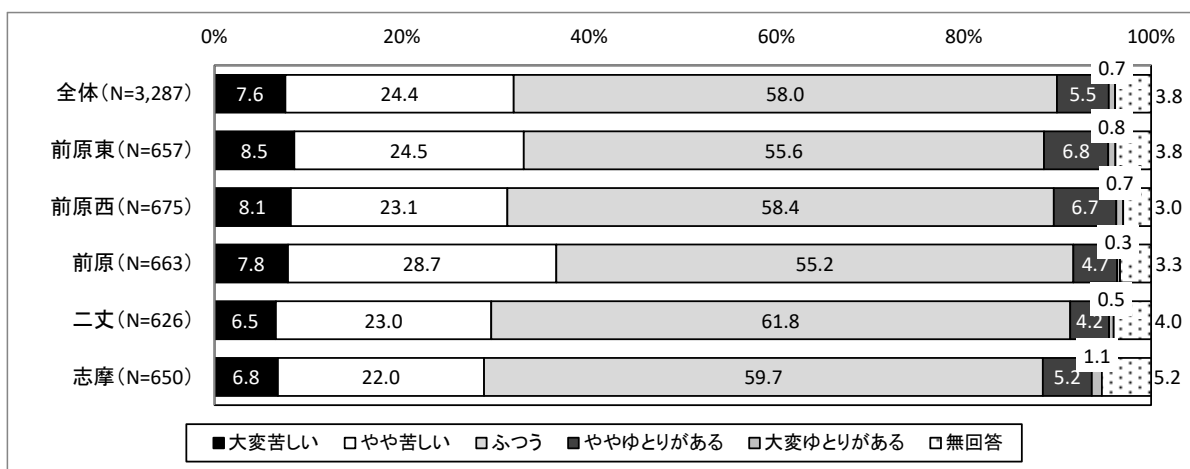
(5) 現在の暮らしの経済的状况

市全体では「ふつう」が最も高く 58.0%である。次いで「やや苦しい」が 24.4%、「大変苦しい」が 7.6%である。「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は 32.0%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』は 6.2%である。



【圏域別】

圏域別では圏域ごとの大きな差はない。いずれの圏域においても「ふつう」が約 55~60%前後で最も高く、次いで「やや苦しい」が約 20~30%である。



Ⅱ 調査結果



調査結果

1 生活機能

(1) 運動器

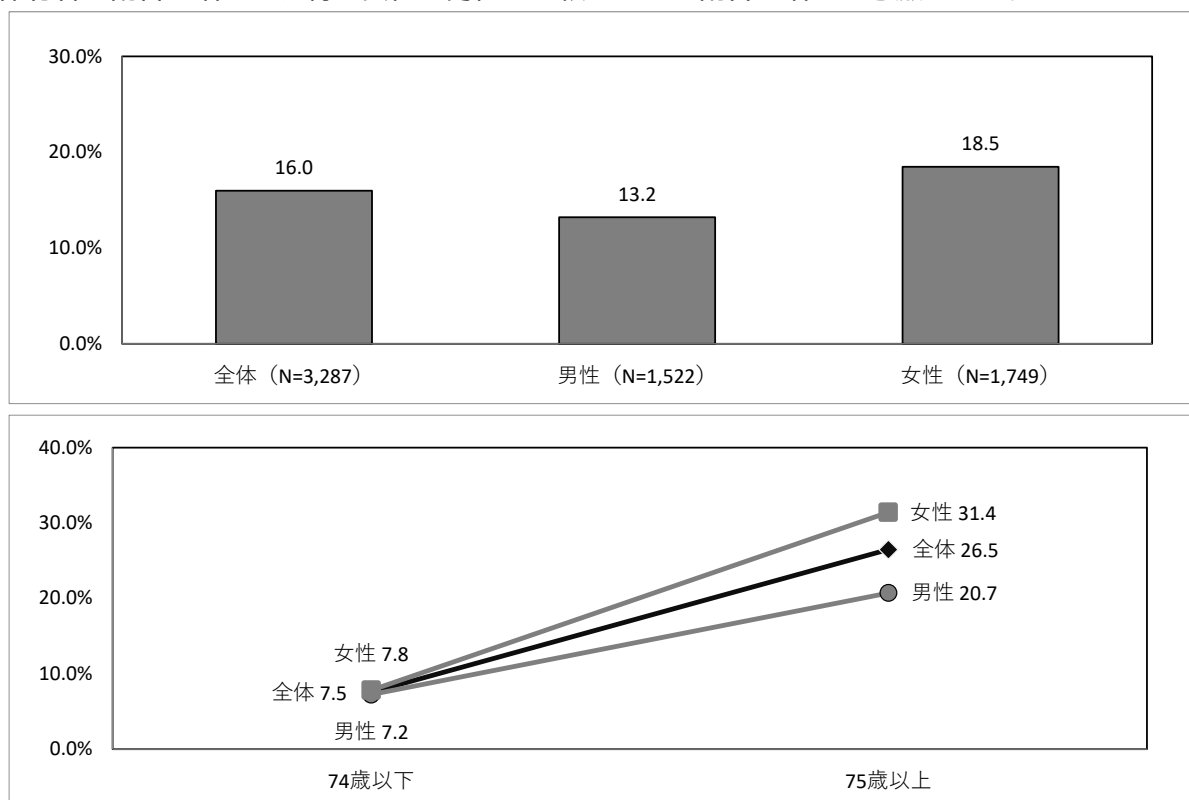
以下の設問のうち3問以上、該当する選択肢が回答された場合に、運動器機能が低下していると判定されます。

【運動器の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 2Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問 2Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問 2Q3	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問 2Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問 2Q5	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

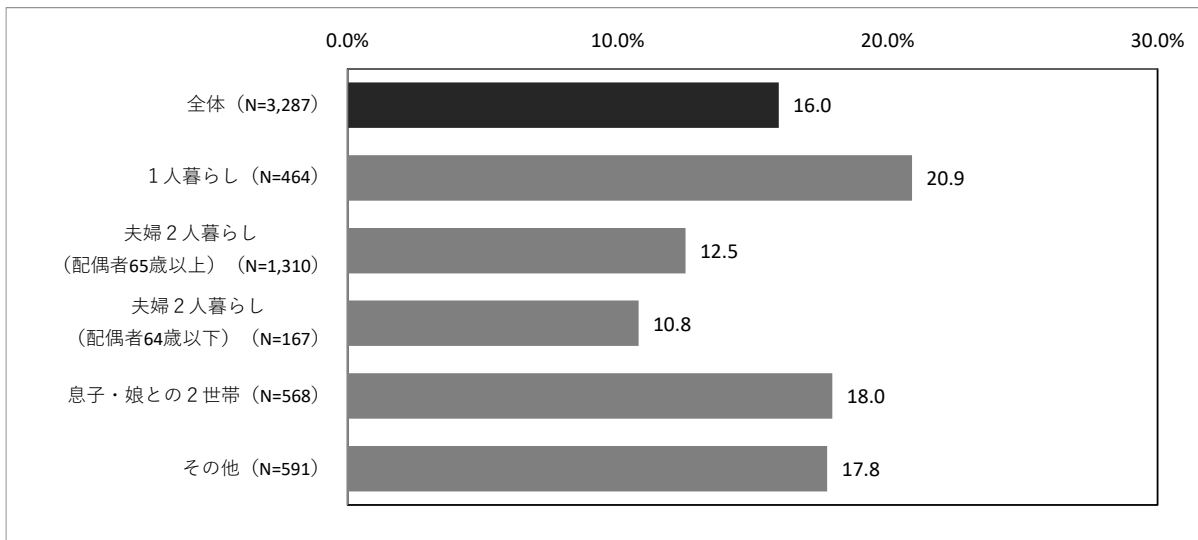
① 運動器機能低下リスク保有者の割合

運動器機能低下リスク保有者の割合は、市全体で 16.0%となっており、性別でみると男性 13.2%、女性 18.5%である。運動器機能低下リスク保有者は、女性の方が高くなっている。性年代別では年代が上がるほど、リスク保有者の割合は増加し、特に女性は男性と比較しリスク割合の増加が急激である。



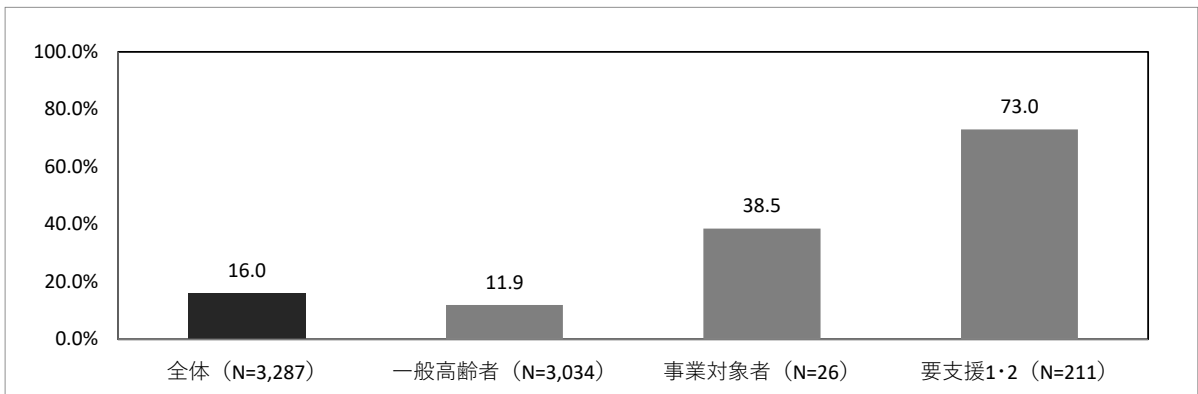
【家族構成別】

家族構成別でみると、「一人暮らし」20.9%、「息子・娘と2世帯」18.0%、「その他」17.8%、となっており、市全体よりも高くなっている。一方、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」は10.8%と最も運動器機能低下リスク保有者の割合が低くなっている。



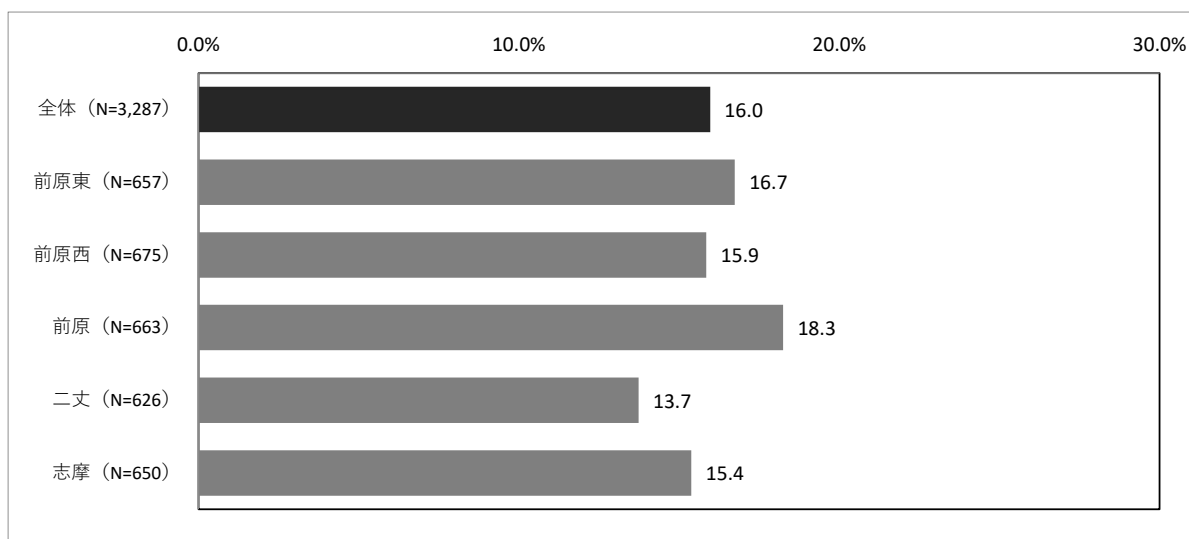
【要介護度別】

要介護度別にみると、運動器機能低下リスクの保有状況は、要支援1・2で73.0%、事業対象者で38.5%と明確に高くなっており、要支援1・2の多くが運動器機能低下に該当する。



【圏域別】

圏域別では、前原圏域と前原東圏域において、市全体 16.0%よりも高くなっており、前原圏域が 18.3%、前原東圏域が 16.7%である。



(2) 閉じこもり

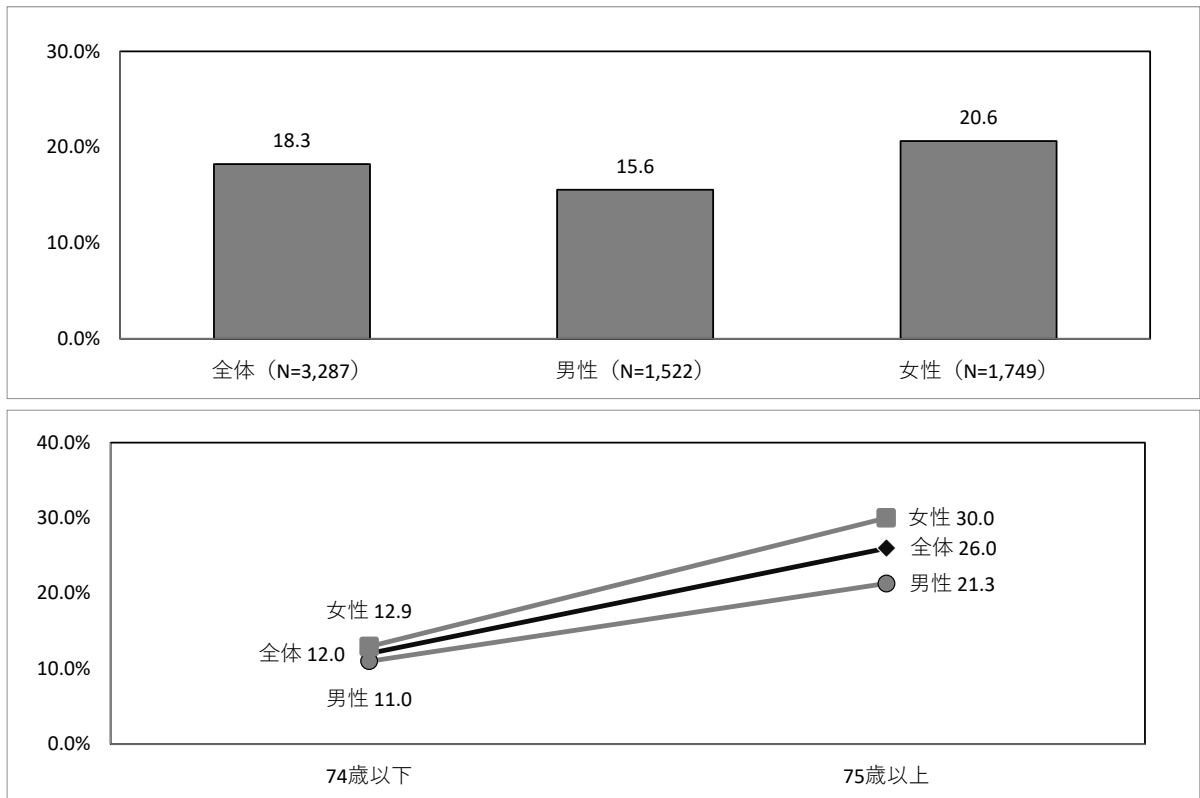
以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、閉じこもり傾向にあると判定されます。

【閉じこもりの評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 2Q6	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

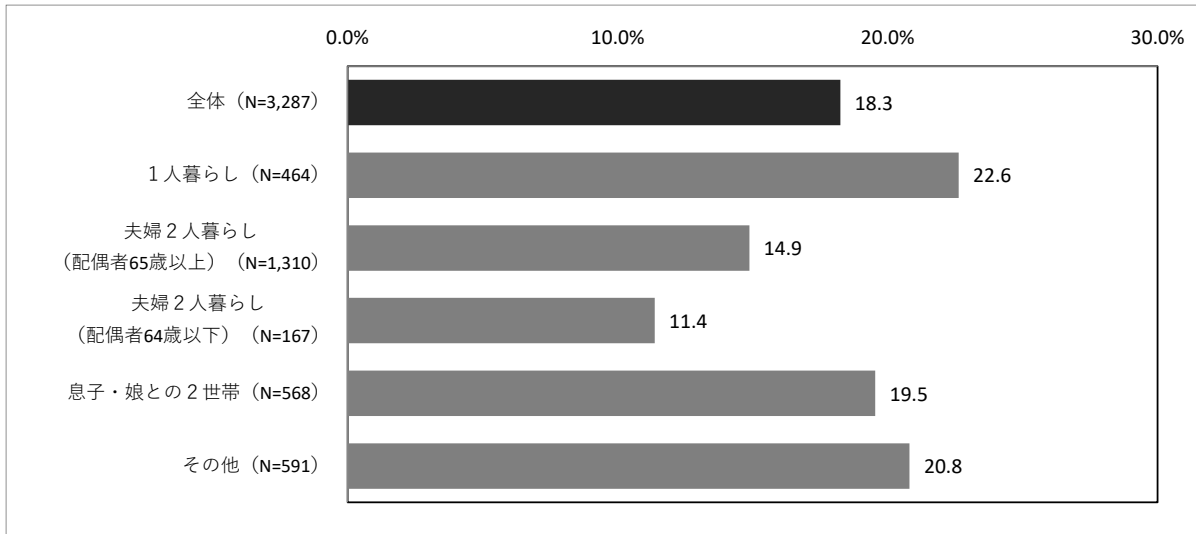
① 閉じこもり傾向のある高齢者の割合

閉じこもり傾向のある高齢者の割合は、市全体で 18.3%となっており、性別では男性 15.6%、女性 20.6%と、女性の方が高くなっている。年代別で見ると市全体では 74 歳以下で 12.0%、75 歳以上で 26.0%となっている。性年代別では女性 75 歳以上が最も高く 30.0%である。



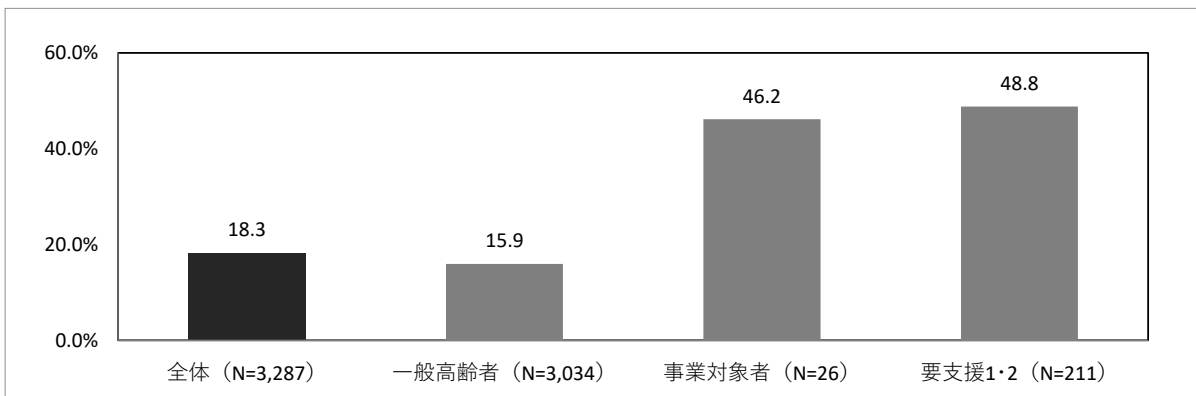
【家族構成別】

閉じこもり傾向の認められる回答者を家族構成別で見ると、「一人暮らし」22.6%、「その他」20.8%、「息子・娘と2世帯」19.5%、で市全体を超えてやや高くなっており、閉じこもりの傾向にある高齢者が多くなっている。一方、市全体よりも低く、閉じこもり傾向にある高齢者が比較的少ないのは「夫婦2人暮らし」世帯で、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」で11.4%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」で14.9%となっている。



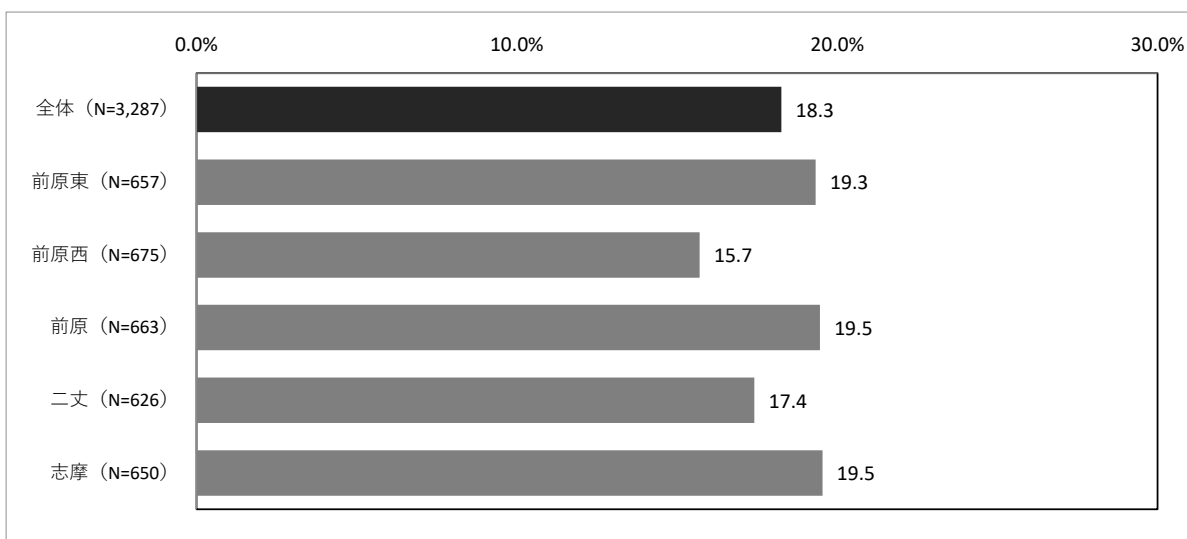
【要介護度別】

要介護度別にみると、閉じこもり傾向の認められる回答者は、要支援1・2で48.8%、事業対象者で46.2%と明確に高くなっている。一般高齢者（事業対象者でも要支援1・2認定も受けていない高齢者）15.9%とは30ポイント以上の差がある。



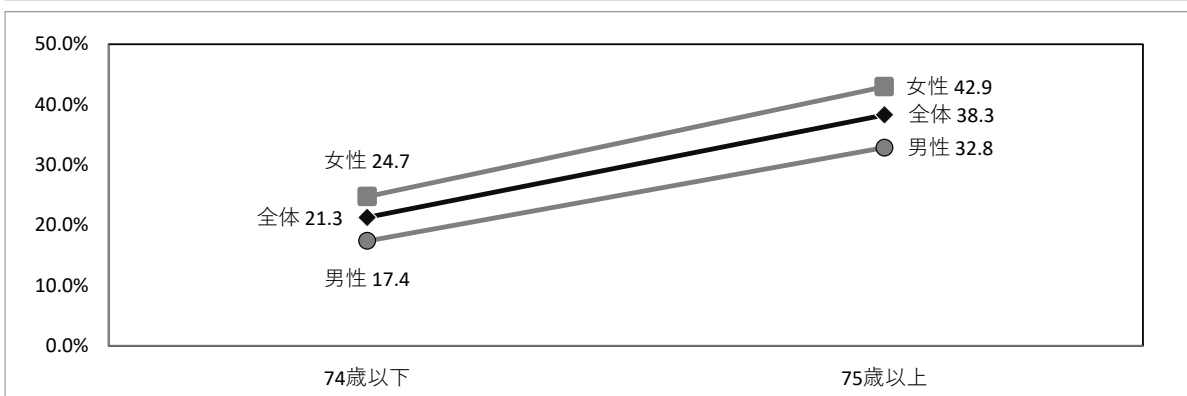
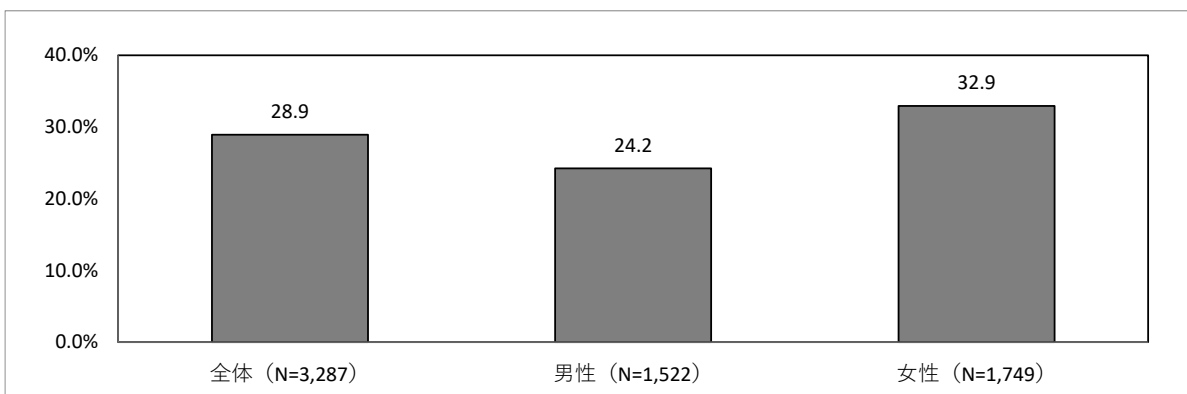
【圏域別】

圏域別にみると、市全体の18.3%よりも高い圏域は前原圏域19.5%、志摩圏域19.5%、前原東圏域19.3%である。一方、市全体よりも低いのは前原西圏域15.7%、二丈圏域17.4%である。



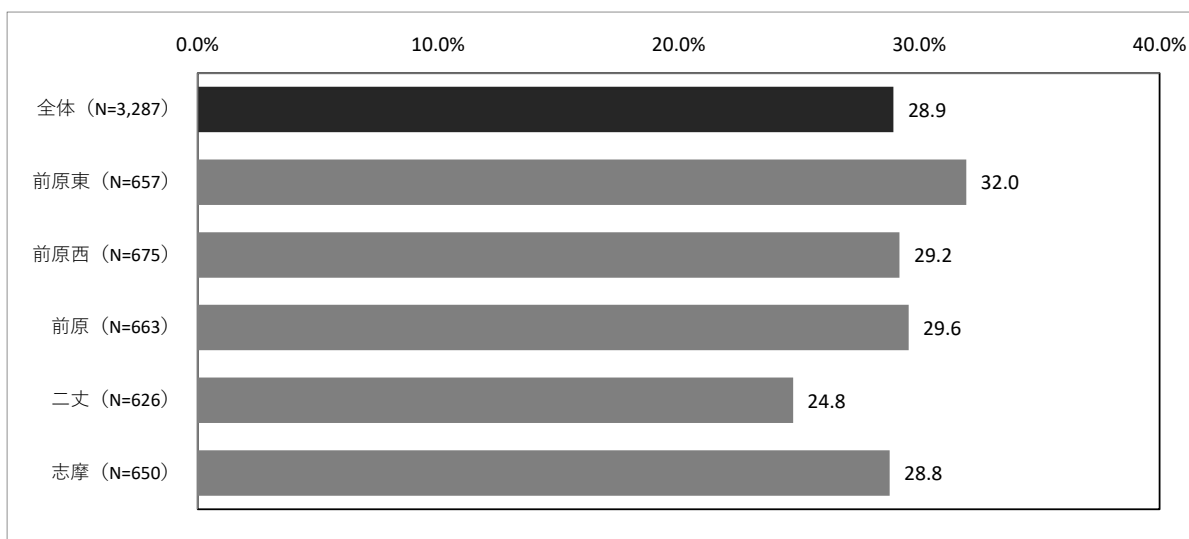
② 昨年と比べた外出回数の増減

昨年と比べた外出回数の増減をみると『減っている（「とても減っている」＋「減っている」）』の割合は、市全体で28.9%となっている。性別でみると女性32.9%、男性24.2%となっており、女性は男性よりも外出回数が減少した人が多い。性年代別では、年代が上がるほど、外出回数が減少した高齢者数が増加していく。



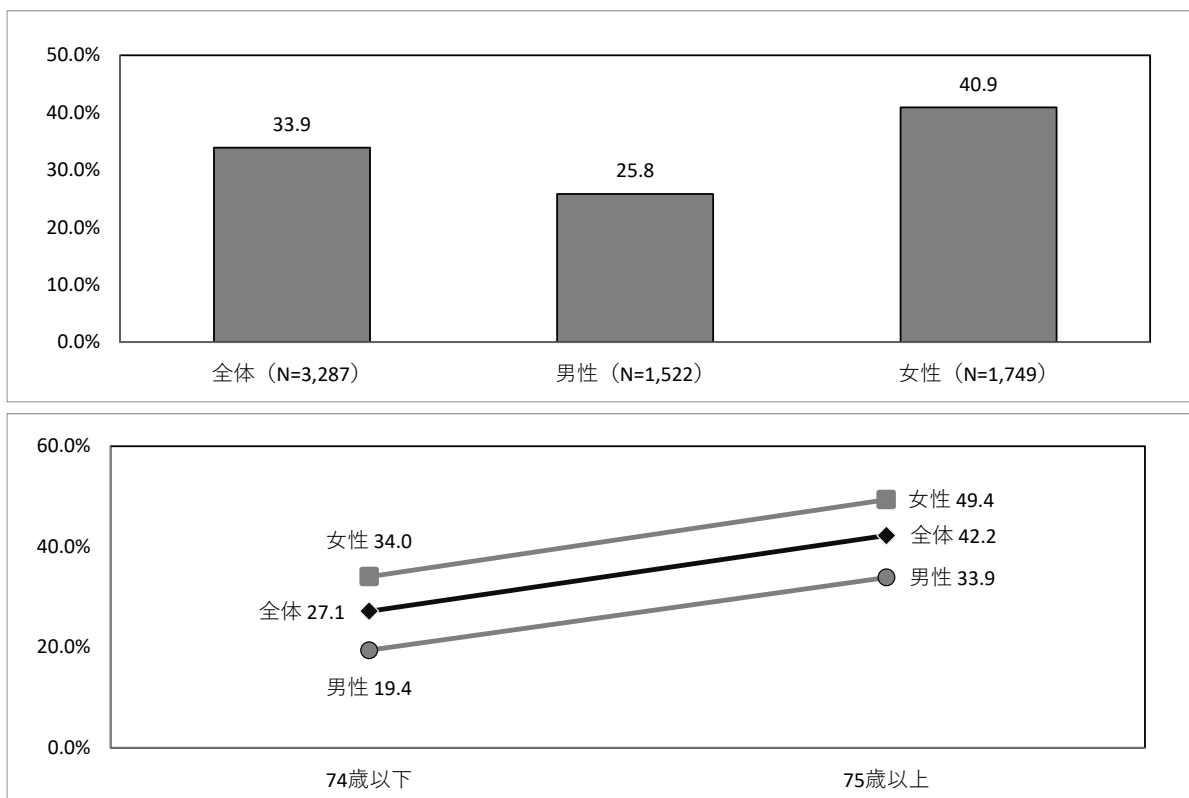
【圏域別】

圏域別でみると、『減っている』の割合は前原東圏域で最も高く 32.0%となっている。一方、『減っている』の割合が低いのは二丈圏域で 24.8%となっている。



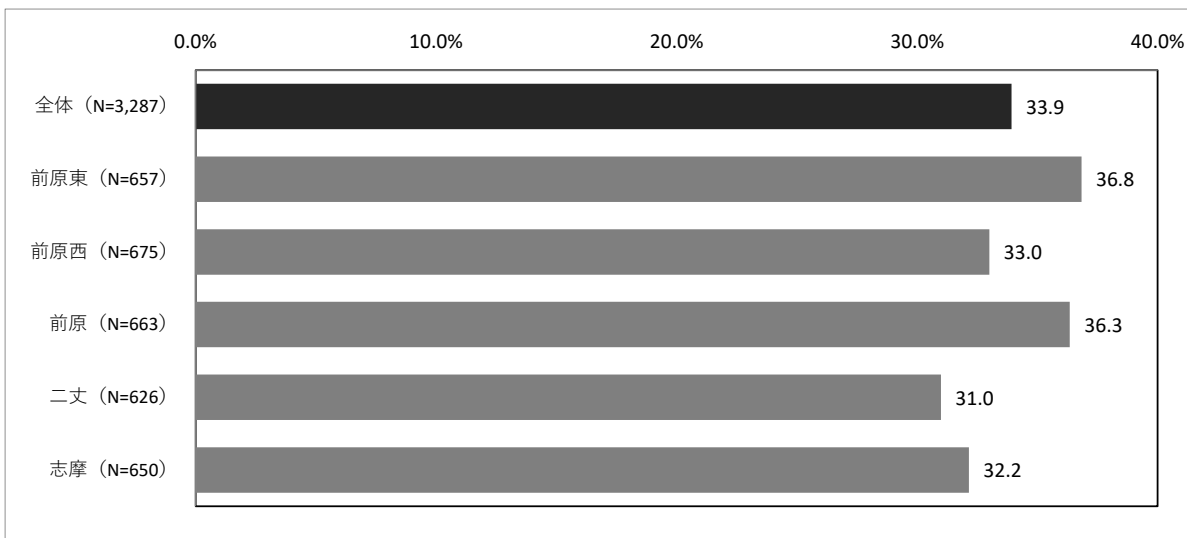
③ 外出控え

外出を控えているかどうかを尋ねたところ、市全体では 33.9% が「はい (外出を控えている)」と回答している。性別では女性の割合が高く、男性 25.8% よりも女性 40.9% の方が外出を控えている傾向にある。性年代別では、年代が上がるほど、外出を控える傾向が高くなる (女性 74 歳以下 34.0%、女性 75 歳以上 49.4%)。



【圏域別】

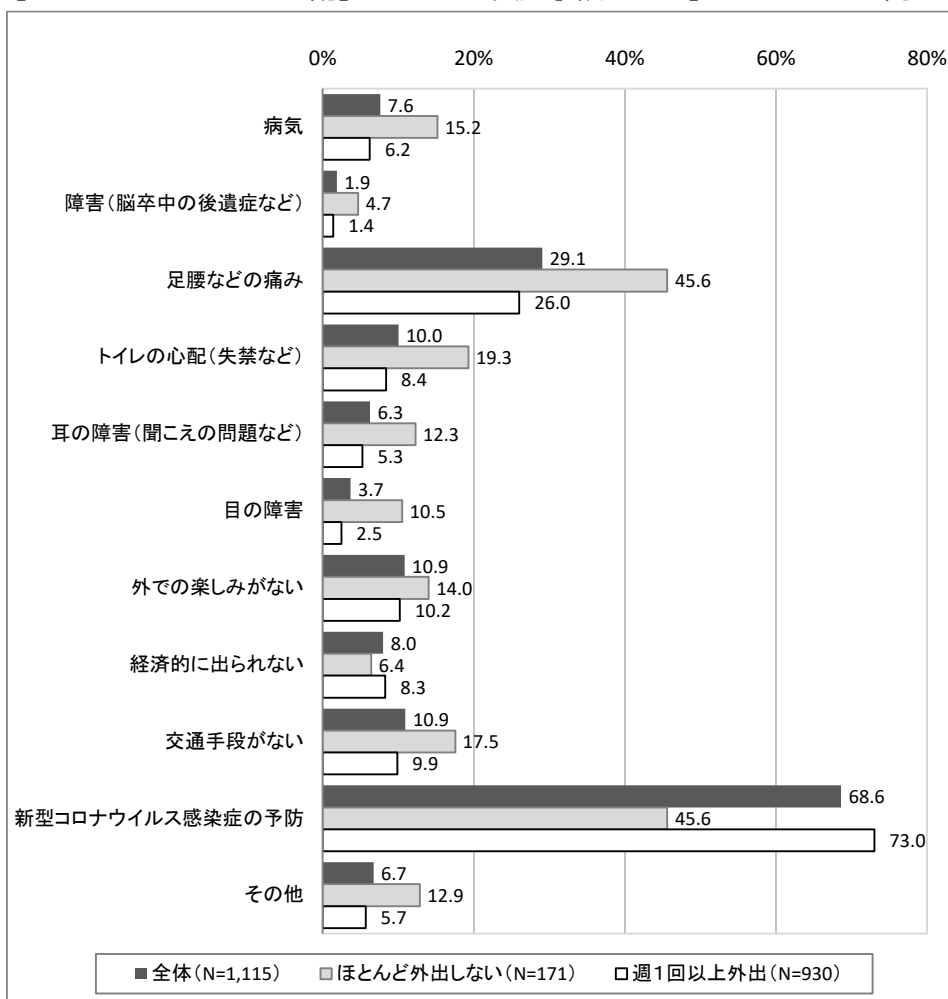
圏域別にみると「はい（外出を控えている）」と回答した割合が最も高いのは前原東圏域 36.8%である。一方、「はい（外出を控えている）」と回答した割合が低いのは二丈圏域の 31.0%である。



④ 外出を控えている理由（複数回答）

市全体でみると、外出を控えている理由は、「新型コロナウイルス感染症の予防」が最も高く 68.6%、次いで「足腰などの痛み」29.1%、「外での楽しみがない」及び「交通手段がない」10.9%である。

外出しない人と外出する人の比較では、ほとんど外出しない人は週1回以上外出の人よりも、「病気」15.2%、「足腰などの痛み」45.6%、「トイレの心配」19.3%、「交通手段がない」17.5%などが高くなっている。



【性別・性年代別】

性別では、男性では「外での楽しみがない」13.5%や「病気」9.9%などが市全体よりも高くなっている。女性は「新型コロナウイルス感染症の予防」71.6%が高くなっている。

性年代別では、多くの項目において年代が上がるほど、増加する傾向にある。例外として「新型コロナウイルス感染症の予防」、「経済的に出られない」などの項目は年代が上がると割合が減少している。

【圏域別】

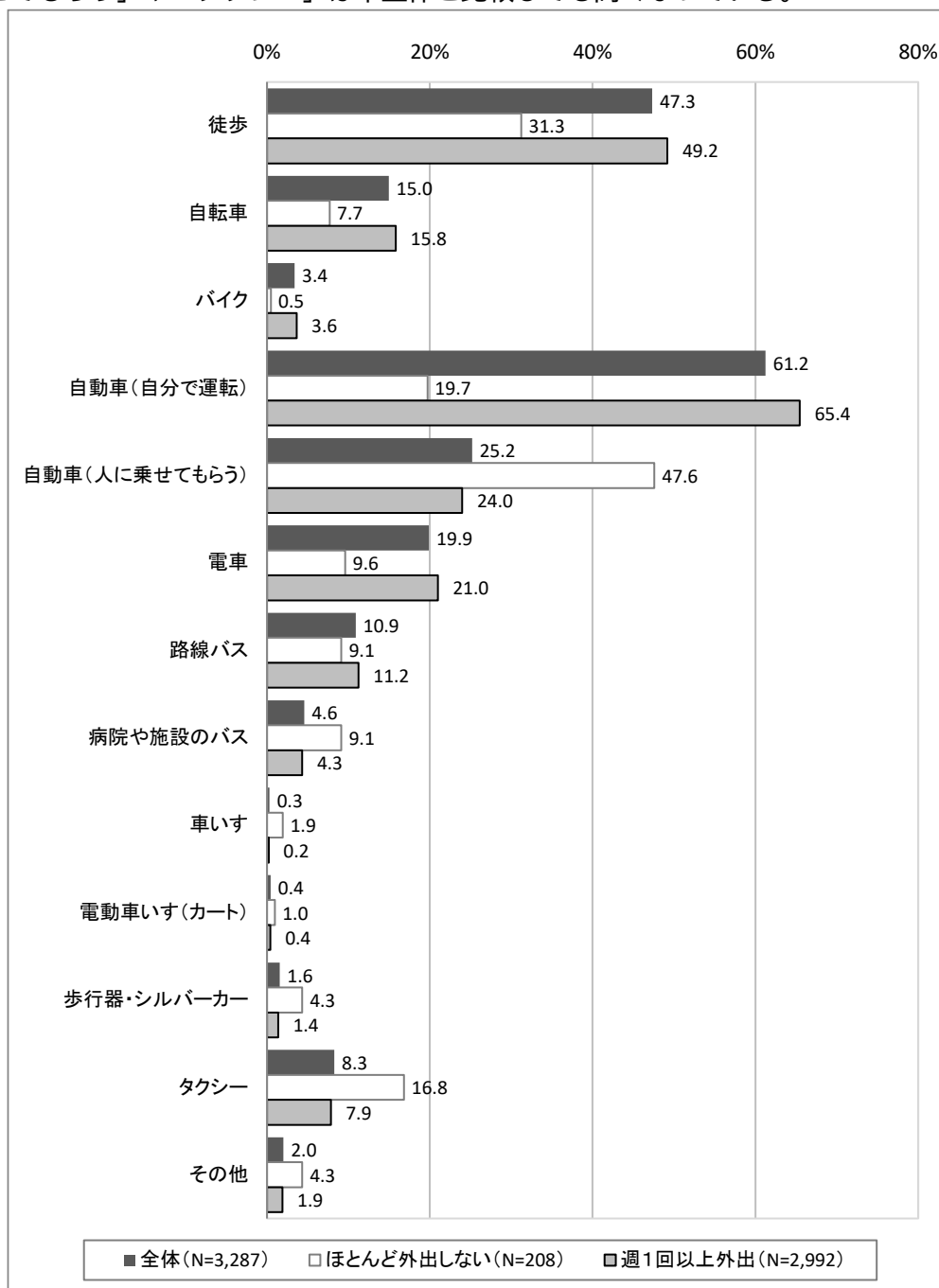
圏域別では、市全体と比較して二丈圏域は「新型コロナウイルス感染症の予防」が73.2%で5ポイントほど高くなっている。志摩圏域は「新型コロナウイルス感染症の予防」が64.1%で市全体よりも5ポイントほど低くなっている。

属性	区分	全体	病気	障害（脳卒中の後遺症など）	足腰などの痛み	トイレの心配（失禁など）	耳の障害（聞こえの問題など）	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	新型コロナウイルス感染症の予防	その他
			割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体		100.0	7.6	1.9	29.1	10.0	6.3	3.7	10.9	8.0	10.9	68.6	6.7
		1,115	85	21	324	112	70	41	121	89	122	765	75
性年代別	男性全体	100.0	9.9	3.3	28.2	11.5	5.9	5.1	13.5	8.9	10.7	62.6	7.9
		393	39	13	111	45	23	20	53	35	42	246	31
	男性：74歳以下	100.0	6.7	3.0	11.6	7.9	1.2	3.7	12.8	7.9	6.1	75.0	4.3
		164	11	5	19	13	2	6	21	13	10	123	7
	男性：75歳以上	100.0	12.2	3.5	40.2	14.0	9.2	6.1	14.0	9.6	14.0	53.7	10.5
		229	28	8	92	32	21	14	32	22	32	123	24
	女性全体	100.0	6.4	1.1	29.7	9.4	6.6	2.9	9.5	7.5	11.2	71.6	6.1
	716	46	8	213	67	47	21	68	54	80	513	44	
女性：74歳以下	100.0	3.1	0.3	13.5	4.3	1.5	1.2	7.7	8.0	4.3	87.4	4.9	
	326	10	1	44	14	5	4	25	26	14	285	16	
女性：75歳以上	100.0	9.2	1.8	43.3	13.6	10.8	4.4	11.0	7.2	16.9	58.5	7.2	
	390	36	7	169	53	42	17	43	28	66	228	28	
日常生活圏域	前原東	100.0	5.8	2.9	31.4	9.5	8.7	2.9	12.4	7.0	10.3	69.4	6.6
		242	14	7	76	23	21	7	30	17	25	168	16
	前原西	100.0	9.9	3.1	29.6	10.8	4.5	4.5	10.3	7.2	9.9	66.4	7.6
		223	22	7	66	24	10	10	23	16	22	148	17
	前原	100.0	8.3	0.0	29.9	12.0	6.2	3.7	8.7	10.0	13.7	69.3	8.3
		241	20	0	72	29	15	9	21	24	33	167	20
二丈	100.0	8.2	1.5	25.3	9.3	6.2	2.6	12.4	7.2	10.8	73.2	4.6	
	194	16	3	49	18	12	5	24	14	21	142	9	
志摩	100.0	6.2	1.9	29.2	8.6	5.7	4.8	11.0	8.6	10.0	64.1	6.2	
	209	13	4	61	18	12	10	23	18	21	134	13	

⑤ 外出する際の移動手段（複数回答）

市全体でみると、外出する際の移動手段は、「自動車（自分で運転）」が最も高く 61.2%、次いで「徒歩」47.3%、「自動車（人に乗せてもらう）」25.2%である。

外出しない人と外出する人の比較では、ほとんど外出しない人は週1回以上外出の人よりも、「自動車（人に乗せてもらう）」47.6%、「タクシー」16.8%、「病院や施設のバス」9.1%などが高くなっている。特に「自動車（人に乗せてもらう）」や「タクシー」は市全体と比較しても高くなっている。



【性別・性年代別】

性別でみると、「自動車（自分で運転）」は男性 74.4%、女性 49.7%となっており、男性の方が高くなっている。反対に「自動車（人に乗せてもらう）」は女性 35.0%、男性 13.7%で女性の方が高くなっている。女性は「電車」22.4%、「路線バス」13.7%、「タクシー」10.7%などでも男性より高くなっている。

性年代別でみると多くの項目において年代が上がるほど、割合が増加することが確認できる。特に「自動車（人に乗せてもらう）」や「病院や施設のバス」、「タクシー」などはその傾向が顕著である。一方、年代が上がると割合が大きく減少するのは「自動車（自分で運転）」である。男性は 75 歳以上でも市全体の平均程度の人が自分で運転する傾向にあるものの、女性は 75 歳以上の年代で大きく減少し 25.6%となっている。

【圏域別】

圏域別では、前原西圏域は「徒歩」の割合が他圏域と比較し高く 60.7%となっており、市全体の 47.3%より 13 ポイントほど高くなっている。一方、志摩圏域は「徒歩」38.0%、「電車」8.9%が他圏域と比較し低くなっている。

属性	区分	全体	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他
全体		100.0	47.3	15.0	3.4	61.2	25.2	19.9	10.9	4.6	0.3	0.4	1.6	8.3	2.0
		3,287	1,555	492	111	2,013	828	654	358	150	10	14	51	272	66
性年代別	男性全体	100.0	46.1	16.8	5.1	74.4	13.7	17.1	7.7	2.6	0.3	0.7	0.5	5.5	1.4
		1,522	702	255	77	1,132	209	260	117	39	5	10	8	83	21
	男性：74歳以下	100.0	46.6	14.9	7.6	85.9	8.0	17.0	6.0	0.5	0.2	0.1	0.0	2.8	0.1
		846	394	126	64	727	68	144	51	4	2	1	0	24	1
	男性：75歳以上	100.0	45.6	19.1	1.9	59.9	20.9	17.2	9.8	5.2	0.4	1.3	1.2	8.7	3.0
		676	308	129	13	405	141	116	66	35	3	9	8	59	20
	女性全体	100.0	48.4	13.4	1.9	49.7	35.0	22.4	13.7	6.3	0.3	0.2	2.4	10.7	2.6
		1,749	847	235	33	870	613	392	239	111	5	4	42	188	45
女性：74歳以下	100.0	49.1	13.7	2.2	69.7	25.5	25.1	10.8	1.6	0.3	0.0	0.2	5.2	1.3	
	959	471	131	21	668	245	241	104	15	3	0	2	50	12	
女性：75歳以上	100.0	47.6	13.2	1.5	25.6	46.6	19.1	17.1	12.2	0.3	0.5	5.1	17.5	4.2	
	790	376	104	12	202	368	151	135	96	2	4	40	138	33	
日常生活圏域	前原東	100.0	49.2	17.8	4.6	59.5	24.2	23.4	10.8	4.3	0.0	0.2	0.9	11.0	2.4
		657	323	117	30	391	159	154	71	28	0	1	6	72	16
	前原西	100.0	60.7	18.2	2.7	56.9	27.4	27.3	14.7	3.9	0.3	0.3	1.9	10.1	2.1
		675	410	123	18	384	185	184	99	26	2	2	13	68	14
	前原	100.0	42.5	14.5	4.4	61.4	24.6	14.5	10.7	5.6	0.5	0.3	1.4	9.7	2.1
		663	282	96	29	407	163	96	71	37	3	2	9	64	14
二丈	100.0	45.8	11.8	1.3	61.0	27.0	25.6	4.3	5.4	0.5	1.1	1.4	4.8	1.6	
	626	287	74	8	382	169	160	27	34	3	7	9	30	10	
志摩	100.0	38.0	12.3	3.8	67.4	22.5	8.9	13.5	3.8	0.3	0.3	2.0	5.7	1.8	
	650	247	80	25	438	146	58	88	25	2	2	13	37	12	

(3) 転倒

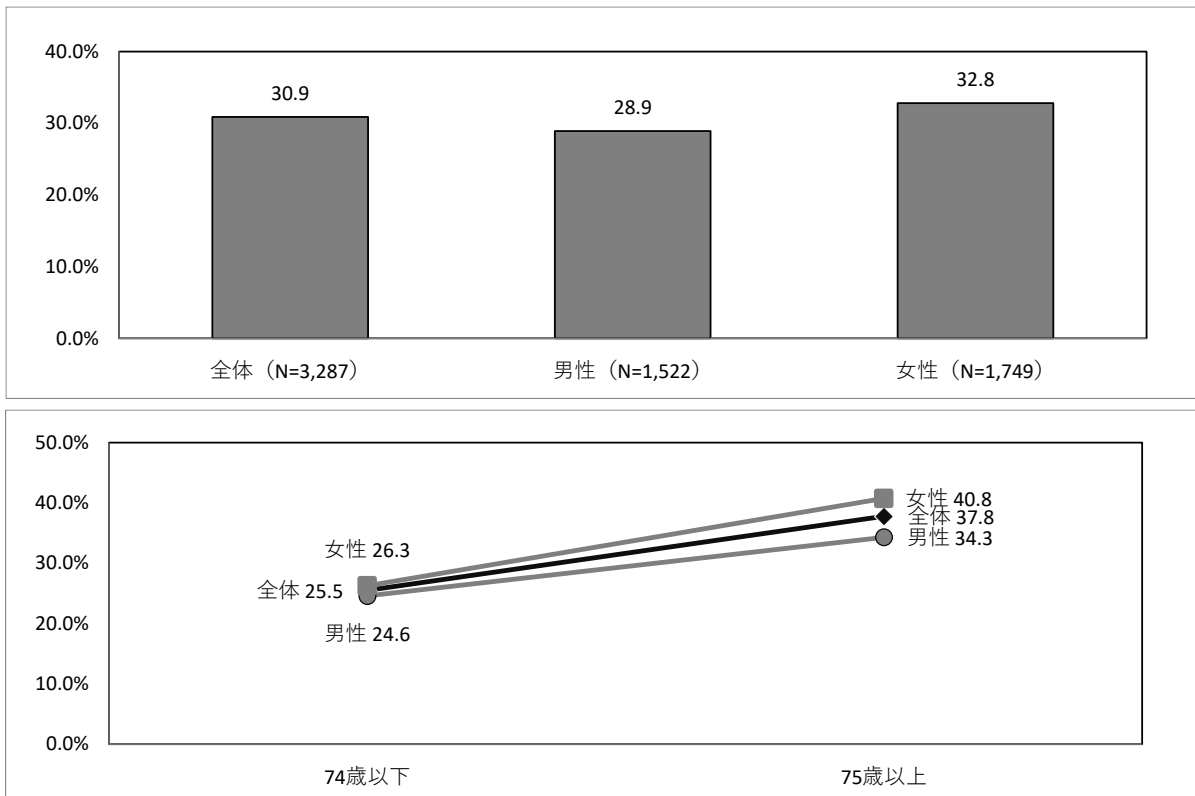
以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、転倒リスクがあると判定されます。

【転倒リスクの評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 2Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

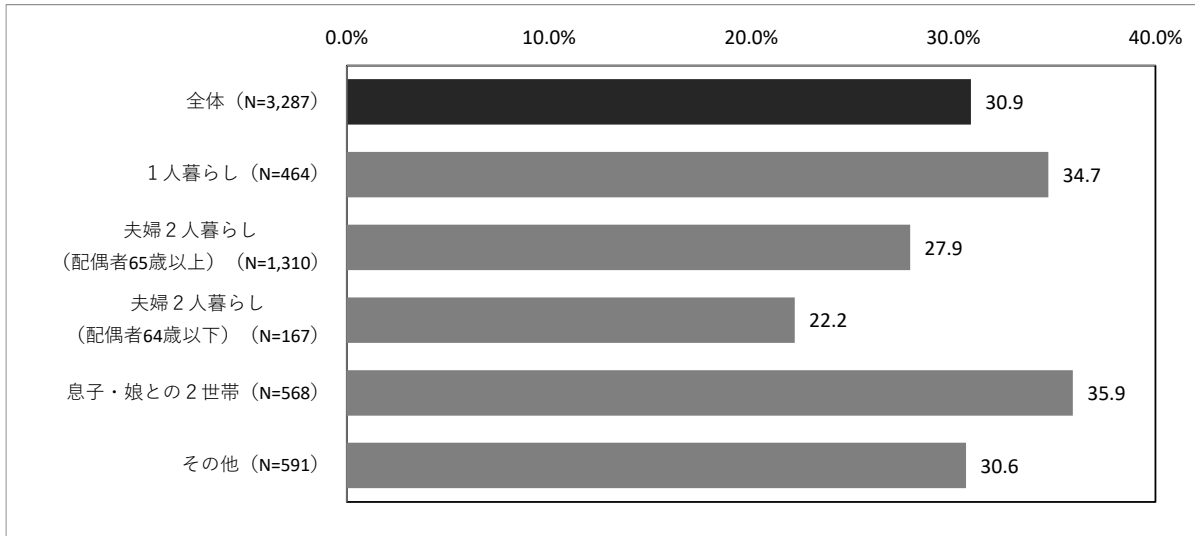
① 転倒リスク保有者の割合

市全体では転倒リスクがある高齢者は30.9%であり、性別で見ると男性で28.9%、女性で32.8%となっており、女性の転倒リスクが高くなっている。年代別で見ると市全体では74歳以下で25.5%、75歳以上で37.8%となっている。性年代別では女性75歳以上が最も高く40.8%である。



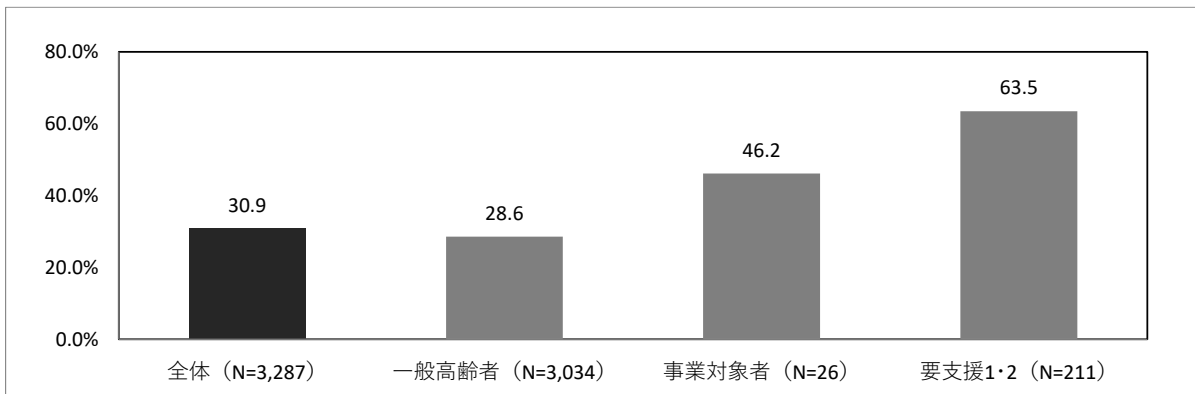
【家族構成別】

家族構成別では「息子・娘と2世帯」家庭において転倒リスクが最も高く35.9%、続いて「一人暮らし」家庭で34.7%である。一方、転倒リスクが市全体よりも低いのは「夫婦2人暮らし」世帯であり、「配偶者64歳以下」で22.2%、「配偶者65歳以上」で27.9%である。



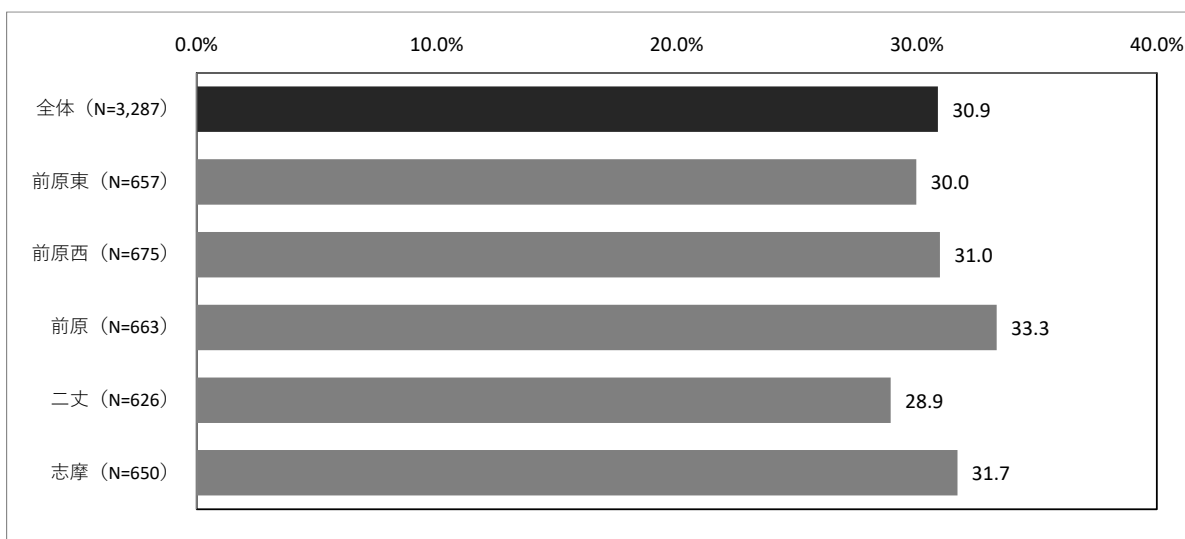
【要介護度別】

要介護度別にみると、転倒リスクの保有者は要支援1・2で63.5%と最も高く、次いで事業対象者で46.2%となっている。最も高い要支援1・2と、最も低い一般高齢者とでは35ポイントほどの差がある。



【圏域別】

圏域別で転倒リスクが最も高いのは前原圏域であり 33.3%となっている。次いで志摩圏域の 31.7%である。一方、市全体よりも低いのは二丈圏域 28.9%、前原東圏域 30.0%である。



(4) 栄養

① 低栄養が疑われる高齢者の割合

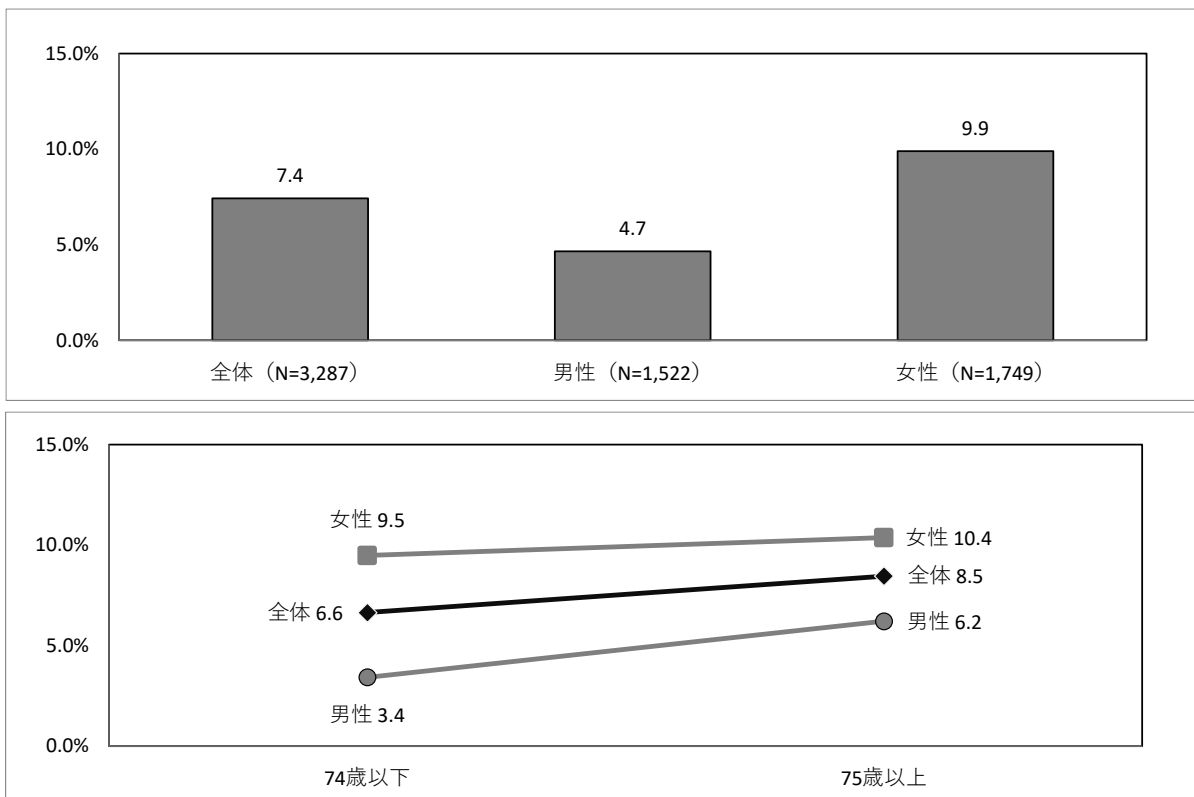
身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷ {身長（m）×身長（m）}）が18.5以下の場合に低栄養が疑われる高齢者として判定されます。

【低栄養が疑われる高齢者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 3Q1	身長・体重	BMIが18.5以下

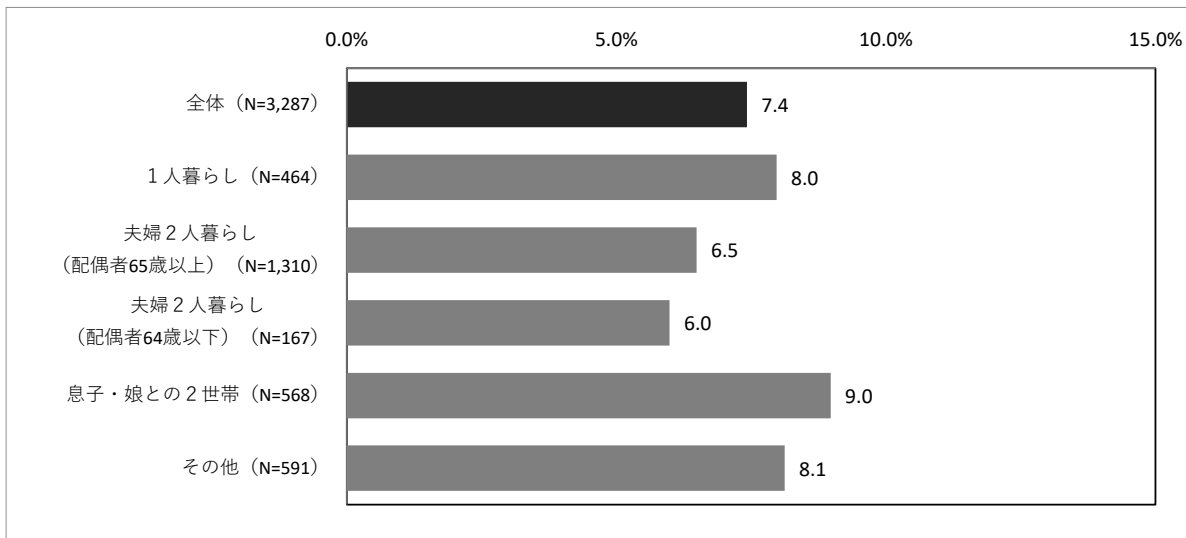
【市全体・性別】

市全体では、低栄養が疑われる割合は7.4%である。性別で見ると男性4.7%、女性9.9%であり、女性の高齢者で低栄養状態が疑われる方が多くなっている。年代別で見ると市全体では74歳以下で6.6%、75歳以上で8.5%となっている。性年代別では女性75歳以上が最も高く10.4%である。



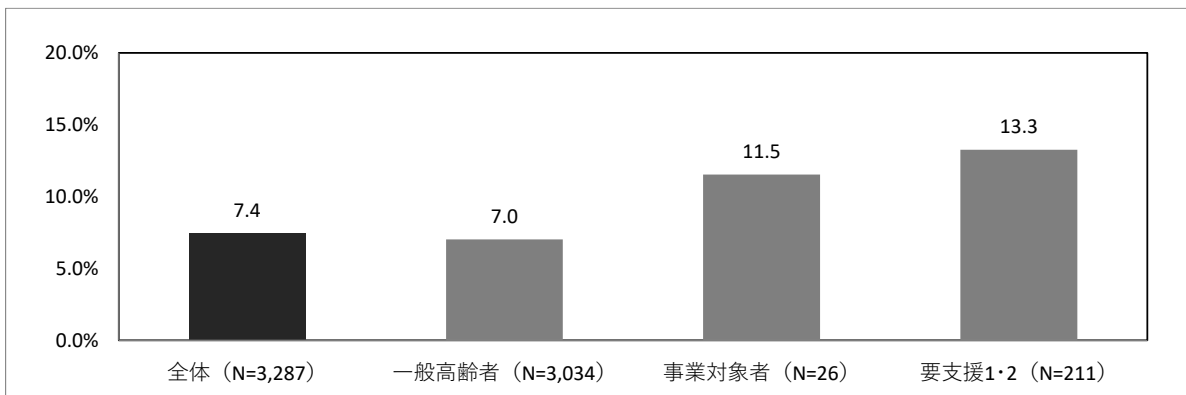
【家族構成別】

家族構成別では「息子・娘と2世帯」家庭において低栄養が疑われる高齢者の割合が最も高く9.0%、続いて「その他」家庭で8.1%、「1人暮らし」家庭で8.0%ある。一方、低栄養が疑われる高齢者の割合が市全体よりも低いのは「夫婦2人暮らし」世帯であり、「配偶者64歳以下」で6.0%、「配偶者65歳以上」で6.5%である。



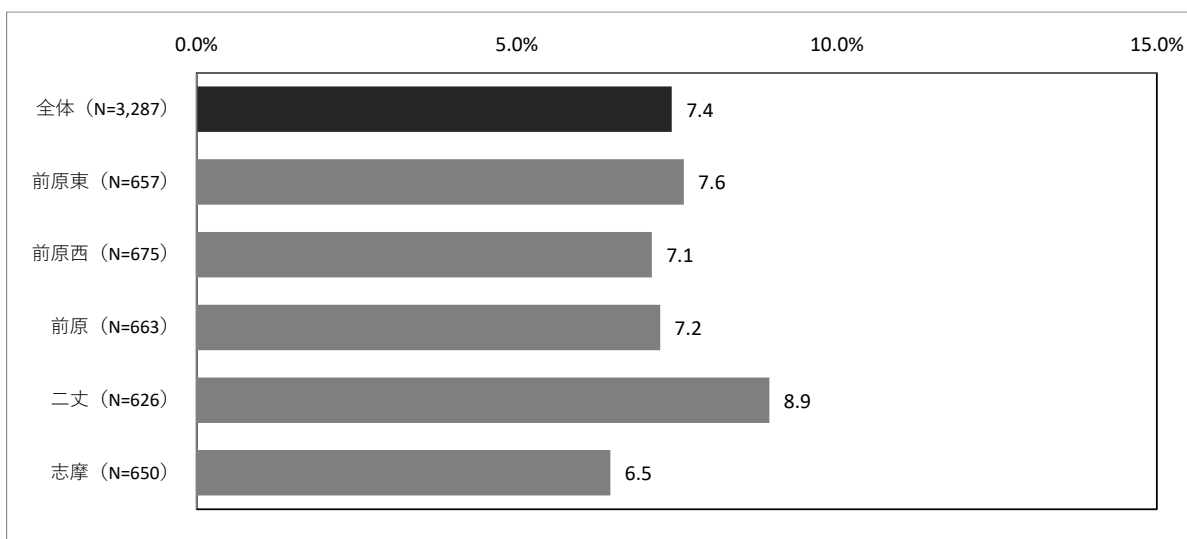
【要介護度別】

要介護度別に低栄養が疑われる高齢者の割合をみると、一般高齢者が7.0%であるのに対し、事業対象者では11.5%、要支援1・2では13.3%となっており、要介護度が上がるほど、低栄養状態が疑われる高齢者の割合は高くなっている。



【圏域別】

圏域別では、二丈圏域において低栄養状態が疑われる高齢者の割合が高くなっており、8.9%である。一方、低栄養状態が疑われる高齢者の割合が低いのは志摩圏域であり6.5%である。



② 低栄養状態にある高齢者の割合

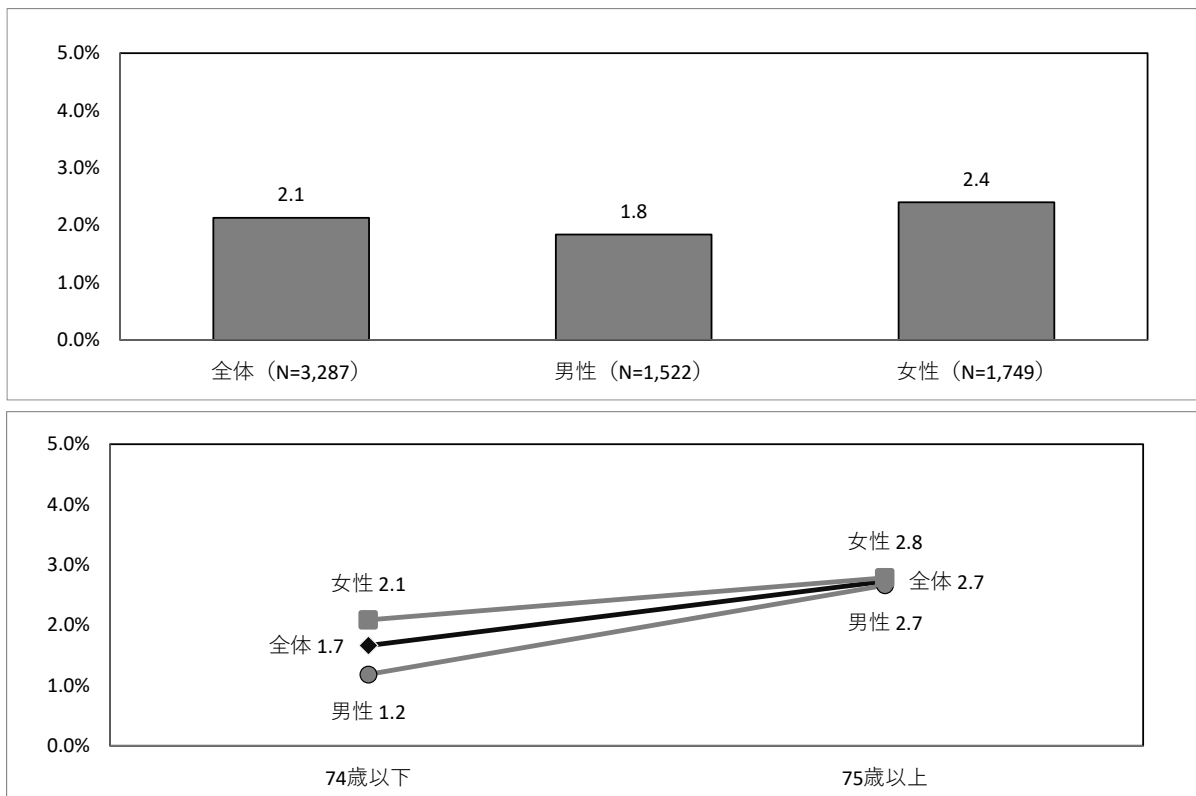
身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷ {身長（m）×身長（m）}）が18.5で、問3（7）の設問において、該当する選択肢が回答された場合に低栄養状態にあると判定されます。

【低栄養状態にある高齢者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 3Q1	身長・体重	BMIが18.5以下
問 3Q7	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

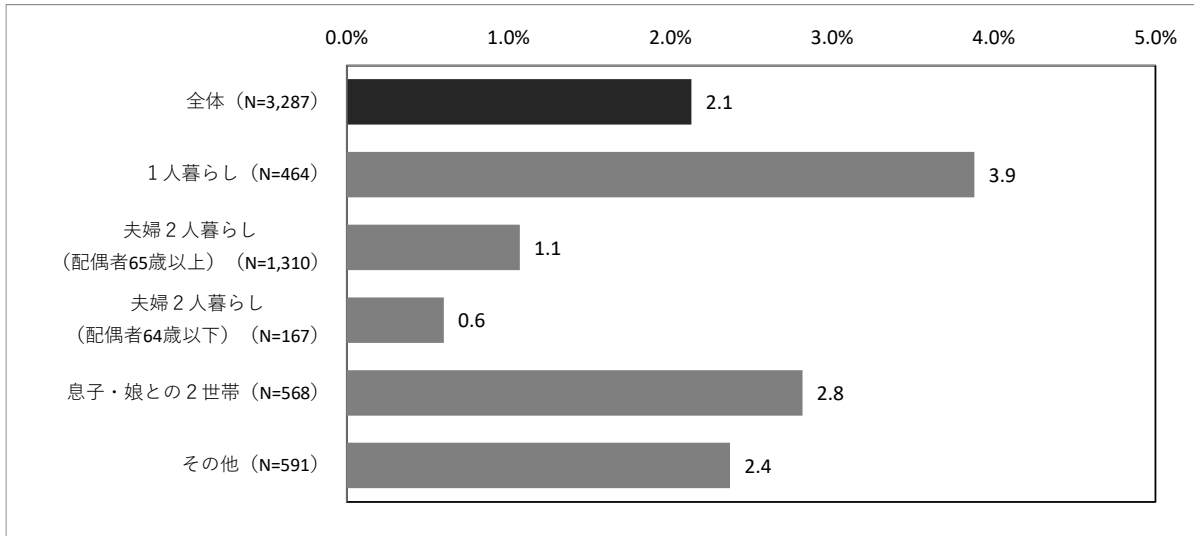
【市全体・性別】

市全体では、低栄養状態にある割合は2.1%である。性別で見ると男性1.8%、女性2.4%であり、女性の高齢者で低栄養状態にある方が多くなっている。年代別で見ると市全体では74歳以下で1.7%、75歳以上で2.7%となっている。性年代別では女性75歳以上が最も高く2.8%である。



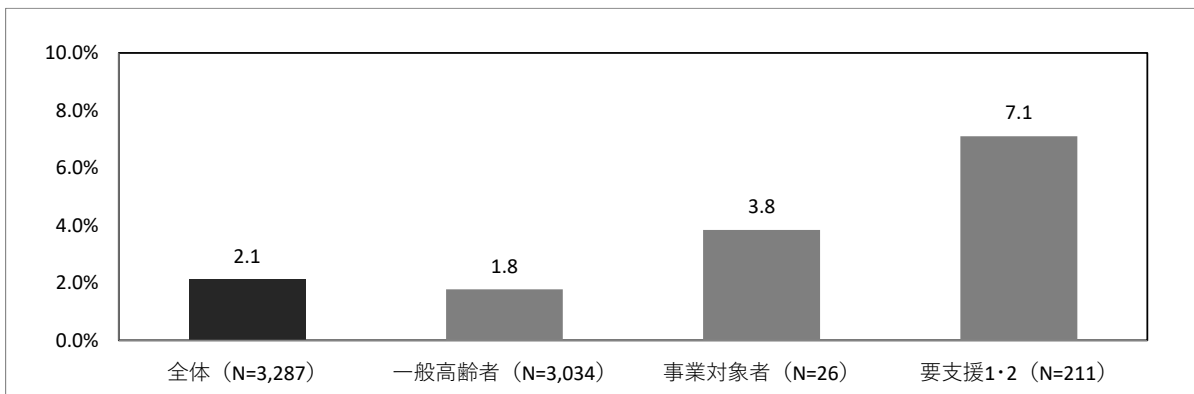
【家族構成別】

家族構成別では、低栄養状態にある高齢者の割合が高いのは「一人暮らし」世帯 3.9%、「息子・娘と2世帯」2.8%、「その他」世帯 2.4%であり、割合が低いのは「夫婦2人暮らし」世帯であり、「配偶者64歳以下」で0.6%、「配偶者65歳以上」で1.1%である。



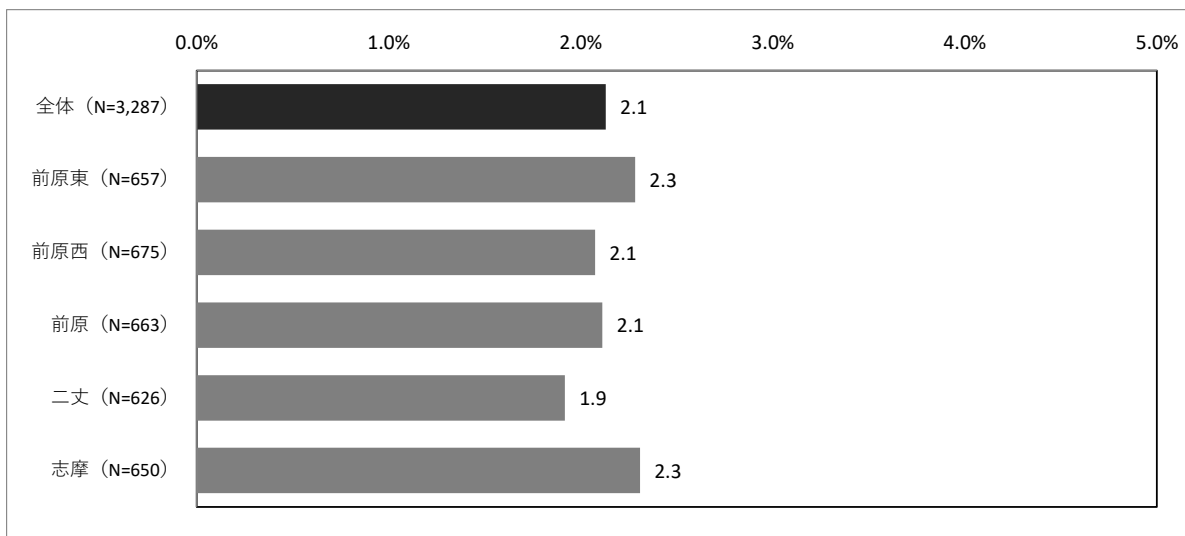
【要介護度別】

要介護度別に低栄養状態にある高齢者の割合をみると、一般高齢者が1.8%であるのに対し、事業対象者では3.8%、要支援1・2では7.1%となっており、要介護度が上がるほど、低栄養状態にある高齢者の割合は高くなっている。



【圏域別】

圏域別では、低栄養状態にある高齢者の割合が最も高いのは前原東圏域 2.3%、志摩圏域 2.3%である。一方、最も低いのは二丈圏域 1.9%である。ただし、すべての圏域が市全体と比較し1ポイント未満の差しかない。



(5) 口腔機能

① 口腔機能が低下している高齢者の割合

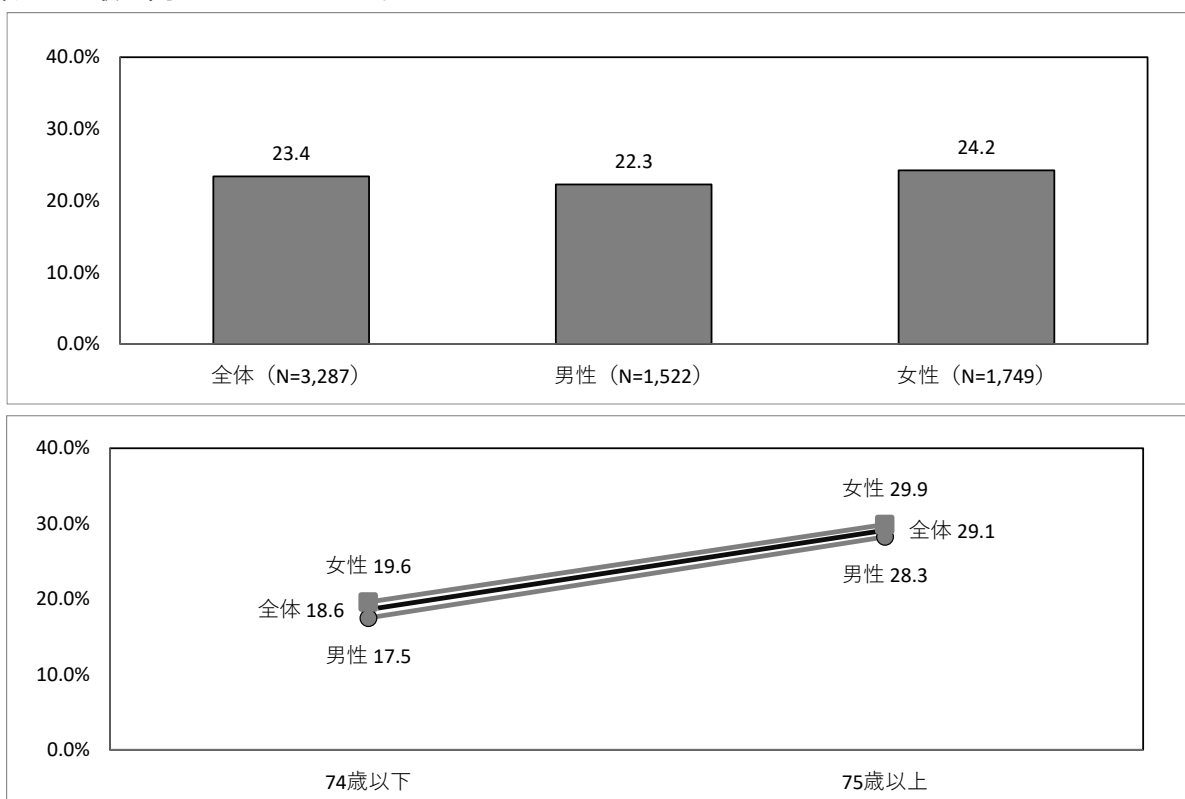
以下の設問のうち2問以上、該当する選択肢が回答された場合に、口腔機能が低下していると判定されます。

【口腔機能の低下している高齢者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 3Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問 3Q3	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問 3Q4	口の渇きが気になりますか	1. はい

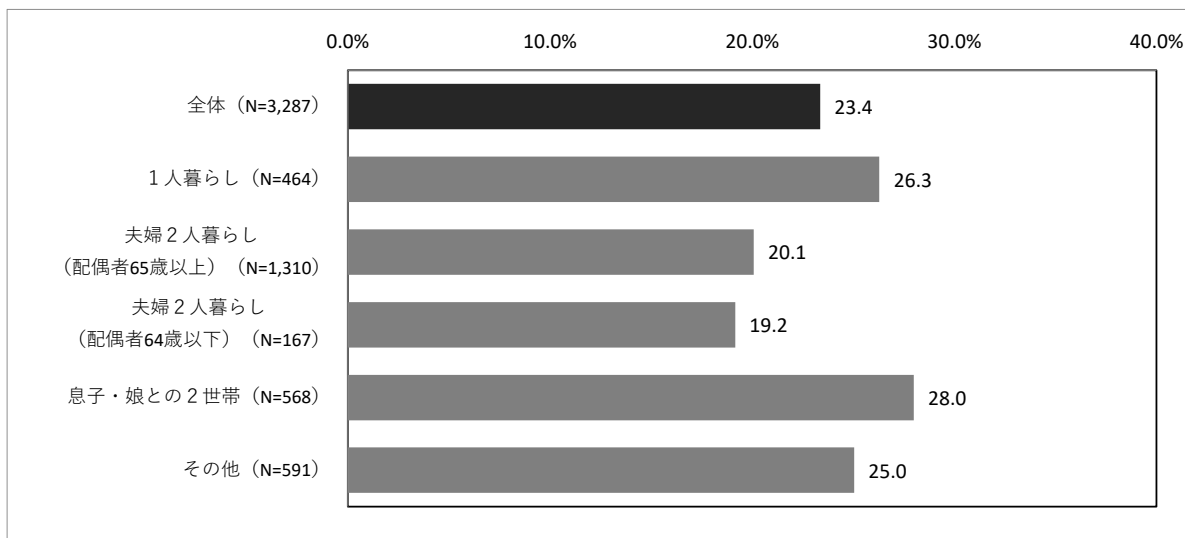
【市全体・性別】

市全体では、口腔機能が低下している高齢者の割合は23.4%である。性別で見ると男性22.3%、女性24.2%である。年代別で見ると市全体では74歳以下で18.6%、75歳以上で29.1%となっている。性年代別では女性75歳以上が最も高く29.9%である。



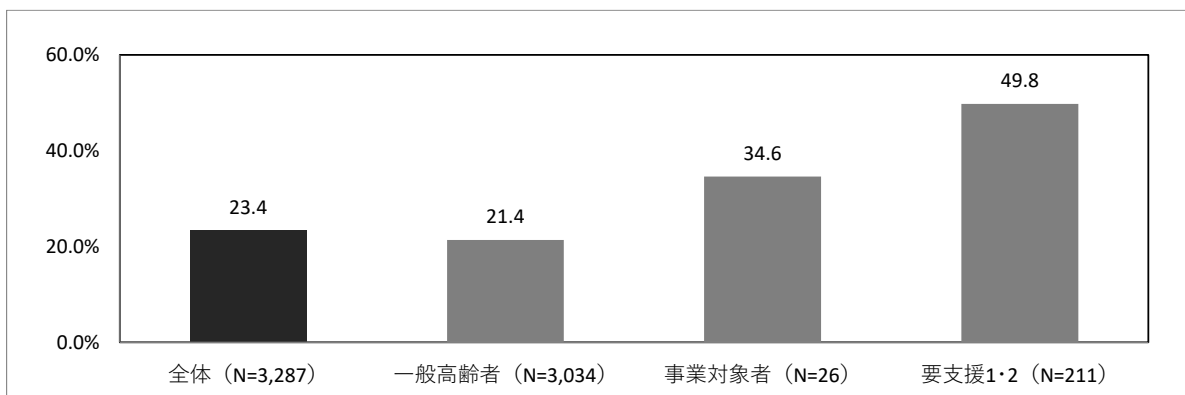
【家族構成別】

家族構成別では「息子・娘と2世帯」家庭において口腔機能が低下している高齢者の割合が最も高く28.0%、続いて「1人暮らし」家庭で26.3%、「その他」家庭25.0%である。一方、口腔機能が低下している高齢者の割合が市全体よりも低いのは「夫婦2人暮らし」世帯であり、「配偶者64歳以下」で19.2%、「配偶者65歳以上」で20.1%である。



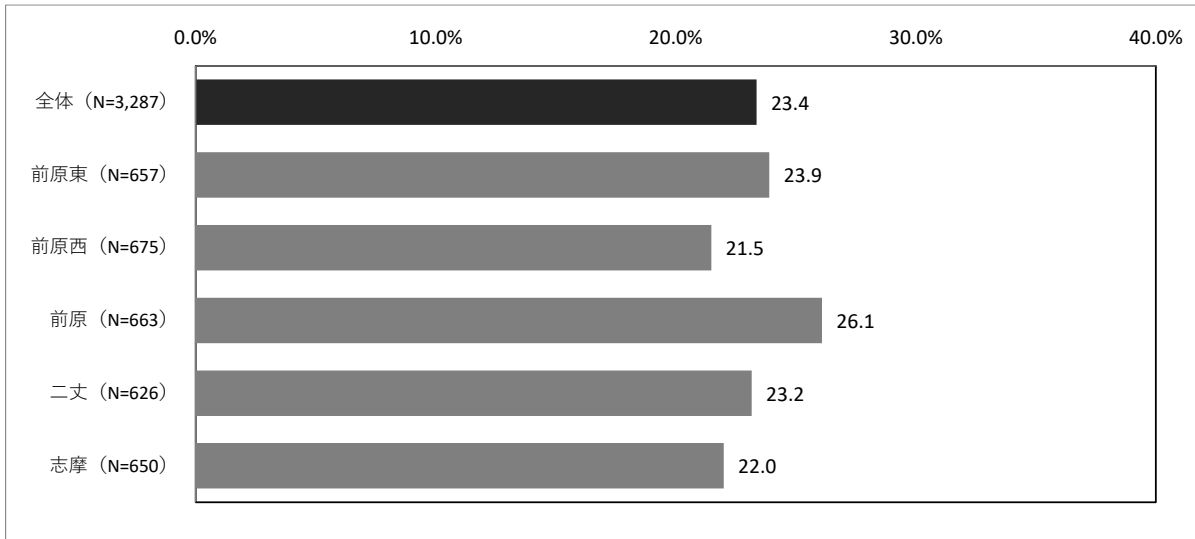
【要介護度別】

要介護度別に口腔機能が低下している高齢者の割合をみると、一般高齢者が21.4%であるのに対し、事業対象者では34.6%、要支援1・2では49.8%となっており、要介護度が上がるほど、口腔機能が低下している高齢者の割合は高くなっている。



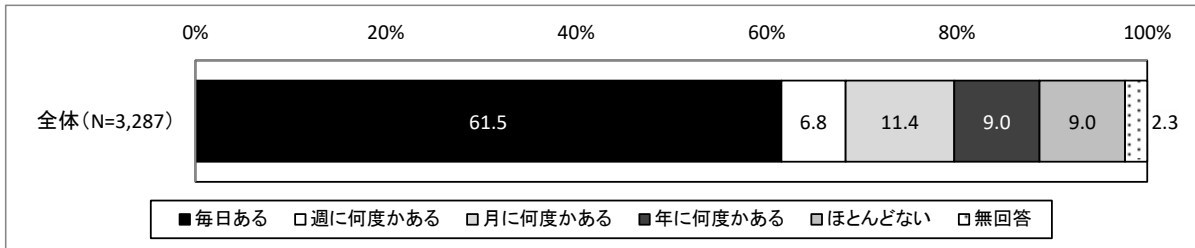
【圏域別】

圏域別では、前原圏域において口腔機能が低下している高齢者の割合が高くなっており、26.1%である。一方、口腔機能が低下している高齢者の割合が低いのは前原西圏域であり 21.5%である。



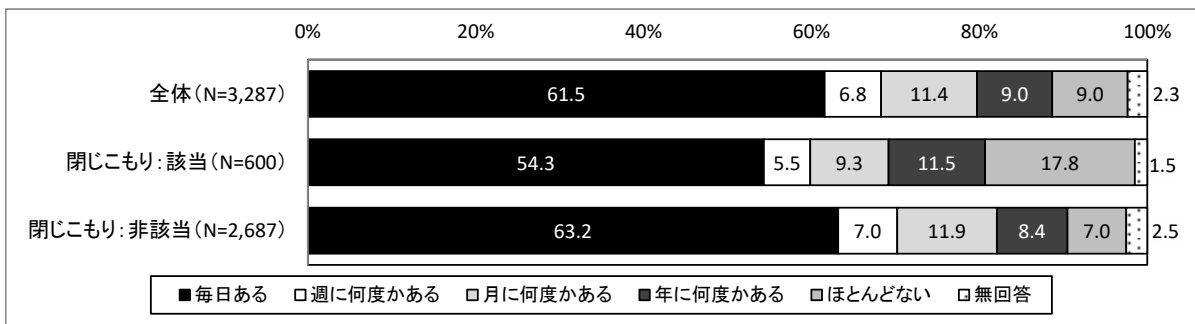
② 共食の状況

問3 (8) 「どなたかと食事をとにもする機会がありますか」について、市全体でみると「毎日ある」が最も高く 61.5%、次いで「月に何度かはある」が 11.4%と続いている。最も低いのは「週に何度かある」の 6.8%である。



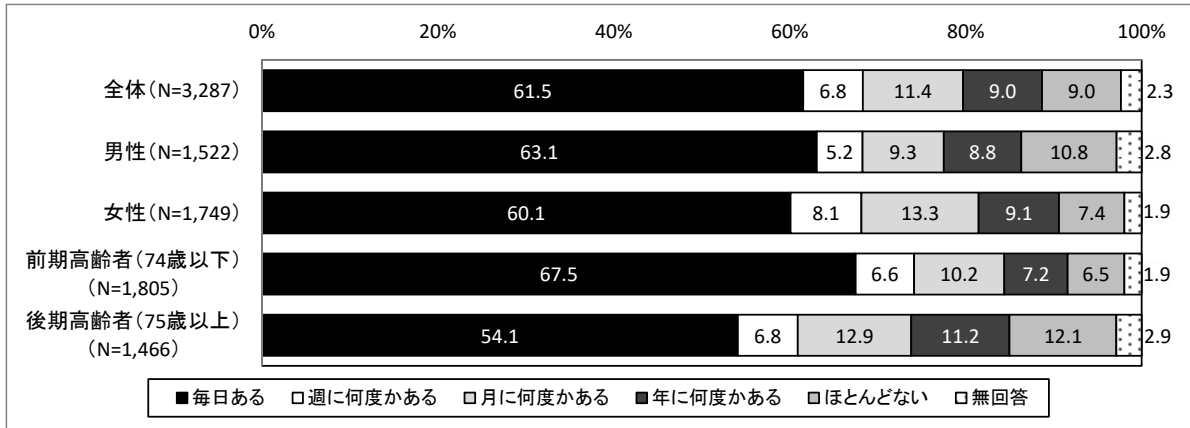
【閉じこもりリスクの有無別】

閉じこもりリスクの有無別では、閉じこもりリスク保有者は「毎日ある」の割合が 54.3%となっており、リスクのない人 63.2%と比較し 8.9 ポイント低くなっている。また、リスク保有者は「ほとんどない」の割合が高く 17.8%となっている。



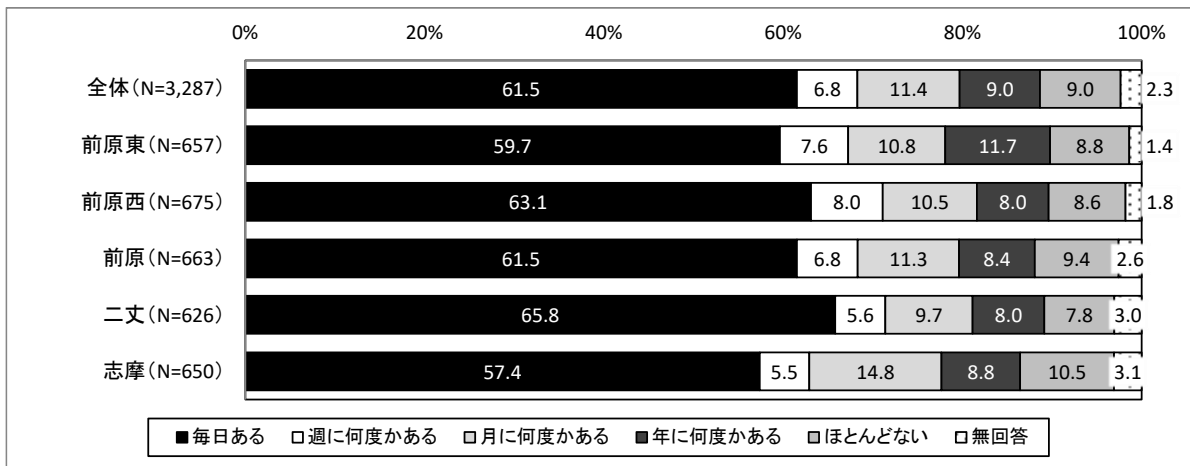
【性別・年代別】

性別では、女性より男性の方が「毎日ある」の割合が高くなっており、男性 63.1%、女性 60.1%である。
 年代別では、年代が上がるほど、「毎日ある」の割合が減少し、「年に何度かはある」、「ほとんどない」の割合が特に増加している。



【圏域別】

圏域別では、「毎日ある」の割合が最も高いのは二丈圏域の 65.8%、次いで前原西圏域の 63.1%である。一方、最も低いのは志摩圏域 57.4%である。



(6) 認知症

① 認知症リスク保有者の割合

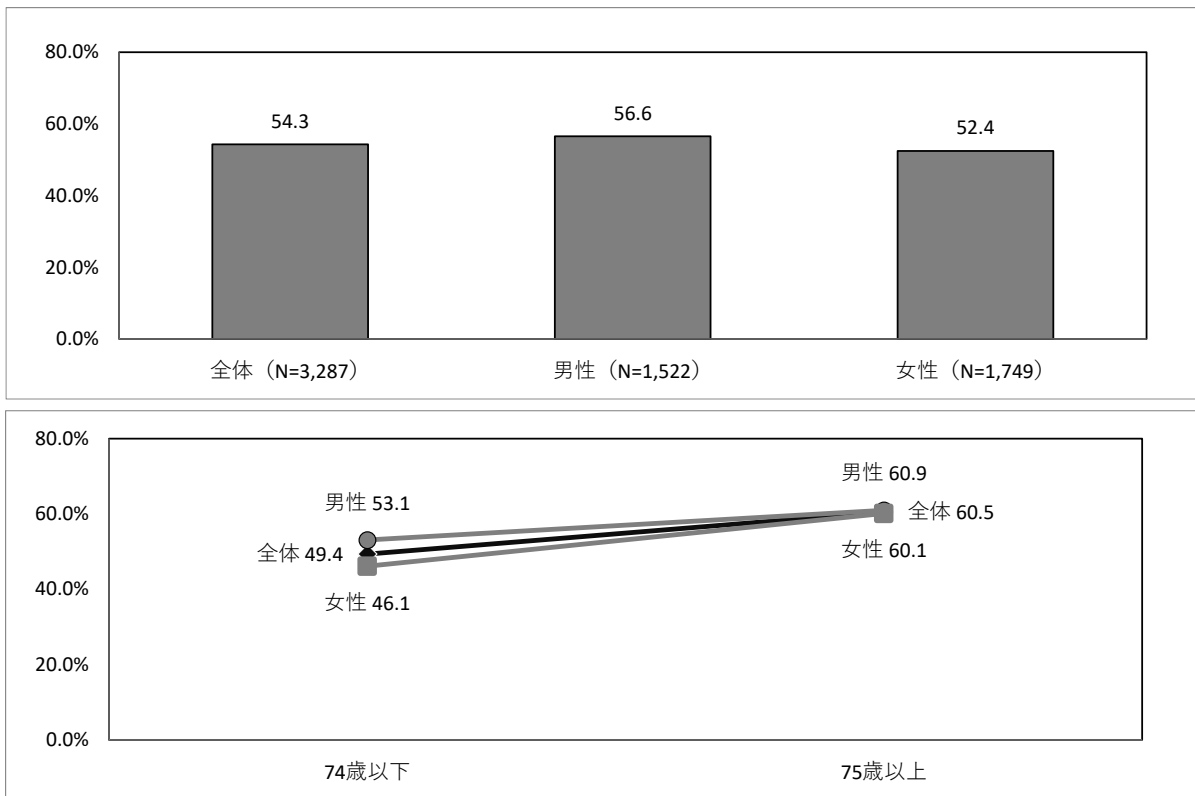
以下の設問でいずれか1問でも、該当する選択肢が回答された場合に、認知症リスク保有者として判定されます。

【認知症リスク保有者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4Q1	物忘れが多いと感じますか	1. はい
問 4Q2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2. いいえ
問 4Q3	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい

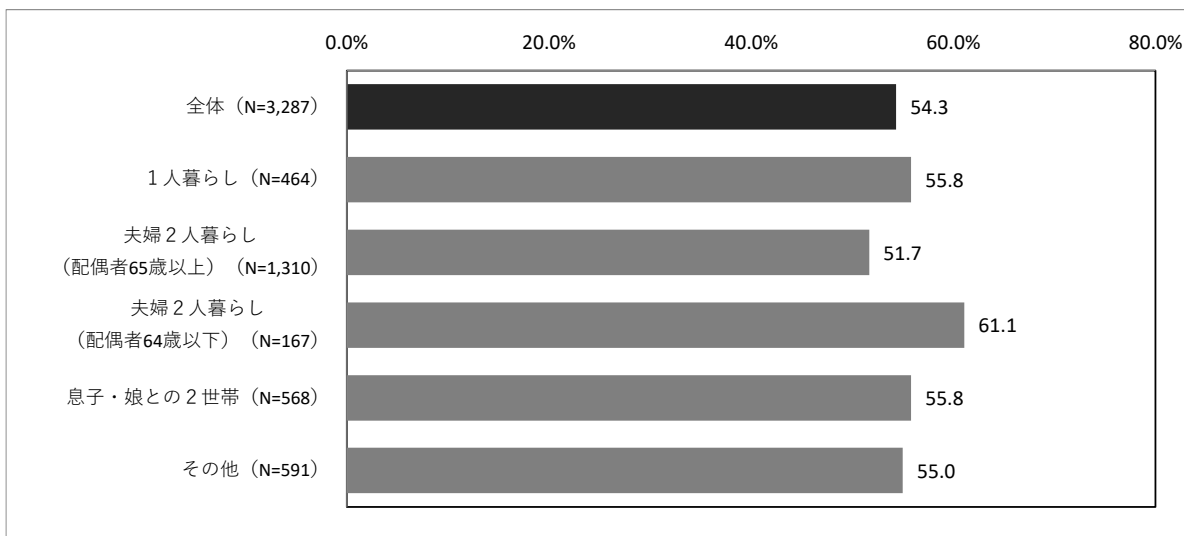
【市全体・性別】

市全体では、認知症リスク保有者の割合は 54.3%である。性別で見ると男性 56.6%、女性 52.4%である。年代別で見ると市全体では 74 歳以下で 49.4%、75 歳以上で 60.5%となっている。性年代別では男性 75 歳以上が最も高く 60.9%である。



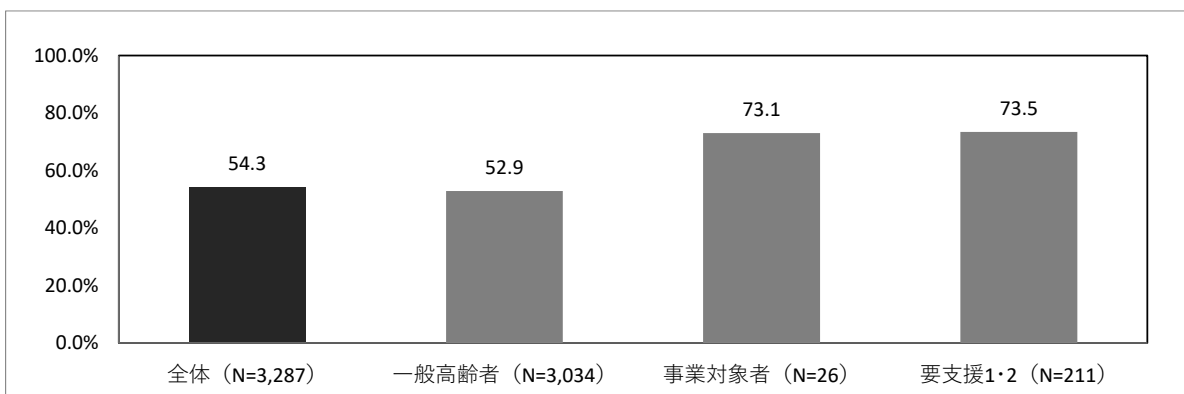
【家族構成別】

家族構成別では「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」家庭において認知症リスク保有者の割合が最も高く61.1%である。一方、認知症リスク保有者の割合が市全体よりも低いのは「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」世帯であり51.7%である。



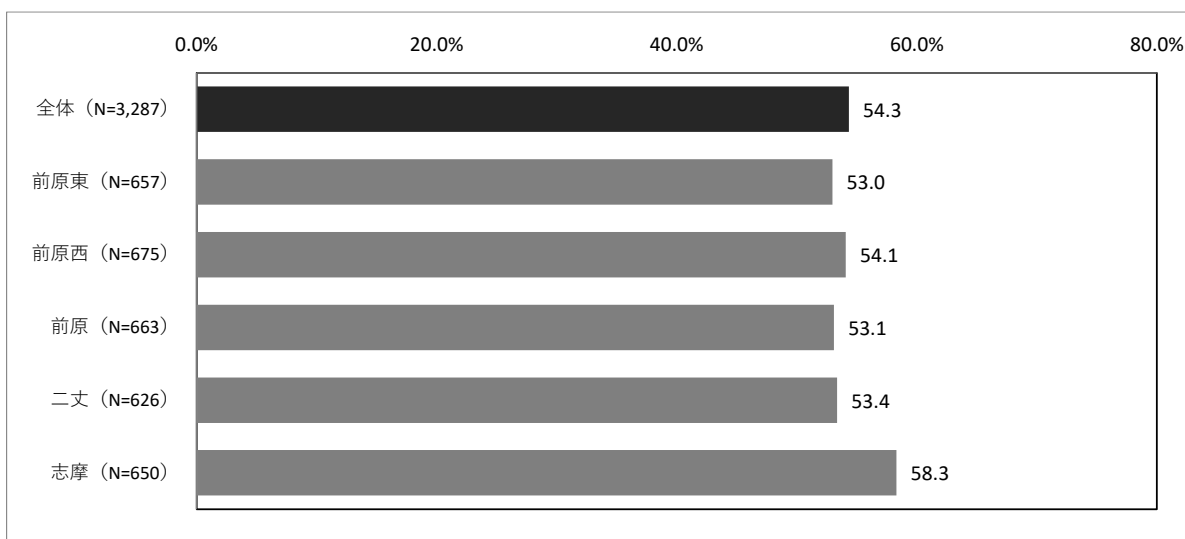
【要介護度別】

要介護度別に認知症リスク保有者の状況を見ると、要支援1・2が最も高く、73.5%である。次いで事業対象者が73.1%となっている。



【圏域別】

圏域別では、多くの圏域において市全体の平均並みの割合であるものの、志摩圏域は 58.3%と認知症リスク保有者の割合が他圏域より 4 ポイントほど高くなっている。



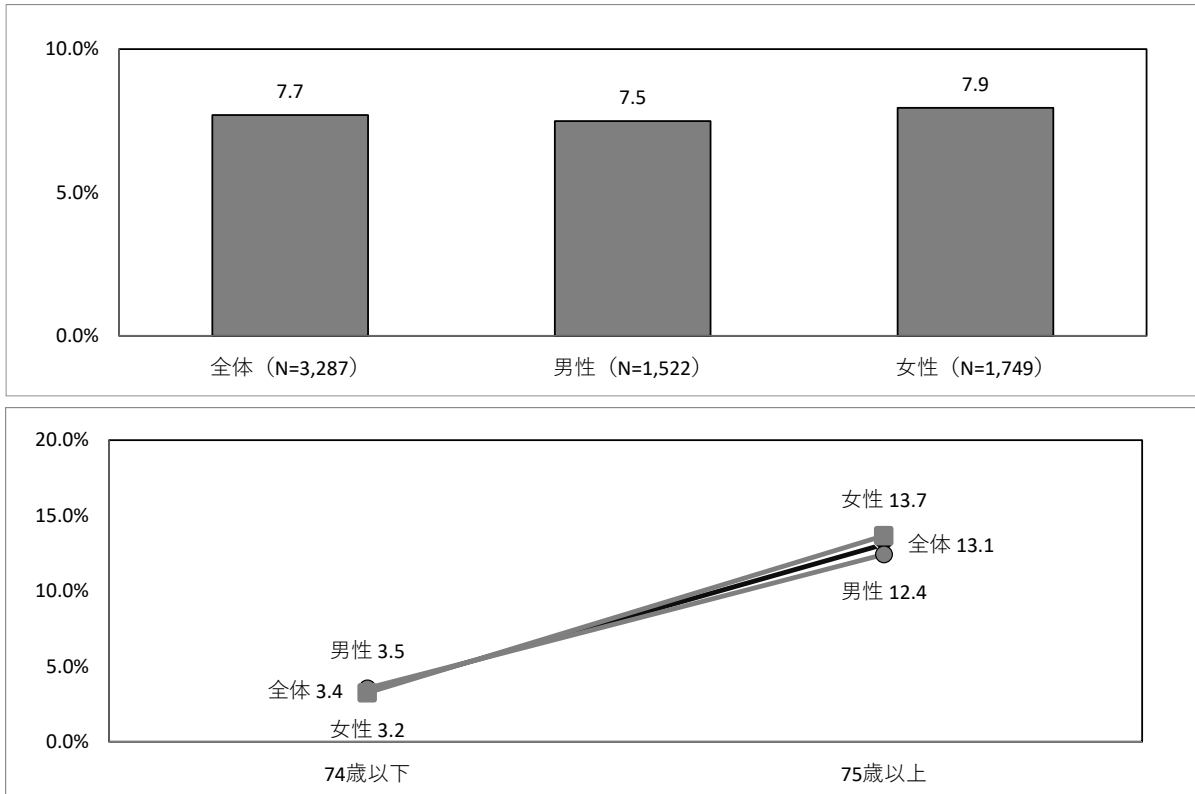
(7) 虚弱

以下の設問のうち 10 問以上、該当する選択肢が回答された場合に、虚弱のリスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4Q4	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	3. できない
問 4Q5	自分で食品・日用品の買物をしていますか	3. できない
問 4Q8	自分で預貯金の出し入れをしていますか	3. できない
問 4Q13	友人の家を訪ねていますか	2. いいえ
問 4Q14	家族や友人の相談にのっていますか	2. いいえ
問 2Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問 2Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問 2Q3	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問 2Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問 2Q5	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である
問 3Q7	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい
問 3Q1	身長・体重によりBMIを算出	BMIが18.5以下
問 3Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問 3Q3	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問 3Q4	口の渇きが気になりますか	1. はい
問 2Q6	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない
問 2Q7	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている 2. 減っている
問 4Q1	物忘れが多いと感じますか	1. はい
問 4Q2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2. いいえ
問 4Q3	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい

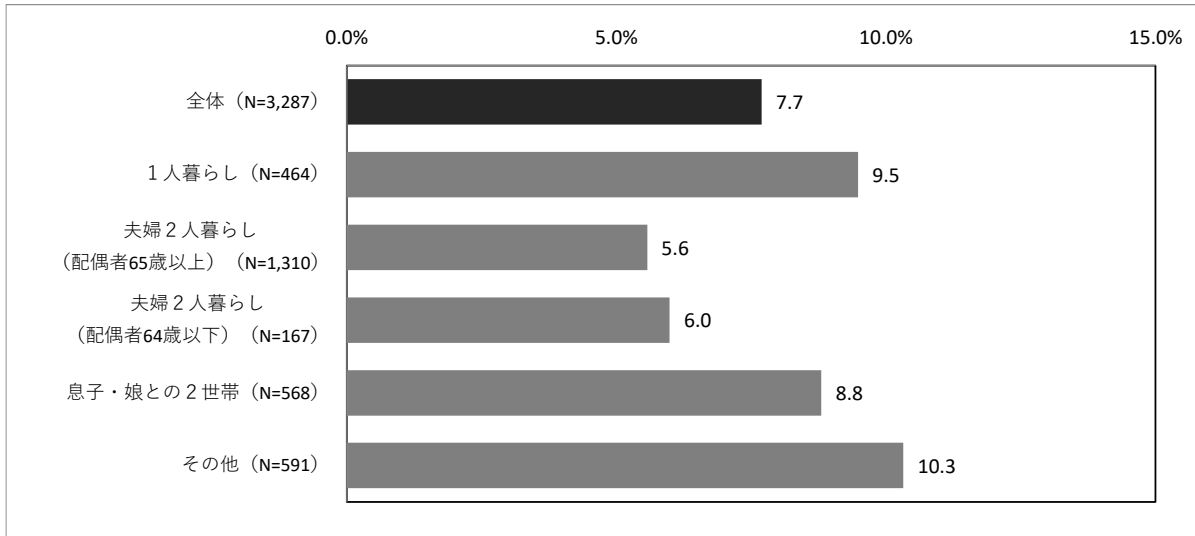
① 虚弱高齢者の割合

市全体では市全体では虚弱該当者は7.7%であり、性別で見ると男性で7.5%、女性で7.9%となっており、ほとんど差はない。年代別で見ると市全体では74歳以下で3.4%、75歳以上で13.1%となっている。性年代別では女性75歳以上が最も高く13.7%である。



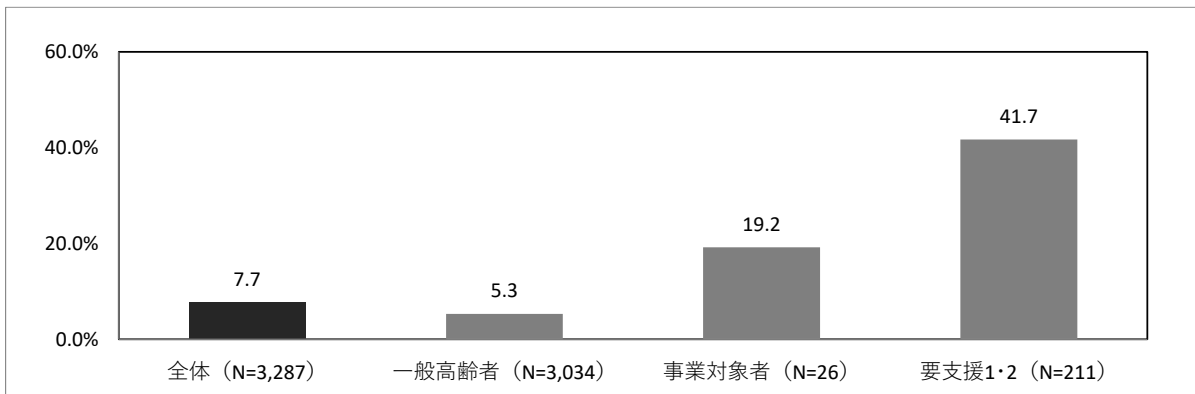
【家族構成別】

家族構成別では「その他」家庭において虚弱該当者が最も高く 10.3%、続いて「一人暮らし」家庭で 9.5% である。一方、虚弱該当者が市全体よりも低いのは「夫婦 2 人暮らし」世帯であり、「配偶者 65 歳以上」で 5.6%、「配偶者 64 歳以下」で 6.0% である。



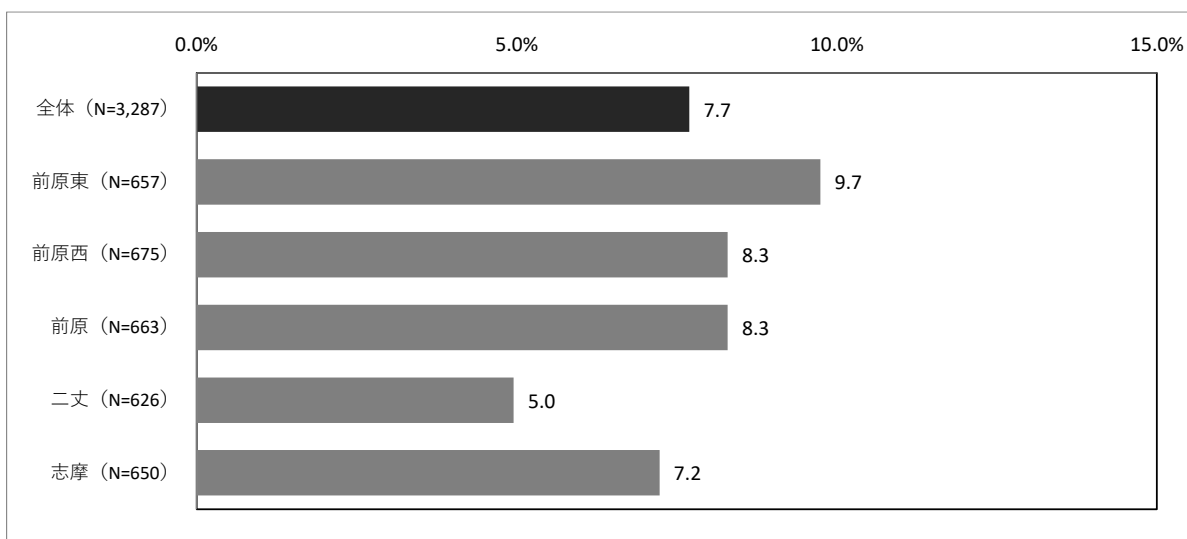
【要介護度別】

要介護度別にみると、虚弱該当者は要支援 1・2 で 41.7% と最も高く、次いで事業対象者で 19.2% となっている。最も高い要支援 1・2 と、最も低い一般高齢者とでは 35 ポイントほどの差がある。



【圏域別】

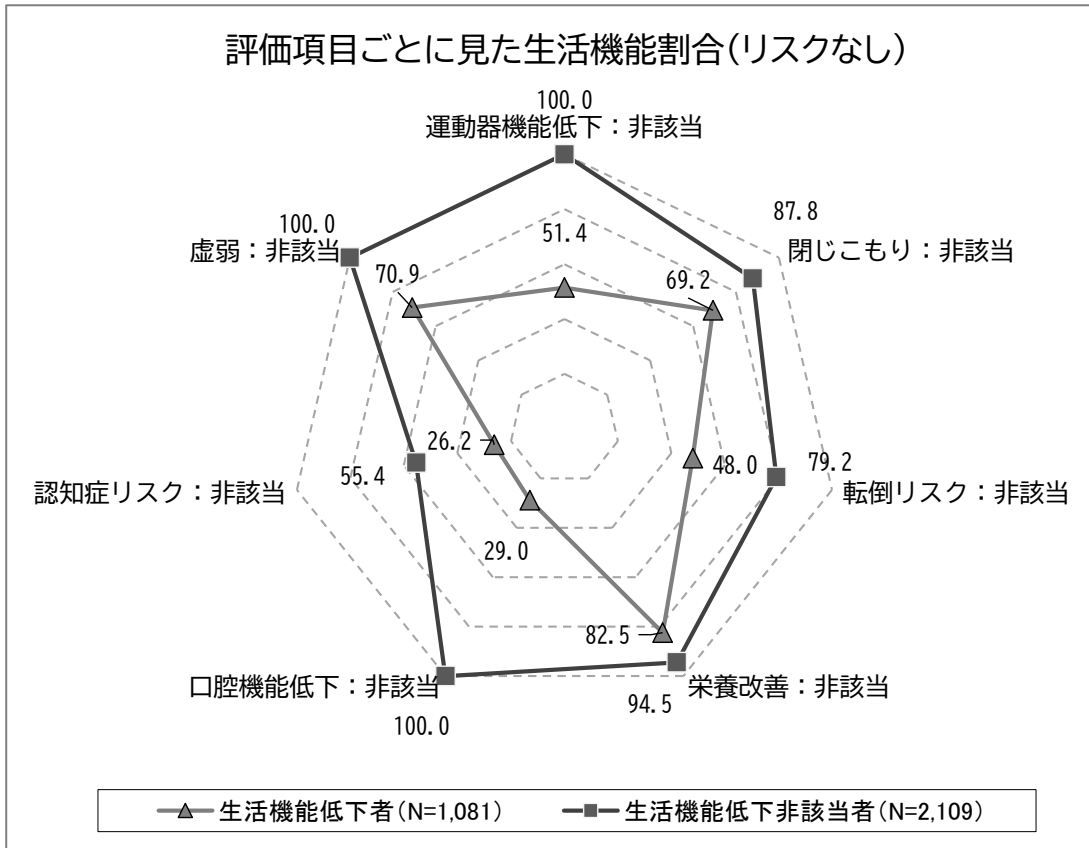
前原東圏域において虚弱該当者の割合が高くなっており、9.7%である。一方、虚弱該当者の割合が低いのは二丈圏域であり5.0%である。



(8) 生活機能の低下状況

生活機能の評価項目ごとのリスクなしの割合を可視化した(リスクなしの割合であるため、数値が高いほど生活機能が高いことを意味する)。

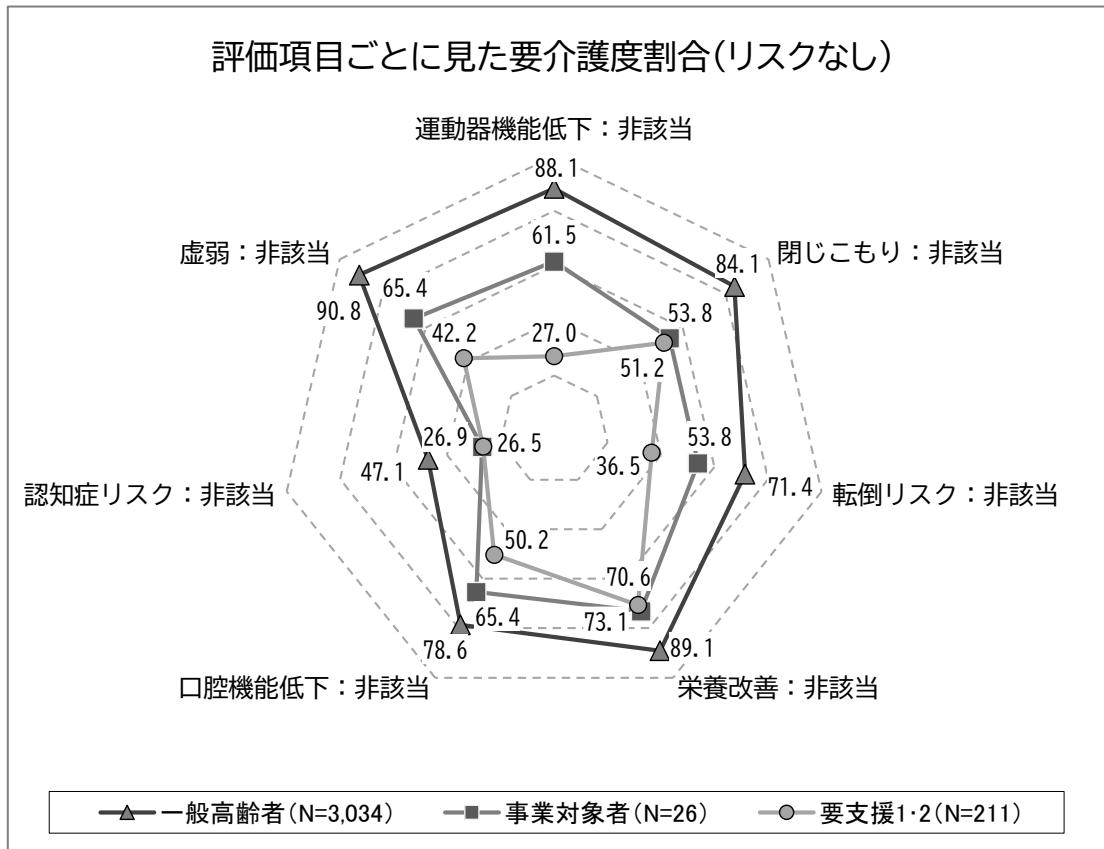
下記評価項目の内、「運動器機能低下」、「栄養改善」、「口腔機能低下」、「虚弱」の内の1つに該当すると生活機能低下者と判定される。



【要介護度別】

生活機能の評価項目ごとのリスクなしの割合を可視化した（リスクなしの割合であるため、数値が高いほど生活機能が高いことを意味する）。

すべての項目において要支援1・2は最も低い割合となっている（リスクなしが少なくなっている）。特に、運動器機能低下の項目については、一般高齢者との差が大きい。



2 日常生活

(1) 手段的自立度 (IADL) 低下者

以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行った。

【手段的自立度 (IADL) 低下者の評価・分析方法】

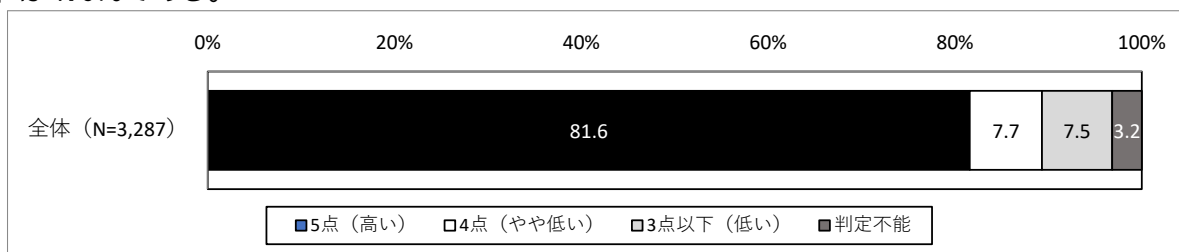
設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4Q4	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」 に1点
問 4Q5	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問 4Q6	自分で食事の用意をしていますか	
問 4Q7	自分で請求書の支払いをしていますか	
問 4Q8	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

【合計点数 判定基準】

0~3点	4点	5点
低い	やや低い	高い

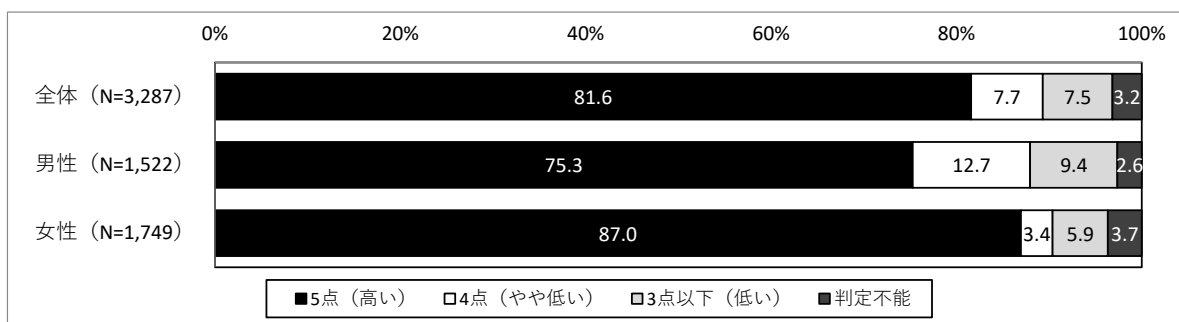
① 手段的自立度 (IADL) 低下者の割合

市全体でみると手段的自立度 (IADL) は「高い」が最も高く 81.6%となっている。「やや低い」は 7.7%、「低い」は 7.5%である。



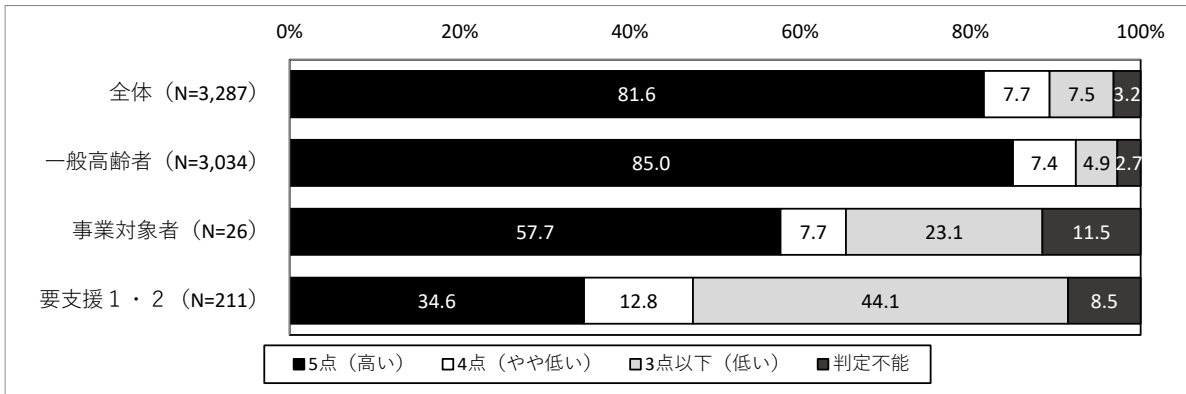
【性別】

性別でみると「高い」は男性 75.3%、女性 87.0%と女性が高くなっている。一方、「やや低い」は男性 12.7%、女性 3.4%、「低い」は男性 9.4%、女性 5.9%となっており、手段的自立度 (IADL) は男性の方がいずれも低下傾向にある。



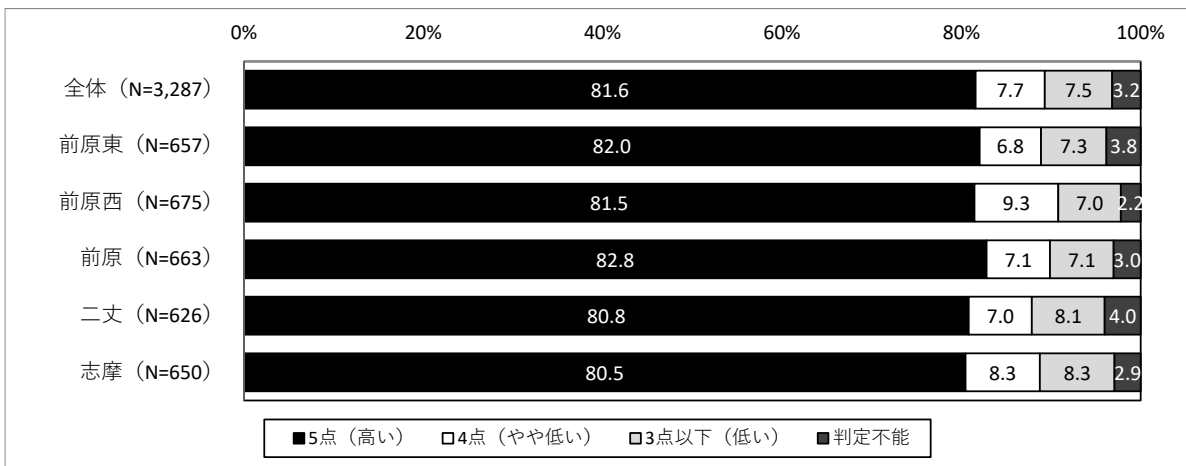
【要介護度別】

要介護度別にみると要支援1・2は「高い」が34.6%と他の項目と比較し低く、「低い」が44.1%となっている。一般高齢者の「低い」が4.9%、事業対象者の「低い」が23.1%であることを考えると、要介護度が上がるほど、手段的自立度 IADL は低くなっていく。



【圏域別】

圏域別では、どの圏域においても「高い」が最も高くなっている。圏域による差は少ない。



(2) 社会参加者

1) 知的能動性

以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行った。

【知的能動性低下者の評価・分析方法】

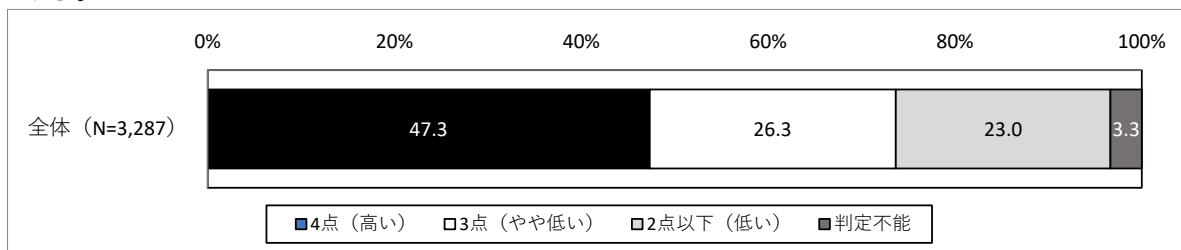
設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4Q9	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」に1点
問 4Q10	新聞を読んでいますか	
問 4Q11	本や雑誌を読んでいますか	
問 4Q12	健康についての記事や番組に関心がありますか	

【合計点数 判定基準】

0～2点	3点	4点
低い	やや低い	高い

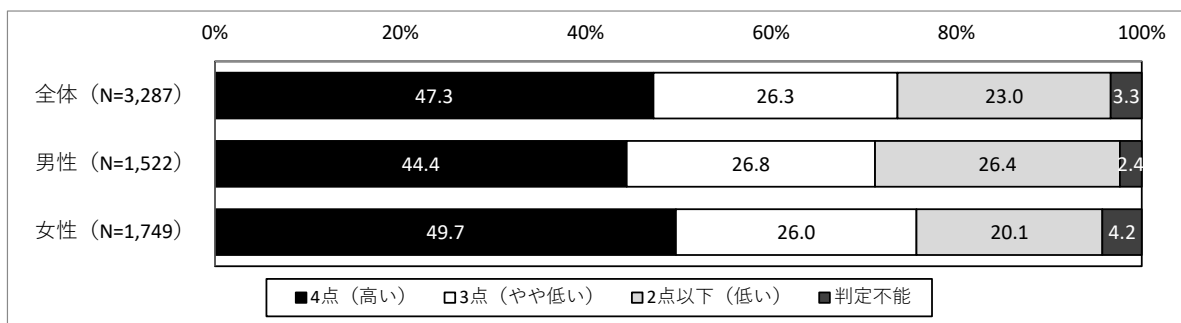
① 知的能動性低下者の割合

市全体でみると知的能動性は「高い」が最も高く47.3%となっている。「やや低い」は26.3%、「低い」は23.0%である。



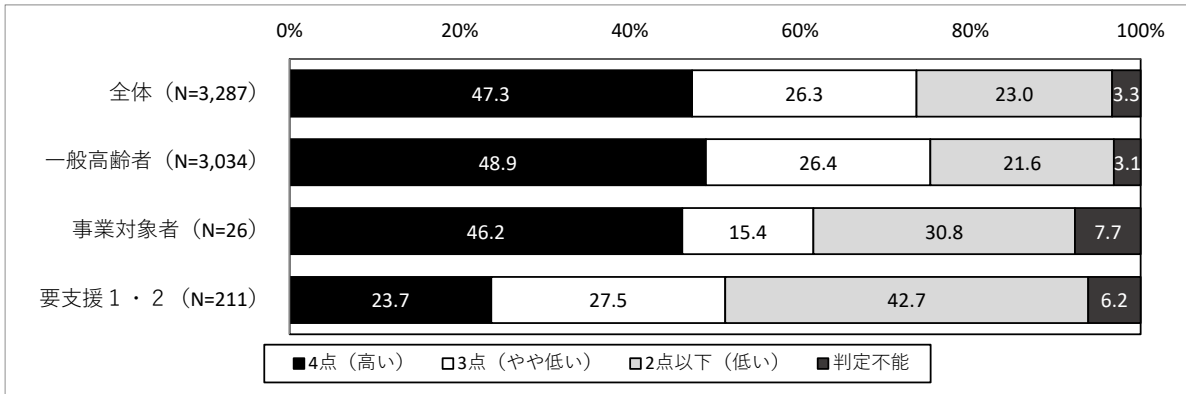
【性別】

性別でみると女性の方が「高い」の割合が高く49.7%、男性44.4%となっている。「やや低い」と、「低い」は男性の方が高くなっている。



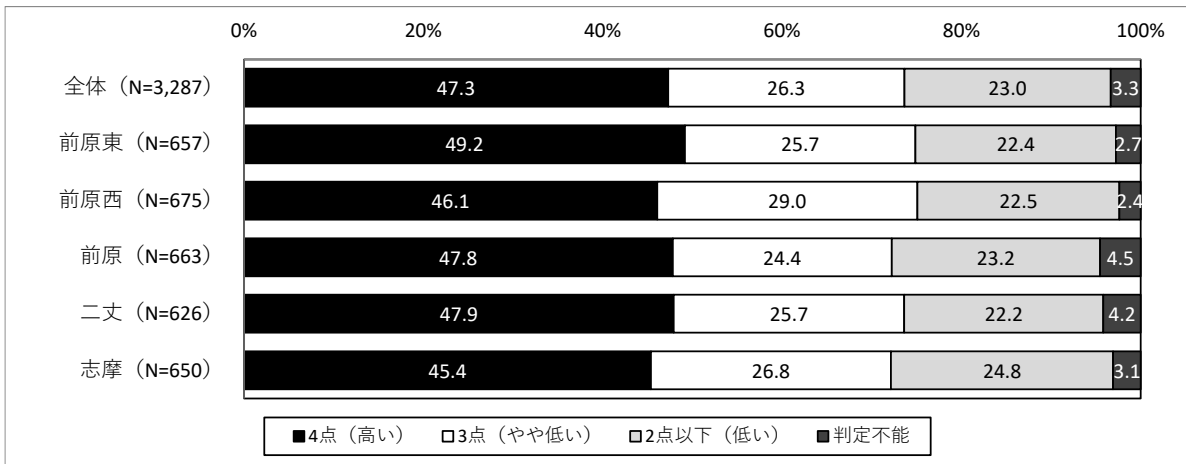
【要介護度別】

要介護度別に知的能動性の状況をみると、要支援1・2は「低い」の割合が高くなっている。一般高齢者の「低い」が21.6%であるのに対し、事業対象者は30.8%、要支援1・2は42.7%である。



【圏域別】

圏域別では、どの圏域においても「高い」が最も高くなっている。「やや低い」は前原西圏域で最も高く29.0%となっている。「低い」は志摩圏域で最も高く24.8%である。



2) 社会的役割

以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行った。

【社会的役割低下者の評価・分析方法】

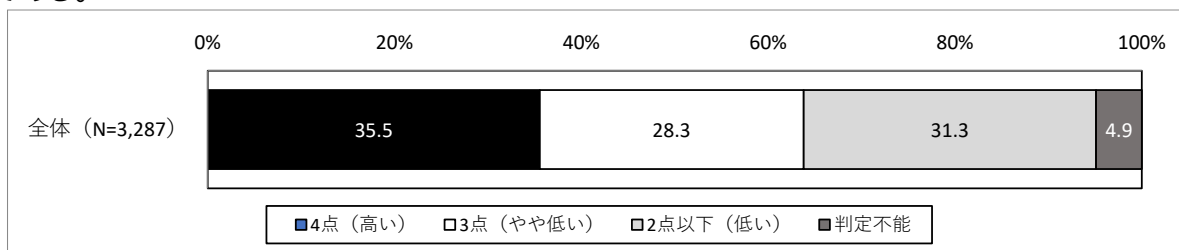
設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4Q13	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」に1点
問 4Q14	家族や友人の相談にのっていますか	
問 4Q15	病人を見舞うことができますか	
問 4Q16	若い人に自分から話しかけることがありますか	

【合計点数 判定基準】

0~2点	3点	4点
低い	やや低い	高い

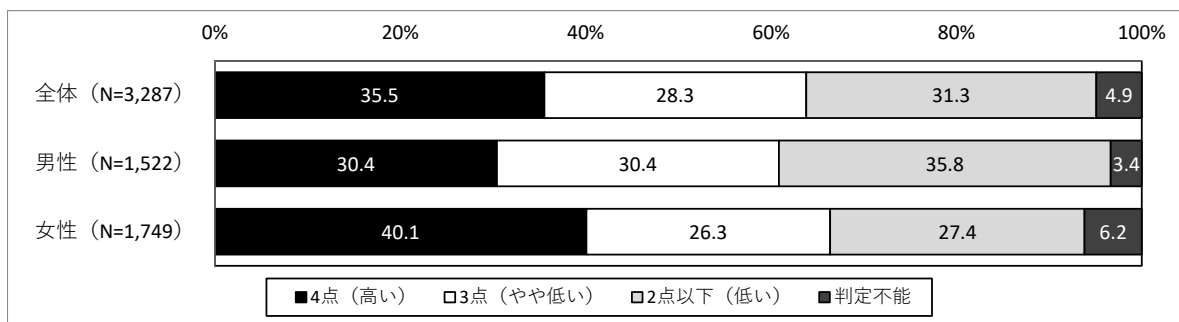
① 社会的役割低下者の割合

市全体でみると社会的役割は「高い」が最も高く 35.5%となっている。「やや低い」は 28.3%、「低い」は 31.3%である。



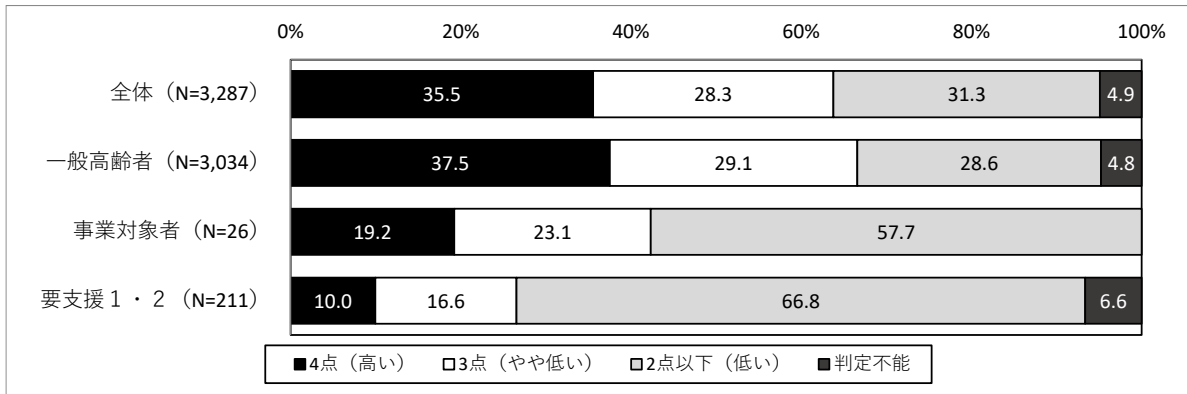
【性別】

性別では、社会的役割の「高い」人は男性 30.4%、女性 40.1%であり、女性は男性よりも社会的役割が高い。「やや低い」は男性 30.4%、女性 26.3%であり、「低い」は男性 35.8%、女性 27.4%である。



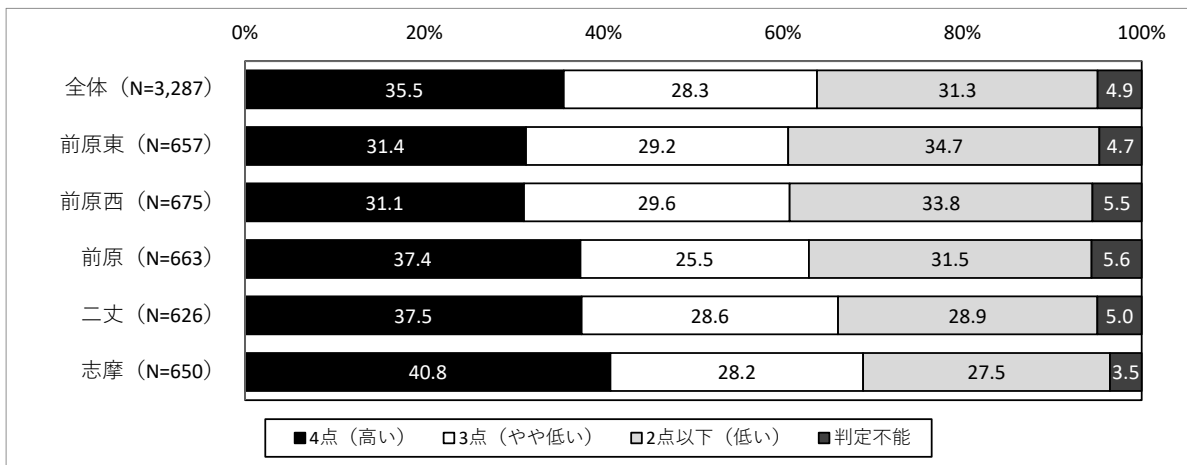
【要介護度別】

要介護度別に社会的役割低下者の割合をみると、要支援1・2は「低い」の割合が非常に高くなっている。一般高齢者では28.6%であるのに対し、事業対象者では57.7%、要支援1・2では66.8%であり、約6割にも上る。



【圏域別】

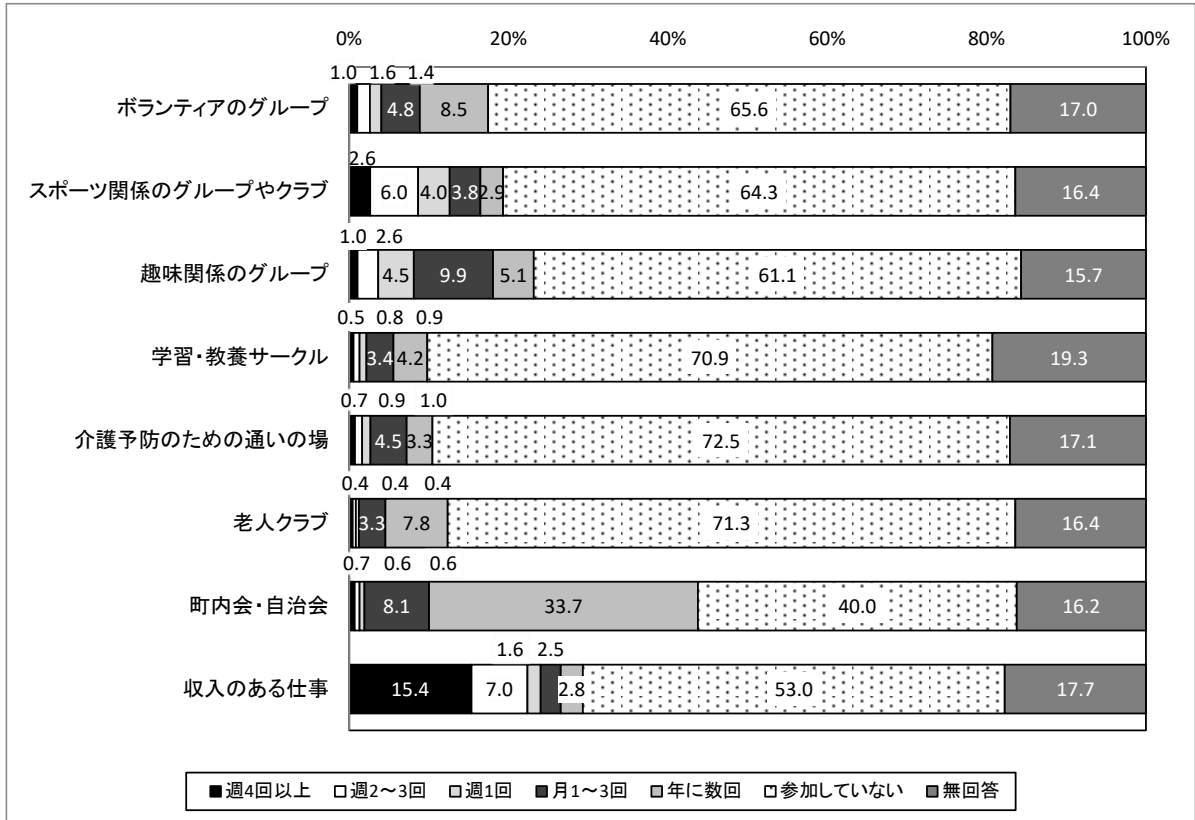
圏域別でみると、社会的役割が「高い」人の割合が最も高いのは志摩圏域 40.8%であり、次いで二丈圏域 37.5%であり、逆に最も低いのが前原東圏域の31.1%である。



3) 会・グループ等への参加状況

各会、グループへの参加頻度を尋ねた。

どの項目においても「参加していない」が最も高くなっており、最も「参加していない」が高いのは介護予防のための通いの場 72.5%であった。次いで、老人クラブ 71.3%である。一方、最も「参加していない」の割合が低いのは町内会・自治会 40.0%であり、町内会・自治会は比較的参加されている会・グループであると言える。町内会・自治会の参加頻度は「年に数回」が最も高く 33.7%である。

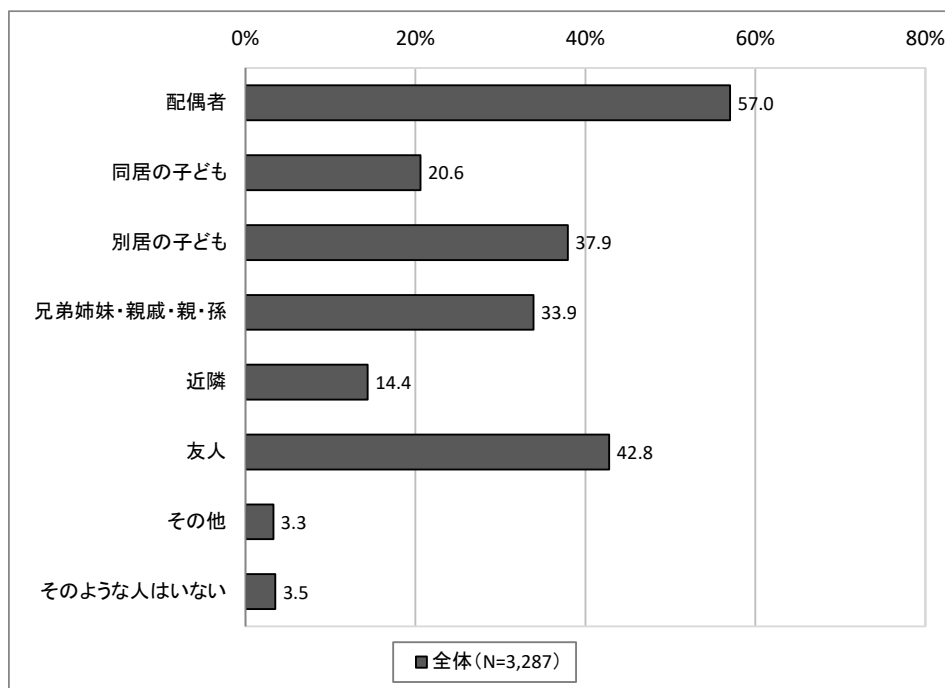


4) 周りの人の「たすけあい」について

① 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）

心配ごとや愚痴を聞いてくれる人について尋ねた。

最も割合が高いのは「配偶者」であり 57.0%であった。次いで「友人」42.8%、「別居の子ども」37.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」33.9%と続く。

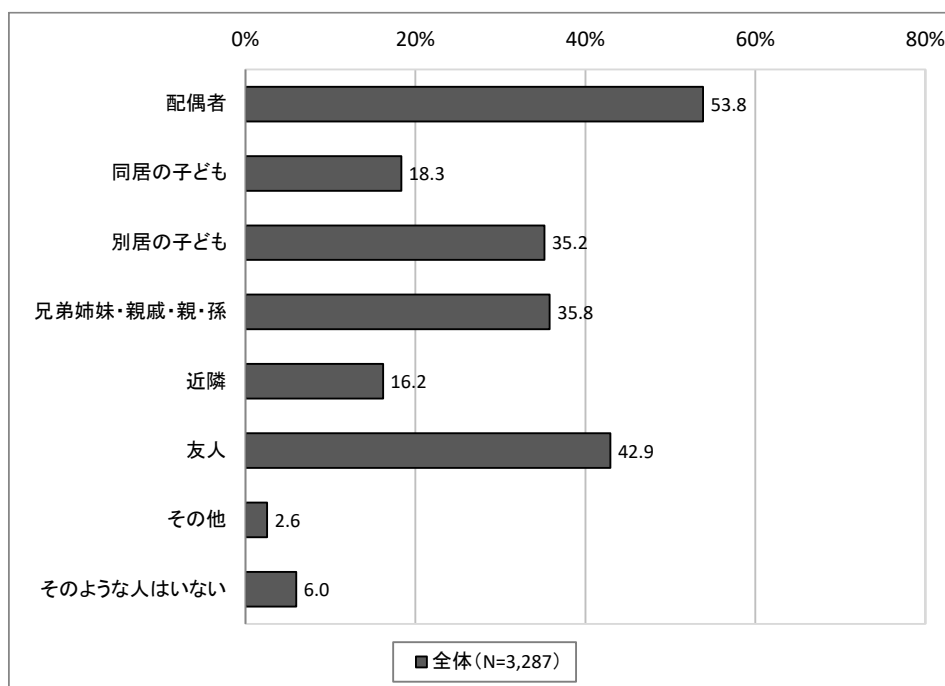


② 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）

心配ごとや愚痴を聞いてあげる人について尋ねた。

最も割合が高かったのは「配偶者」の 53.8%であり、次いで「友人」42.9%である。その後は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」35.8%、「別居の子ども」35.2%と続く。

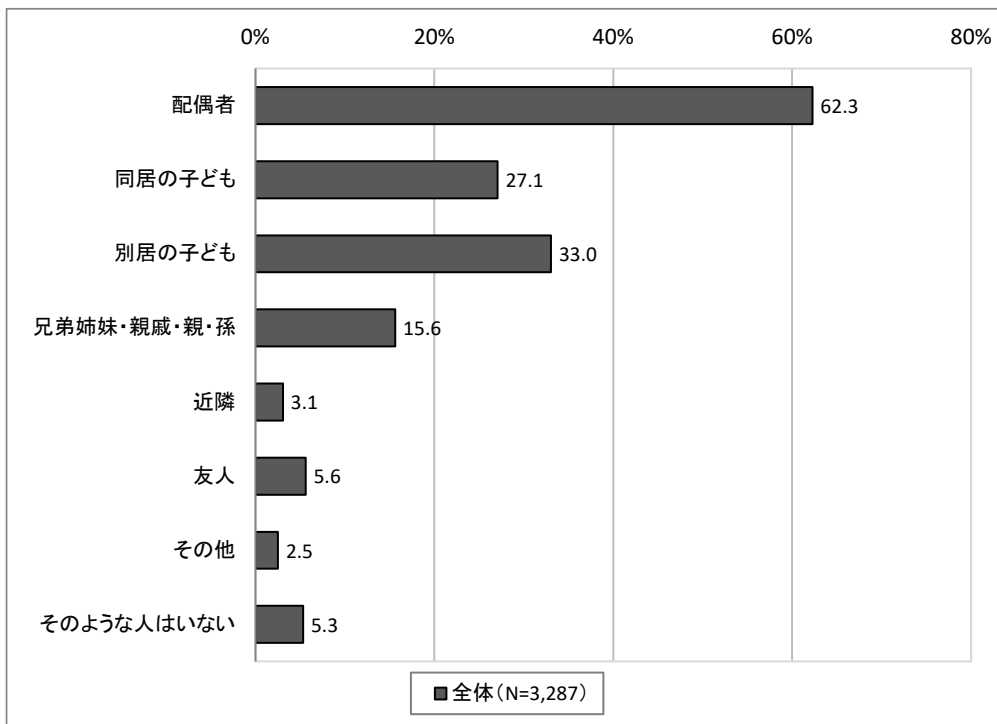
多少の順位の変動はあるものの、前問の「心配事や愚痴を聞いてくれる人」の設問と近い結果となっている。



③ 看病や世話をしてくれる人（複数回答）

看病や世話をしてくれる人について尋ねた。

最も高いのは「配偶者」62.3%であり、続いて「別居の子ども」33.0%である。その後は「同居の子ども」が27.1%「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が15.6%である。

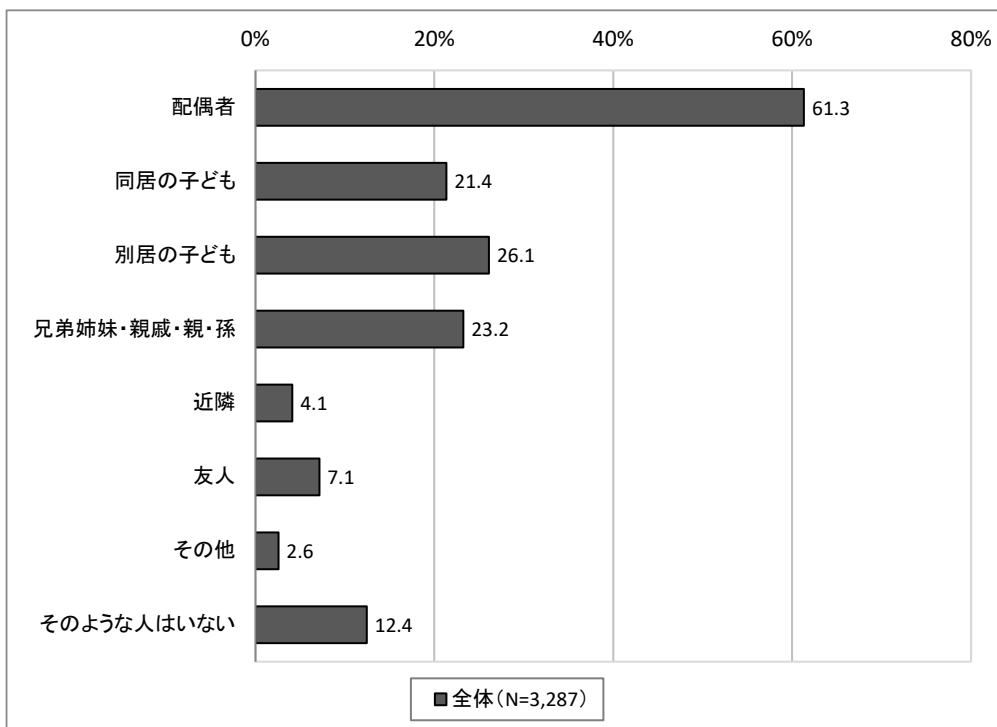


④ 看病や世話をしてあげる人（複数回答）

看病や世話をしてあげる人について尋ねた。

最も高いのは「配偶者」61.3%であり、続いて「別居の子ども」26.1%である。その後は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が23.2%、「同居の子ども」が21.4%である。

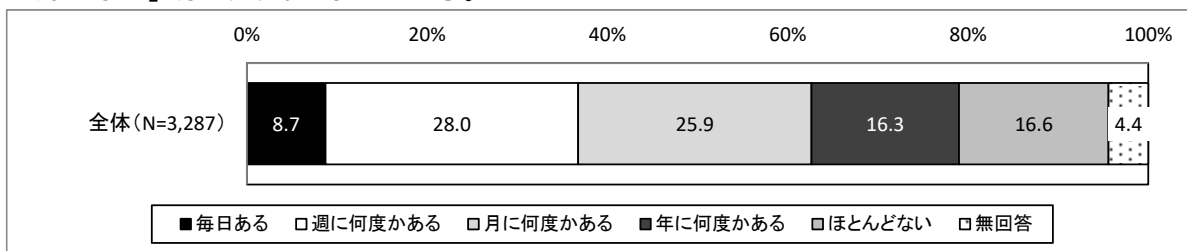
前問の「看病や世話をしてくれる人」と上位四項目は変わらないものの、前問と比較して「同居の子ども」の割合が減少し、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の割合が増加している。



(3) 友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度について尋ねた。

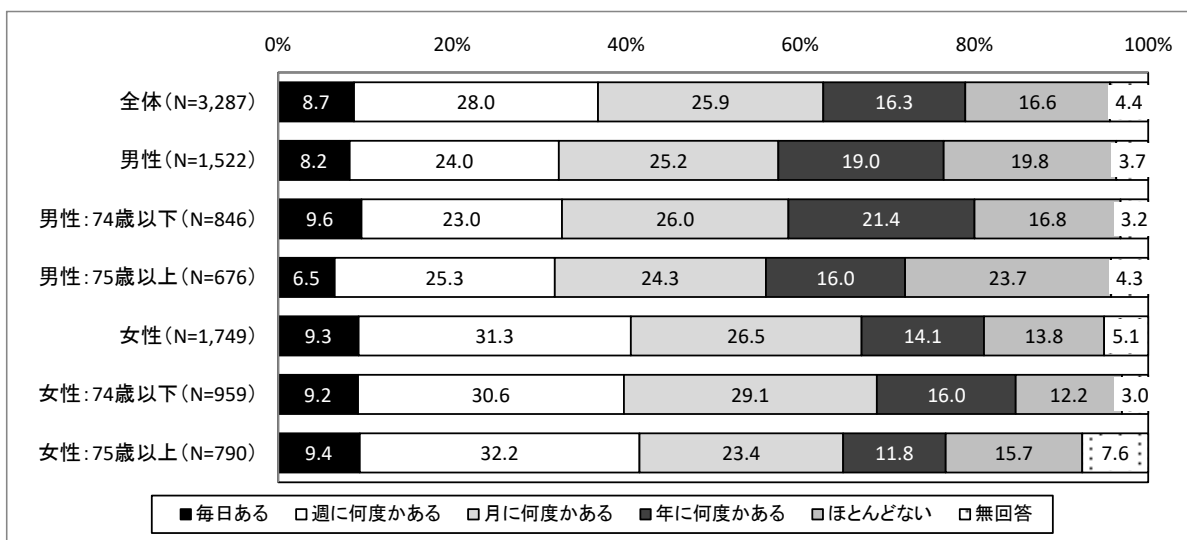
市全体では、「週に何度かある」が最も高く 28.0%である。次いで「月に何度かある」が 25.9%となっている。「ほとんどない」は 16.6%となっている。



【性別・年代別】

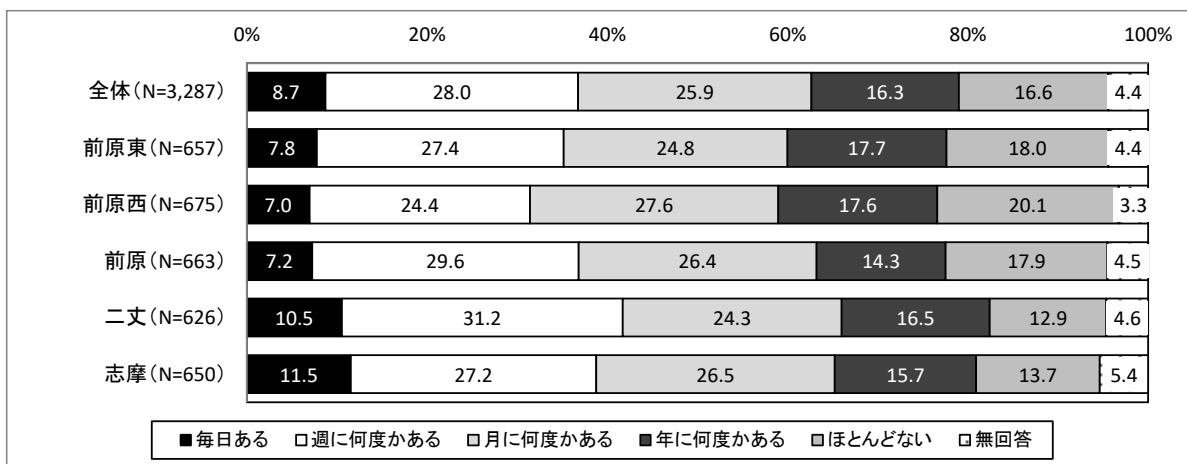
性別では、男性よりも女性の方が友人・知人と会う頻度は高くなっており、男性「週に何度かある」は 24.0%、女性「週に何度かある」は 31.3%である。

年代別では、年代が上がるほど、友人・知人に会う頻度は減少する。男女ともに年代が上がるほど、「ほとんどない」の割合が増加するため、友人・知人との接触自体がなくなる高齢者もいるようである。



【圏域別】

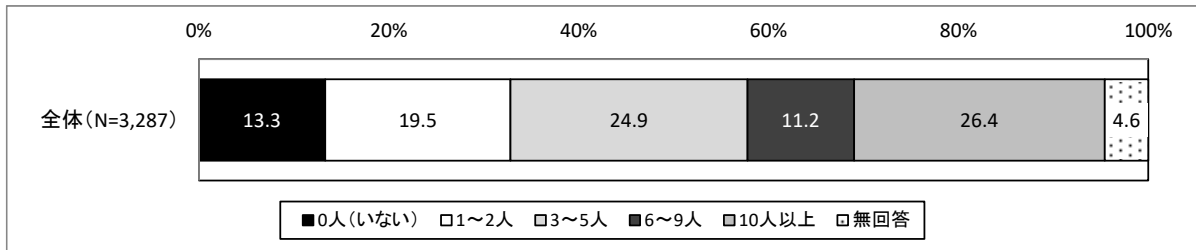
友人・知人と会う頻度に関して、圏域別にみると、『週に1回以上は会う（「毎日ある」「週に何度かある」）』の割合は、二丈圏域 41.7%と志摩圏域 38.7%において高くなっている。反対に「ほとんどない」の割合は前原西圏域で高くなっており、20.1%である。



(4) この1か月に会った友人・知人の数

この1か月間に会った友人・知人の数について尋ねた。

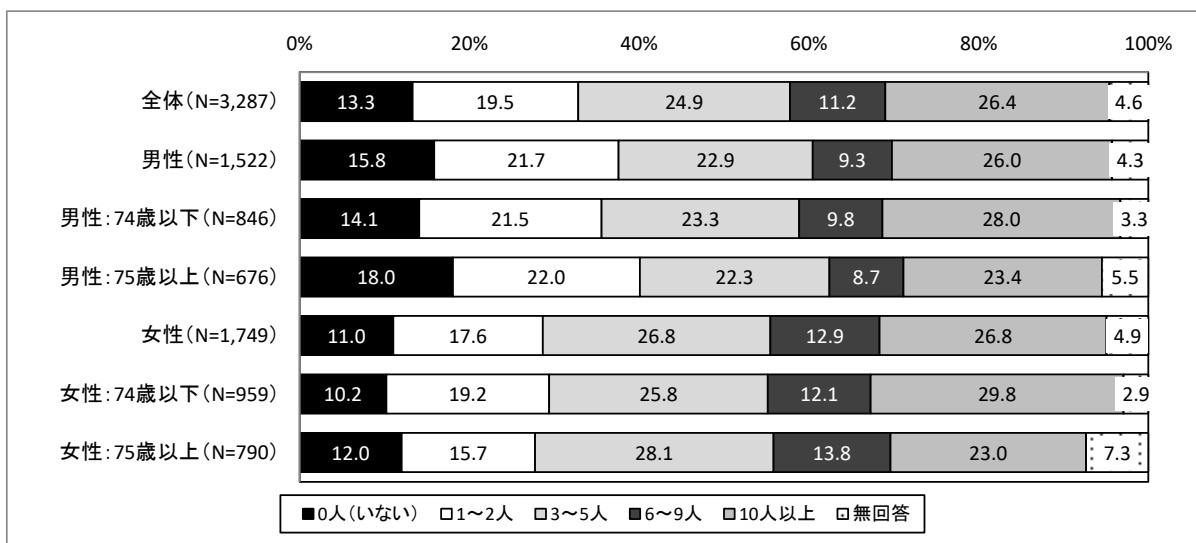
市全体では「10人以上」が最も高く26.4%である。次いで「3~5人」の24.9%、「1~2人」の19.5%と続く。



【性別・年代別】

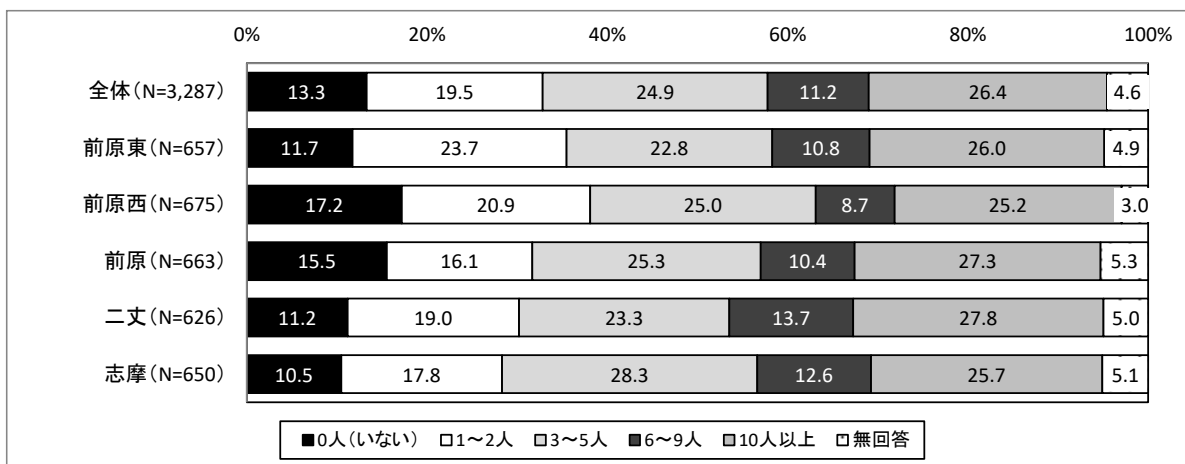
性別で見ると男性は女性よりも「0人(いない)」や「1~2人」の割合が高くなっている。

年代別では、男性では高齢になるほど、接触する友人・知人の人数は減少している。



【圏域別】

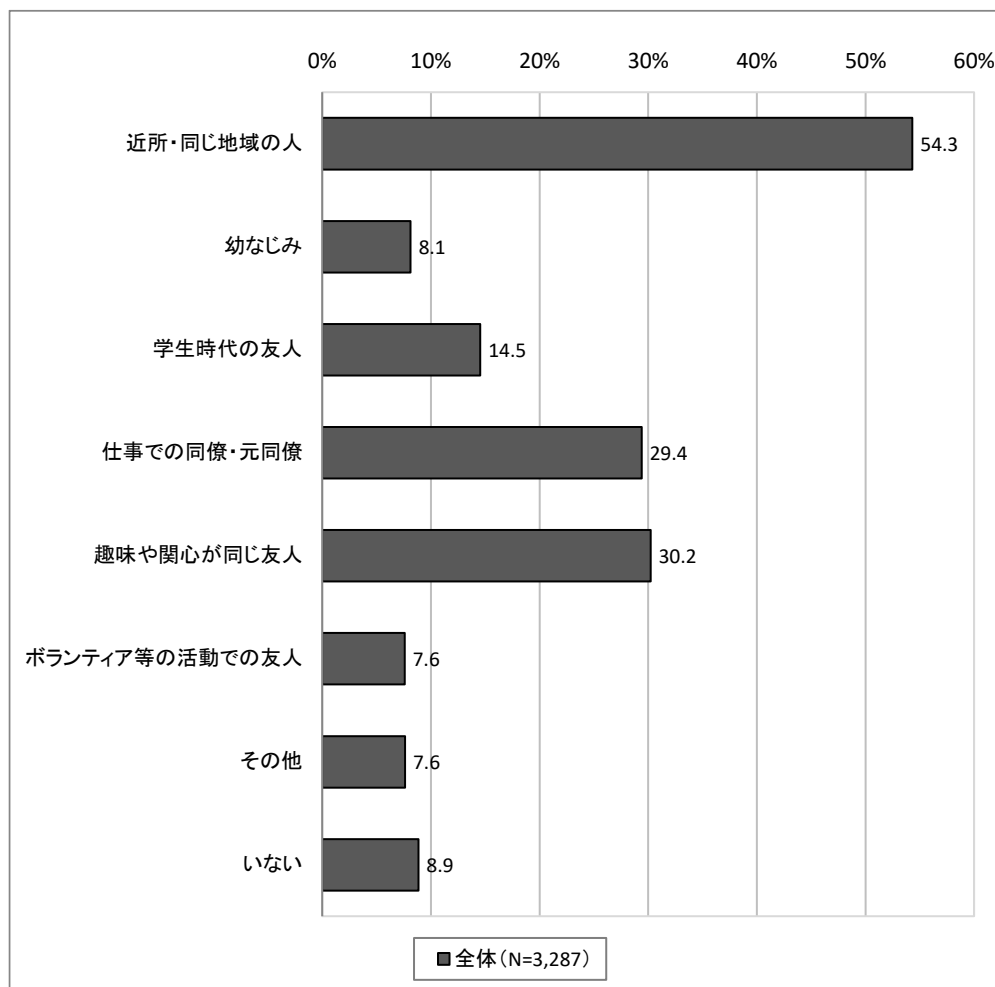
圏域別でみると、志摩圏域を除く、ほとんどの圏域において「10人以上」の割合が最も高くなっている。「0人(いない)」についてみると、志摩圏域は10%台と低くなっており、前原西圏域は17.2%と他圏域より高くなっている。



(5) よく会う友人・知人との関係（複数回答）

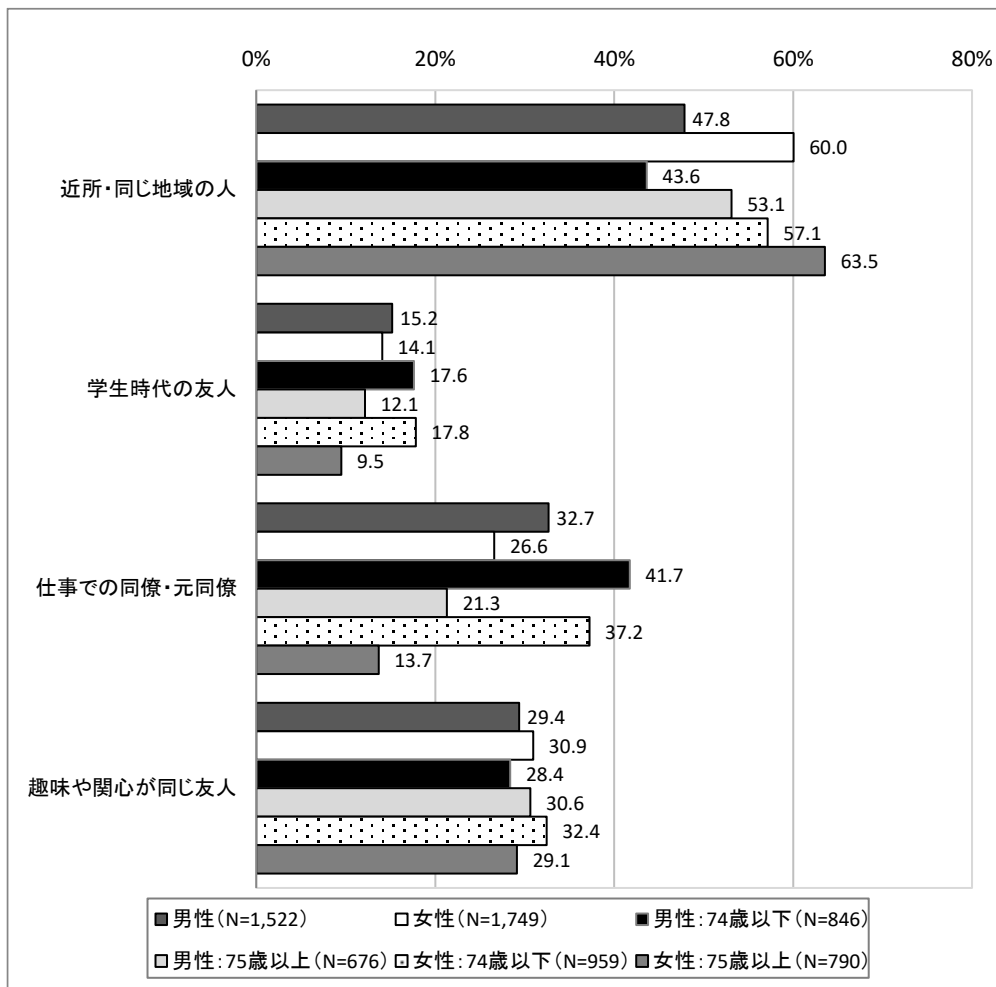
よく会う友人・知人との関係について尋ねた。

最も高いのは「近所・同じ地域の人」であり 54.3%である。次いで「趣味や関心が同じ友人」が 30.2%、「仕事での同僚・元同僚」 29.4%、「学生時代の友人」 14.5%である。



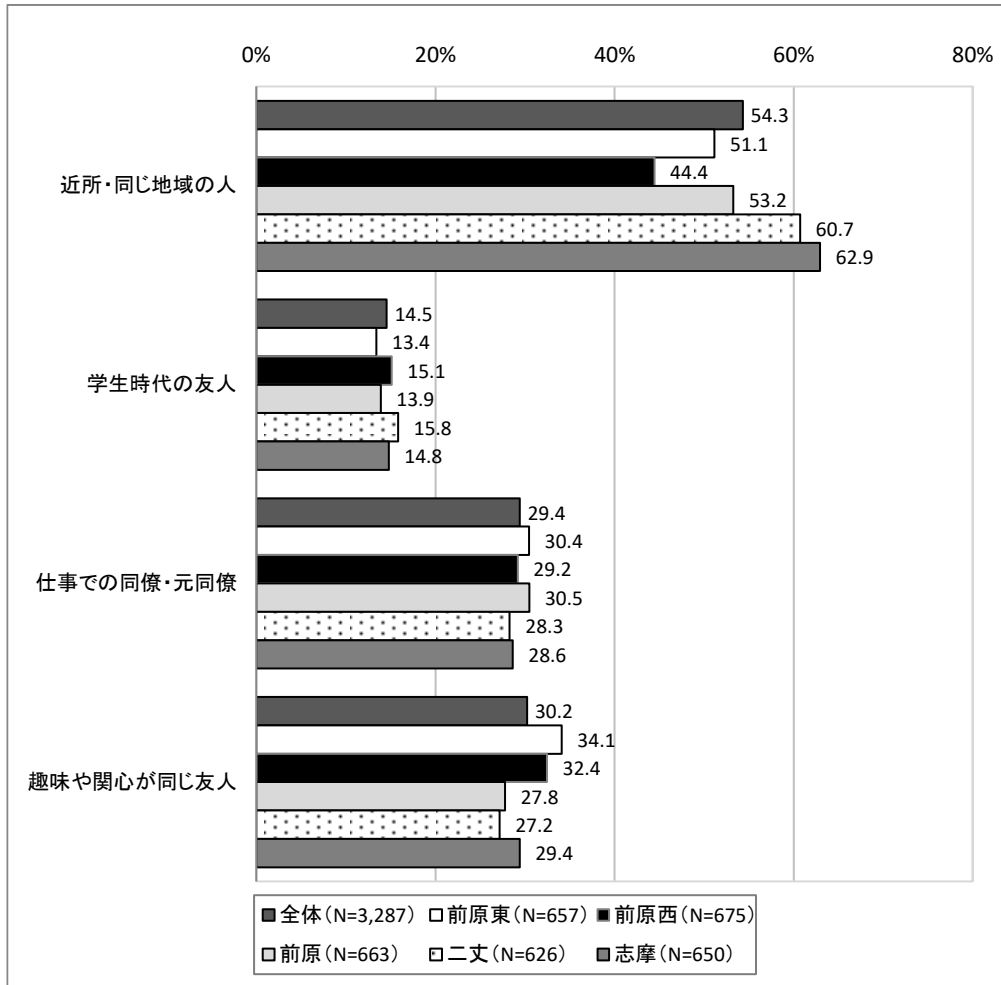
【性別・年代別（上位4項目）】

性別で見ると男性は女性よりも「仕事の同僚・元同僚」と会う機会が多い（男性 32.7%、女性 26.6%）。一方、女性は「近所・同じ地域の人」の割合が男性より高くなっており、女性 60.0%、男性 47.8%である。年代別で見ると「学生時代の友人」や「仕事の同僚・元同僚」は年代が上がるにつれて減少していく。一方、「近所・同じ地域の人」は年代が上がるにつれ増加していく。



【圏域別（上位4項目）】

圏域別でみると多くの項目において圏域ごとの大きな差はないものの、「近所・同じ地域の人」の項目については圏域によって差がある。前原西圏域は「近所・同じ地域の人」が44.4%であり唯一50%を下回っており、最も低くなっている。一方、二丈圏域60.7%や志摩圏域62.9%は他圏域と比較して高くなっている。

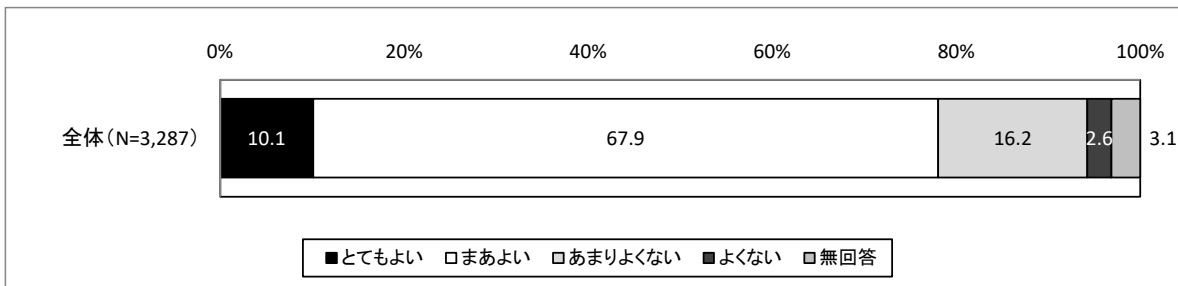


3 健康・疾病

(1) 主観的健康感（あなたの健康状態）

現在の健康状態について尋ねた。

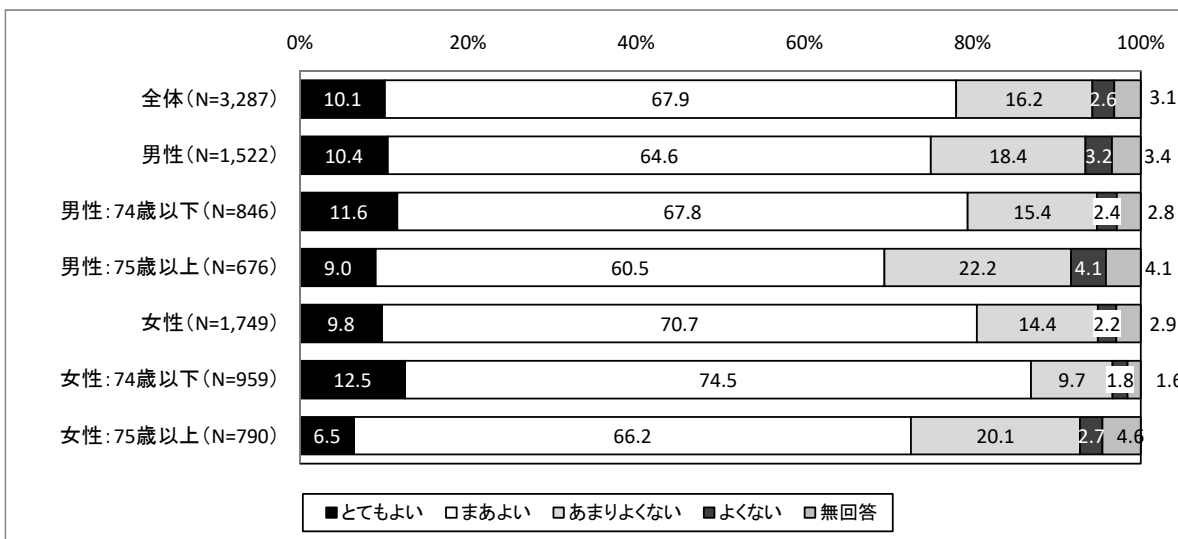
市全体では「まあよい」が最も高く 67.9%である。次いで「あまりよくない」の 16.2%、「とてもよい」の 10.1%が続く。



【性別・年代別】

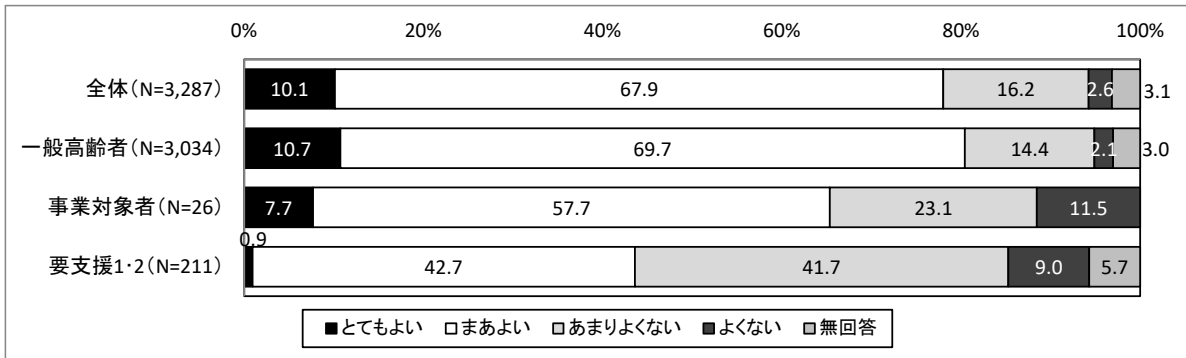
性別で見ると男性は女性よりも「あまりよくない」、「よくない」の割合が高くなっている。

年代別では性別に関係なく年代が上がるほど、「とてもよい」、「まあよい」の割合が減少している。



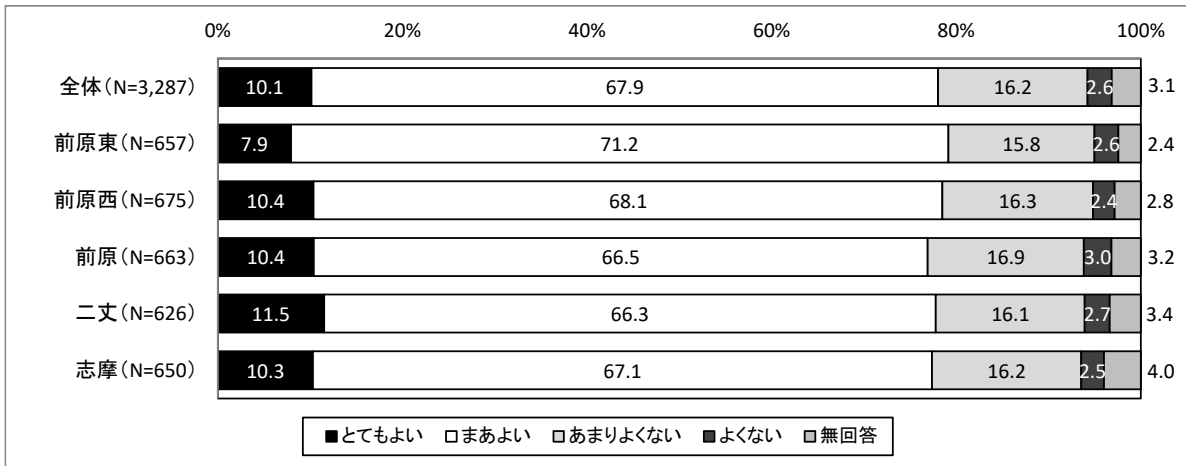
【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護度が高まるほど、「あまりよくない」、「よくない」の割合が増加している。一般高齢者の「あまりよくない」が14.4%、事業対象者の「あまりよくない」が23.1%、要支援1・2の「あまりよくない」が41.7%となっている。



【圏域別】

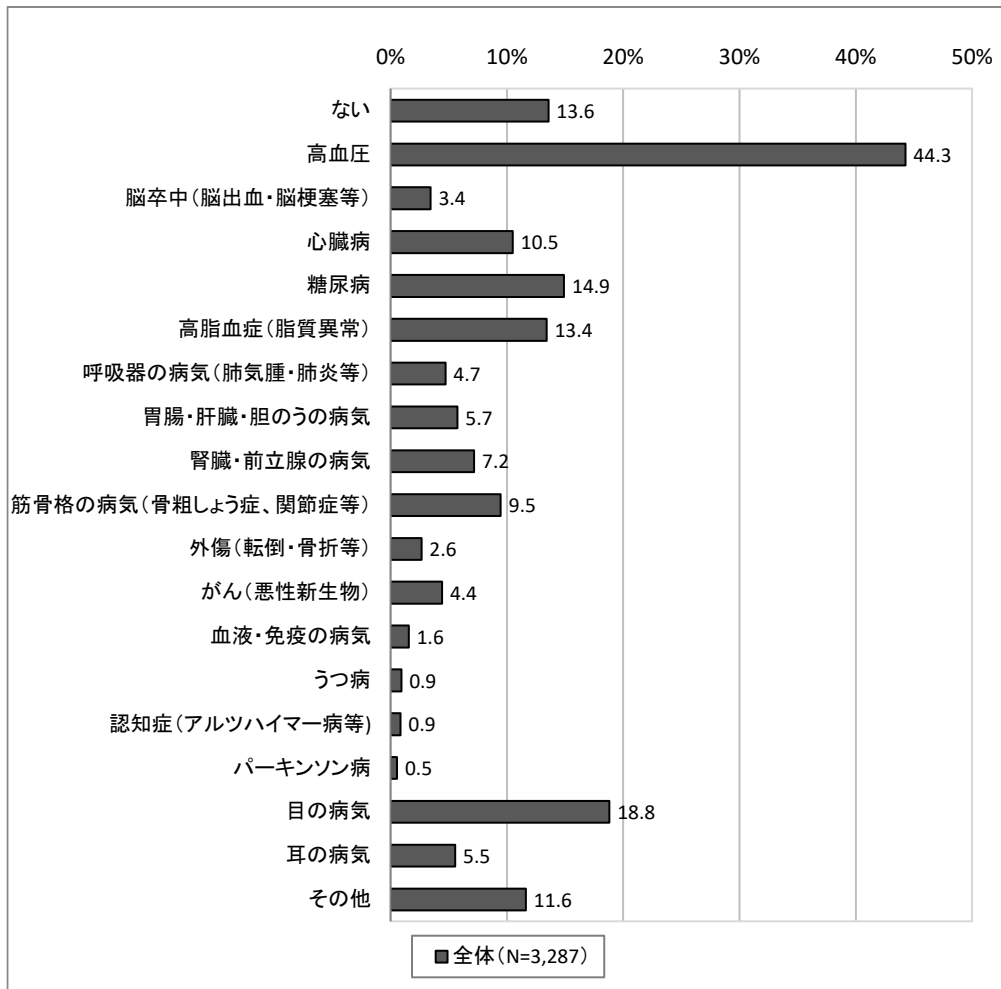
圏域別でみると、「とてもよい」はいずれの圏域も10%ほどで推移しており、やや前原東圏域の7.9%が低くなっている。「まあよい」については前原東圏域71.2%、前原西圏域68.1%がやや高くなっている。



(2) 有病率（現在、治療中または後遺症のある病気）（複数回答）

現在治療中または後遺症のある病気について尋ねた。

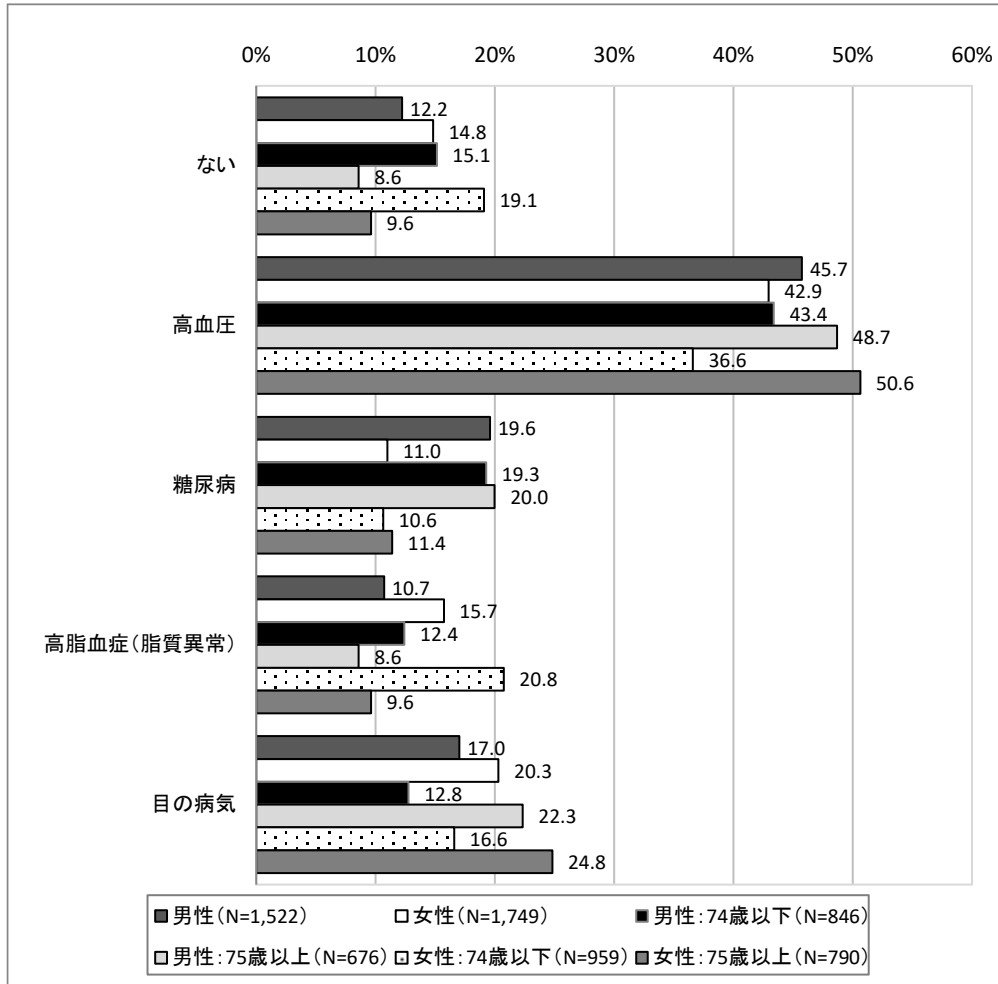
市全体では、「高血圧」が最も高く 44.3%となっている。次いで「目の病気」が 18.8%、「糖尿病」が 14.9%、「ない」が 13.6%と続く。



【性別・年代別（上位5項目）】

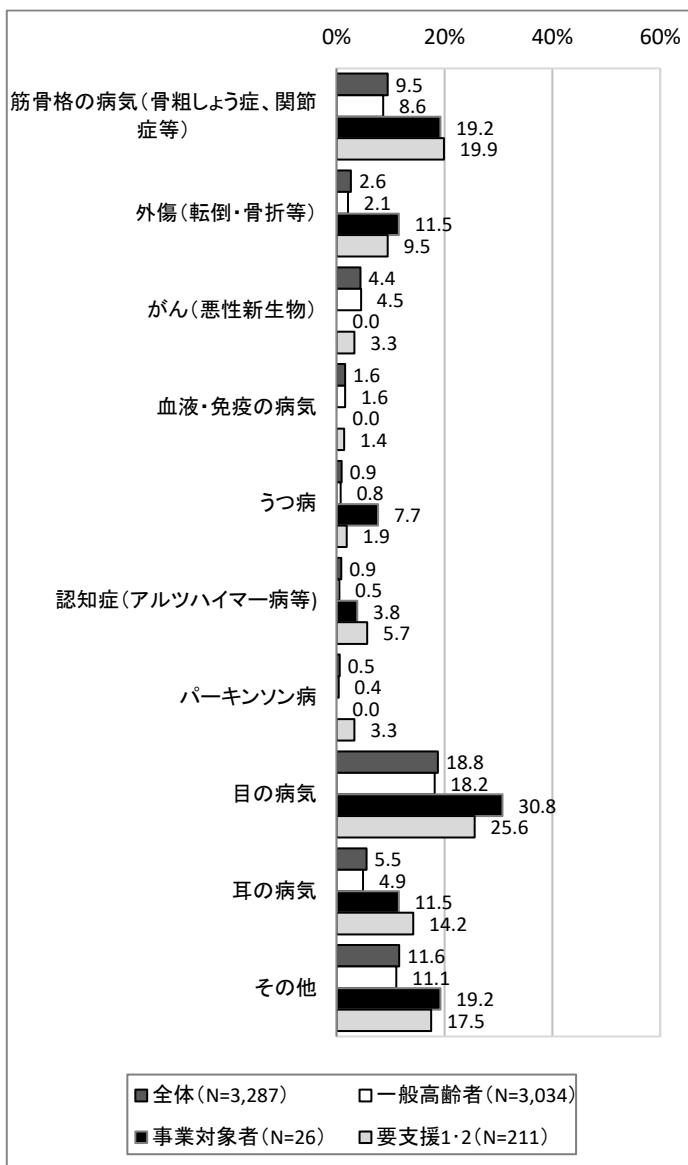
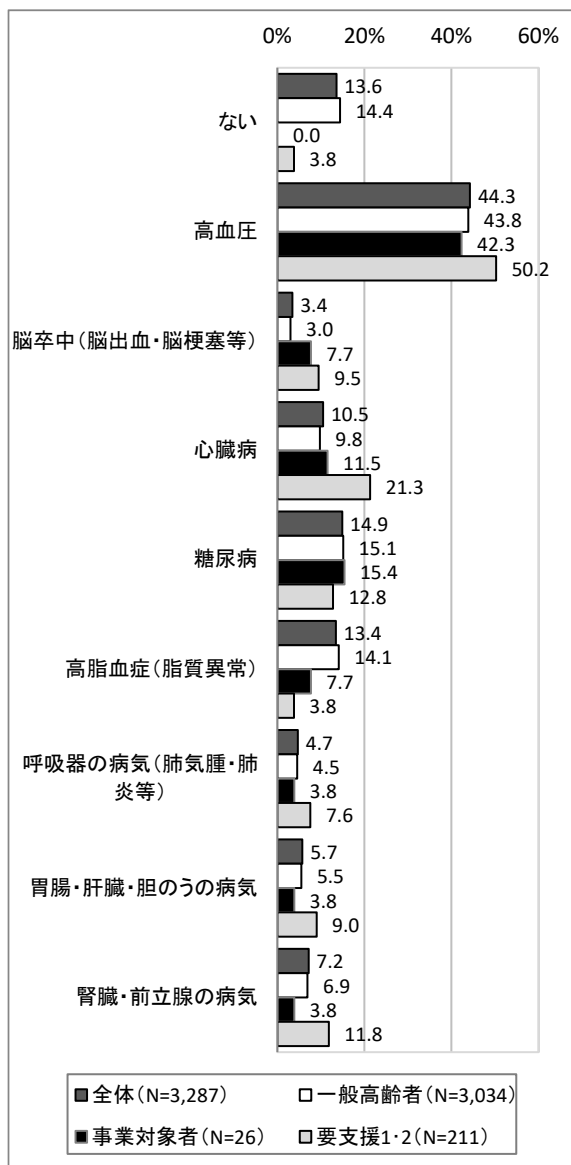
性別では、「糖尿病」、「高血圧」において女性よりも男性の方が高くなっており、男性「糖尿病」が19.6%であるのに対し、女性「糖尿病」が11.0%。男性「高血圧」が45.7%であるのに対し、女性「高血圧」が42.9%となっている。一方、「高脂血症（脂質異常）」、「目の病気」では男性よりも女性の方が高くなっており、女性「高脂血症（脂質異常）」が15.7%であるのに対し、男性「高脂血症（脂質異常）」が10.7%。女性「目の病気」が20.3%であるのに対し、男性「目の病気」は17.0%である。

年代別では、年代が上がると「ない」の割合が減少しており、75歳以上の年代では多くの方が何らかの病気を患っている状態にある。実際、上位5項目に含まれる「高血圧」、「糖尿病」、「目の病気」では性別に関係なく、年代が上がると有病率が増加している。



【要介護度別】

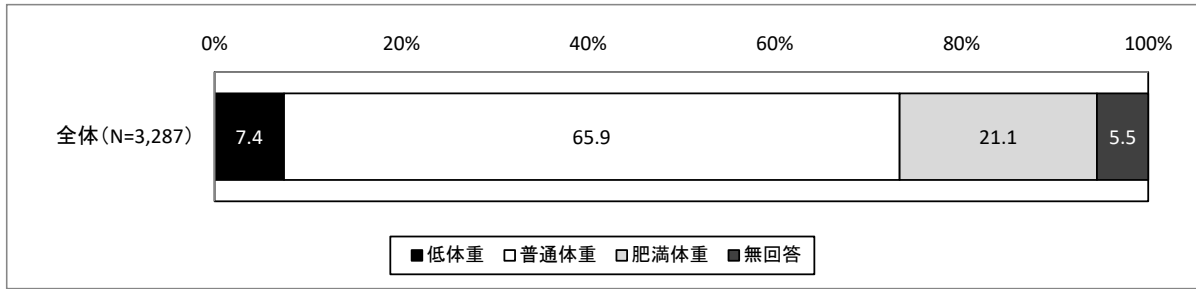
要介護度別に有病率をみると、要支援1・2は「ない」の割合が3.8%、事業対象者は該当なしと一般高齢者と比較して低くなっている。



4 生活習慣

(1) 肥満

肥満や低体重の指標となる BMI（体重÷身長÷身長）判定の結果をみると、「普通体重」が最も高く全体の 65.9%を占めている。次いで「肥満体重」が 21.1%、「低体重」が 7.4%となっている。



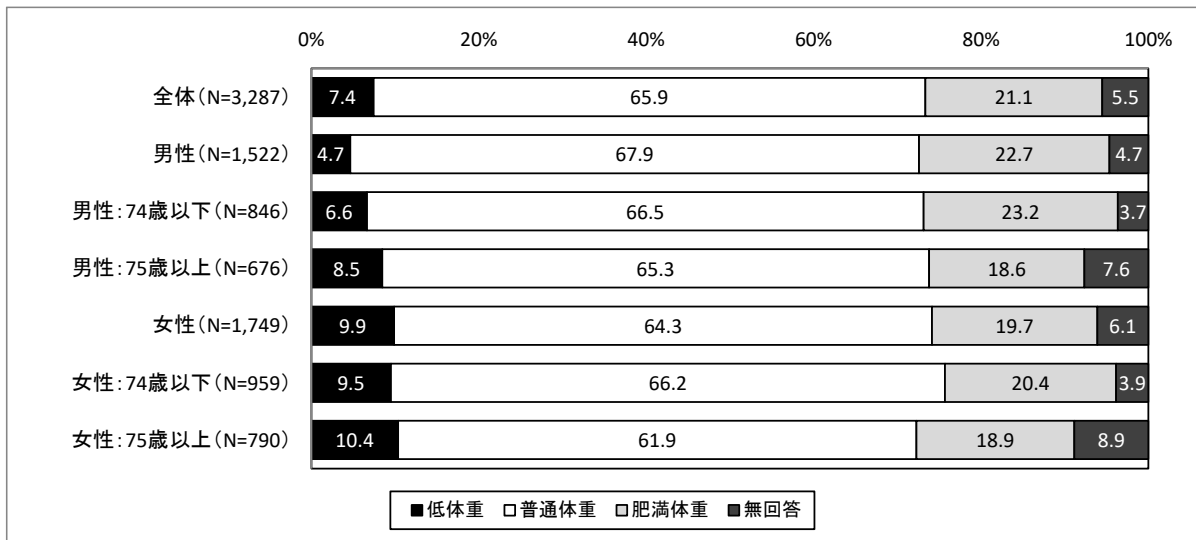
※低体重：BMI 18.5 未満 普通体重：BMI 18.5 以上 25 未満 肥満体重：BMI 25 以上

【性別・年代別】

性別で見ると、「低体重」は男性よりも女性の方が高くなっており、男性 4.7%、女性 9.9%である。

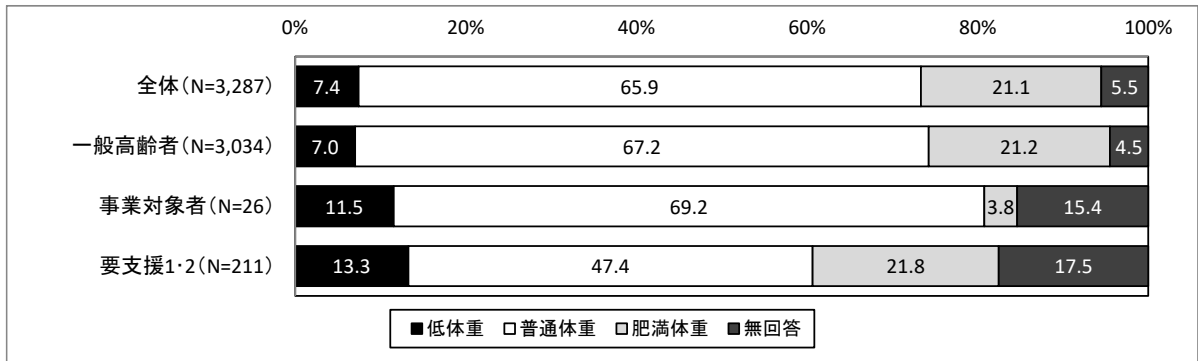
「普通体重」と「肥満体重」については男性の方が高く、男性の「普通体重」が 66.5%、女性の「普通体重」が 64.3%である。また、男性の「肥満体重」が 22.7%であるのに対し、女性の「肥満体重」は 19.7%である。

年代別では、男性は年代が上ると「低体重」が増加し、「肥満体重」は減少しているのに対し、女性は「低体重」は増加し、「普通体重」と「肥満体重」は減少している。



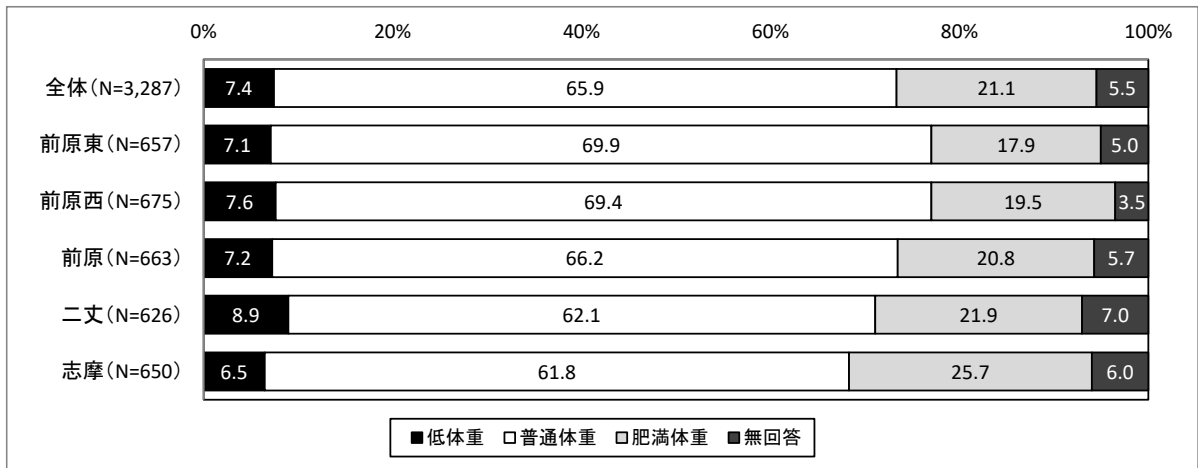
【要介護度別】

要介護度別に肥満度をみると、要支援1・2は「低体重」の割合が高くなっている。一般高齢者の「低体重」が7.0%、事業対象者が11.5%、要支援1・2が13.3%となっている。



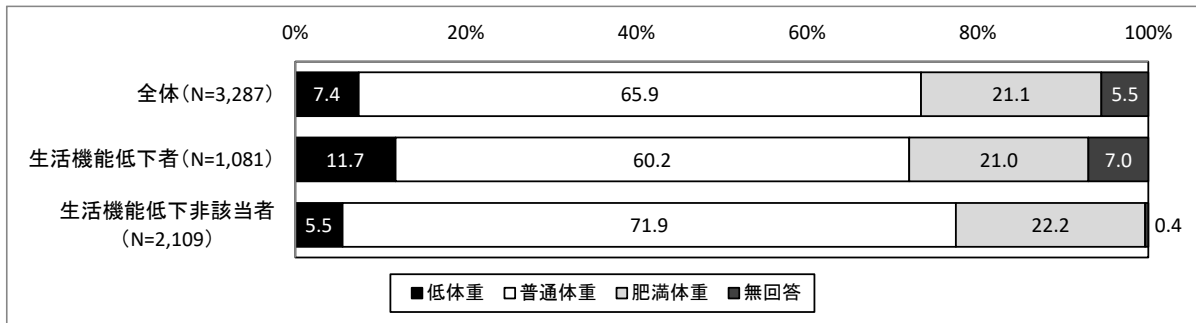
【圏域別】

圏域別でみると、「低体重」二丈圏域 8.9%が最も高くなっている。「普通体重」については前原東圏域 69.9%が最も高く、次いで前原西圏域 69.4%が高くなっている。「肥満体重」については志摩圏域 25.7%が、市全体より4ポイントほど高くなっている。



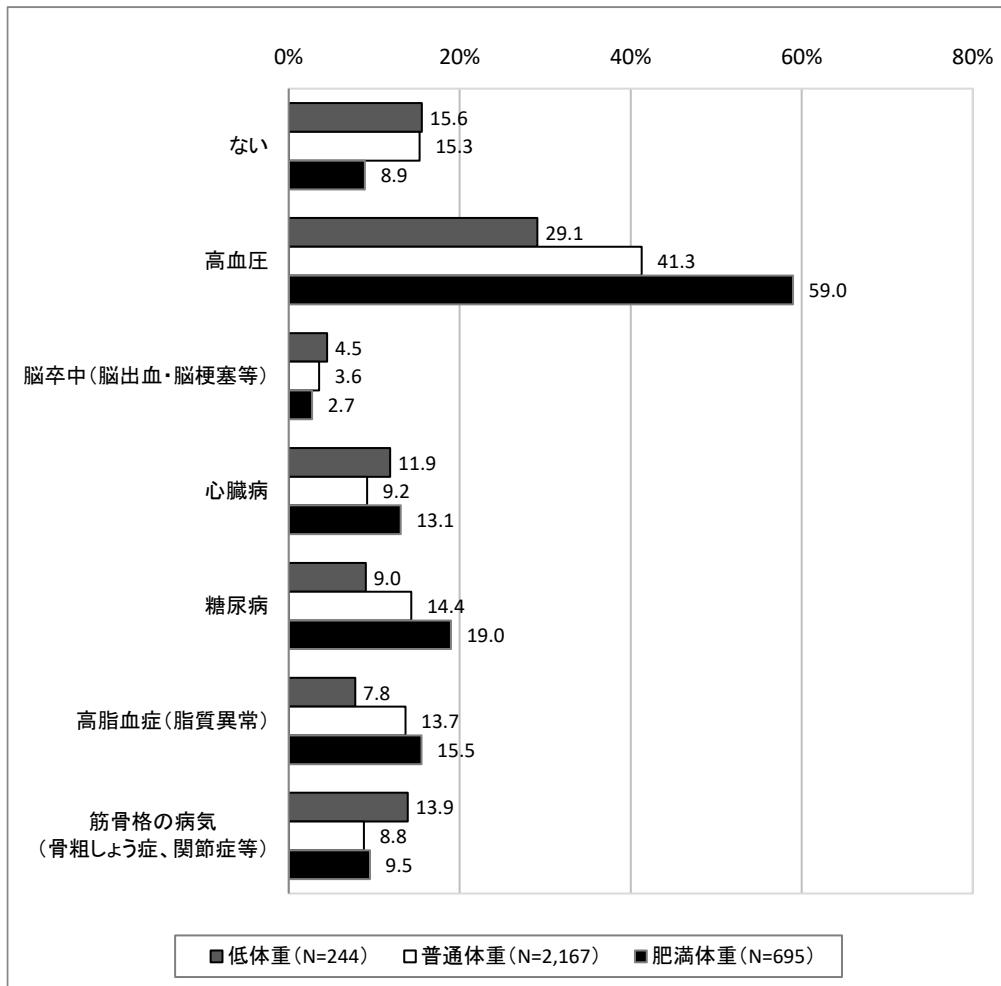
1) 肥満度と生活機能

肥満度と生活機能との関連についてみると、生活機能低下者は生活機能低下非該当者と比較して「低体重」の割合が高くなっており、「普通体重」と「肥満体重」の割合が低くなっている。「普通体重」については一般高齢者が71.9%であるのに対し、生活機能低下者は60.9%であり、11.0ポイントもの差が出ている。



2) 肥満度と疾病 (ない、高血圧、脳卒中、心臓病、糖尿病、高脂血症、筋骨格の病気)

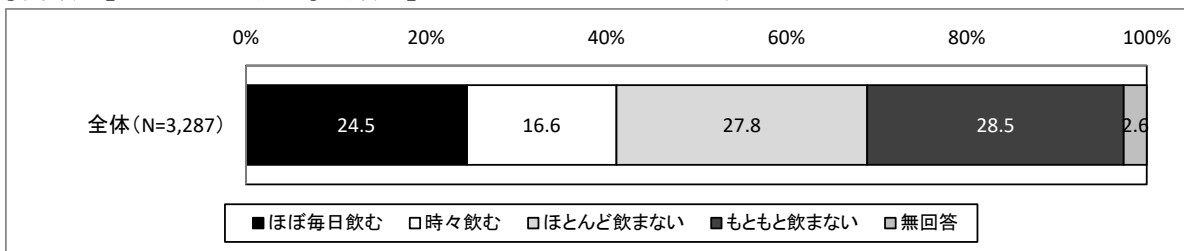
肥満度と疾病有病率との関連をみると、「肥満体重」での「高血圧」の割合が高く59.0%となっている。そのほかにも「心臓病」13.1%、「糖尿病」19.0%、「高脂血症」15.5%などの項目で「肥満体重」が高くなっている。一方、「筋骨格の病気」では「低体重」の割合が高くなっており13.9%となっている。



(2) 飲酒の頻度

飲酒の頻度について尋ねた。

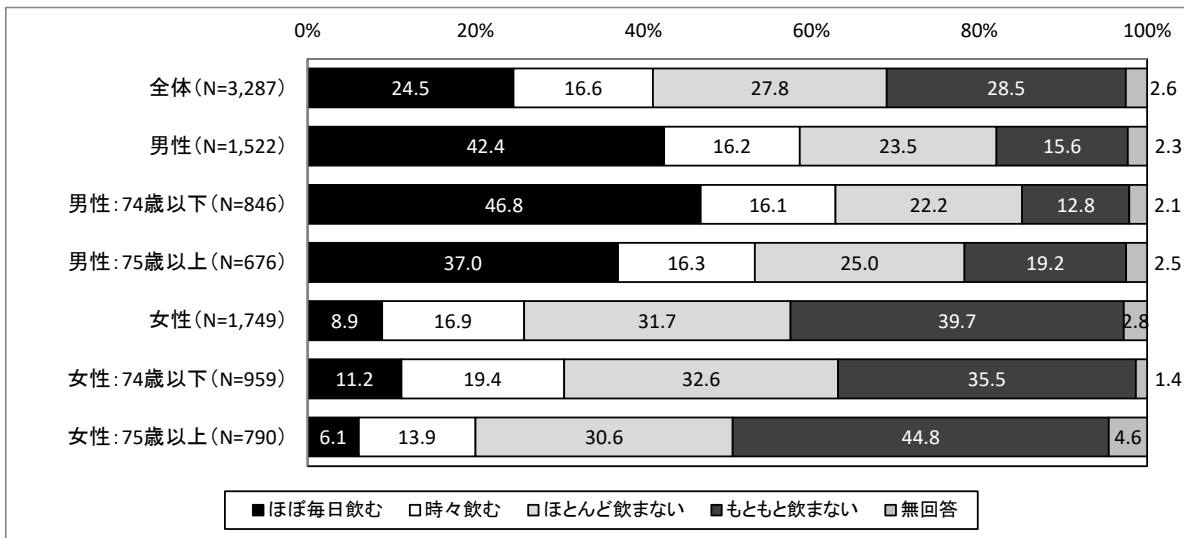
市全体でみると、「もともと飲まない」が最も高く28.5%である。次いで「ほとんど飲まない」が27.8%、「ほぼ毎日飲む」が24.5%、「時々飲む」が16.6%となっている。



【性別・年代別】

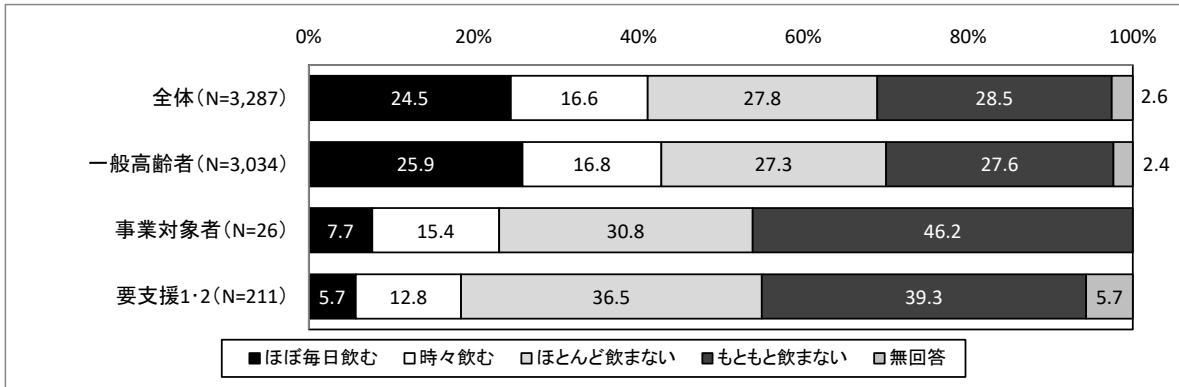
性別でみると男女で飲酒の習慣に大きな差がある。男性では「ほぼ毎日飲む」が42.4%と最も高くなっている。一方で女性「ほぼ毎日飲む」は8.9%しかなく、女性で最も高いのは「もともと飲まない」で39.7%である。

年代別でみると、性別に関係なく年代が上がるほど、飲酒の頻度は減少していく。



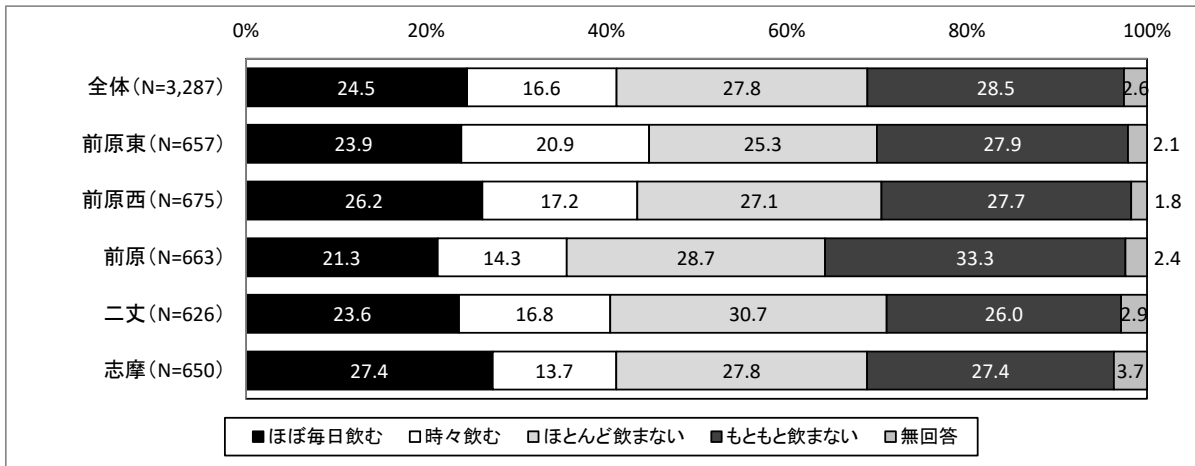
【要介護度別】

要介護度別に飲酒状況をみると、要支援1・2は「ほとんど飲まない」が36.5%、事業対象者は「もともと飲まない」が46.2%と高くなっており、飲酒の習慣が一般高齢者と比較し少なくなっている。



【圏域別】

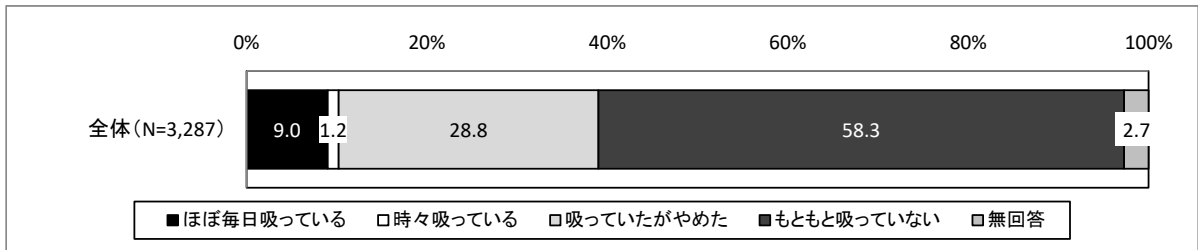
圏域別にみると、「ほぼ毎日飲む」において、志摩圏域は27.4%、前原西圏域は26.2%と割合が高く、他圏域よりも飲酒頻度が高い。一方、前原圏域は「ほぼ毎日飲む」が21.3%と他圏域よりも低く、「もともと飲まない」33.3%の割合が高い。



(3) 喫煙の頻度

喫煙の頻度について尋ねた。

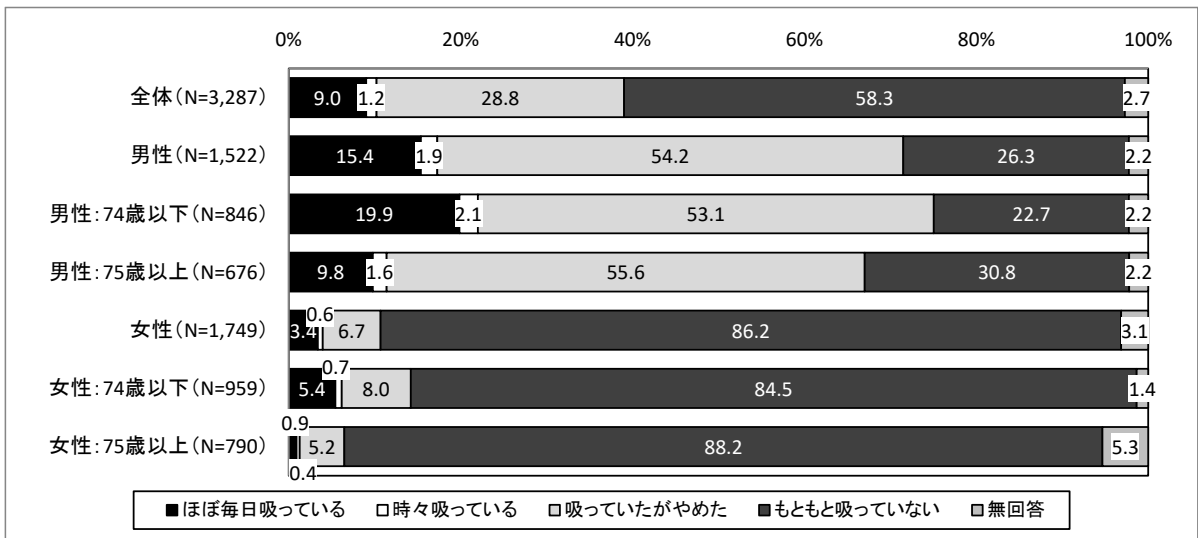
市全体では、「もともと吸っていない」が最も高く 58.3%である。次いで「吸っていたがやめた」が 28.8%である。



【性別・年代別】

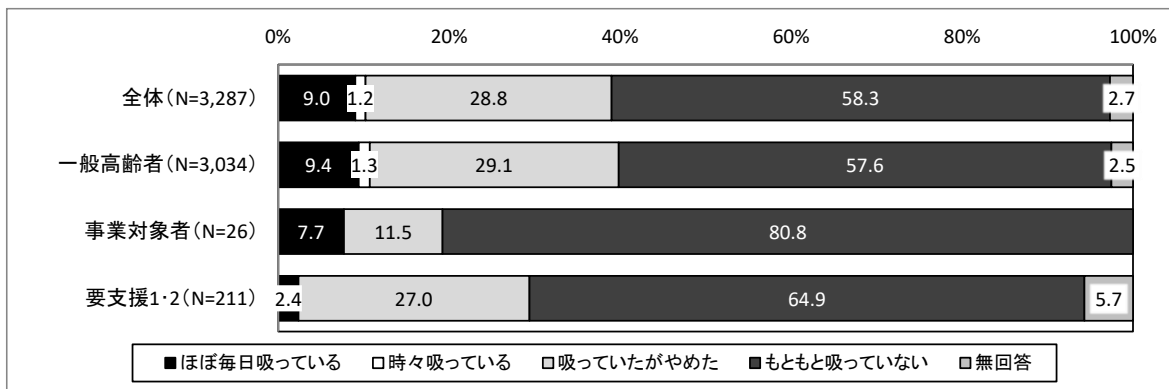
性別では、男性は「吸っていたがやめた」が 54.2%で最も高いのに対し、女性は「もともと吸っていない」が 86.2%で最も高くなっている。「ほぼ毎日吸っている」については男性 15.4%、女性 3.4%であり、男性の方が喫煙習慣を持っている。

年代別では、性別にかかわらず年代が上がると喫煙の頻度が減少する。



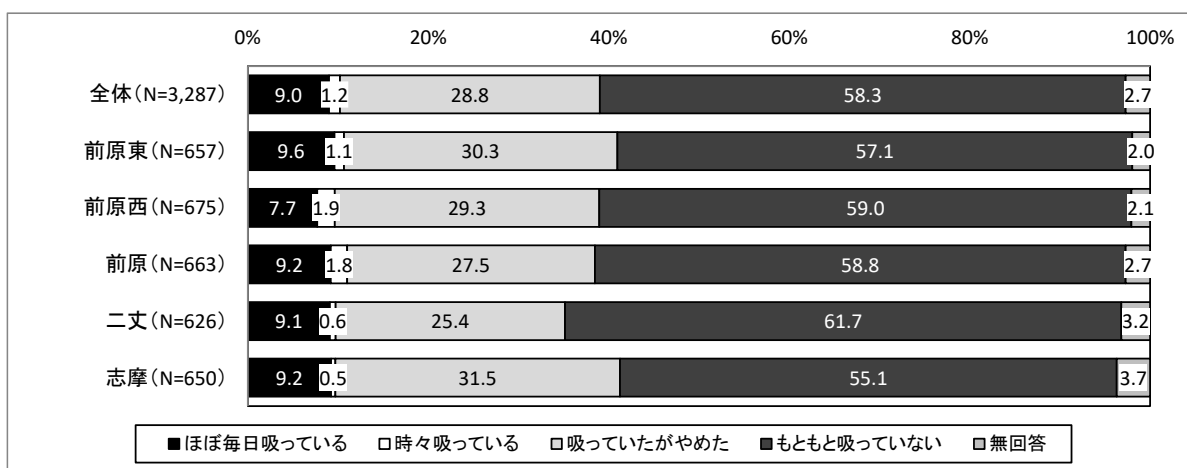
【要介護度別】

要介護度別に喫煙習慣状況をみると、「もともと吸っていない」は事業対象者と要支援1・2で高くなっており、事業対象者で80.8%、要支援1・2で64.9%となっている。「吸っていたがやめた」は事業対象者で低くなっており11.5%である。ただし、要支援1・2では「ほぼ毎日吸っている」の割合が一般高齢者、事業対象者と比較して低くなっており2.4%である。



【圏域別】

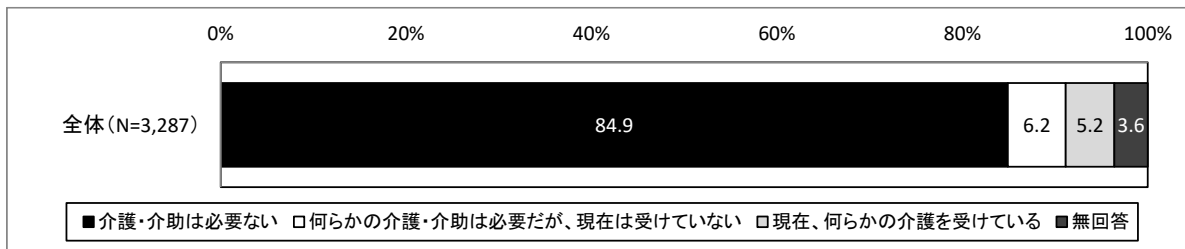
圏域別では、『吸っている（「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」）』と『吸っていない（「吸っていたがやめた」「もともと吸っていない」）』の割合には大きな差はない。いずれの圏域も『吸っている』が10%前後で推移している。内訳については若干の差があり、前原西圏域では「ほぼ毎日吸っている」は7.7%と他圏域と比較し若干低くなっている。



5 介護・介護予防

(1) 普段の生活における介護・介助の必要性

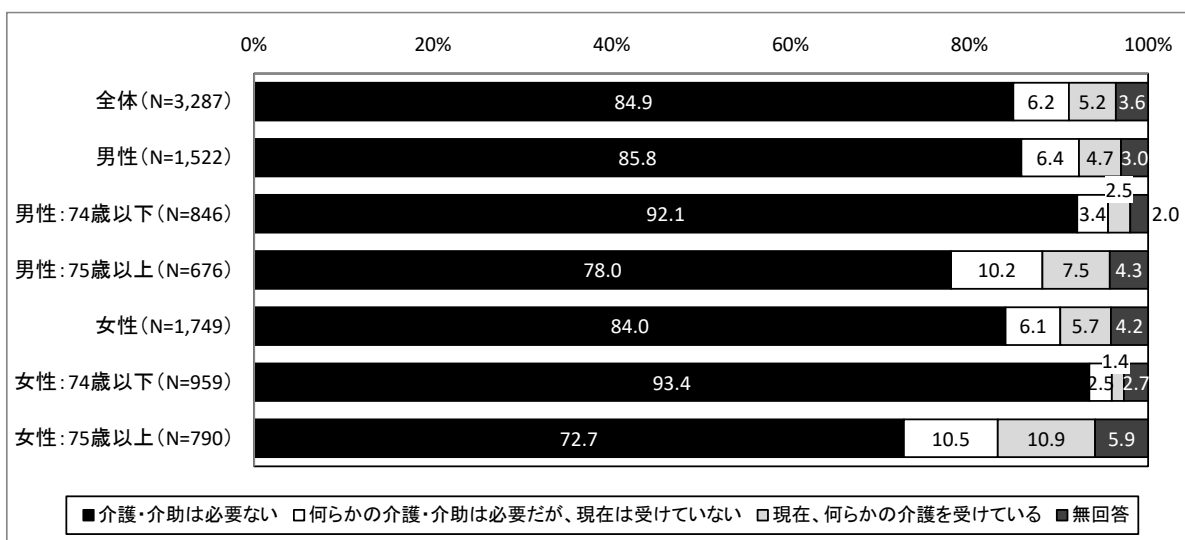
市全体でみると、「介護・介助は必要ない」が最も高く 84.9%である。次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 6.2%、「現在、何らかの介護を受けている」が 5.2%である。



【性別・年代別】

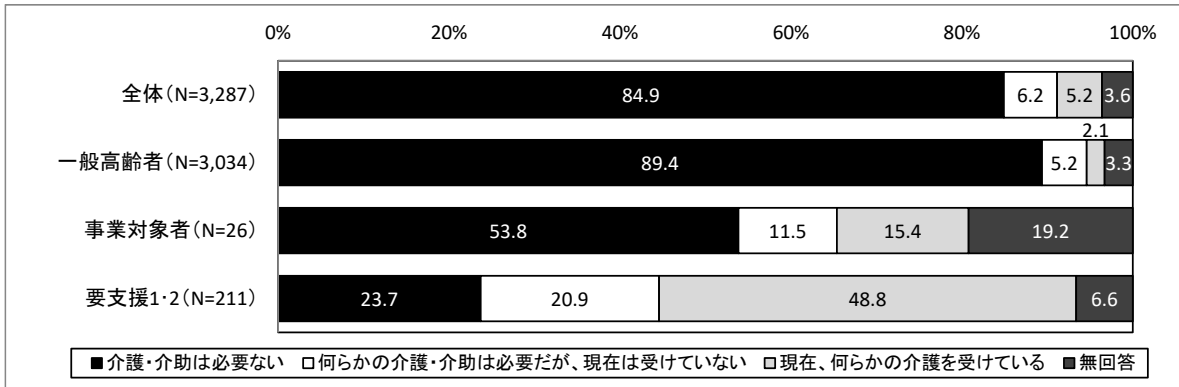
性別では「介護・介助は必要ない」は男性 85.8%、女性 84.0%で、男性の方が若干高くなっている。

年代別では、性別にかかわらず年代が上がるほど、何らかの介護・介助が必要となり、「介護・介助は必要ない」の割合が減少している。



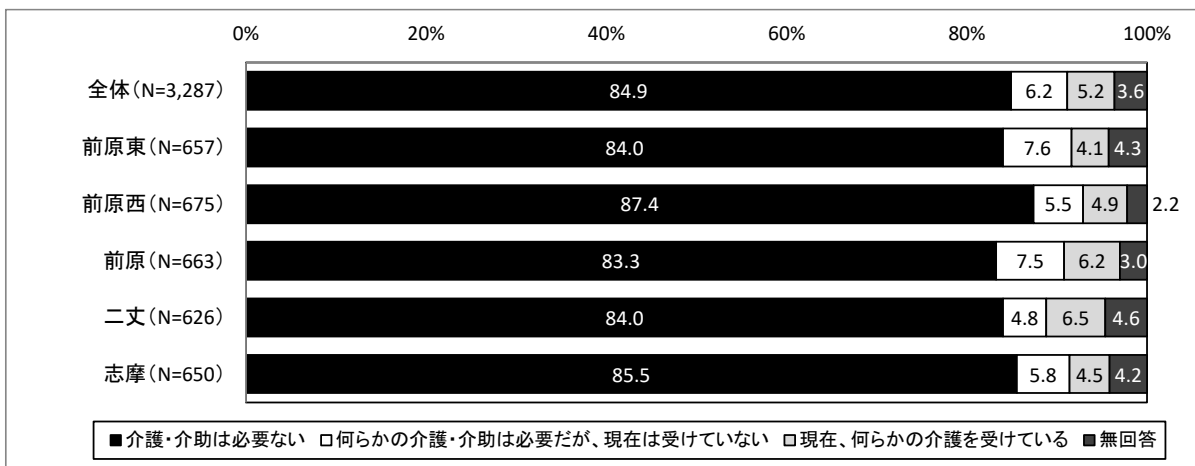
【要介護度別】

要介護度別に介護・介助の必要性をみると、要支援1・2は「介護・介助は必要ない」が23.7%と低くなっており、一般高齢者89.4%より65ポイントほど低くなっている。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は一般高齢者で5.2%、事業対象者で11.5%であるのに対し、要支援1・2では20.9%であり最も高くなっている。



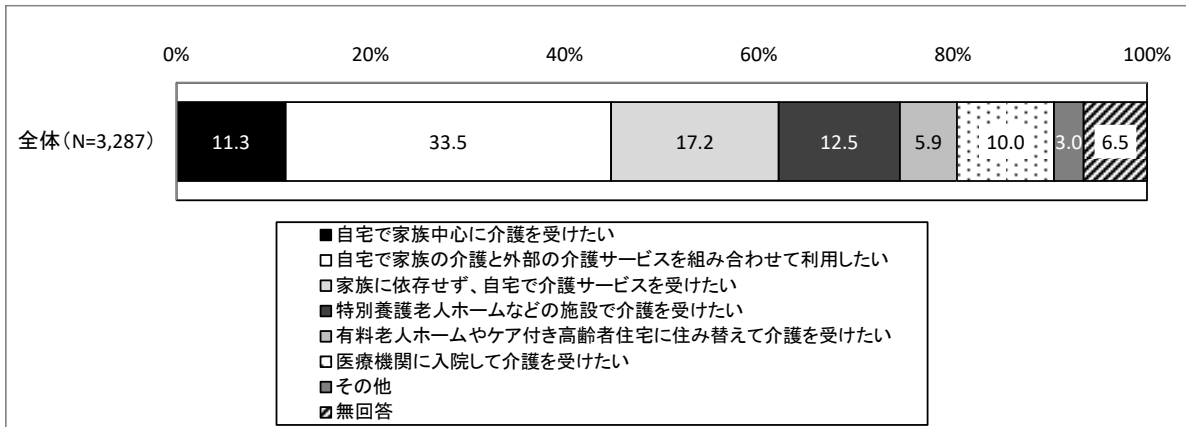
【圏域別】

圏域別では、前原西圏域で「介護・介助は必要ない」が87.4%とやや高くなっている。他圏域については大きな差はない。



(2) 介護が必要になった際の意向

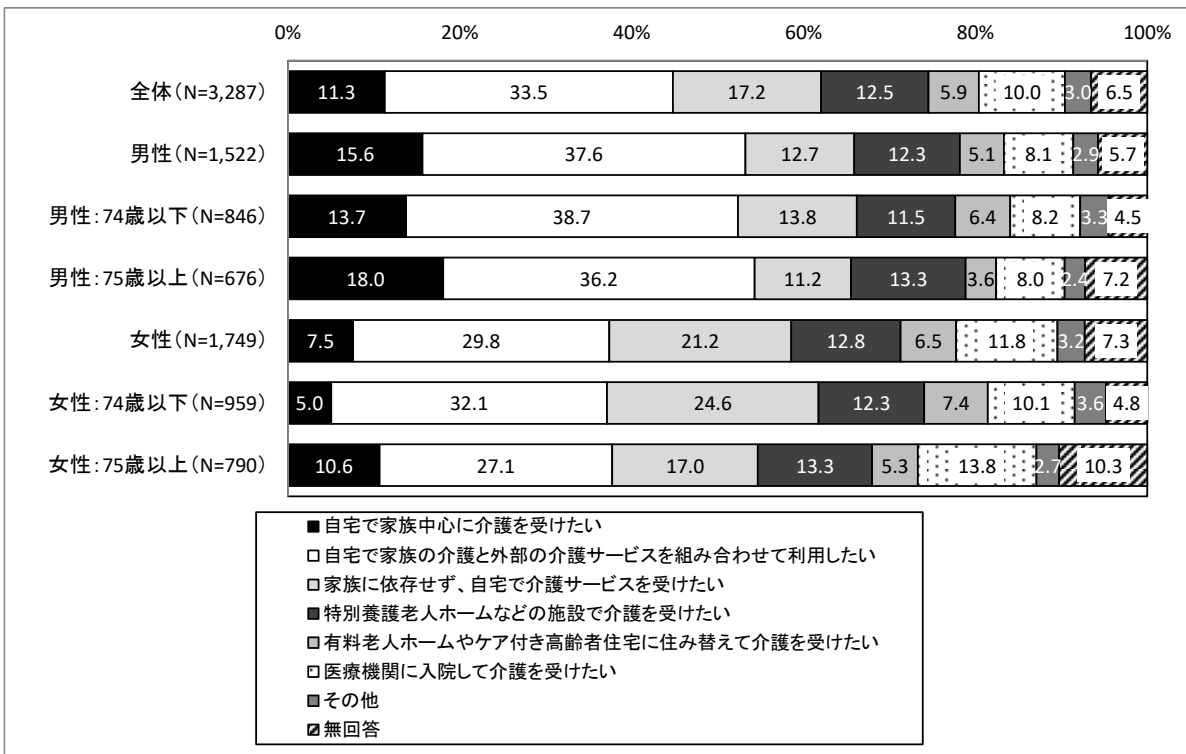
市全体では「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 33.5%で最も高くなっている。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 17.2%、「特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい」が 12.5%である。



【性別・年代別】

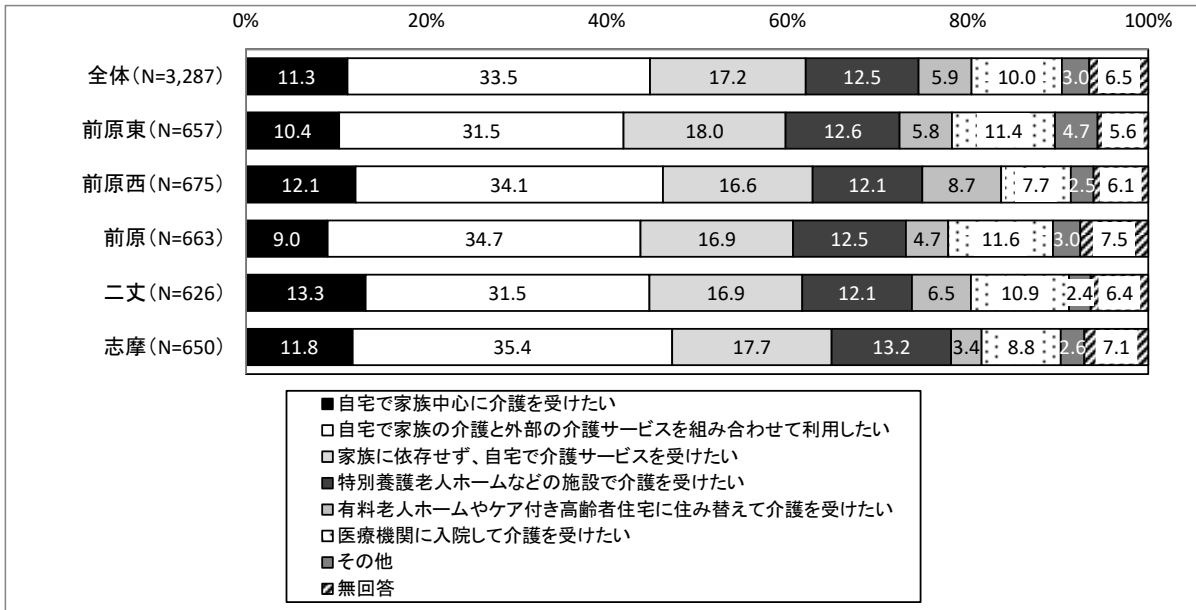
性別では、女性は男性よりも「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」の割合が高くなっており、女性 21.2%、男性 12.7%となっている。一方、男性は「自宅で家族中心に介護を受けたい」、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が女性よりも高くなっており、男性は家族からの介護を女性よりも望んでいるようである。

年代別では、年代が上がるほど、「自宅で家族中心に介護を受けたい」の割合が増加し、「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」の割合が減少する。



【圏域別】

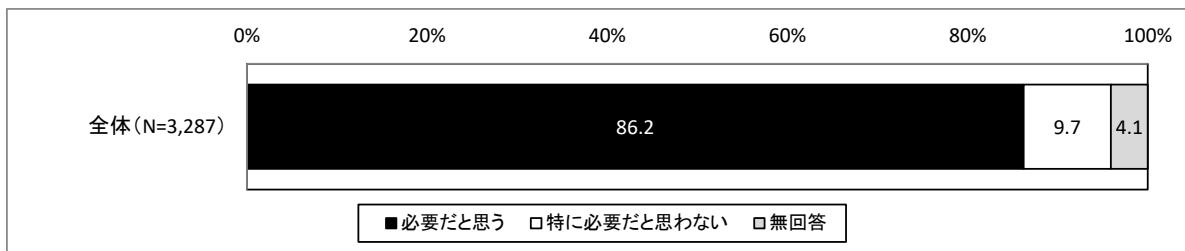
圏域別にみると、「自宅で家族中心に介護を受けたい」との割合は、二丈圏域 13.3%において高くなっている。「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」の割合は前原西圏域で高くなっており、8.7%である。



(3) 介護予防の必要性

介護予防（介護を必要とする状態を防ぐこと）は必要だと思うかどうか尋ねた。

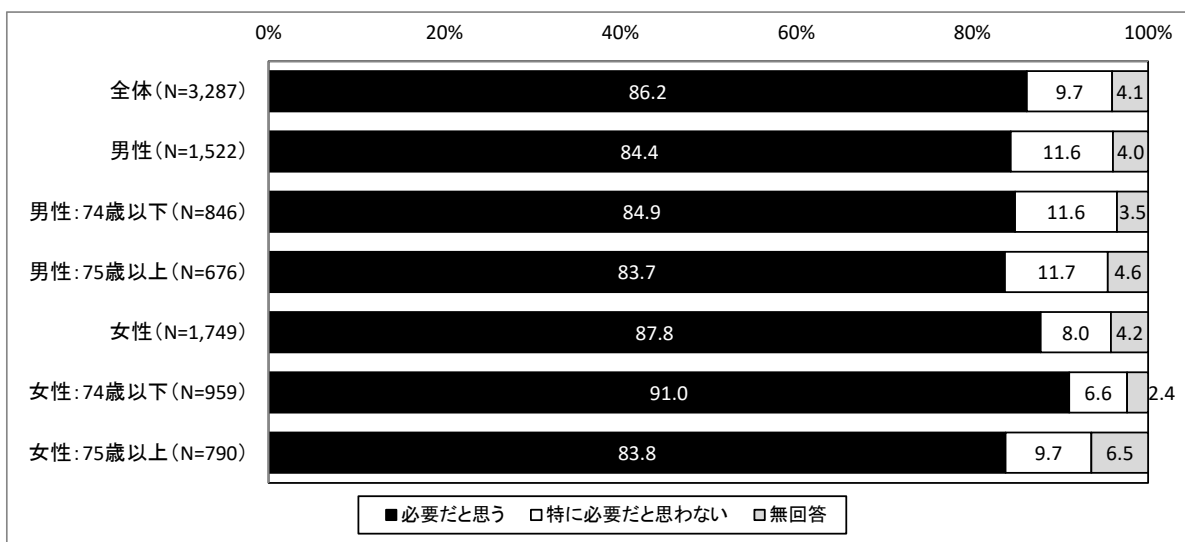
市全体では、「必要だと思う」が86.2%で最も高くなっている。「特に必要だと思わない」は9.7%となっている。



【性別・年代別】

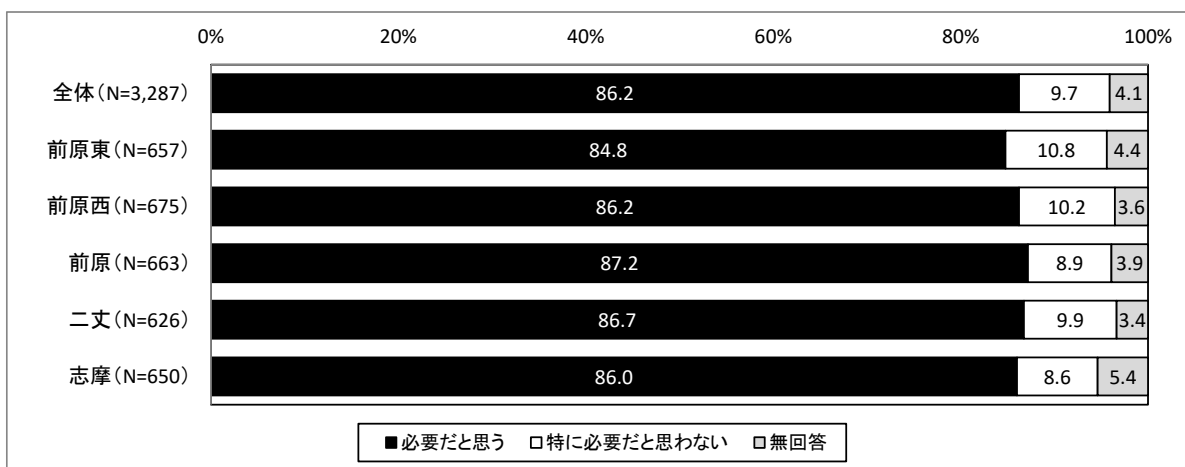
性別でみると、「必要だと思う」は男性84.4%、女性87.8%で、女性の方がやや高くなっている。

年代別では、女性74歳以下で、「必要だと思う」の割合が多い。



【圏域別】

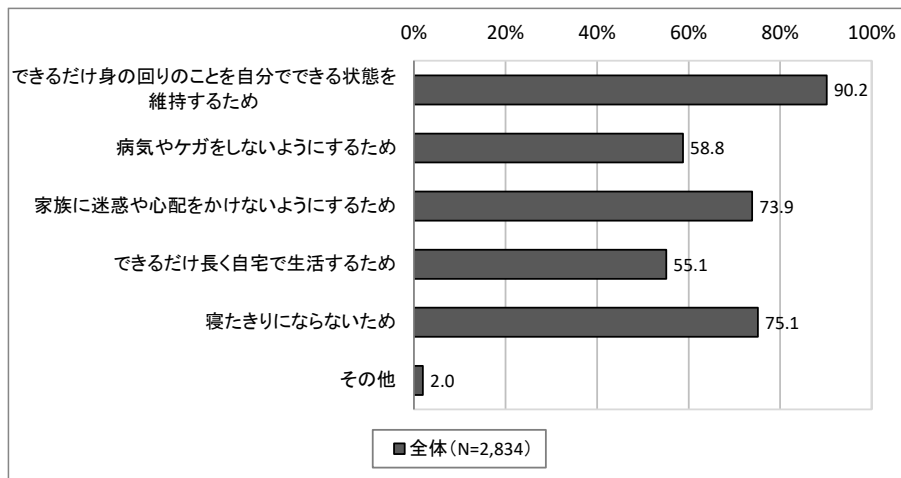
圏域別では、いずれの圏域においても「必要だと思う」が9割弱の水準であり、介護予防の必要性は広く認識されている。



(4) 介護予防が必要な理由（複数回答）

前問において「必要だと思う」と回答した人に、介護予防が必要だと思う理由を尋ねた。

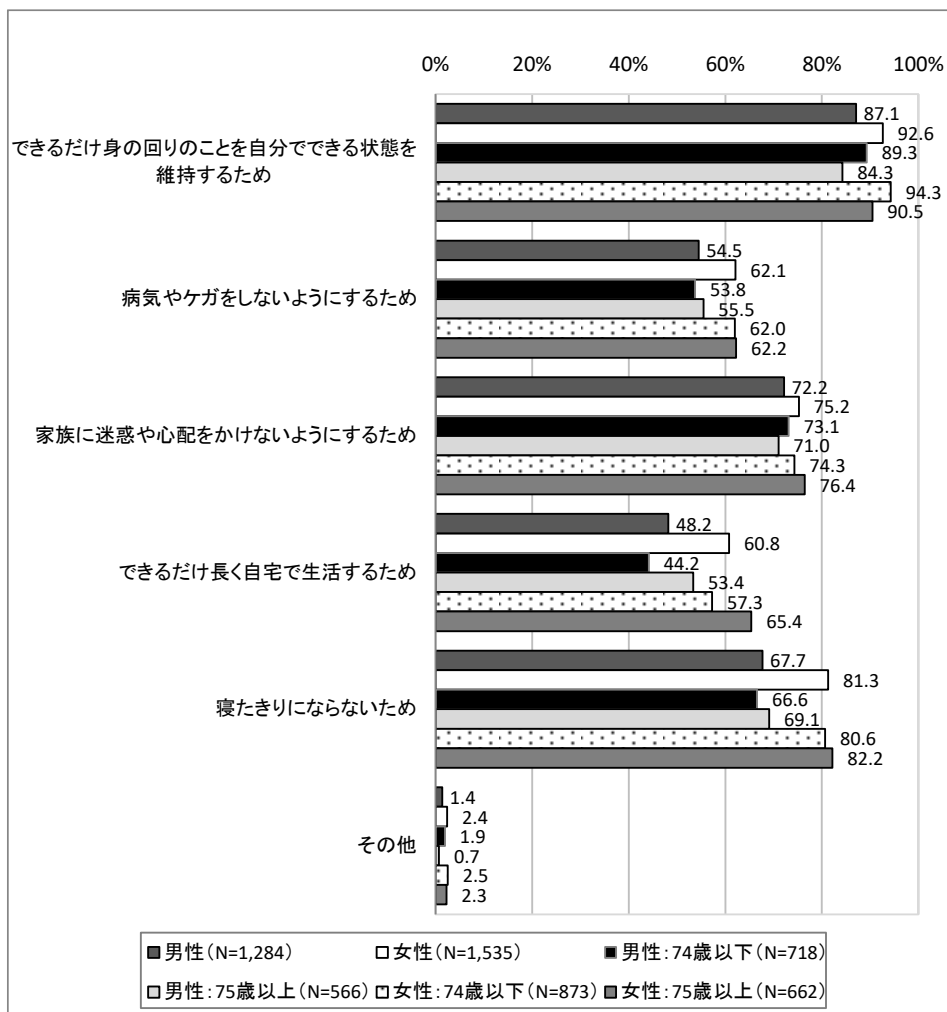
市全体では、「できるだけ身の回りのことを自分でできる状態を維持するため」が90.2%で最も高くなっている。次いで「寝たきりにならないため」が75.1%、「家族に迷惑や心配をかけないようにするため」が73.9%である。



【性別・年代別】

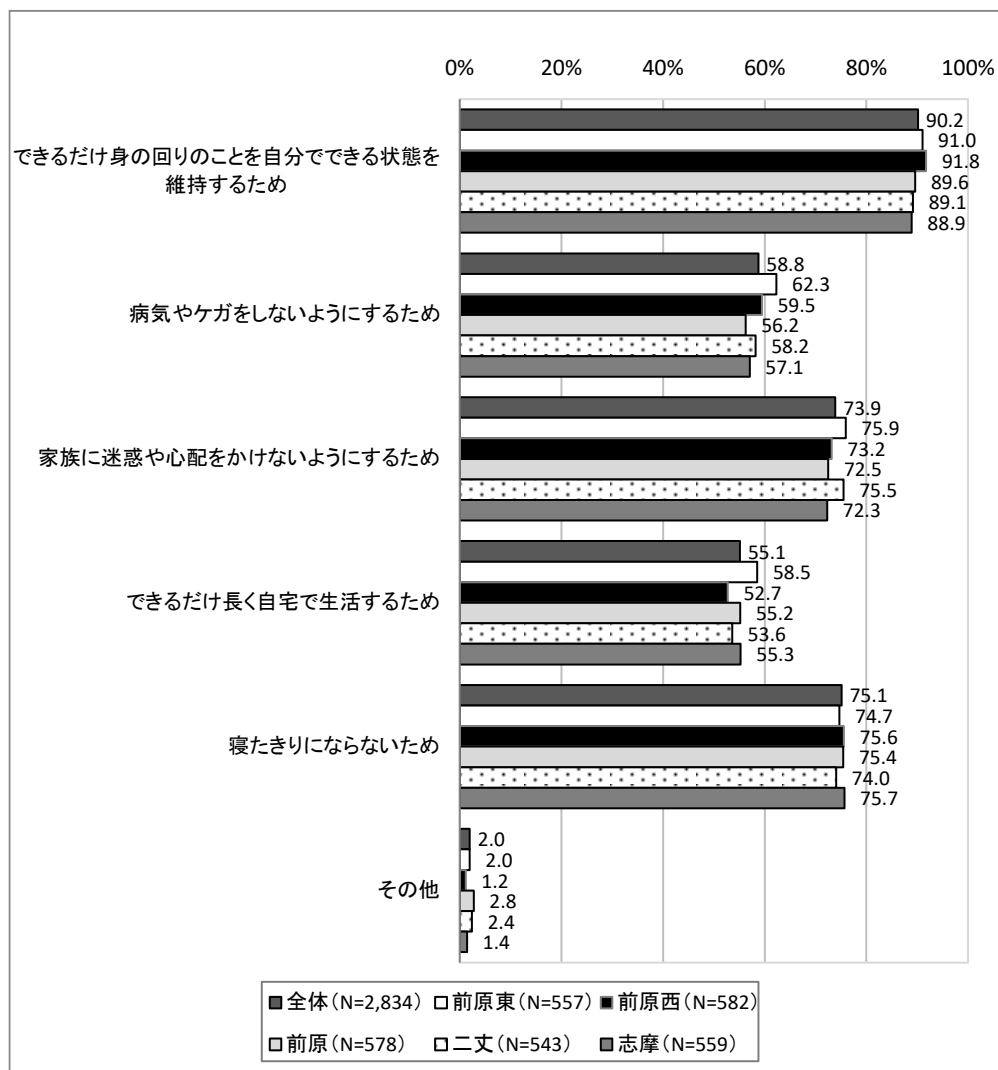
性別では、「できるだけ身の回りのことを自分でできる状態を維持するため」が男性で87.1%、女性で92.6%となっており、女性の方が5ポイントほど高い。

年代では、男女ともに年代が上がると「できるだけ身の回りのことを自分でできる状態を維持するため」の割合が減少している。



【圏域別】

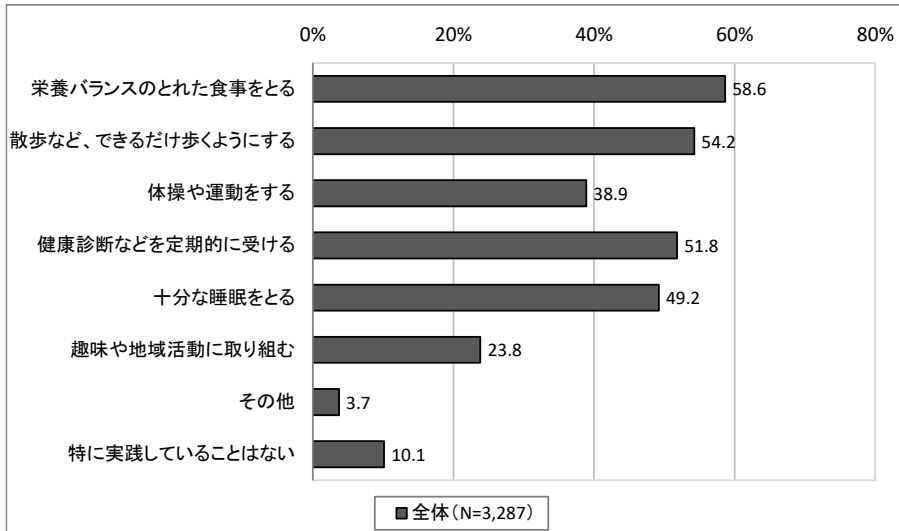
圏域別では、大きな差はない。



(5) 介護予防のために実践していること（複数回答）

介護予防のためにやっていることを尋ねた。

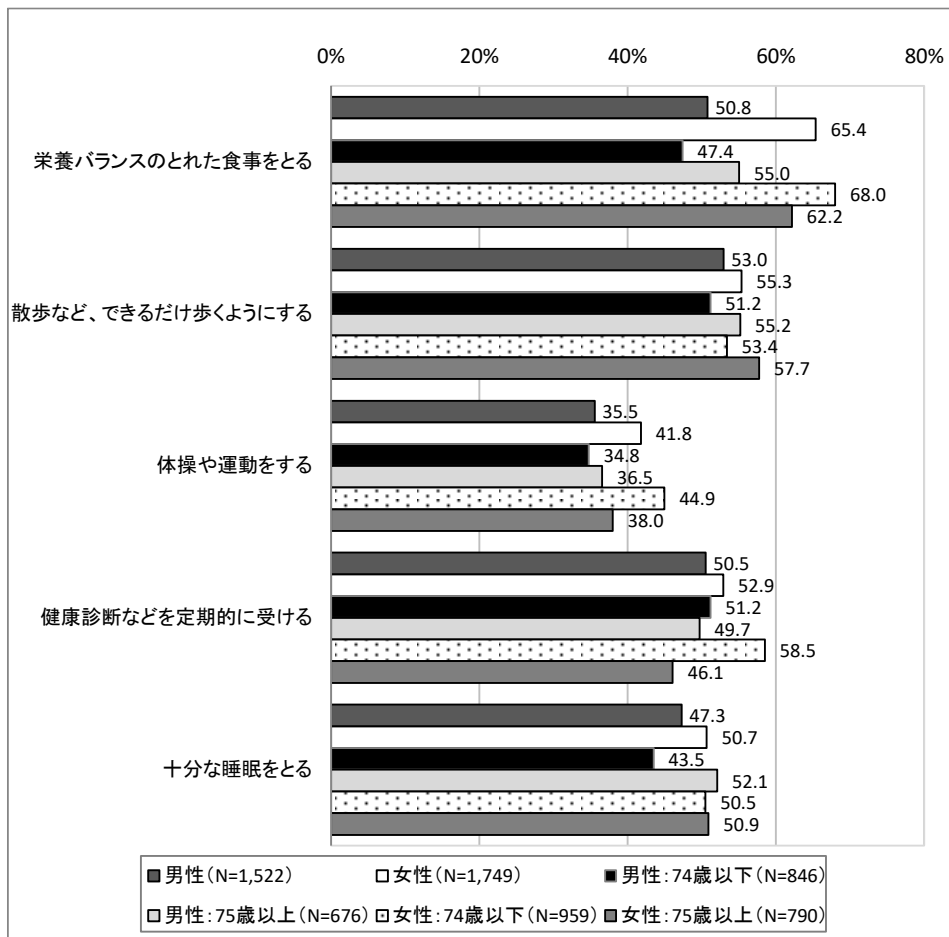
市全体では、「栄養バランスのとれた食事をする」が 58.6%で最も高く、「散歩など、できるだけ歩くようにする」が 54.2%、「健康診断などを定期的に受ける」が 51.8%、「十分な睡眠をとる」が 49.2%と続く。



【性別・年代別（上位5項目）】

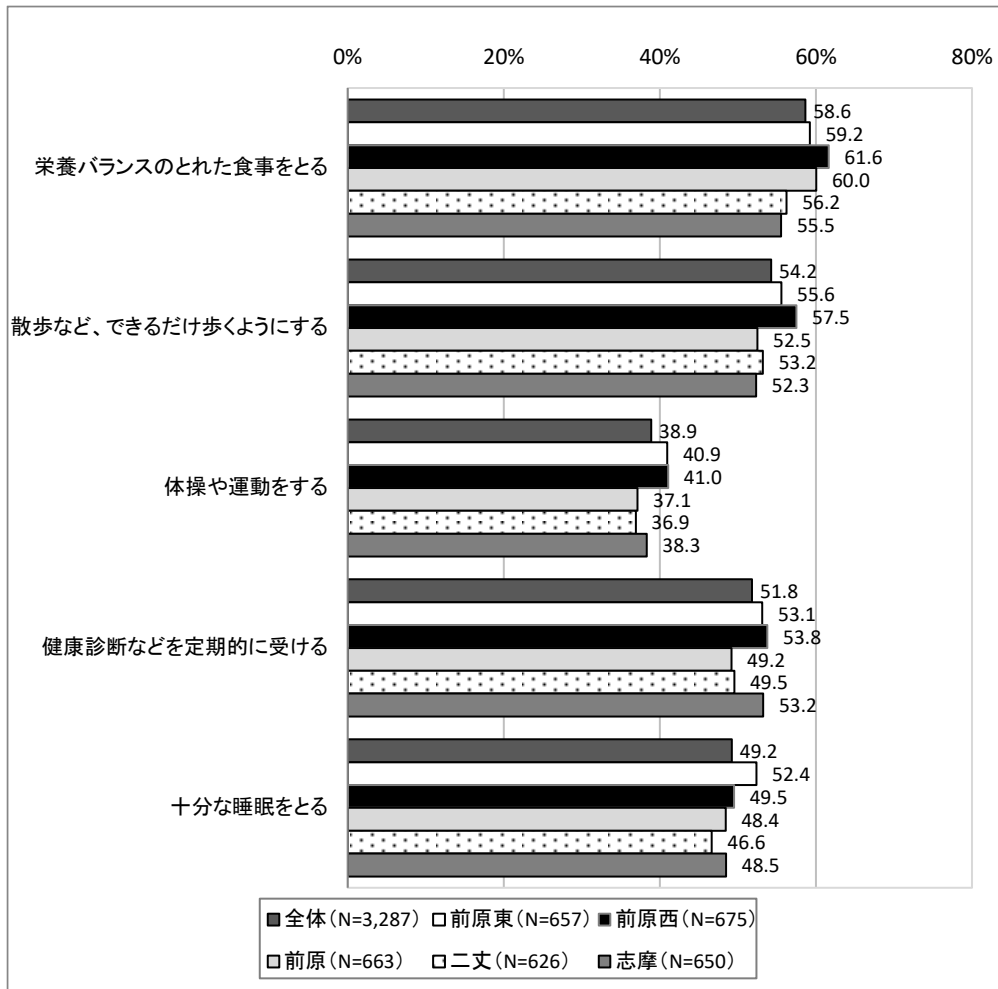
性別では、上位5項目すべてで女性の方が高くなっている。

年代別では、「栄養バランスのとれた食事をする」で男性 75 歳以上 55.0%が男性 74 歳以下 47.4%を上回っている。一方、女性は 75 歳以上で若干減少する。また、「健康診断などを定期的に受ける」は年代が上がるとう性別を問わず割合が減少している。反対に「散歩など、できるだけ歩くようにする」は年代が上がるとう増加する。



【圏域別（上位5項目）】

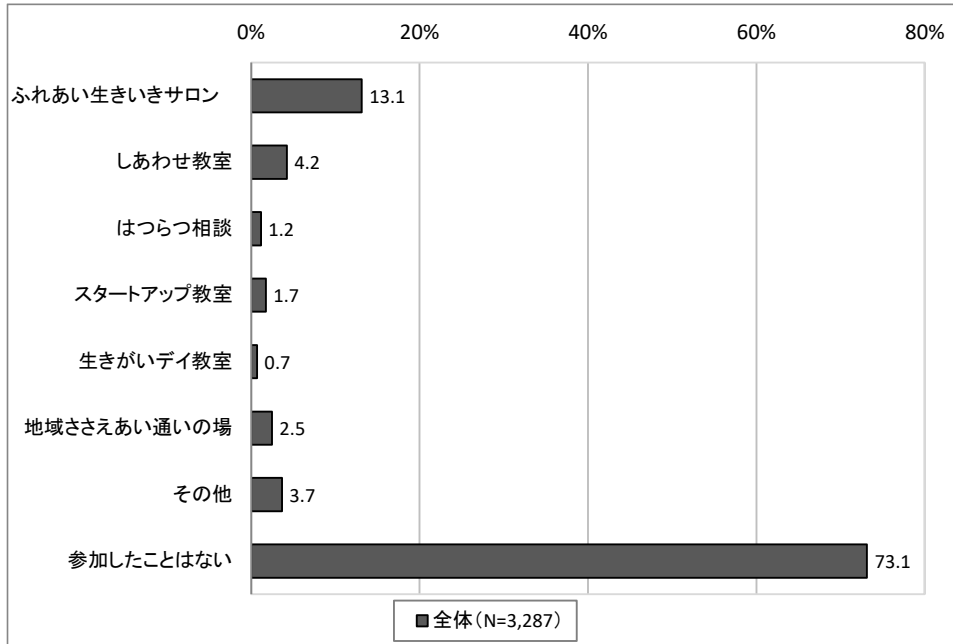
圏域別では、「栄養バランスのとれた食事をする」は前原西圏域で 61.6%、「散歩など、できるだけ歩くようにする」も前原西圏域で57.5%と高くなっている。「体操や運動をする」は前原圏域37.1%と二丈圏域36.9%で他圏域と比較してやや低くなっている。「健康診断などを定期的に受ける」は前原圏域 49.2%と二丈圏域49.5%となり 50%を下回り低くなっている。「十分な睡眠をとる」は二丈圏域で 46.6%と最も低くなっている。



(6) 介護予防を目的とした活動への参加経験（複数回答）

介護予防を目的とした事業への参加経験について尋ねた。

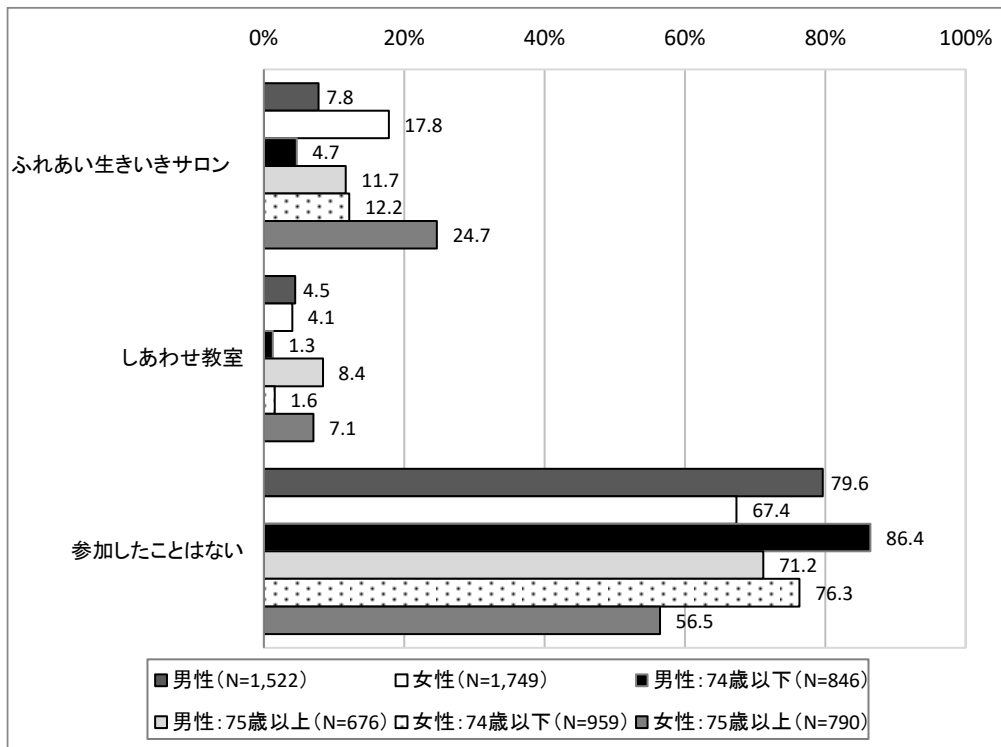
市全体では「参加したことはない」が 73.1%で最も高くなっている。次いで「ふれあい生きいきサロン」の 13.1%、「しあわせ教室」の 4.2%となっている。



【性別・年代別（上位3項目）】

性別では、女性で男性より高いのは「ふれあい生きいきサロン」（女性 17.8%、男性 7.8%）である。「参加したことはない」については男性 79.6%、女性 67.4%であり男性の方が介護予防を目的とした事業への参加経験が少ない。

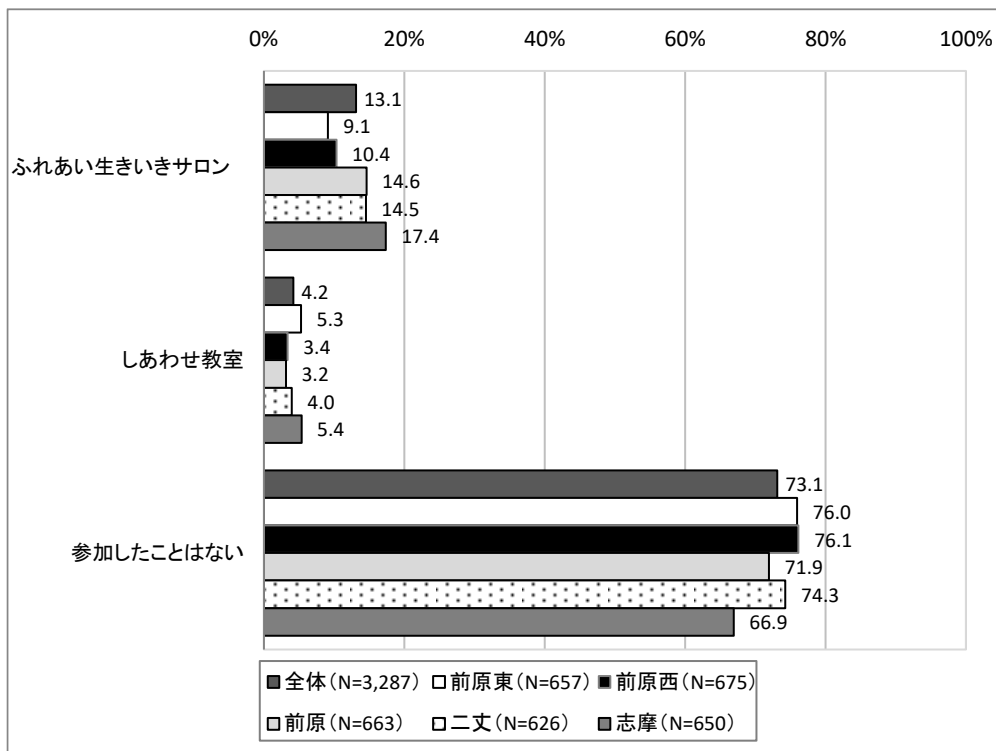
年代別でみると、男女ともに、年代が上がるほどに「参加したことはない」の割合が減少し、「ふれあい生きいきサロン」、「しあわせ教室」の割合が増加している。年代が上がるほど、介護予防のための活動へ参加する傾向がある。



【圏域別（上位3項目）】

圏域別でみると、「ふれあい生きいきサロン」は志摩圏域で参加経験率が高く、17.4%となっている。

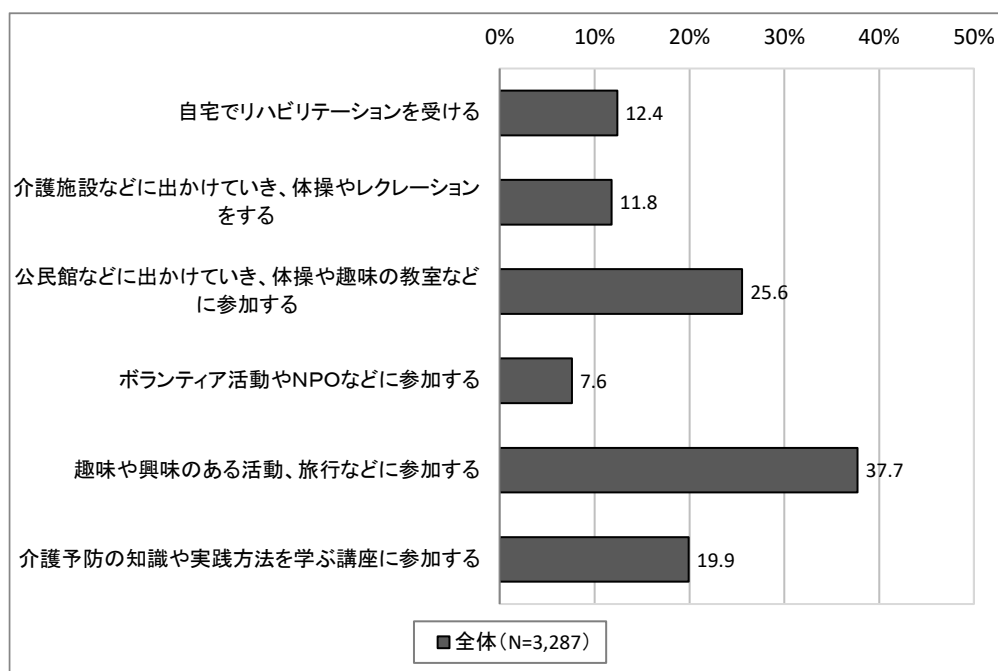
「しあわせ教室」は前原東圏域 5.3%、志摩圏域 5.4%と他圏域と比較しやや高くなっている。「参加したことはない」は前原東圏域で 76.0%、前原西圏域で 76.1%と高くなっている。



(7) 参加したい介護予防の取組（複数回答）

参加したい介護予防の取組について尋ねた。

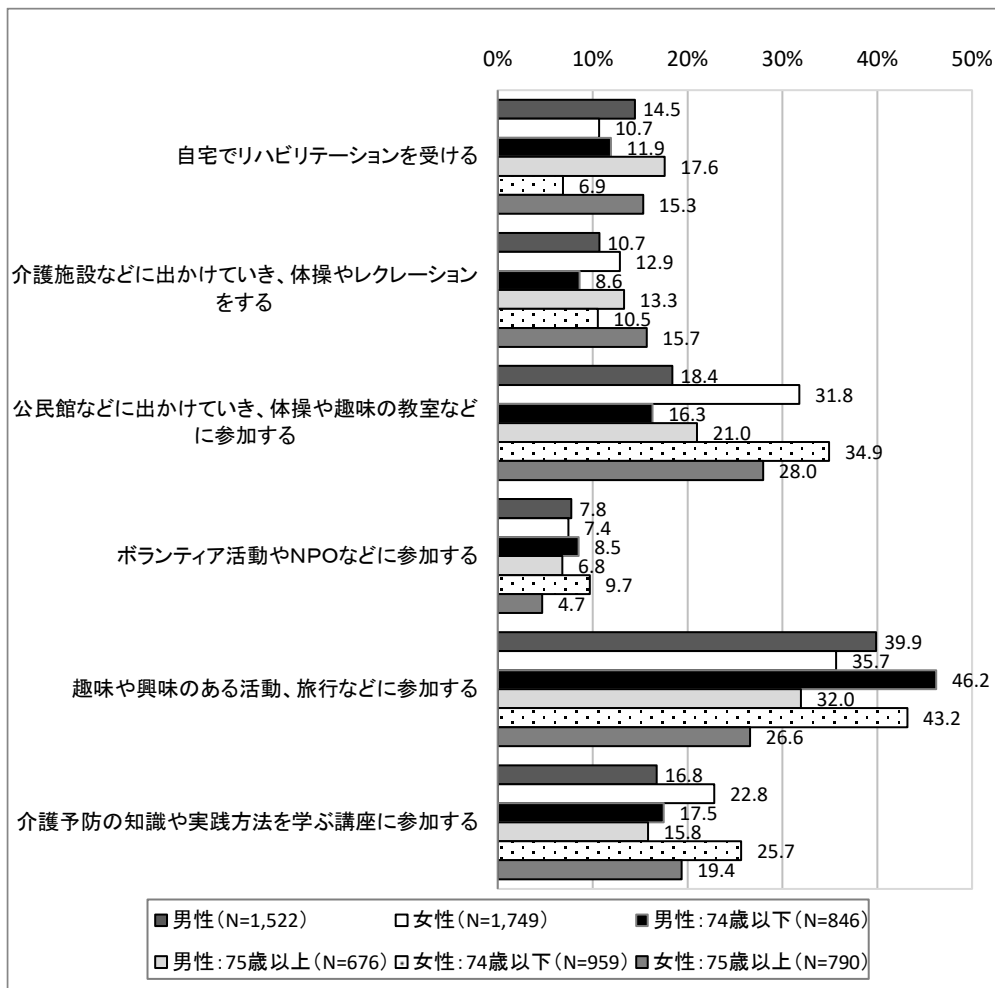
市全体では「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 37.7%で最も高く、続いて「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 25.6%、「介護予防の知識や実践方法を学ぶ講座に参加する」が 19.9%である。



【性別・年代別】

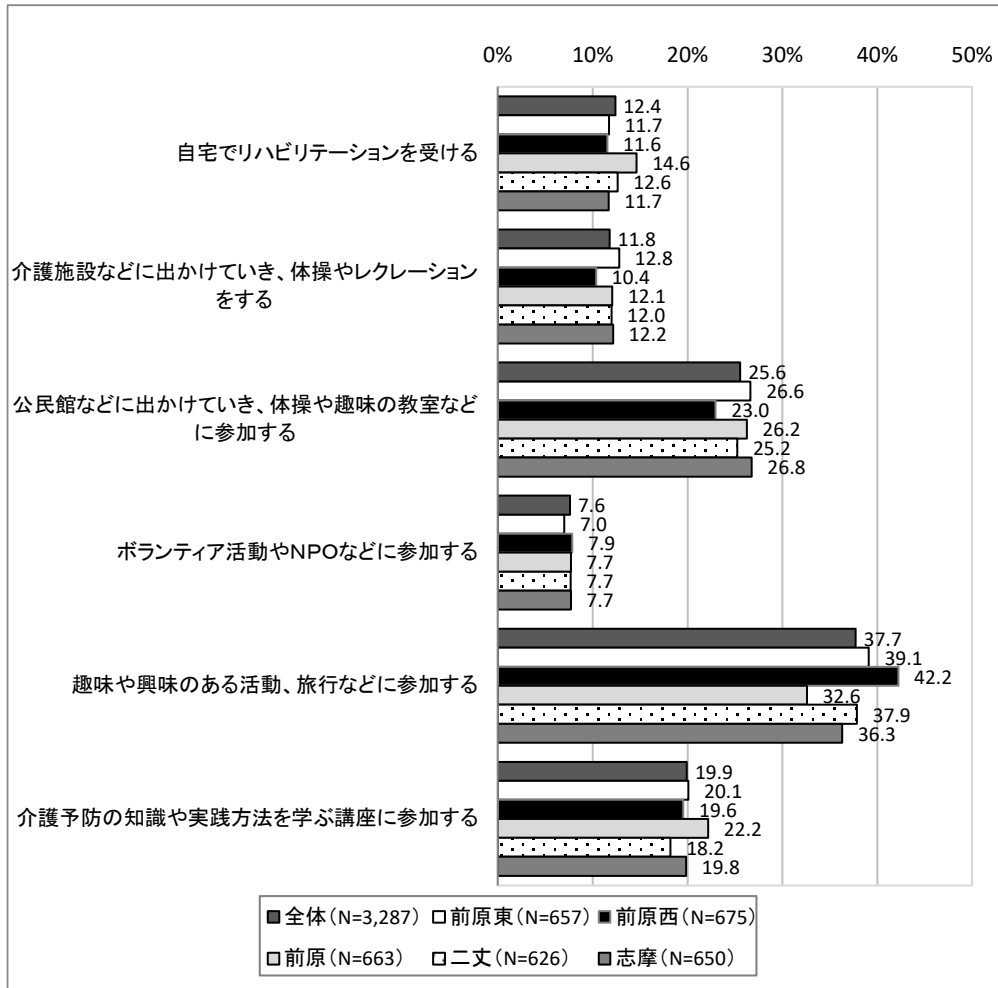
性別では、男性の方が女性より高いのは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」(男性 39.9%、女性 35.7%)、「自宅でリハビリテーションを受ける」(男性 14.5%、女性 10.7%)である。反対に女性の方が男性より高いのは「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」(女性 31.8%、男性 18.4%)、「介護予防の知識や実践方法を学ぶ講座に参加する」(女性 22.8%、男性 16.8%)である。

年代別では、「自宅でのリハビリテーションを受ける」、「介護施設などに出かけていき、体操やレクリエーションをする」は年代が上がるると参加意向が高まる。また、男性の場合は「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」についても年代が上がるると参加意向が増加している。



【圏域別】

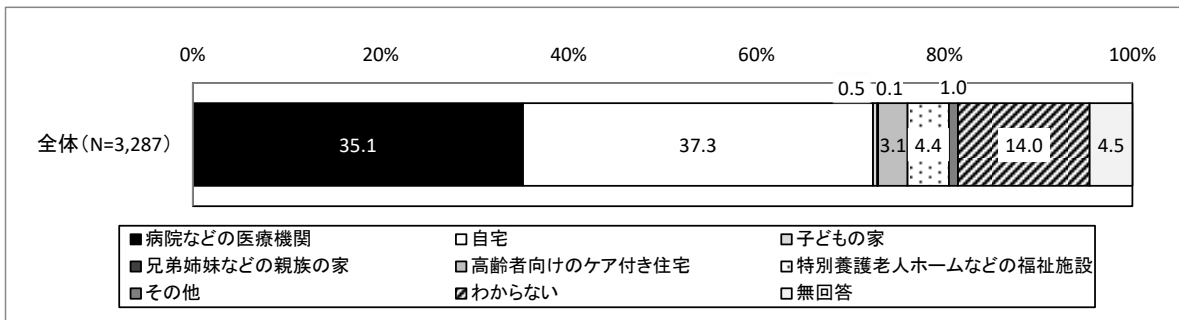
圏域別でみると、いずれの圏域においても、「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が最も高く、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が高くなっている。



(8) 最期をどこで迎えたいか

治る見込みのない病気になった場合に最期をどこで迎えたいかを尋ねた。

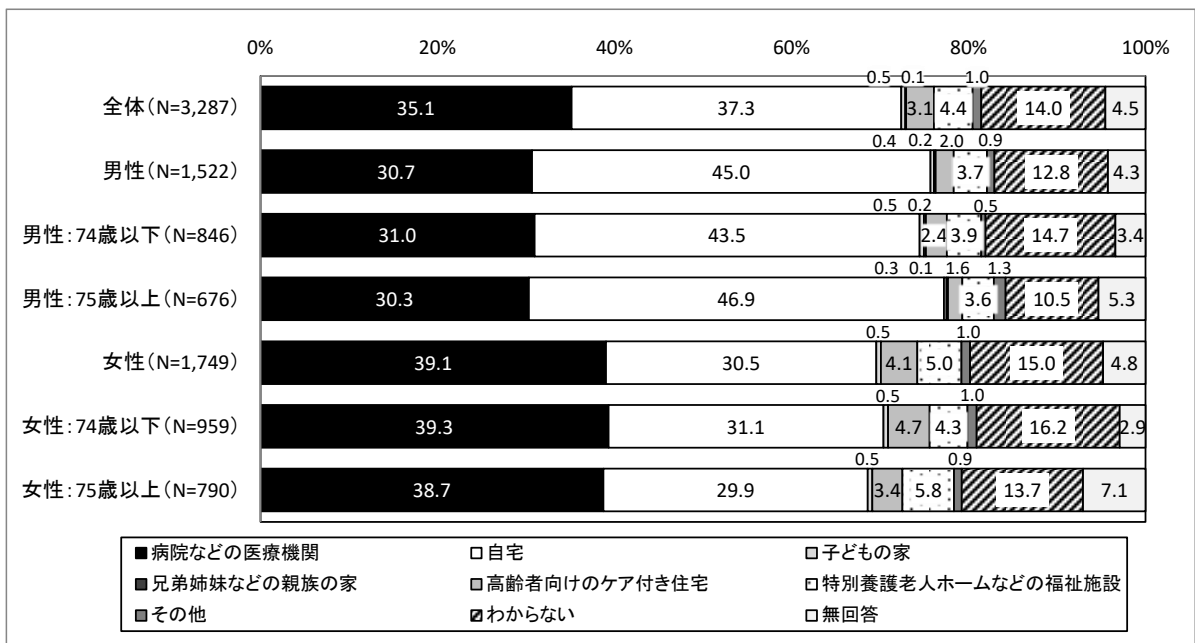
市全体では、「自宅」が37.3%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が35.1%となっている。



【性別・年代別】

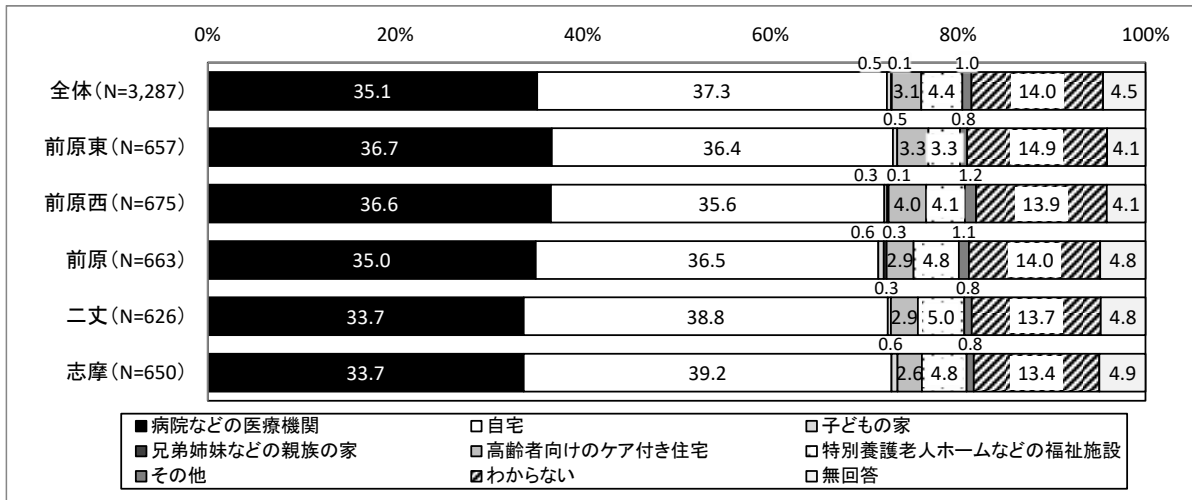
性別で見ると、男性は「自宅」が45.0%と最も高く、女性は「病院などの医療機関」が39.1%と最も高くなっており、性別によって最期を迎える場所の希望が異なっている。

年代別による差は男女ともに少ない。



【圏域別】

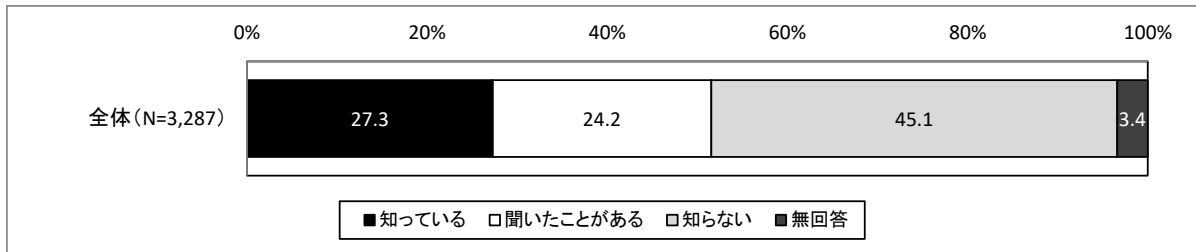
圏域別でみると、「病院などの医療機関」では前原東圏域は36.7%、前原西圏域は36.6%となっており、他圏域と比較し高くなっている。「自宅」では志摩圏域は39.2%、二丈圏域は38.8%となっており、他圏域と比較し高くなっている。



(9) フレイルの認知状況

フレイルという言葉の認知状況を尋ねた。

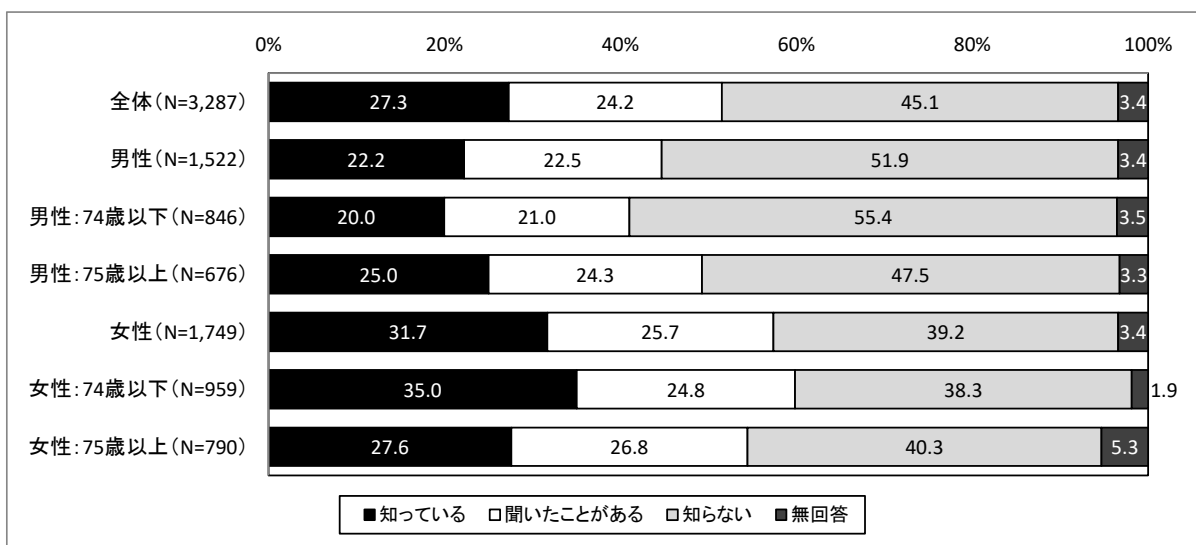
市全体では、「知らない」が45.1%で最も高く、次いで「知っている」が27.3%、「聞いたことがある」が24.2%となっている。



【性別・年代別】

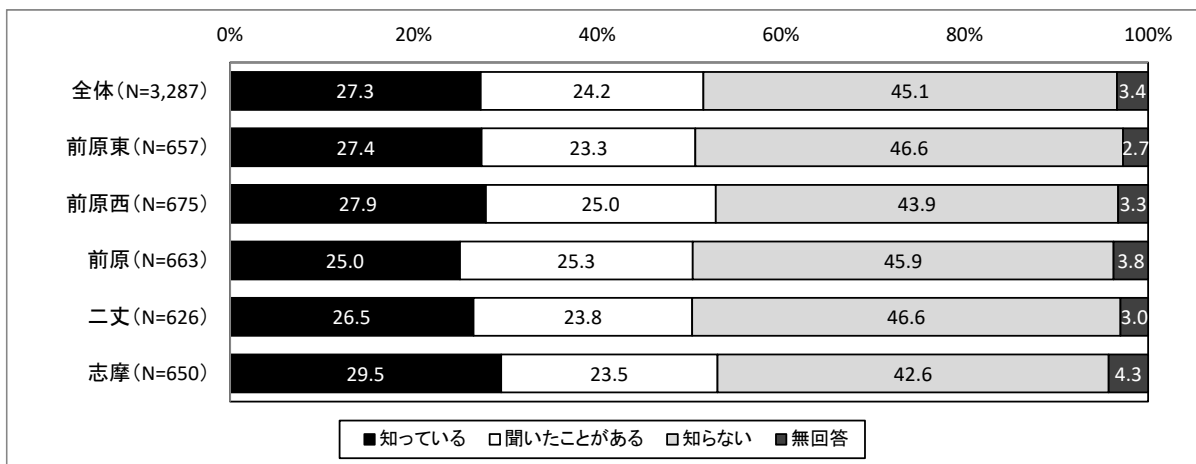
性別で見ると、「知っている」は男性22.2%、女性31.7%で、女性の方が高くなっている。

年代別では、女性74歳以下で、「知っている」の割合が多い。



【圏域別】

圏域別で見ると、「知っている」では志摩圏域は29.5%となっており、他圏域と比較し若干高くなっている。

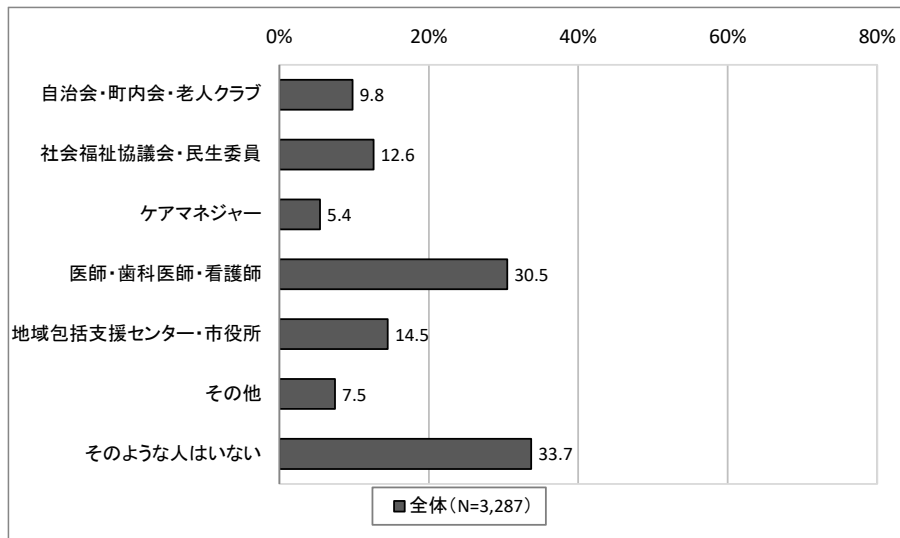


6 相談・支援

(1) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手（複数回答）

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を尋ねた。

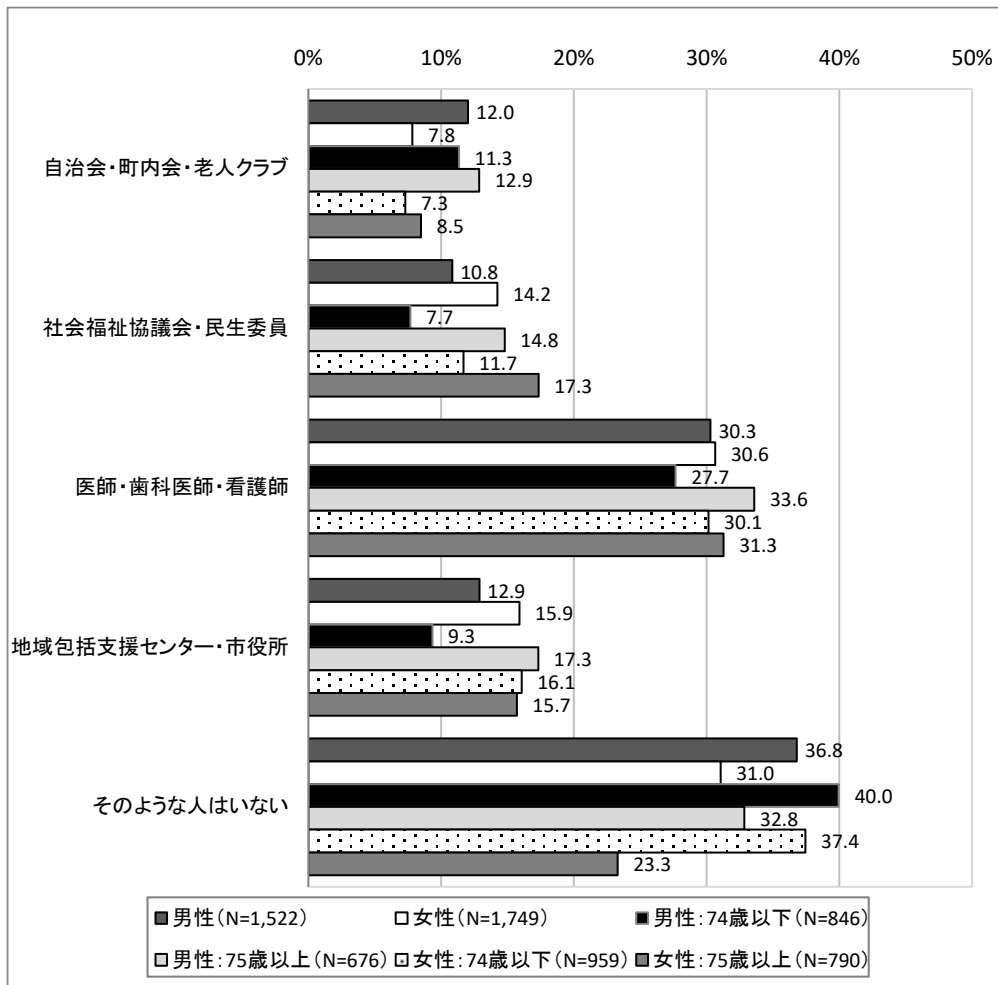
市全体では「そのような人はいない」が33.7%で最も高くなっている。次いで「医師・歯科医師・看護師」が30.5%、「地域包括支援センター・市役所」が14.5%と続いている。



【性別・年代別（上位5項目）】

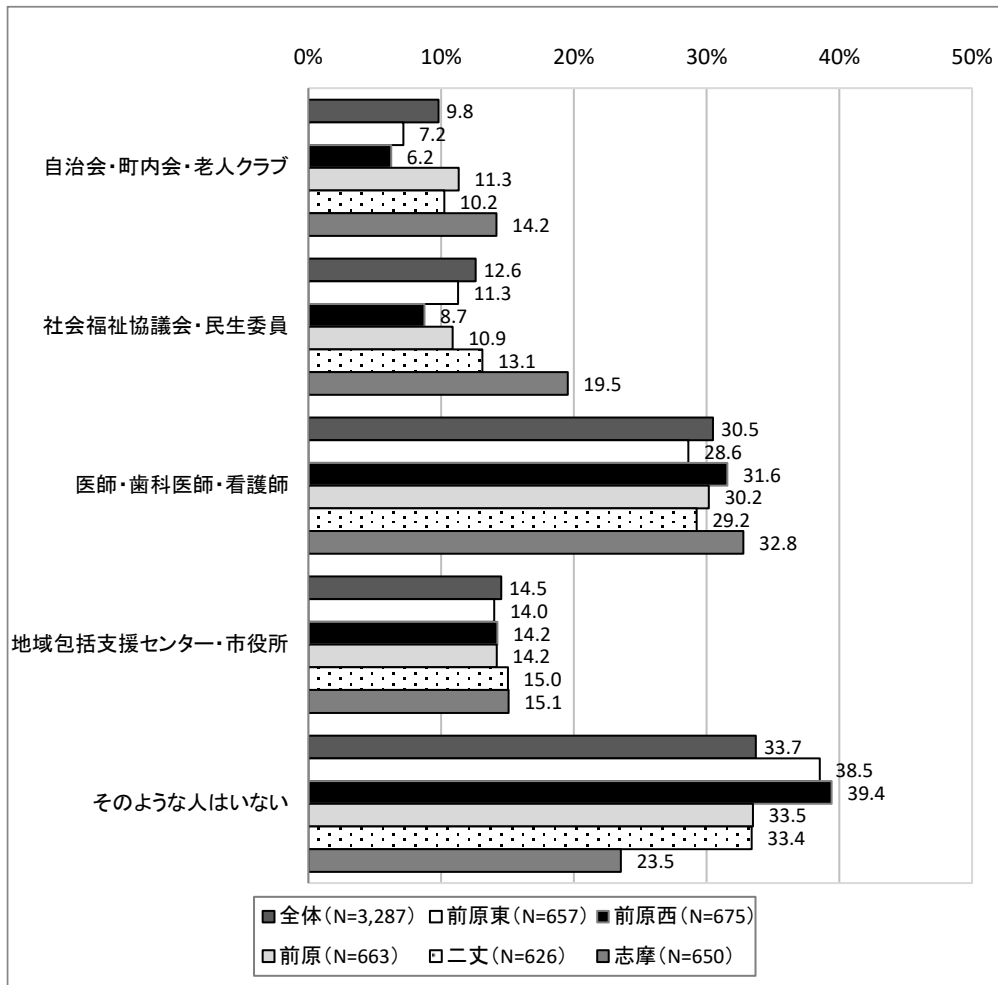
性別で見ると男性36.8%、女性31.0%と「そのような人はいない」が最も高くなっている。

年代別では男女ともに多くの項目で年代が上がるほど、割合が増加する。一方、「そのような人はいない」は年代が上がると減少しており、年代が上がるほど、何らかの形での相談相手を見つけている。



【圏域別（上位5項目）】

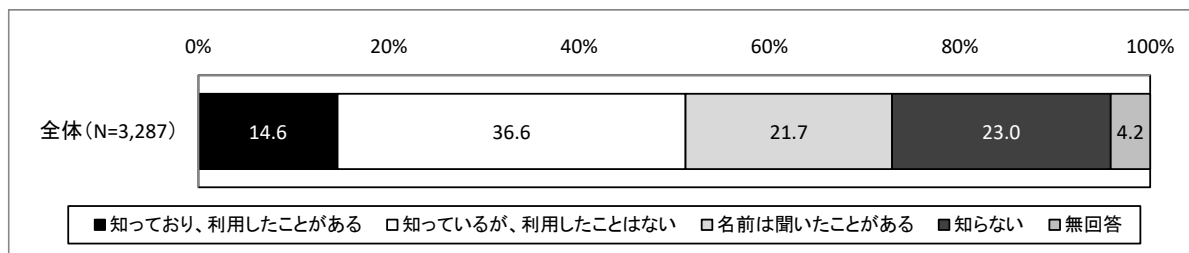
圏域別では、志摩圏域は「社会福祉協議会・民生委員」への相談率が他圏域と比較して高く19.5%、「自治会・町内会・老人クラブ」が14.2%と高くなっている。また「そのような人はいない」は前原東圏域38.5%、前原西圏域39.4%が他圏域よりも高くなっている。特に前原東圏域は「そのような人はいない」以外のすべての項目において市全体を下回っている。



(2) 地域包括支援センターの認知度

地域包括支援センターの認知度について尋ねた。

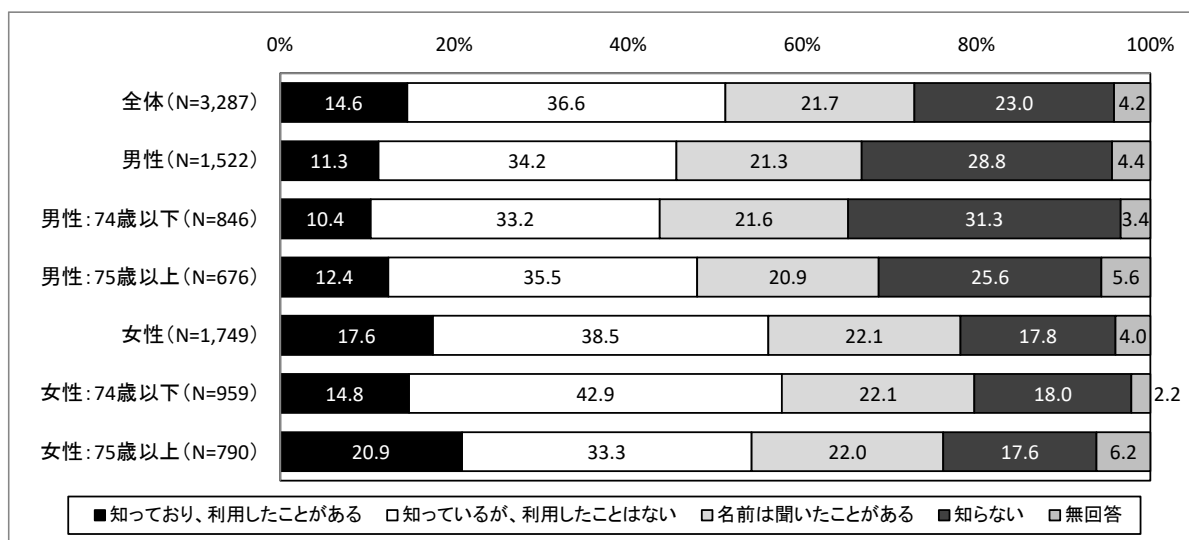
市全体では「知っているが利用したことはない」が最も高く 36.6%である。次いで「知らない」23.0%、「名前は聞いたことがある」21.7%と続いている。



【性別・年代別】

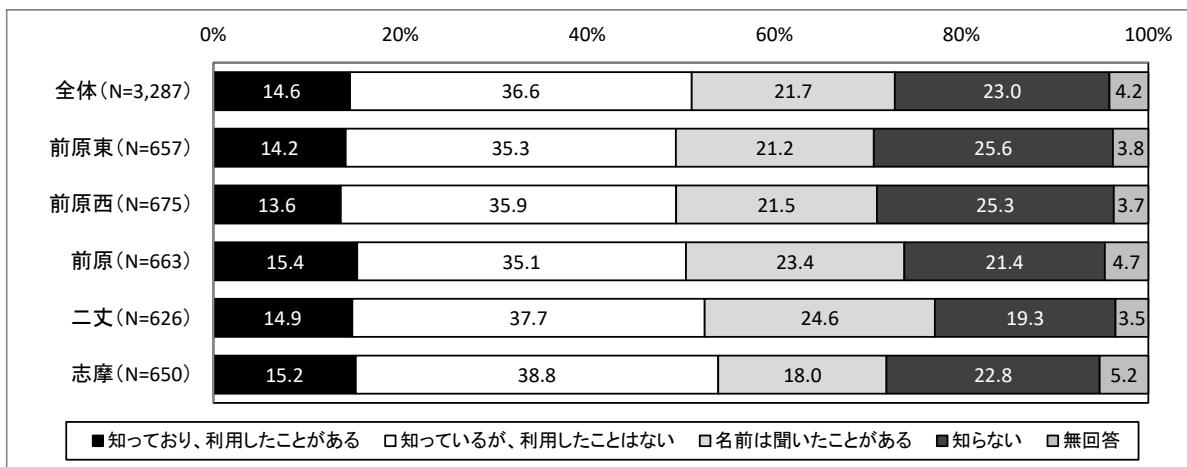
性別では、男性よりも女性の方が 地域包括支援センターについて何らかの情報を認知している。実際、「知らない」は男性 28.8%であるのに対し、女性は 17.8%である。

年代別では、男性は 75 歳以上の年代になると「知っており、利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の割合が 4 ポイント程度増加している。一方、女性は「知っているが、利用したことはない」の割合は 10 ポイントほど減少するものの、「知っており、利用したことがある」の割合は 6 ポイントほど増加しており、年代が上がると地域包括支援センターの利用率は増加している。



【圏域別】

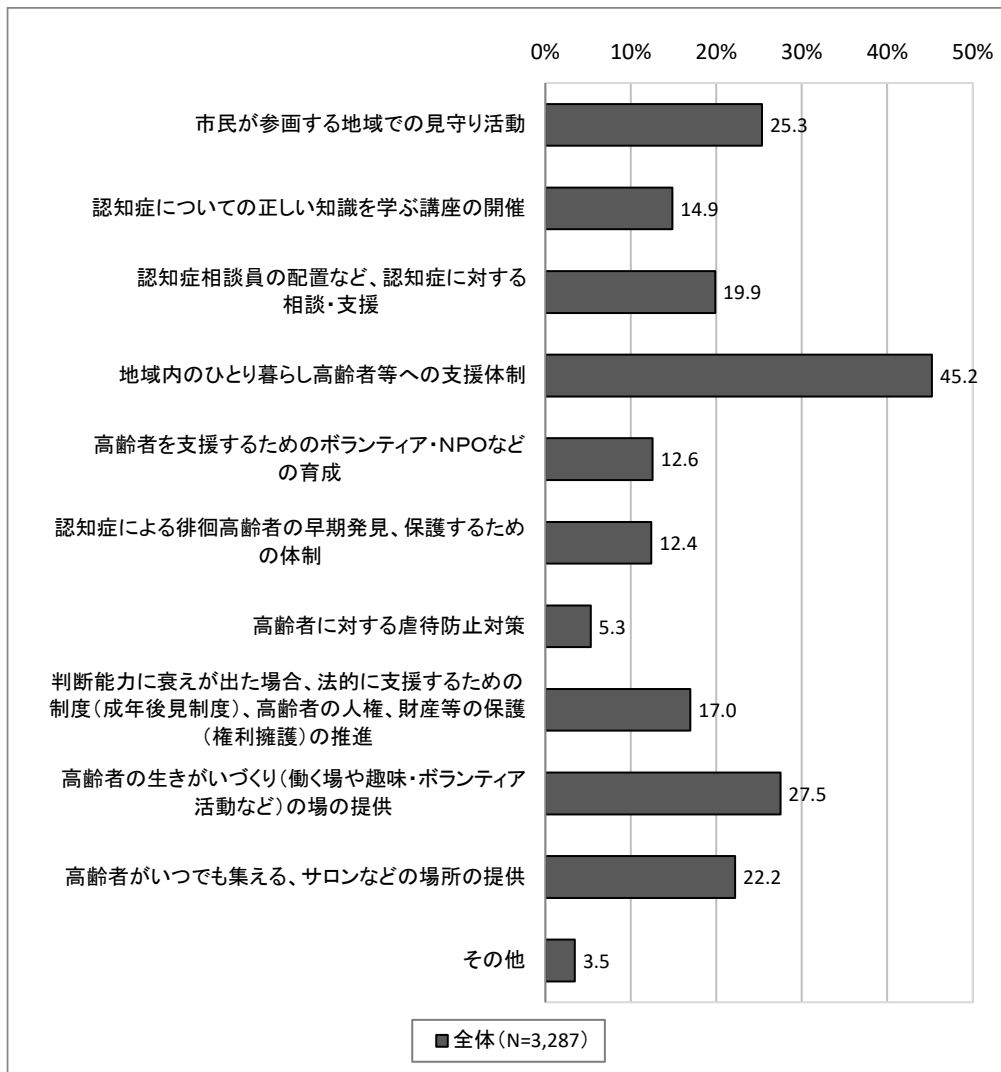
圏域別でみると「知っており、利用したことがある」は前原圏域が最も高く 15.4%、志摩圏域が 15.2%と続いている。一方、「知らない」の割合でみると、最も高いのは前原東圏域の 25.6%、次いで前原西圏域の 25.3%である。



(3) 高齢化に対応するために望まれる活動・体制（3つまで回答）

高齢化に対応するためにどのような活動・体制の充実が必要か尋ねた。

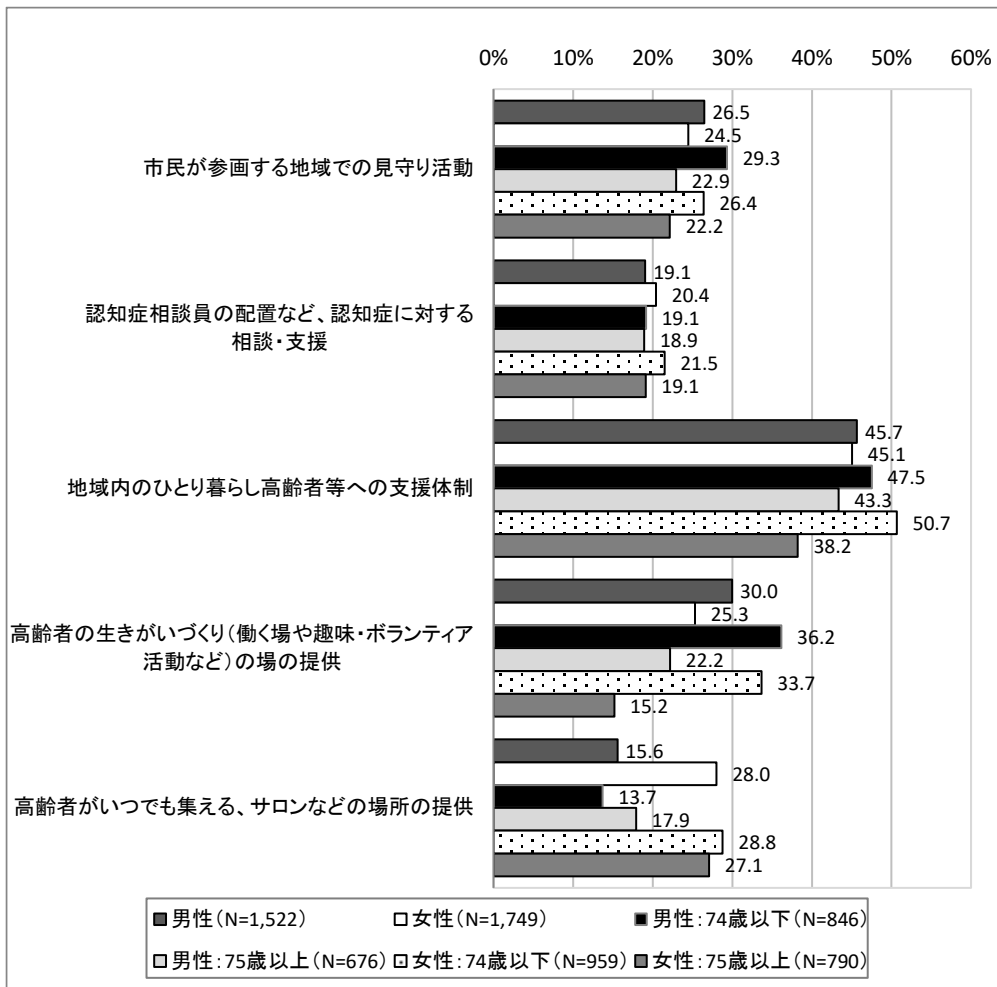
市全体で最も割合が高かったのは「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」であり、45.2%である。次いで「高齢者の生きがいがづくりの場の提供」が27.5%、「市民が参画する地域での見守り活動」が25.3%である。



【性別・年代別（上位5項目）】

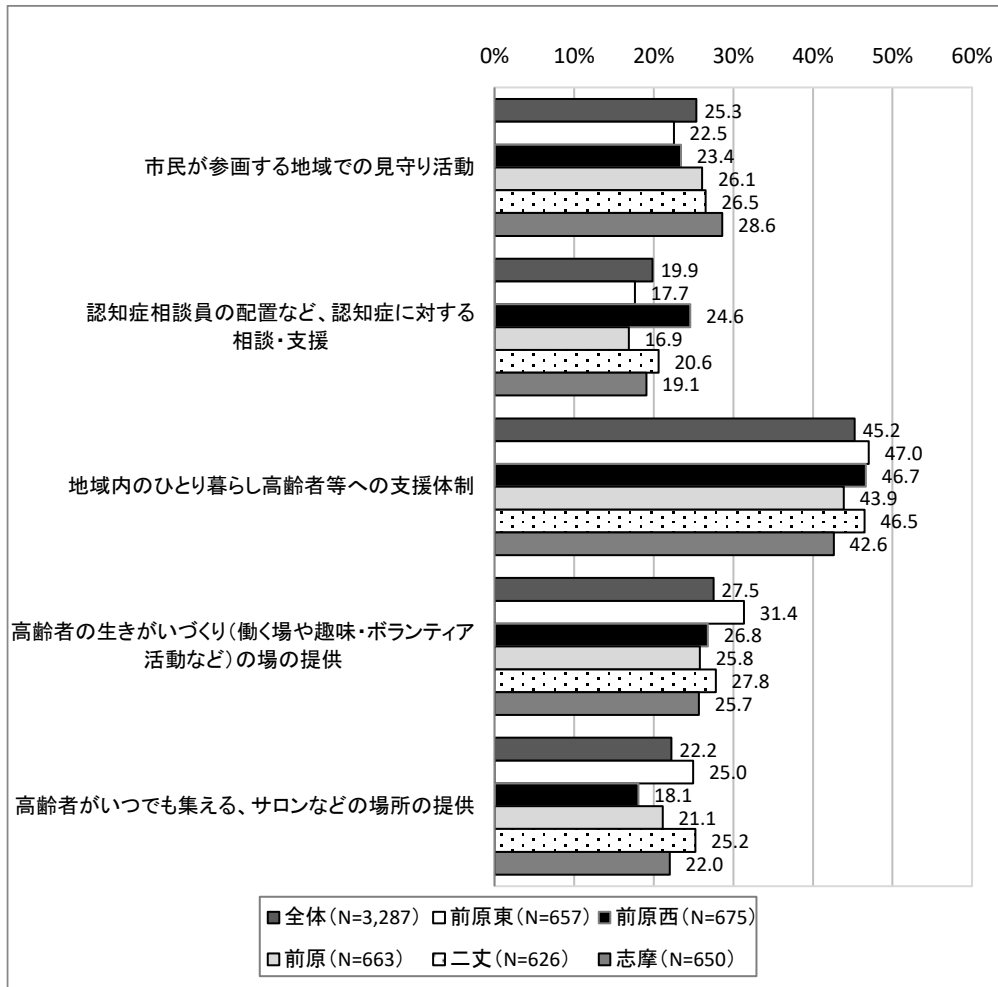
性別では、男性で女性より高いのは「高齢者の生きがいづくりの場の提供」（男性 30.0%、女性 25.3%）、女性で男性より高いのは「高齢者がいつでも集える、サロンなどの場所の提供」（女性 28.0%、男性 15.6%）である。

年代別でみると、男女ともに、ほとんどの項目において年代が上がるほどに割合が減少している。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別では、前原西圏域は「認知症相談員の配置など、認知症に対する相談・支援」が他圏域と比較して高く24.6%、前原東圏域は「高齢者の生きがいづくりの場の提供」が31.4%、志摩圏域は「市民が参画する地域での見守り活動」が28.6%と高くなっている。

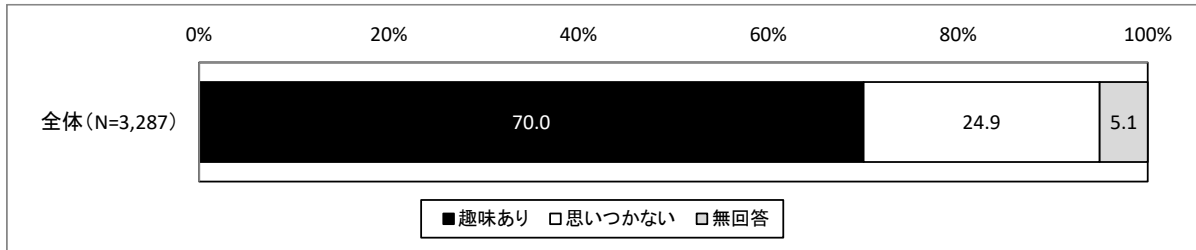


7 地域社会への参加等に関する意識

(1) 趣味の有無

趣味の有無について尋ねた。

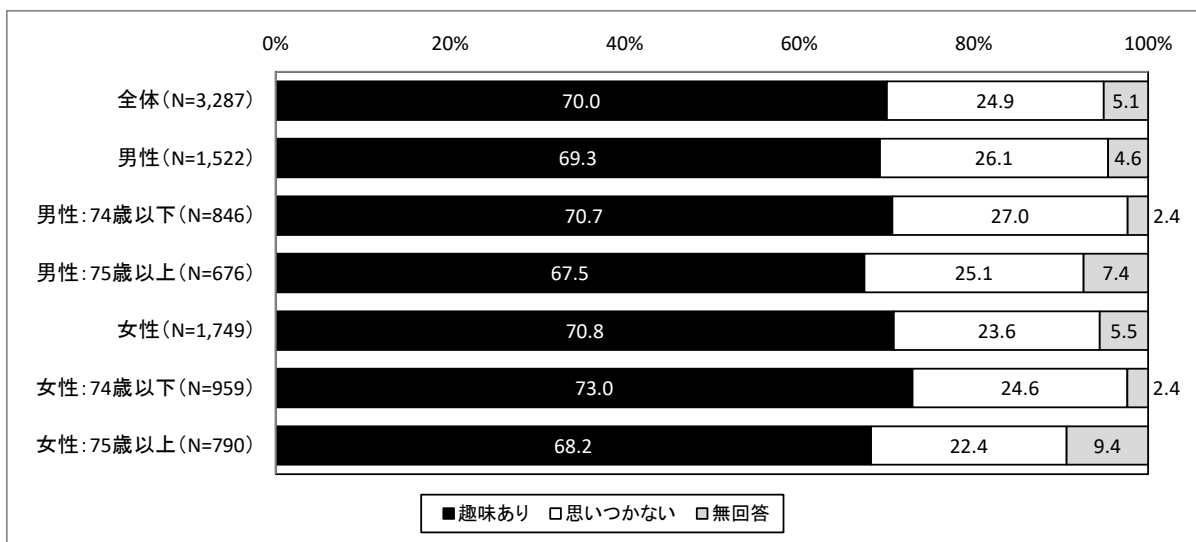
市全体では、「趣味がある」が70.0%であり、「思いつかない」が24.9%である。



【性別・年代別】

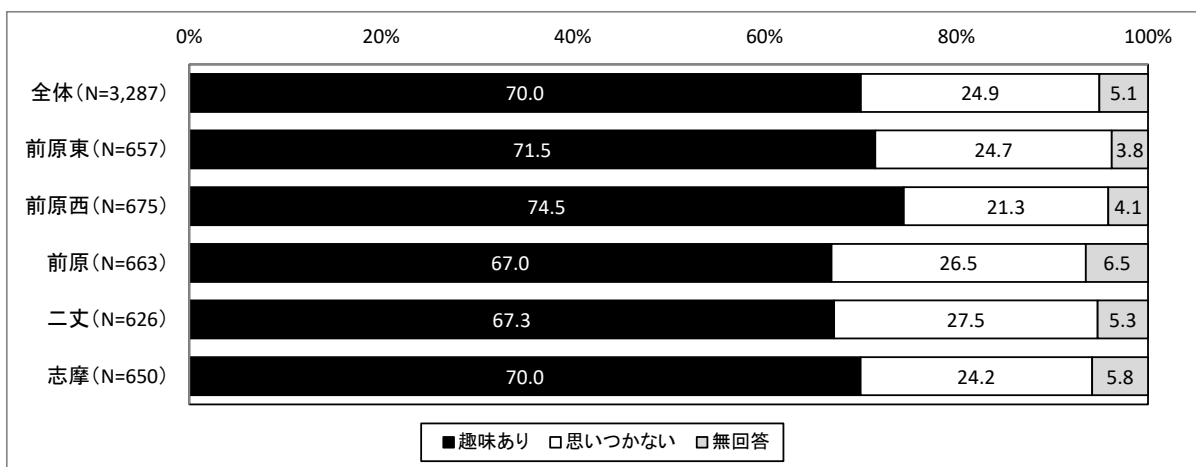
性別では大きな差はなく、「趣味がある」が約70%程度である。

年代別では、性別にかかわらず年代が上がるほど、「趣味がある」の割合が減少している。



【圏域別】

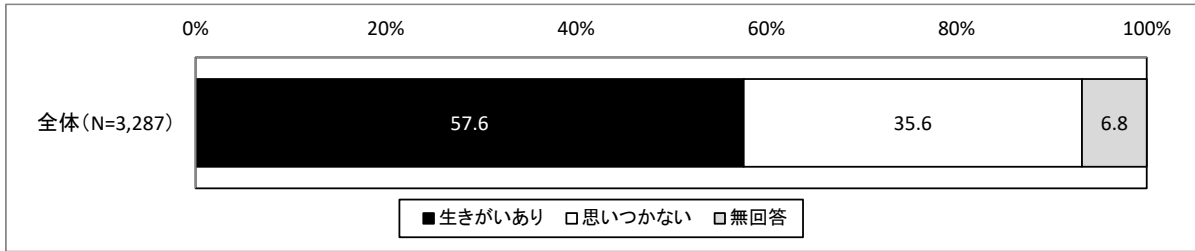
圏域別では、「趣味がある」が最も高いのは前原西圏域の74.5%で、次いで前原東圏域の71.5%である。一方、「思いつかない」が最も高いのは二丈圏域の27.5%、次いで前原圏域の26.5%である。



(2) 生きがいの有無

生きがいの有無について尋ねた。

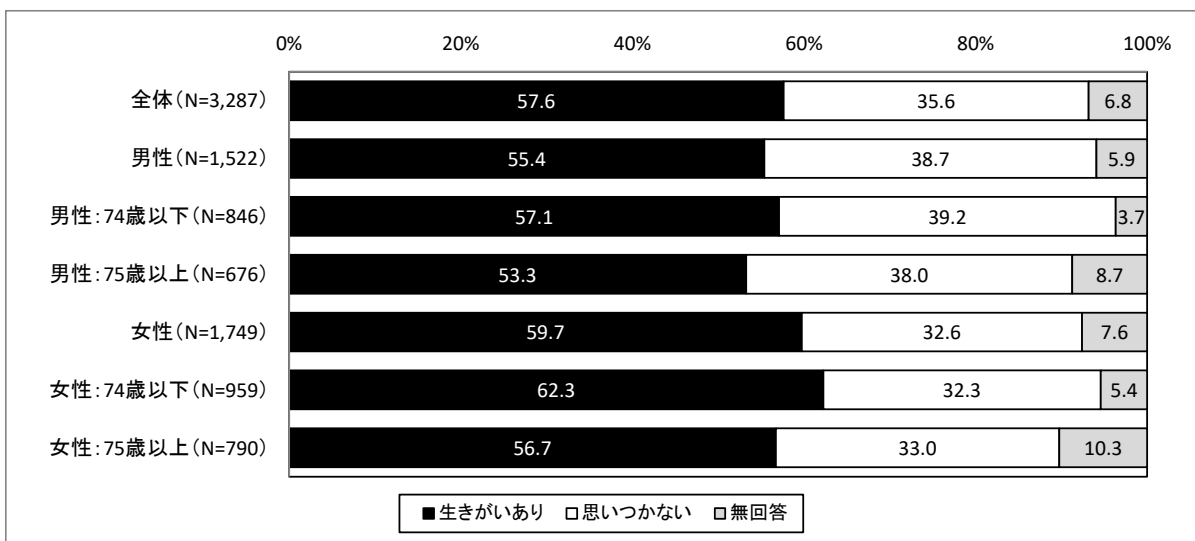
市全体では、「生きがいあり」が57.6%であり、「思いつかない」が35.6%である。



【性別・年代別】

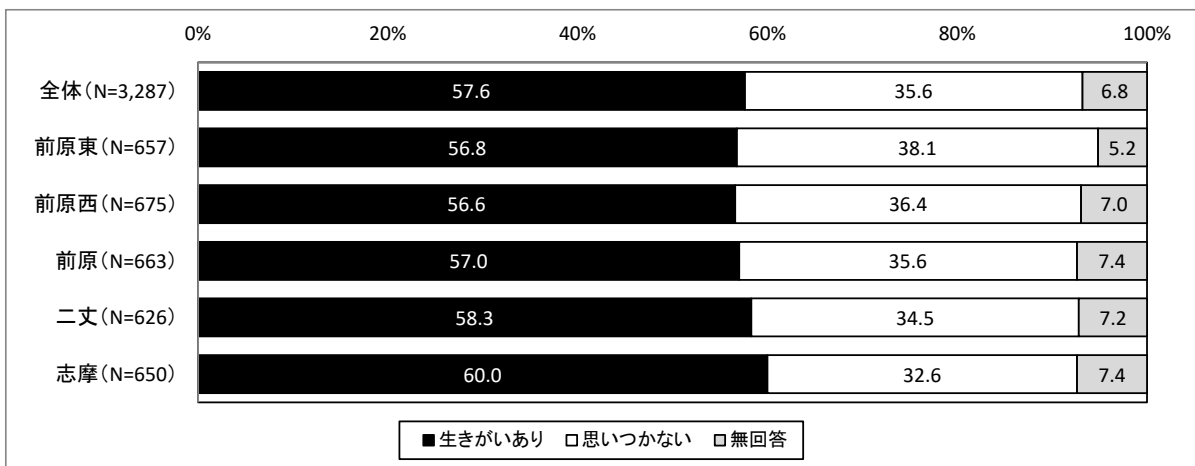
性別では、男性の「生きがいあり」が55.4%であるのに対し、女性は59.7%であり、女性の方が生きがいを持っている。

年代別では、男女ともに年代が上がると「生きがいあり」の割合が減少し、特に女性は74歳以下の年代では62.3%であるのに対し、75歳以上の年代では56.7%であり、6ポイント近く減少している。



【圏域別】

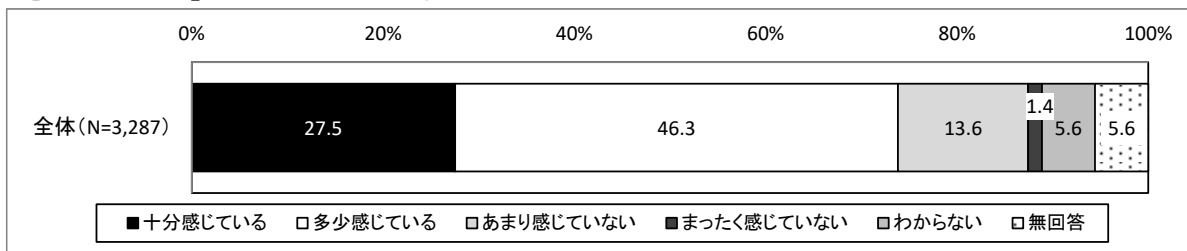
圏域別では、「生きがいあり」と最も多く回答したのは志摩圏域であり60.0%である。一方、「思いつかない」と回答した割合が最も高いのは前原東圏域であり38.1%となっている。



(3) 現在、感じている生きがい（喜びや楽しみ）の程度

現在感じている生きがい（喜びや楽しみ）の程度について尋ねた。

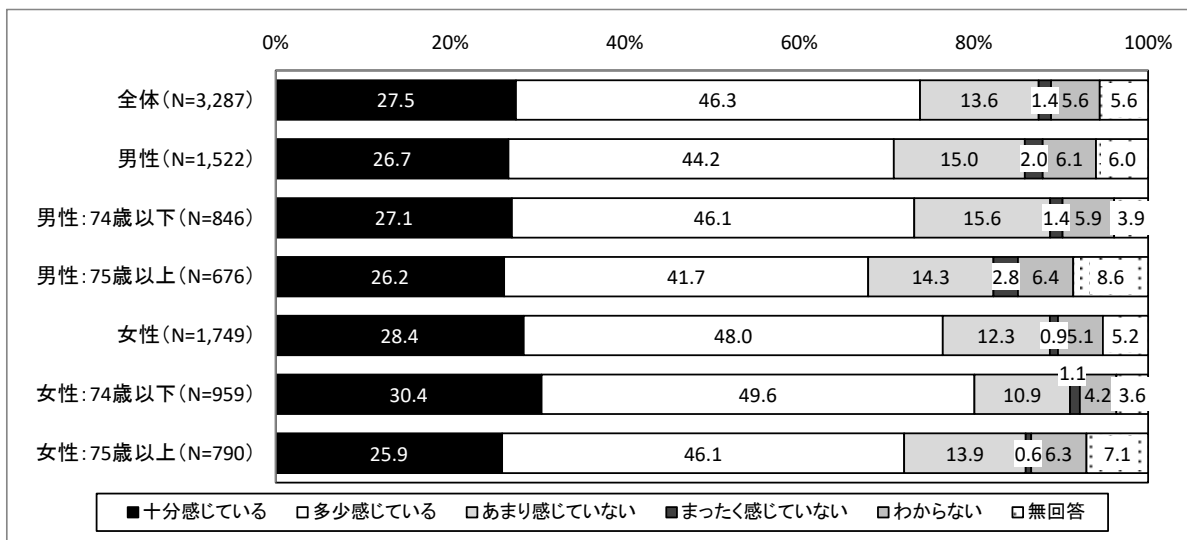
市全体では「多少感じている」が最も高く 46.3%であった。次いで「十分感じている」が 27.5%であり、「あまり感じていない」は 13.6%である。



【性別・年代別】

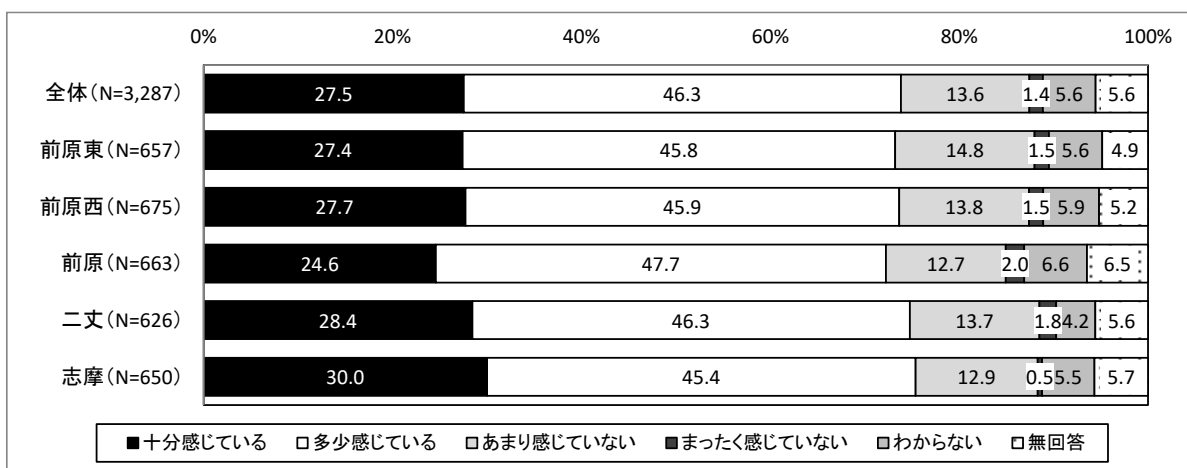
性別では、男性の「十分感じている」が 26.7%であるのに対し、女性は 28.4%であり、女性の方が生きがいを感じている。

年代別では、男女ともに年代が上がると「十分感じている」の割合が減少し、特に女性は 74 歳以下の年代では 30.4%であるのに対し、75 歳以上の年代では 25.9%であり、5 ポイント近く減少している。



【圏域別】

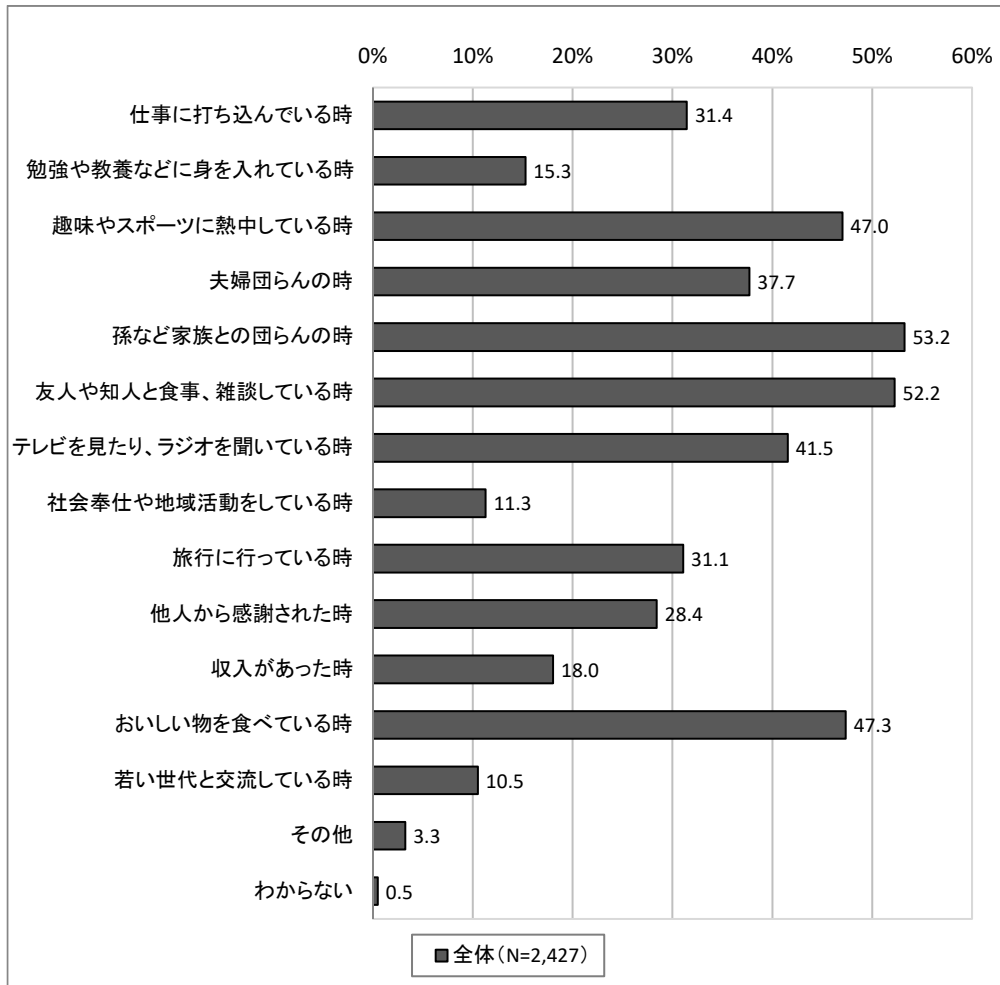
圏域別では、「十分感じている」と最も多く回答したのは志摩圏域であり 30.0%であり、最も少なく回答したのは前原圏域であり 24.6%となっている。



(4) 生きがいを感じる時（複数回答）

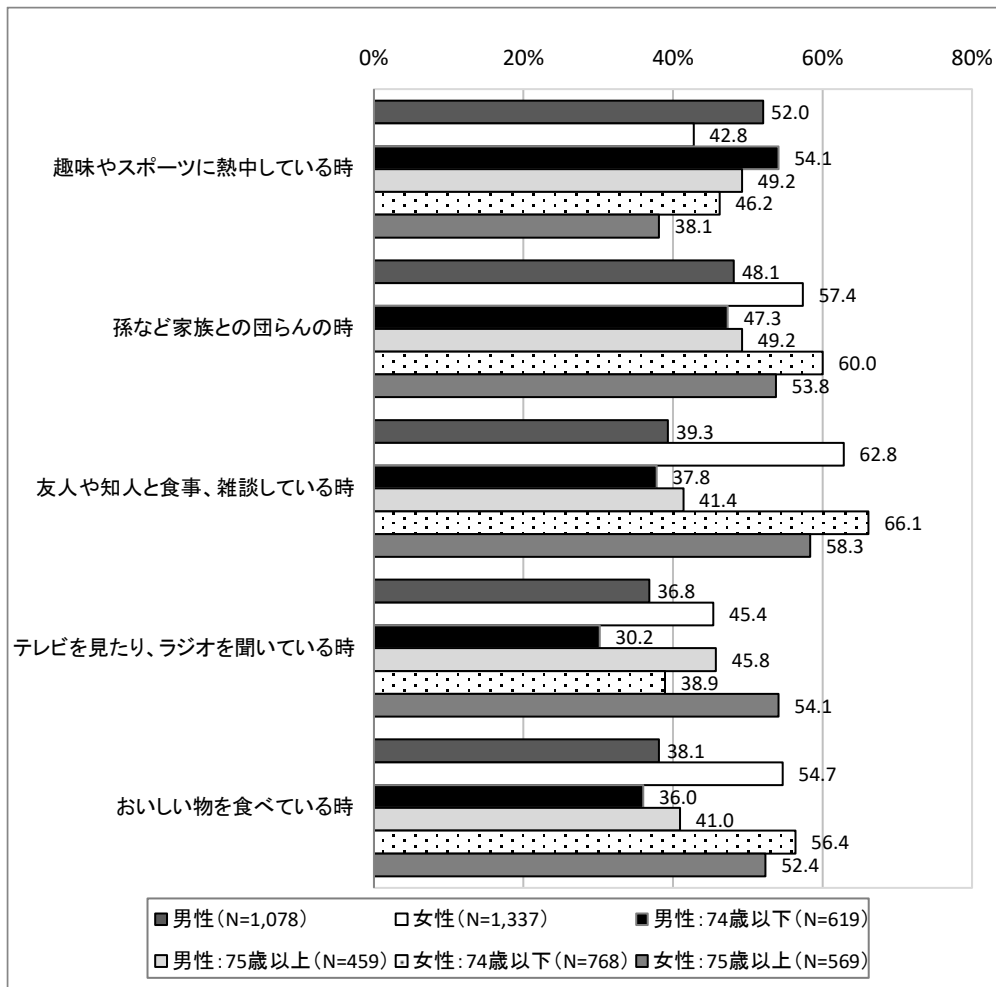
前問において「十分に感じている」、「多少感じている」と回答した人に、生きがい（喜びや楽しみ）を感じるのはどのようなときか尋ねた。

市全体では「孫など家族との団らんの時」が最も高く 53.2%、「友人や知人と食事、雑談している時」が 52.2%となっている。次いで、「おいしい物を食べている時」が 47.3%である。その後、「趣味やスポーツに熱中している時」47.0%、「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」が 41.5%と続く。



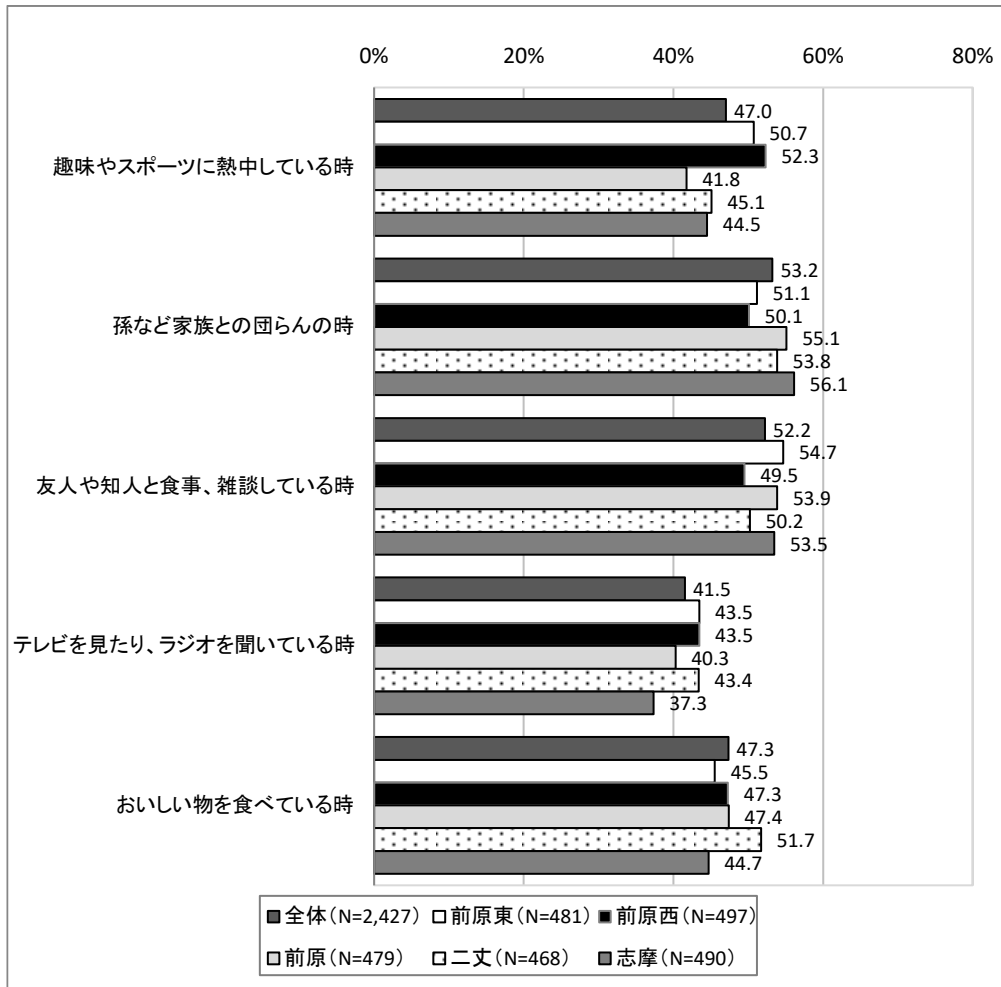
【性別・年代別（上位5項目）】

性別では、「友人や知人と食事、雑談している時」、「おいしい物を食べている時」などで女性が男性よりも高くなっている。男性の方が割合が高いのは「趣味やスポーツに熱中している時」であり 52.0%となっている。
 年代別では、「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」で男女ともに年代が上がるほど割合が増加している。一方「趣味やスポーツに熱中している時」は年代が上がるると性別を問わず割合が減少している。



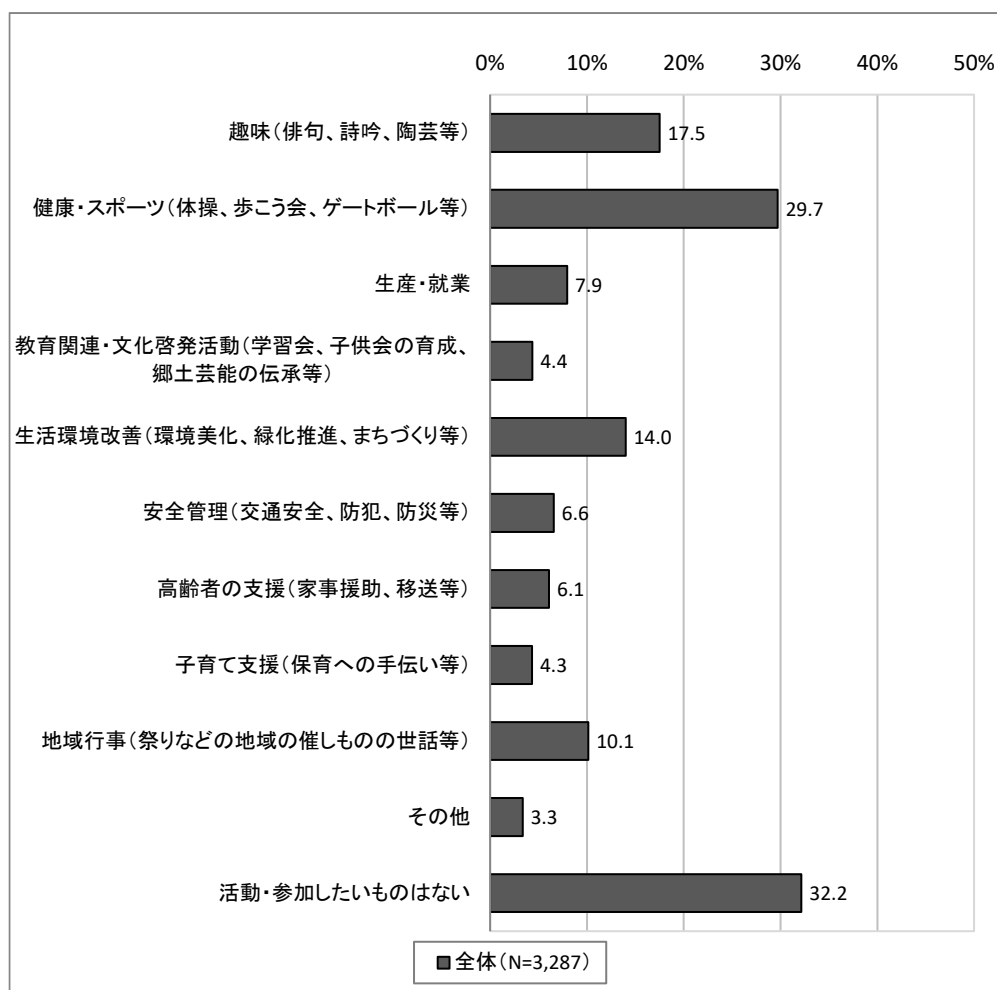
【圏域別（上位5項目）】

圏域別では、前原西圏域は「趣味やスポーツに熱中している時」が他圏域と比較して高く 52.3%、志摩圏域は「孫など家族との団らんの時」が 56.1%、二丈圏域は「おいしい物を食べている時」が 51.7%と高くなっている。



(5) 自主的に行われている活動への参加意向（複数回答）

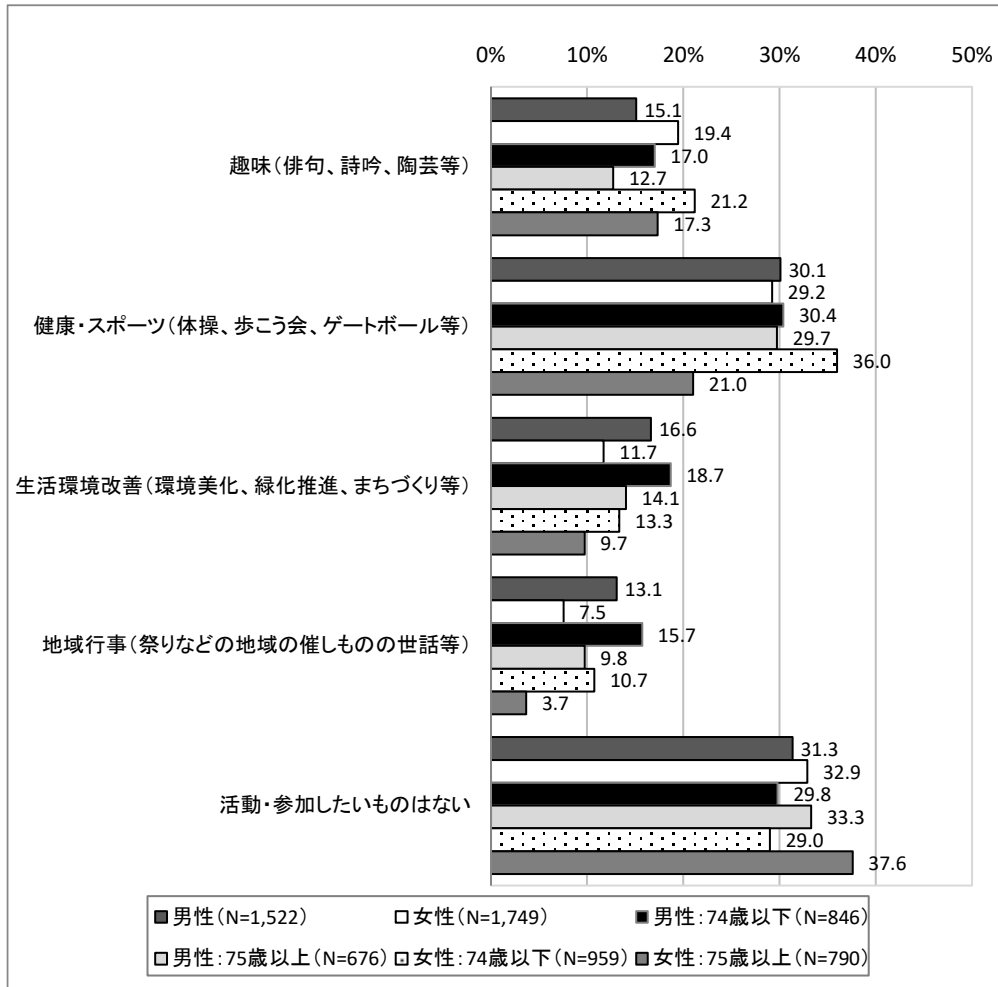
個人または友人と、あるいはグループや団体で、自主的に行われている活動への参加意向を尋ねた。市全体では「活動・参加したいものはない」が最も高く 32.2%、「健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボール等）」が 29.7%となっている。次いで、「趣味（俳句、詩吟、陶芸等）」が 17.5%である。



【性別・年代別（上位5項目）】

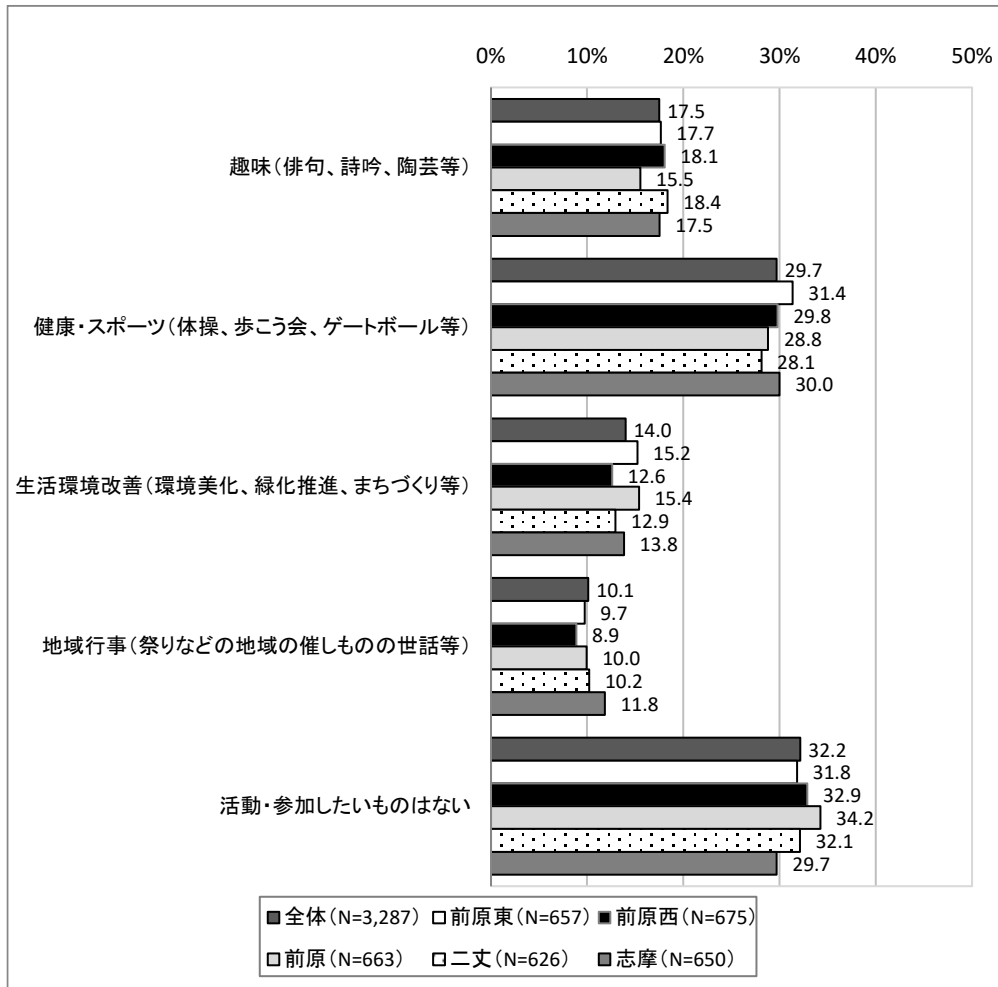
性別では、男性の方が女性よりも高いのは「健康・スポーツ」（男性 30.1%、女性 29.2%）、「生活環境改善」（男性 16.6%、女性 11.7%）、「地域行事」（男性 13.1%、女性 7.5%）である。反対に女性の方が男性よりも高いのは「趣味」（女性 19.4%、男性 15.1%）、「活動・参加したいものはない」（女性 32.9%、男性 31.3%）である。

年代別では、多くの項目で年代が上がるほど、割合が減少し、「活動・参加したいものはない」は増加する。



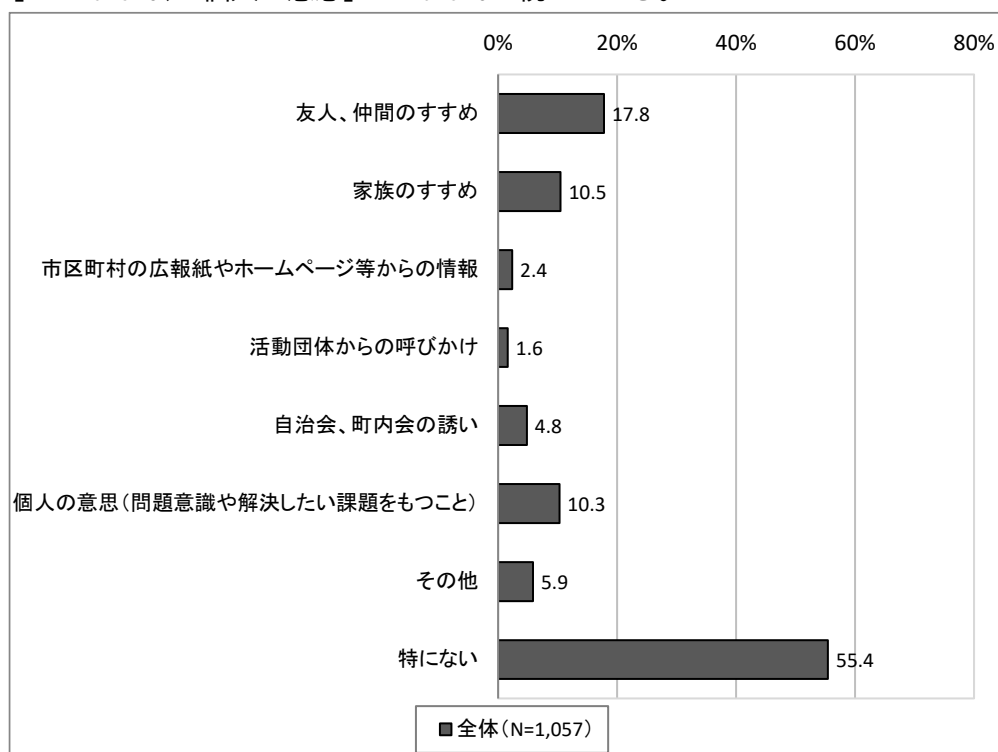
【圏域別（上位5項目）】

圏域別でみると、市全体で割合の高かった「健康・スポーツ」の項目では、前原東圏域が 31.4%と高くなっている。また、「活動・参加したいものはない」では前原圏域が 34.2%と高くなっている。一方、志摩圏域 29.7では他圏域と比較し「活動・参加したいものはない」の割合が低くなっている。



(6) 自主的に行われている活動に参加するためのきっかけ（複数回答）

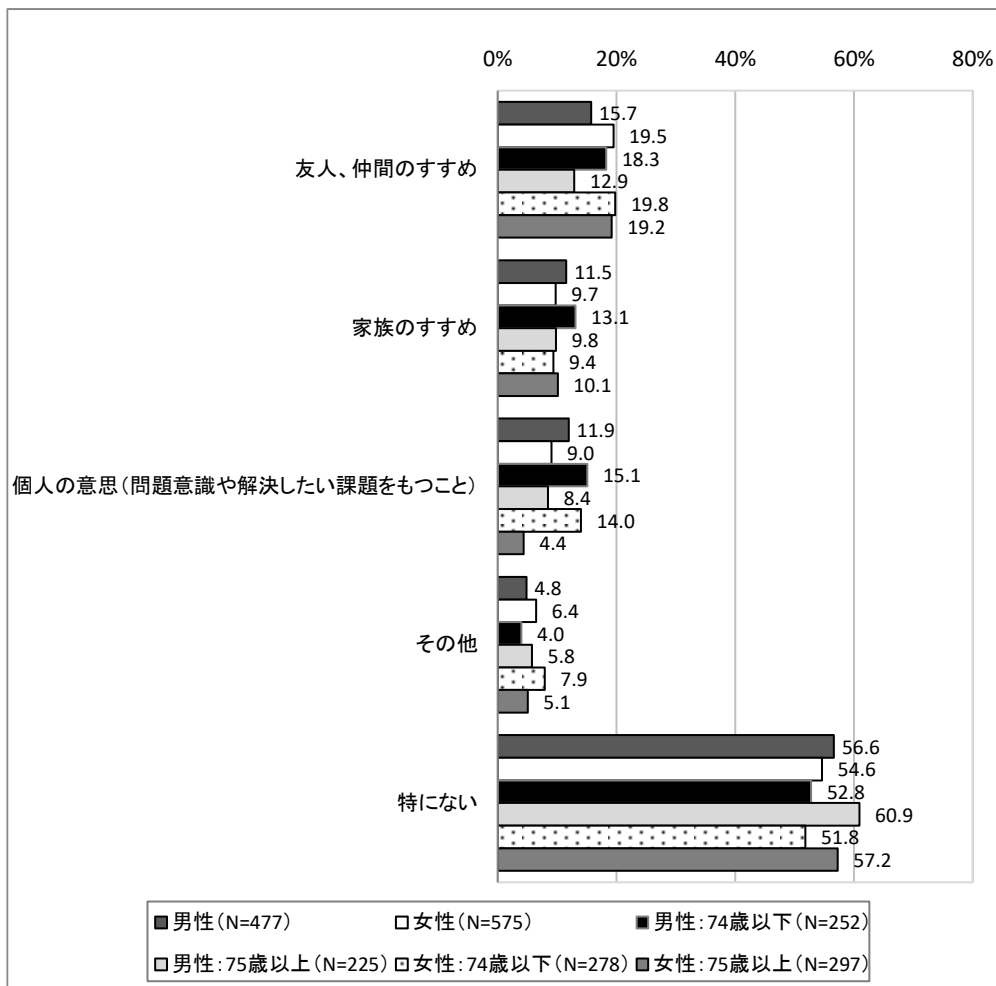
前問で「活動・参加したいものはない」と回答した人に、参加するために必要なきっかけを尋ねた。市全体では、「特にない」が55.4%と非常に高くなっている。次いで「友人、仲間のすすめ」が17.8%、「家族のすすめ」が10.5%、「個人の意思（問題意識や解決したい課題をもつこと）」が10.3%と続いている。



【性別・年代別（上位5項目）】

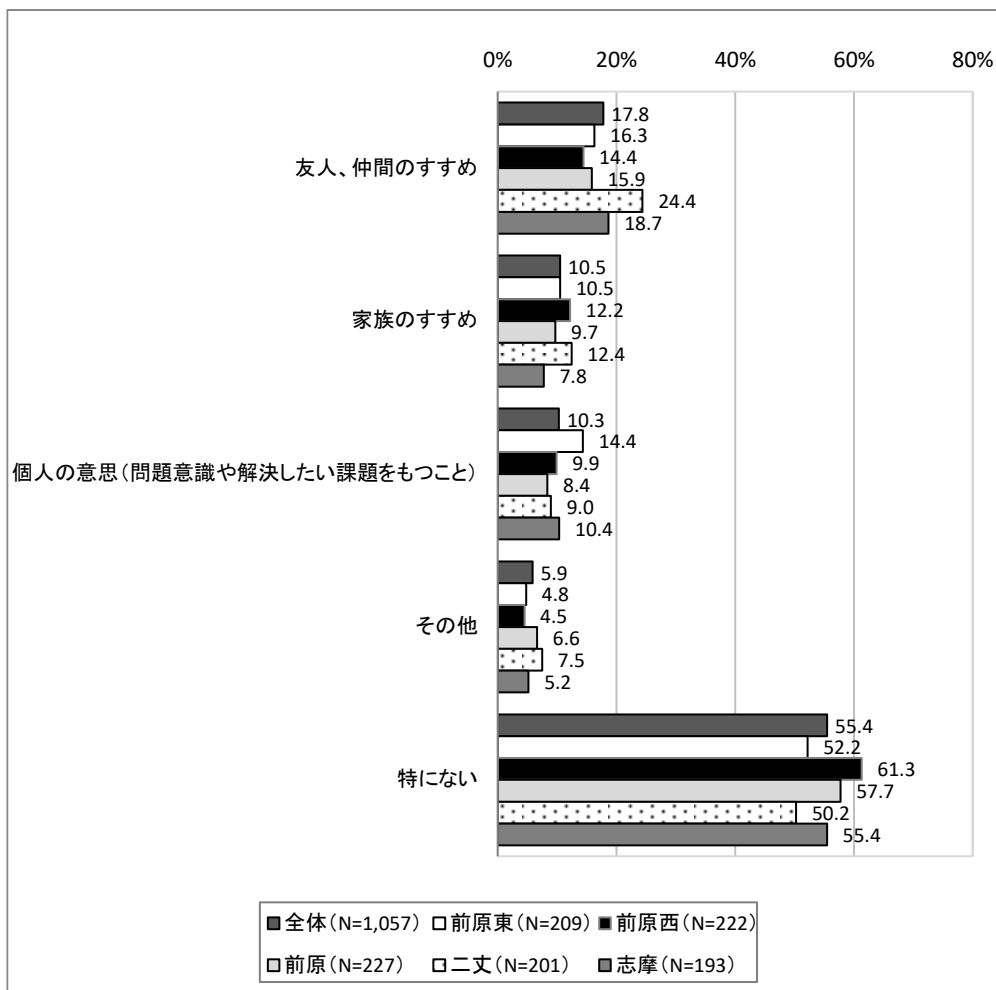
性別では男女ともに「特にない」が最も高くなっている。男性の方が女性より割合が高いのは「個人の意思」（男性 11.9%、女性 9.0%）、「特にない」（男性 56.6%、女性 54.6%）、「家族のすすめ」（男性 11.5%、女性 9.7%）である。一方、女性の方が男性よりも高いのは「友人、仲間のすすめ」（女性 19.5%、男性 15.7%）、「その他」（女性 6.4%、男性 4.8%）である。

年代別では、男女ともに年代が上がると「特にない」の割合が増加している。また、男女ともに「個人の意思」は年代が上がると減少している。



【圏域別（上位5項目）】

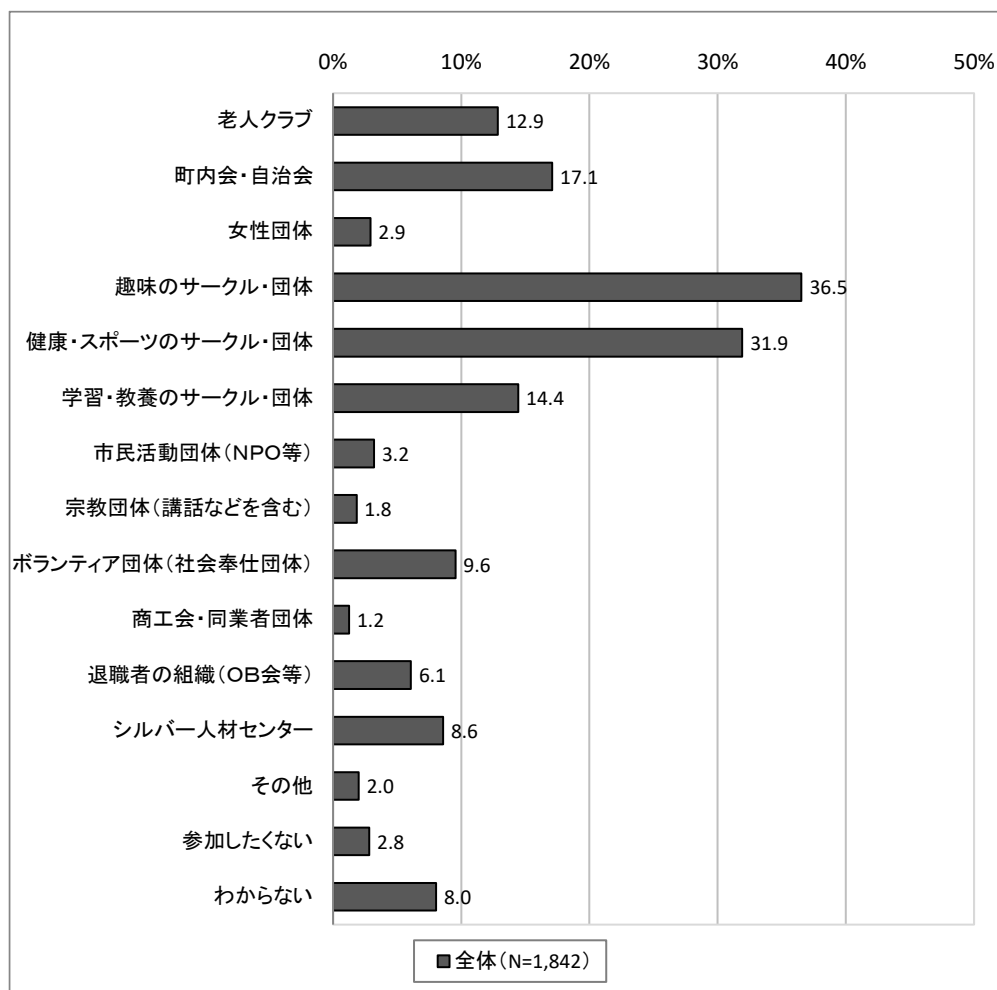
圏域別でみると、「特にない」は前原西圏域において61.3%と最も高くなっており、二丈圏域で50.2%と最も低くなっている。「友人、仲間のすすめ」は二丈圏域において24.4%と他圏域と比較して高くなっている。「個人の意思（問題意識や解決したい課題をもつこと）」は前原東圏域で14.4%と最も高く、前原圏域で8.4%と最も低い。



(7) 参加したい団体や組織（複数回答）

「自主的に行われている活動への参加意向」の設問において「活動・参加したいものはない」以外の回答をした人に参加したい団体や組織について尋ねた。

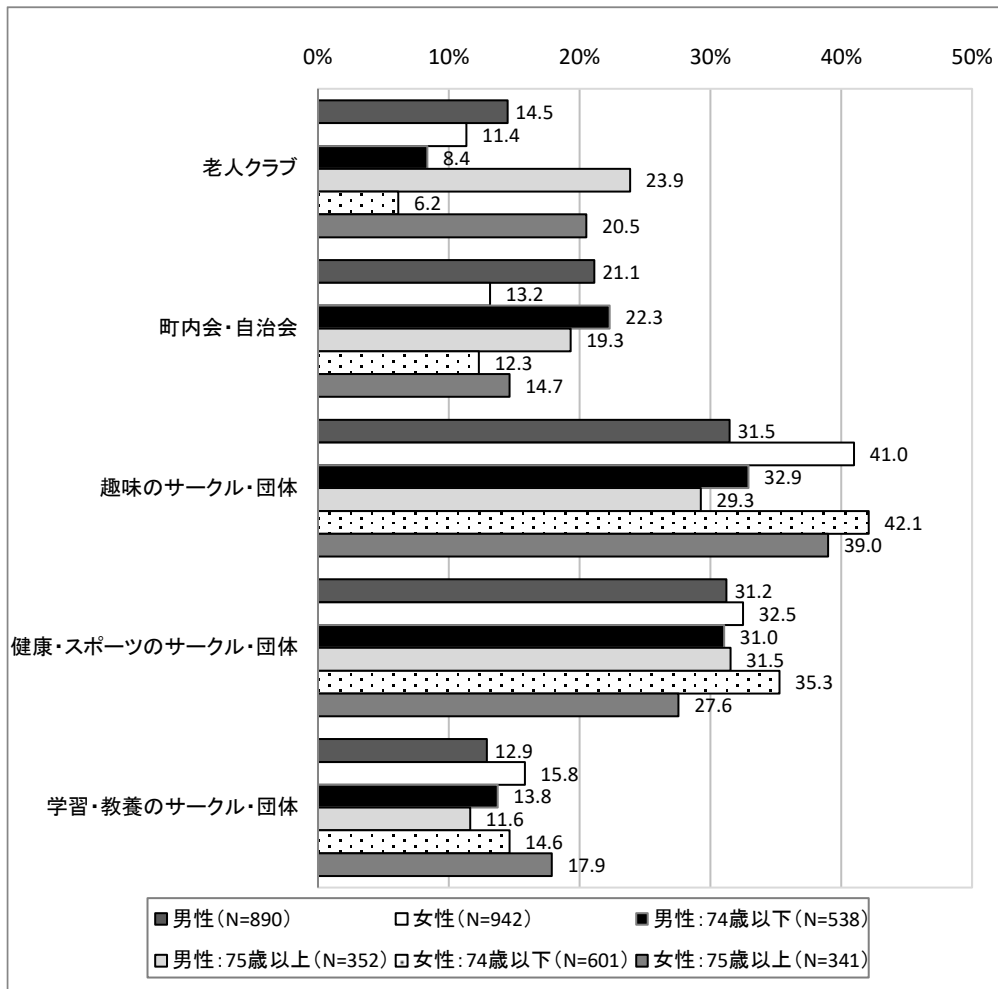
市全体では、「趣味のサークル・団体」が36.5%と最も高く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」が31.9%であった。



【性別・年代別（上位5項目）】

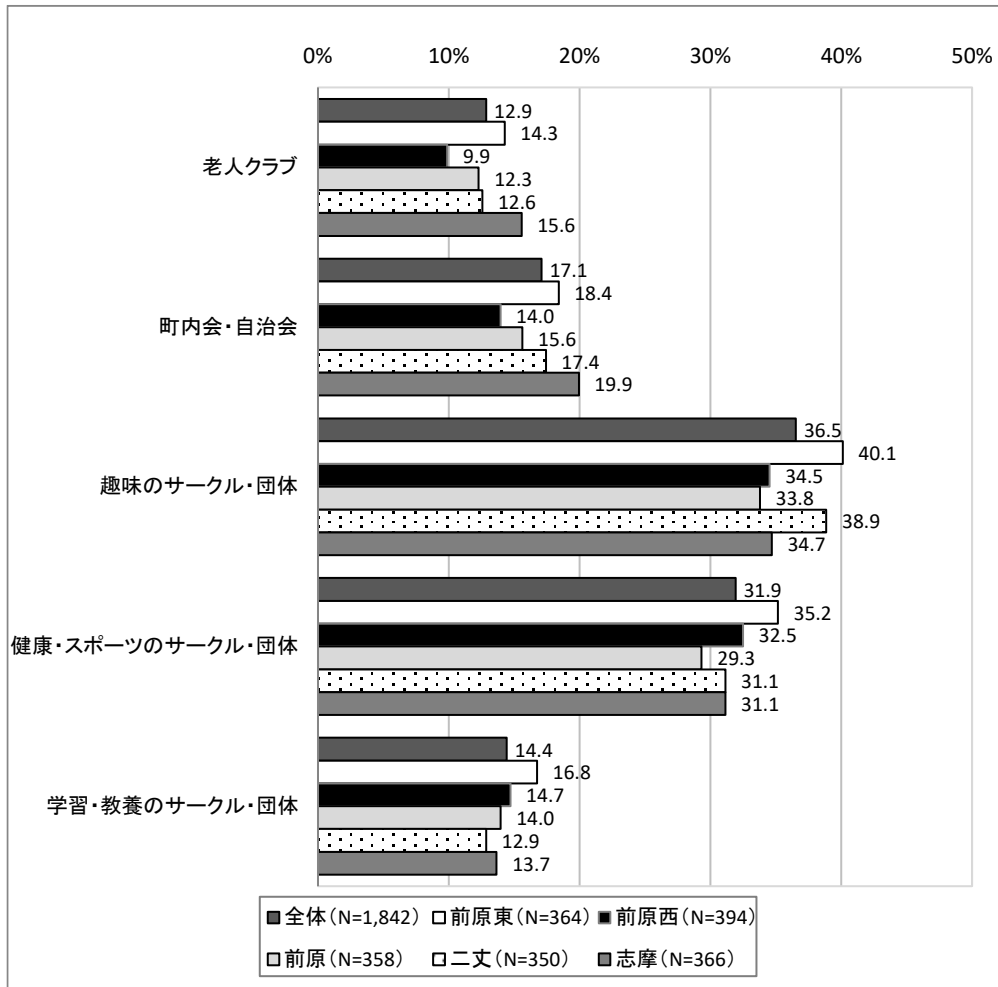
性別で見ると、男性の方が女性より割合が高いのは「町内会・自治会」（男性 21.1%、女性 13.2%）、「老人クラブ」（男性 14.5%、女性 11.4%）である。一方、女性の方が男性よりも高いのは「趣味のサークル・団体」（女性 41.0%、男性 31.5%）である。

年代別では、男女ともに年代が上がると「老人クラブ」の割合が増加している。また、男女ともに「趣味のサークル・団体」は年代が上がると減少している。



【圏域別（上位5項目）】

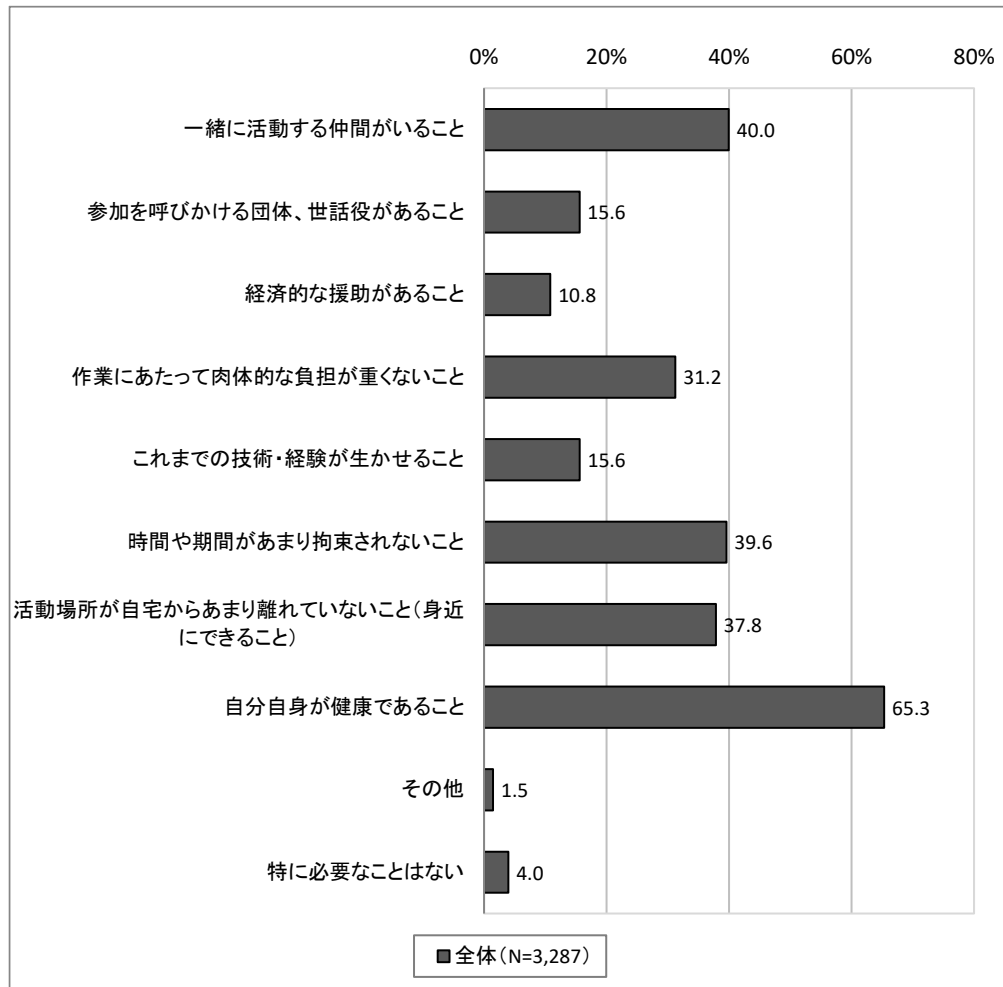
圏域別では、「老人クラブ」は志摩圏域で15.6%と最も高く、前原西圏域で9.9%と最も低くなっている。「町内会・自治会」は志摩圏域で19.9%と最も高く、前原西圏域で14.0%と最も低い。「趣味のサークル・団体」は前原東圏域で40.1%と最も高く、前原圏域で33.8%と最も低い。



(8) 地域の奉仕活動に参加するための条件（複数回答）

地域の奉仕活動に実際に参加するためにはどのような条件が必要だと思うかを尋ねた。

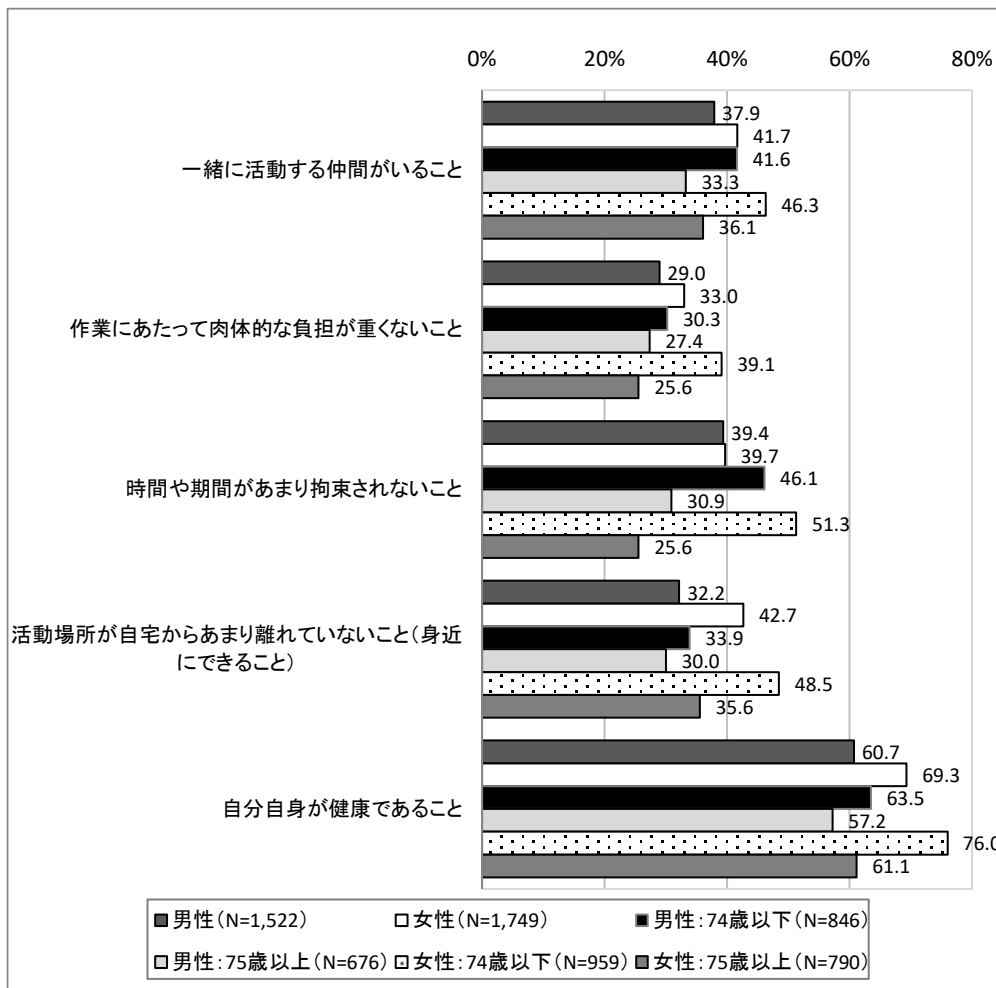
市全体では、「自分自身が健康であること」が最も高く 65.3%、次いで「一緒に活動する仲間がいること」が 40.0%、「時間や期間があまり拘束されないこと」が 39.6%、「活動場所が自宅からあまり離れていないこと」が 37.8%となっている。



【性別・年代別（上位5項目）】

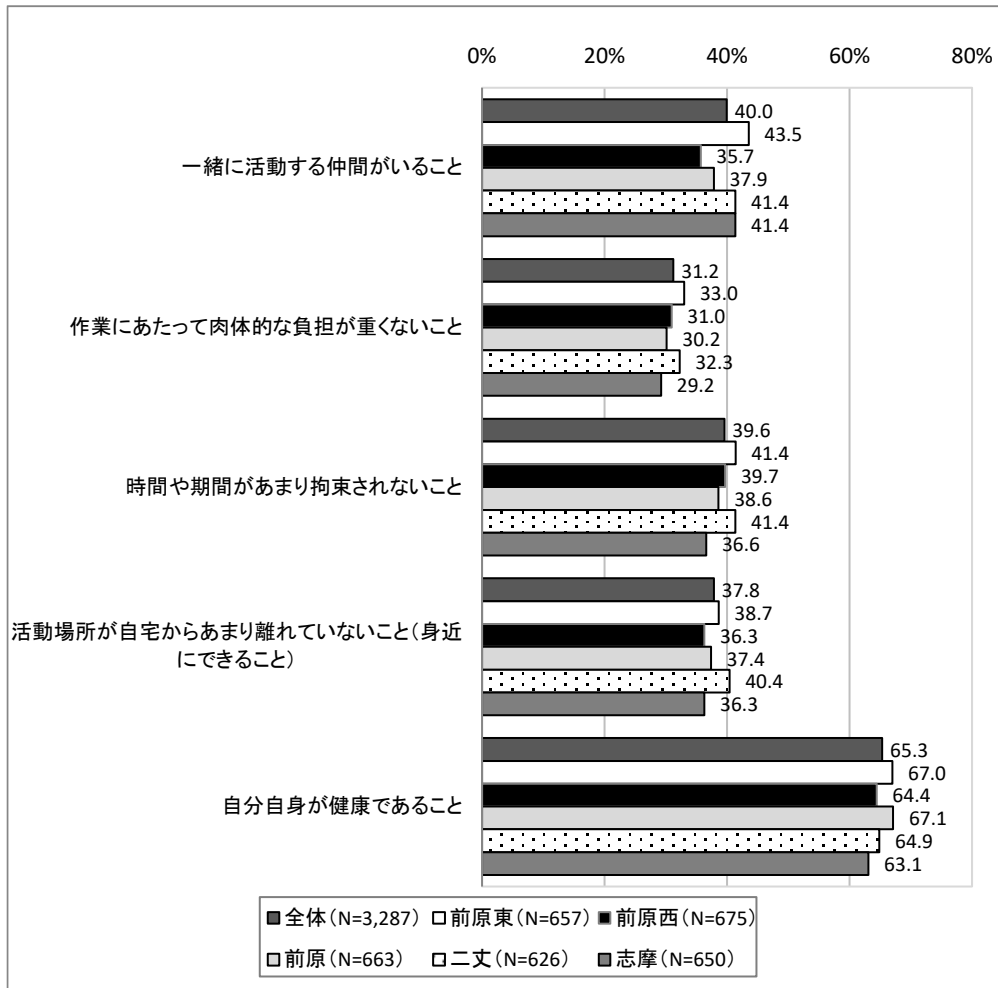
性別で見ると、すべての項目で女性の方が男性より割合が高く、「活動場所が自宅からあまり離れていないこと（身近にできること）」（女性 42.7%、男性 32.2%）、「自分自身が健康であること」（女性 69.3%、男性 60.7%）で差が大きくなっている。

年代別では、すべての項目において年代が上がると割合が減少している。特に減少幅が大きいものとしては男女ともに「時間や期間があまり拘束されないこと」（男性 74 歳以下 46.1%、男性 75 歳以上 30.9%）（女性 74 歳以下 51.3%、女性 75 歳以上 25.6%）、女性の「自分自身が健康であること」（女性 74 歳以下 76.0%、女性 75 歳以上 61.6%）などがあげられる。



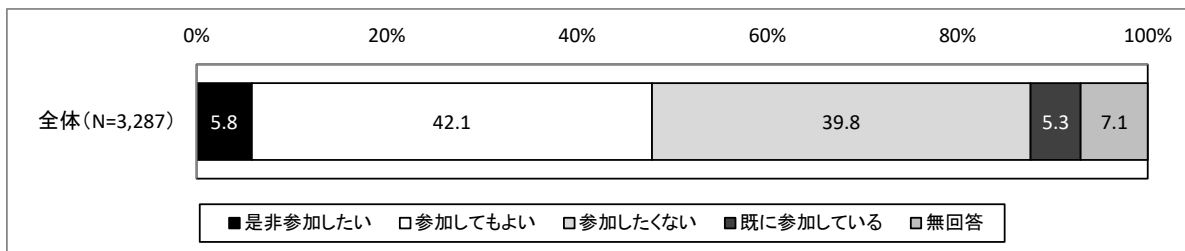
【圏域別（上位5項目）】

圏域別では、あまり大きな差はないが、「一緒に活動する仲間がいること」において前原東圏域で43.5%と最も高く、前原西圏域で35.7%と最も低く8ポイントほどの差がみられる。



(9) 健康づくり活動や趣味のグループに参加者として参加したいか

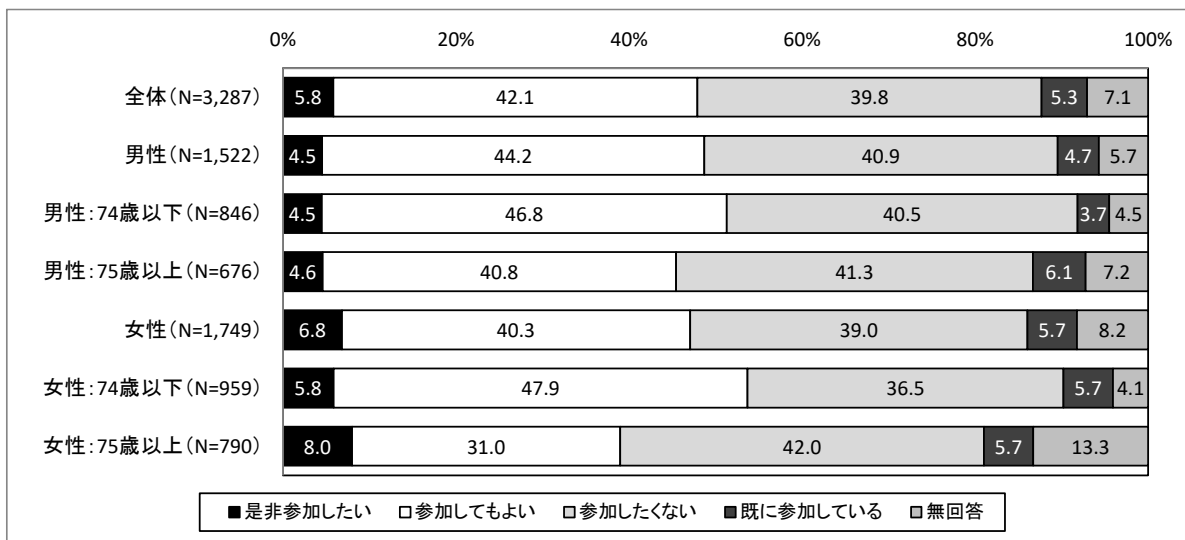
地域住民の有志によって行われる健康づくりや趣味等のグループに参加者として参加したいか尋ねた。市全体では、「参加してもよい」が42.1%、「参加したくない」が39.8%、「是非参加したい」が5.8%である。



【性別・年代別】

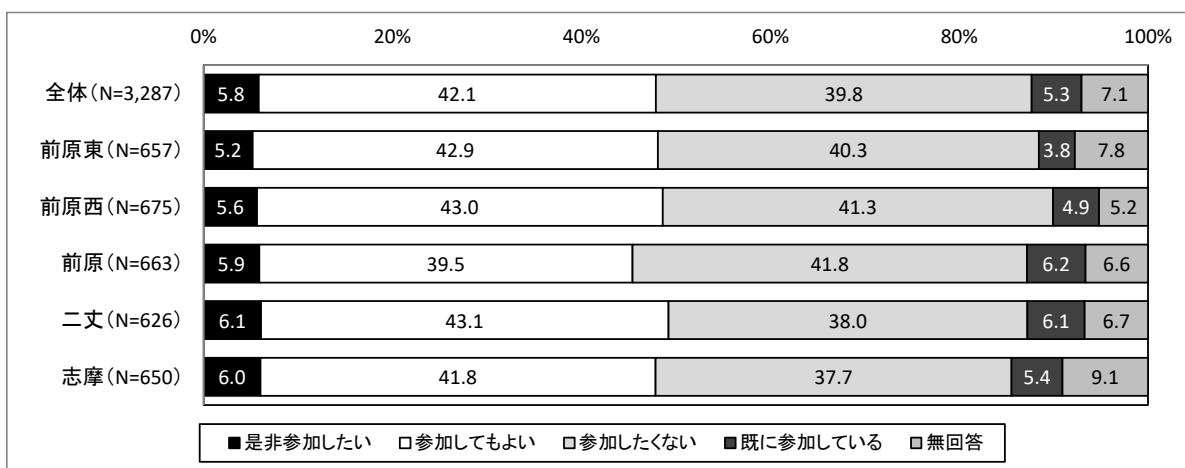
性別では、女性の方が若干「是非参加したい」の割合が高く（女性 6.8%、男性 4.5%）、「参加してもよい」（女性 40.3%、男性 44.2%）では女性の割合が低い。

年代別では男女ともに年代が上がると「参加してもよい」の割合が減少し、特に女性は17ポイント近く減少している。



【圏域別】

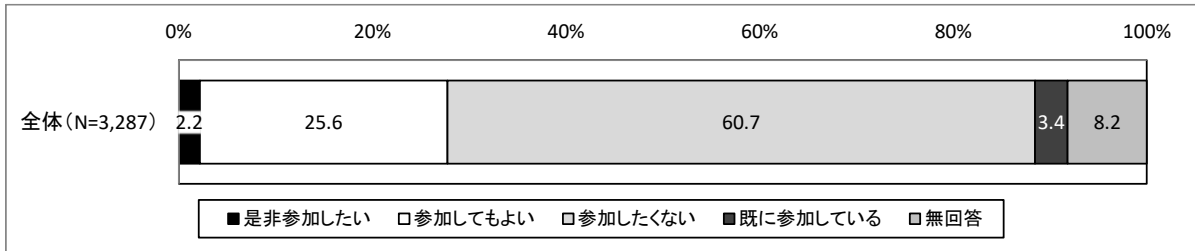
圏域別では、「参加したくない」と最も多く回答したのは前原圏域であり41.8%であり、最も少なく回答したのは志摩圏域であり37.7%となっている。



(10) 健康づくり活動や趣味のグループに企画・運営（お世話役）として参加したいか

地域住民の有志によって行われる健康づくりや趣味等のグループに企画・運営（お世話役）として参加したいかを尋ねた。

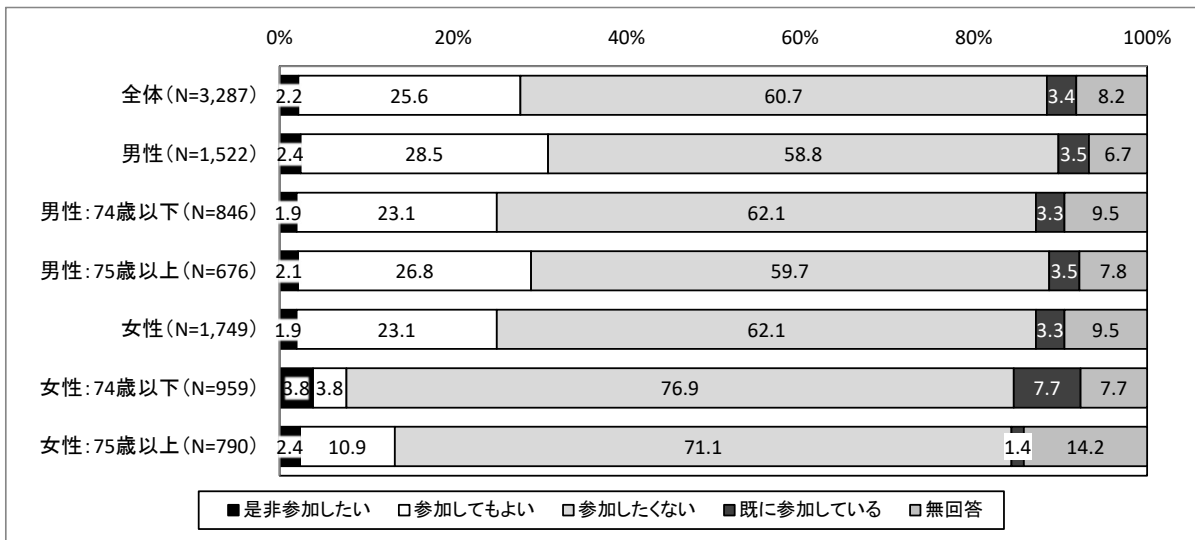
市全体で最も高かったのは「参加したくない」であり 60.7%、次いで「参加してもよい」が 25.6%、「既に参加している」が 3.4%であった。



【性別・年代別】

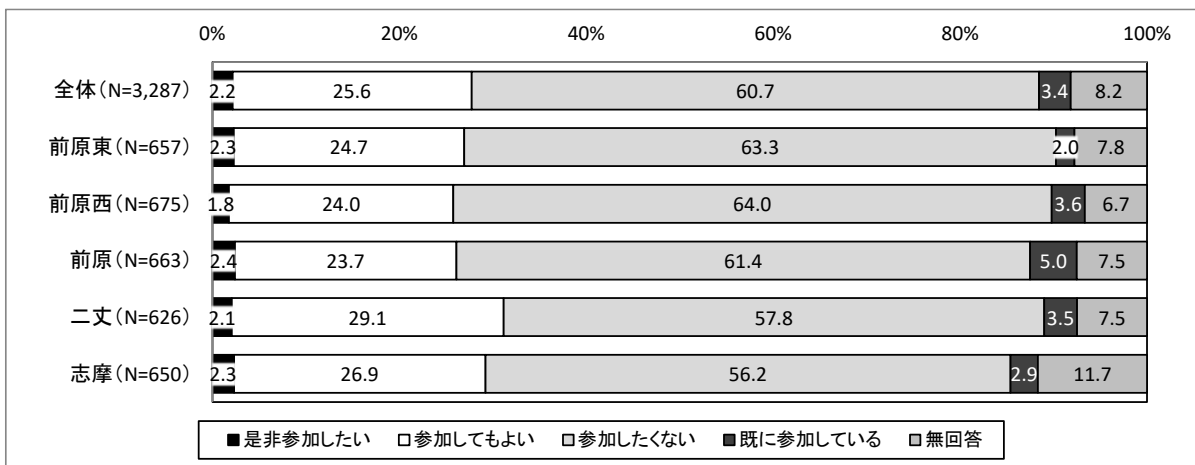
性別で見ると、男性は女性よりも「参加してもよい」の割合が高く、男性 28.5%、女性 23.1%であった。反対に「参加したくない」については女性 62.1%、男性 58.8%であった。

年代別で見ると、男女ともに年代が上がると「参加してもよい」が増加している。



【圏域別】

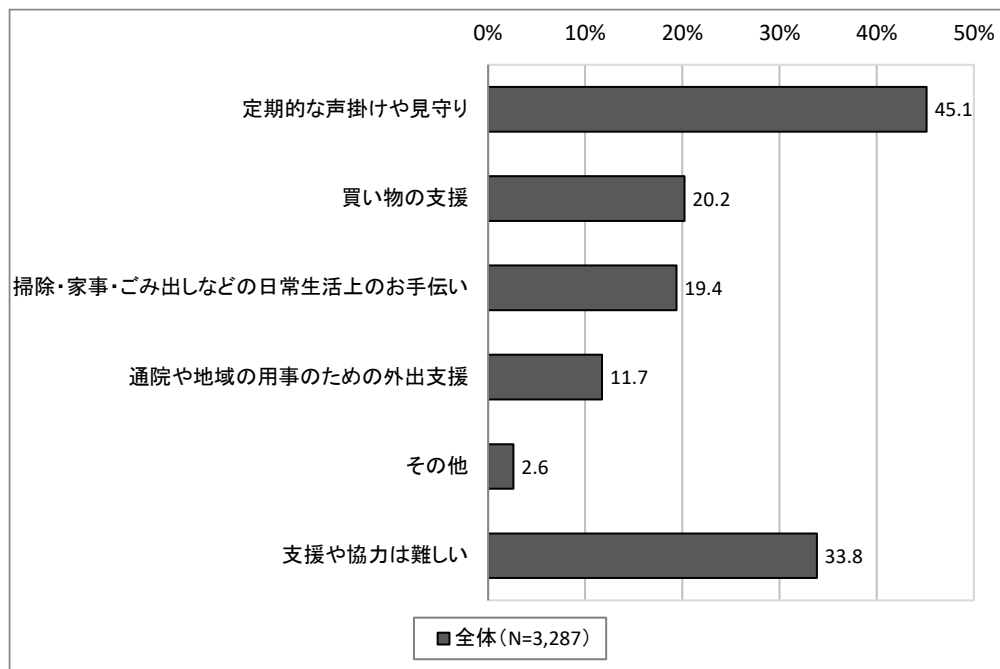
圏域別で見ると、「参加してもよい」は、二丈圏域 29.1%で他圏域と比較し、高くなっている。「参加したくない」については、志摩圏域 56.2%、二丈圏域 57.8%で低くなっている。



(11) あなたができる地域支援や協力（複数回答）

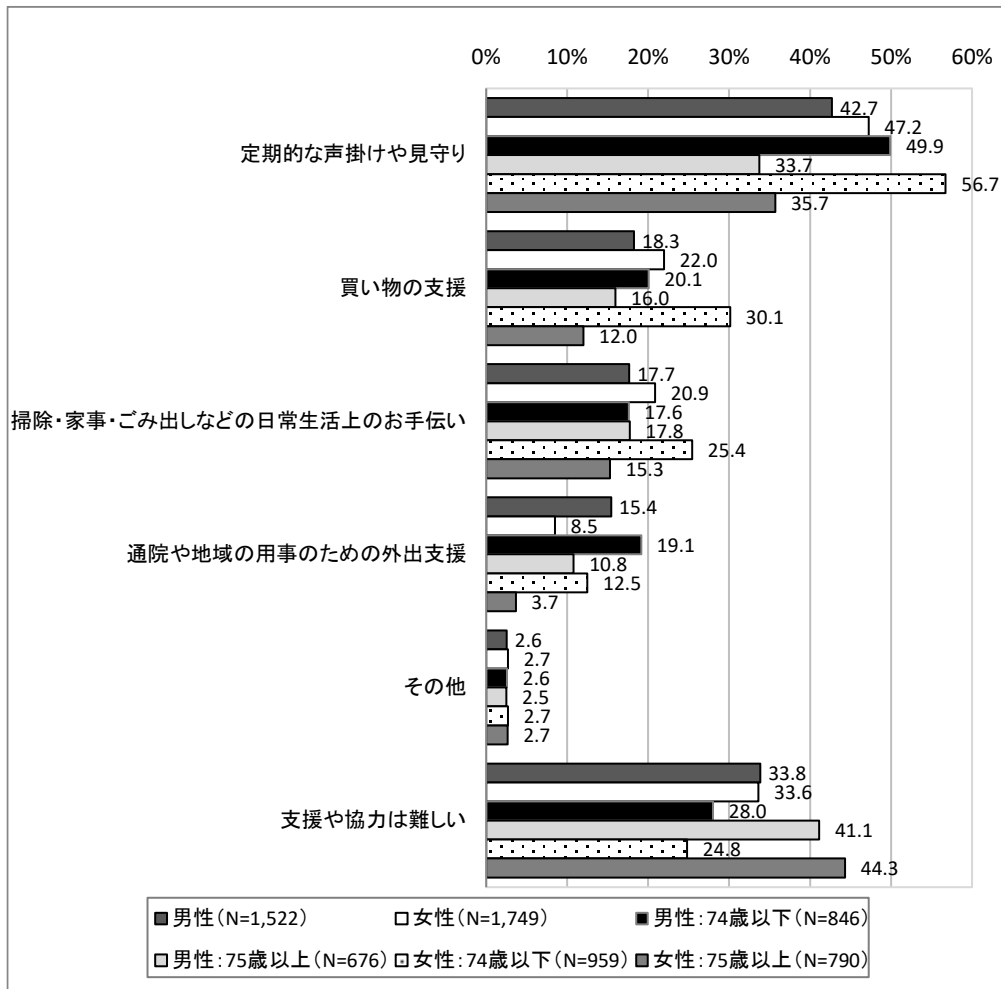
地域で支援や協力をするとしたら、どのようなことができると思うか尋ねた。

市全体では「定期的な声掛けや見守り」が45.1%と最も高く、次いで「支援や協力は難しい」が33.8%、「買い物の支援」が20.2%、「掃除・家事・ごみ出しなどの日常生活上のお手伝い」が19.4%である。



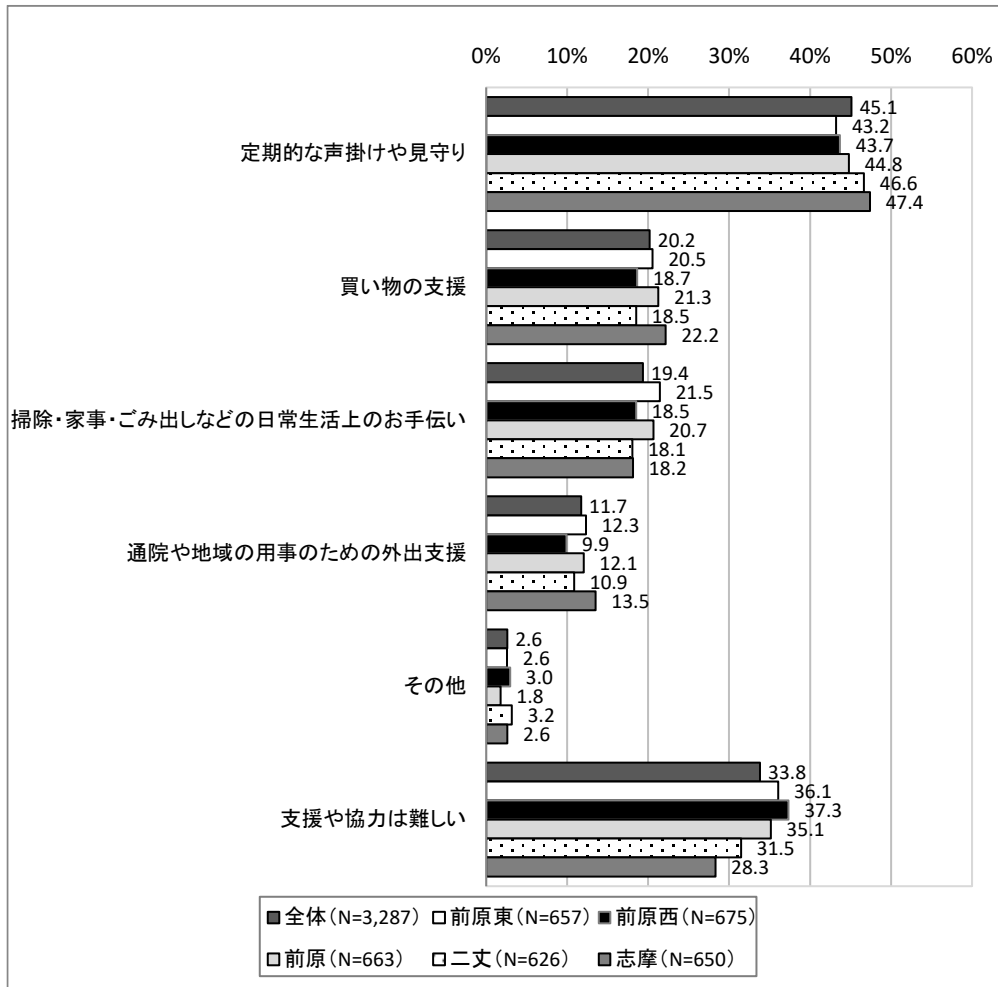
【性別・年代別】

性別では、大きな差はないが、「通院や地域の用事のための外出支援」は男性 15.4%、女性 8.5%で男性の方が高くなっている。また、「定期的な声掛けや見守り」では女性の方が 4.5 ポイントほど高くなっている。年代別では、年代が上がるほど、「支援や協力は難しい」の割合が高くなり、他項目の割合は下がっている。



【圏域別】

圏域別では、「定期的な声掛けや見守り」は志摩圏域で47.4%と高くなっている。一方で前原東圏域は43.2%とやや低くなっている。「支援や協力は難しい」は前原西圏域で37.3%と高くなっている。反対に最も低いのは志摩圏域の28.3%である。



Ⅲ 日常生活圏域の特性



日常生活圏域の特性

調査結果に基づいて、日常生活圏域ごとに、市全体との比較を通して、高齢者の特性と課題について整理した。

1 前原東圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

「持家(一戸建て)」が最も少なく、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が多い。家族構成としては「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が多く、他圏域と比較するとやや「一人暮らし」が多い地域でもある。暮らしの経済状況は、「大変苦しい」が他圏域と比較し若干高くなっている。

外出時の移動手段は「自動車(自分で運転)」が「徒歩」が主である。他圏域との比較では「タクシー」利用の割合が若干高くなっている。

自治会・町内会への参加状況は「参加していない」が 42.5%と市全体の未参加率と比較して高い。一方、看病してくれる人、愚痴を聞いてくれる人として「近隣」と回答した割合は他圏域と比較しいずれも高く、地域づきあいが行われていないわけではない。

新聞や本、雑誌の閲覧、健康についての情報への関心などで判定する知的能動性が「高い」と判定された対象者の割合は最も高く、盛んな情報収集を行う回答者が多い地域である。

主観的健康感をみると、「まあよい」が 71.2%と他の圏域と比較して最も高くなっているが、「とてもよい」の割合が市全体よりやや低くなっている。有病率は「高血圧」が 43.7%、次いで「目の病気」が 16.4%となっている。ただし「目の病気」の割合は他圏域と比較し低くなっている。

「生活機能低下」状況については低下該当率率が他圏域と比較しやや高く、「運動機能低下」、「閉じこもり」、「栄養改善」、「口腔機能低下」についても該当率が高くなっている。一方で、「認知症リスク」該当率については他圏域よりも低くなっている。

介護・介助の必要状況は、「介護・介助は必要ない」が 84.0%と市全体より若干低くなっている。また「何らかの介護は必要だが、現在は受けていない」が 7.6%と他の圏域と比較し最も多くなっていることから、潜在的な要介護者がいると想定される。

介護予防の実践状況では、「栄養バランスのとれた食事をとる」、「体操や運動をする」、「十分な睡眠をとる」などの介護予防のための取組を他圏域と比較して多くの人が行っている。参加したい介護予防の取組では、「介護施設などに出かけていき、体操やレクリエーションをする」が 12.8%と他の圏域と比較しても最も高くなっている。

介護が必要になった際の生活様式は、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 31.5%で最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」18.0%の順となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

【波多江小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が64.2%で最も多く回答されているものの、他の小学校区と比較すると割合は低くなっている(市全体「持家(一戸建て)」83.2%)。一方、「持家(集合住宅)」や「民間賃貸住宅(集合住宅)」の割合は市全体よりも高くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が54.7%である。市全体との比較では「大変ゆとりがある」の割合が高くなっており、全小学校区の中で最も高い。

外出する際の移動手段としては「徒歩」が最も高く63.2%である。次いで「自動車(自分で運転)」55.2%である。市全体と比較すると、「自動車(自分で運転)」は6ポイント低く、「電車」、「徒歩」、「自転車」等の項目で市全体よりも高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感「まあよい」が73.1%で最も高くなっている。有病率では「高血圧」が最も高く、次いで「目の病気」となっている。また「腎臓・前立腺の病気」が2.3%と、市全体よりも高くなっている。肥満度は市全体と比較すると「低体重」が9.0%でやや高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当状況は一般高齢者が67.9%で市全体よりも4ポイント近く高い。「運動機能低下」、「口腔機能低下」、「閉じこもり」、「認知症リスク」、「転倒リスク」などでも市全体より低い該当率である。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が48.6%で最も高い。生きがいを感じる時は「趣味やスポーツに熱中している時」が54.6%で最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」が54.0%である。

介護予防・終末期に関する希望

介護・介助の必要状況については「介護・介助は必要ない」が86.3%となっている。介護予防のための取組としては「栄養バランスのとれた食事をする」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」、「十分な睡眠をとる」に半数以上の回答者が取り組んでいる。参加したい介護予防の取組は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が41.5%で最も高く、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が31.1%である。介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が30.7%で最も高いが、市全体と比較すると2.9ポイント低くなっている。

【東風小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が他小学校区と比較して少なく、また「民間賃貸住宅(集合住宅)」に居住する回答者が多い地区である。家族構成は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が最も高く41.5%である。暮らしの経済状況は、市全体と比較しても大きな差はなく、「ふつう」が54.9%、次いで「やや苦しい」が26.8%となっている。外出時の移動手段は「徒歩」が57.6%、次いで「自動車(自分で運転)」が54.9%である。市全体と比較すると「徒歩」57.6%、「電車」24.1%、「自転車」22.8%が高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感は、「まあよい」が66.1%で最も高くなっており、次いで「あまりよくない」が18.3%である。有病率は「高血圧」が45.5%で最も高く、次いで「目の病気」が15.6%である。

生活機能

「生活機能低下」の該当状況は一般高齢者が63.4%で市全体よりも1ポイントほど低い。「運動機能低下」、「口腔機能低下」、「閉じこもり」などでも市全体より高い該当率である。一方、「認知症リスク」判定では該当が市全体よりも低くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が44.2%で最も高く、次いで「十分感じている」が25.4%である。生きがいを感じる時は「孫など家族との団らんの時」が52.6%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」が51.3%である。参加したい活動としては「健康・スポーツ」が最も高く33.0%である。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要性については「介護・介助は必要ない」が83.9%である。実践している介護予防の取組については「栄養バランスのとれた食事をとる」と「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「十分な睡眠をとる」が半数を超えている。参加したい介護予防の取組では「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が最も高く37.5%である。市全体との比較では「ボランティア活動やNPOなどに参加する」が5.4%と低くなっている。介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が29.5%で最も高くなっている。市全体との比較では「その他」が5.8%と高くなっており、多様な生活様式が望まれている地域である。

【怡土小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が非常に多く93.2%となっている。一方、「持家(集合住宅)」や「民間賃貸住宅(集合住宅)」が市全体よりも低く、一戸建ての多い地域である。暮らしの経済状況は「ふつう」が57.0%で最も高く、次いで「やや苦しい」の21.7%である。市全体と比較すると「やや苦しい」が低くなっている。

外出時の移動手段としては「自動車(自分で運転)」が68.3%で最も高い。一方、「徒歩」は27.1%と他小学校区と比較して最も低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康状態は「まあよい」が74.7%で最も高くなっている。次いで「あまりよくない」の14.0%である。有病率では「高血圧」が41.2%で最も高く、次いで「糖尿病」が18.1%である。

生活機能

「生活機能低下」は35.7%である。「閉じこもり」については市全体より5.2ポイント高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が44.8%で最も高く、次いで「十分感じている」の28.5%である。生きがいを感じる時としては「友人や知人と食事、雑談している時」が56.2%で最も高くなっている。市全体との比較では、「趣味やスポーツに熱中している時」が46.3%、「おいしい物を食べている時」が45.1%、「夫婦団らんの時」が36.4%となっており、市全体と比較し低くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要性については「介護・介助は必要ない」が81.9%で最も高くなっている。実践している介護予防のための取組では「栄養バランスのとれた食事をする」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」、「十分な睡眠をとる」が半数を超えている。市全体との比較では「栄養バランスのとれた食事をする」が5.7ポイント低くなっている。参加したい介護予防の取組は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が38.5%で最も高くなっている。介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が34.4%で最も高くなっている。終末期を迎える場所の希望では「自宅」が40.7%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が31.2%である。

2 前原西圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

「持家(集合住宅)」、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が比較的多い圏域である。「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」の割合が最も多い圏域であり、経済状況は「大変ゆとりがある」、「ややゆとりがある」と回答した方の割合が比較的高い圏域でもある。

外出時の移動手段として「徒歩」や「電車」、「タクシー」などを利用する割合が他圏域より高い。

自治会・町内会への参加状況は「参加していない」が 47.1%と他の圏域と比較して最も高くなっているが、看病してくれる人、愚痴を聞いてくれる人として「近隣」と回答した割合は他圏域と比較し、いずれも高く、地域づきあいが行われていないわけではない。

主観的健康感では「まあよい」の回答が最も多い。有病率では「高血圧」の割合が市全体と比較して若干低くなっているが、「高脂血症」、「目の病気」では他の圏域と比較して最も高くなっている。

実際に介護・介助の必要状況についてみると、「介護・介助は必要ない」が 87.4%であり、これは全圏域の中で最も高い。

生活機能の低下状態をみると「生活機能低下」該当率は 31.7%となっており、市全体よりもやや低くなっている。これは「閉じこもり」、「口腔機能低下」などにも当てはまる。

介護予防の実践状況では、「特に実践していることはない」以外のほとんどの項目において市全体の平均を上回っており、「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「体操や運動をする」、「健康診断などを定期的に受ける」では他の圏域と比較して最も高くなっている。参加したい介護予防の取組では、「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 42.2%と他の圏域と比較しても最も高くなっている。

将来介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 34.1%で最も高い。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 16.6%となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

【前原小学校区】

暮らしの状況

「持家(集合住宅)」の割合が市全体と比較し、非常に高い地域である。家族構成としては「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が高く41.7%である。暮らしの経済状況としては「ふつう」が最も多く回答されており57.5%である。移動手段としては「徒歩」と「自動車(自分で運転)」の割合が高い。市全体との比較では「徒歩」68.9%と「電車」30.7%の割合が高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感「まあよい」が70.2%となっており、市全体と比較するとやや高い。有病率についてみると、「高血圧」が最も多く選択されており44.7%、次いで「目の病気」が19.3%となっている。肥満度は「普通体重」が最も高く、市全体よりも「肥満体重」の割合は少なくなっているものの、「低体重」の割合は高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の割合は31.1%であり、市全体より低くなっている。「閉じこもり」該当は20.2%で市全体よりもわずかに高くなっている。

地域活動 生きがい

感じている生きがいの程度は「多少感じている」が46.9%で最も高く、次いで「十分感じている」が27.6%である。市全体と比較すると、大きな差は見られない。生きがいを感じる時は「おいしい物を食べている時」が58.8%で最も高い。市全体と比較すると「おいしい物を食べている時」が58.8%、「旅行に行っている時」が40.0%で高くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

介護・介助の必要状況については「介護・介助は必要ない」が90.4%となっており、介護予防のための取組として「栄養バランスのとれた食事をする」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「十分な睡眠をとる」が半数を超えている。参加したい介護予防の取組としては「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が43.4%、「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が22.8%である。

介護が必要になった際の生活様式の意向としては、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が37.7%で最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が14.5%となっている。

【南風小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が 87.9%で市全体と比較しても多い地域であり、「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 45.5%で最も多い。次いで「息子・娘と 2 世帯」が 17.3%となっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 63.2%と最も多く回答されているものの、市全体と比較すると「ややゆとりがある」が 8.2%と高くなっている。外出する際の移動手段としては、「徒歩」が 58.9%で最も高くなっている。市全体との比較では「徒歩」58.9%、「電車」28.1%、「路線バス」19.5%が高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感「まあよい」が 65.4%と最も高く、次いで「あまりよくない」が 18.6%である。有病率では「高血圧」が 39.4%で最も高く、次いで「高脂血症(脂質異常)」が 20.3%である。市全体と比較すると「腎臓・前立腺の病気」が 9.5%と高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の割合は 26.8%と、市全体より低くなっている。他のリスク判定については「非該当」が市全体よりも低くなっている。

地域活動 生きがい

回答者の心配事や愚痴を聞いてくれる人については「配偶者」が 62.3%で最も高くなっている。市全体と比較すると「友人」が 39.0%と低くなっている。

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 42.0%で最も高く、次いで「十分感じている」が 28.1%である。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要性は「介護・介助は必要ない」が 86.1%で最も高くなっている。実践している介護予防のための取組は「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」、「十分な睡眠をとる」で半数を超している。市全体との比較では「栄養バランスのとれた食事をとる」69.3%、「散歩など、できるだけ歩くようにする」63.2%、「健康診断などを定期的に受ける」59.7%、「十分な睡眠をとる」53.2%、「体操や運動をする」46.8%、「趣味や地域活動に取り組む」25.5%が高い。参加したい介護予防の取組は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」42.0%が最も高くなっている。

介護が必要になった際の生活様式については「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 36.4%と最も高くなっている。市全体との比較では「自宅で家族中心に介護を受けたい」が 13.0%と高くなっている。

【加布里小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が非常に多く、回答者の 83.8%が「持家(一戸建て)」と回答している。また「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が回答者の 37.0%を占めている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 54.2%で最も多く回答されている。

外出時の移動手段は「自動車(自分で運転)」が 56.9%、「徒歩」が 54.2%である。他小学校区との比較では「自動車(人に乗せてもらう)」29.2%も高くなっている。知的能動性判定については「高い」と判定された回答者が 38.4%で最も高くなっているものの市全体との比較では、市全体よりも9ポイントほど低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感については、「まあよい」が 69.0%と最も多く回答されており、次いで「あまりよくない」が 16.7%である。有病率については「高血圧」が 46.3%で最も高い。次いで「目の病気」25.0%である。肥満度は「普通体重」が 69.0%であり、他小学校区と比較しても高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」該当が 37.5%で市全体よりも 4.6 ポイント高くなっており、「運動機能低下」20.4%、「口腔機能」27.3%、「認知症リスク」58.3%、「転倒リスク」32.9%等でも市全体を有意に上回っている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が最も高く 49.1%である。次いで「十分感じている」が 27.3%である。市全体と比較すると「全く感じていない」が 1.9%で高くなっている。生きがいを感じる時は「孫など家族との団らんの時」が 51.5%と最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」、「友人や知人と食事、雑談している時」で 49.7%である。市全体との比較では「他人から感謝された時」が 18.2%と低くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

現在の介護・介助の必要状況についてみると、「介護・介助は必要ない」が 85.6%と最も高くなっている。介護予防のための取組としては半数以上の回答者が「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」を行っている。参加したい介護予防の取組は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が最も高く 41.2%、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 25.5%である。

介護が必要になった際の生活様式については「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 27.8%で最も高くなっている。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 19.0%である。

3 前原圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

「持家(一戸建て)」及び「民間賃貸住宅(集合住宅)」の割合が市全体の平均とほぼ同程度の地域であり、「息子・娘との世帯」の割合が最も高い地域でもある。暮らしの経済状況は、「大変苦しい」、「やや苦しい」が他圏域と比較し最も高くなっている。

外出時の移動手段は「自動車(自分で運転)」などが多く利用されているものの、「閉じこもり」判定該当者の割合は19.5%で他の圏域と比較して高い。

主観的健康感では「あまりよくない」、「よくない」の回答が他の圏域より多く、有病率では「心臓病」、「糖尿病」、「がん」、「耳の病気」などいくつかの項目において、他圏域と比較して最も高くなっている。

「生活機能低下」の該当状況は他圏域と比較し、最も該当割合が高く35.9%となっている。加えて、「運動機能低下」、「転倒リスク」、「口腔機能低下」該当者の割合は全圏域の中で最も高く、きめ細やかな注意と支援が必要な地域と言える。実際、「現在、何らかの介護を受けている」と「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合も全圏域の中で最も高くなっている。

介護予防の実践状況では、「栄養バランスのとれた食事をとる」以外のほとんどの項目において市全体の平均を下回っている。しかし、参加したい介護予防の取組では、「自宅でリハビリテーションを受ける」14.6%と「介護予防の知識や実践方法を学ぶ講座に参加する」22.2%において他の圏域と比較して最も高くなっていることから、参加しやすい介護予防の取組が必要である。

介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が34.7%で最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が16.9%となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

【前原南小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が市全体と比較して少なく、「持家(集合住宅)」や「公営賃貸住宅」、「民間賃貸住宅(集合住宅)」、「借家」などに居住する回答者が多い。家族構成は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が最も多く 44.3%である。暮らしの経済状況は「ふつう」が 55.7%で最も高くなっている。次いで「やや苦しい」が 26.8%であるが、いずれの項目も市全体と比較し有意な差ではない。

外出時の移動手段は、「徒歩」が 58.8%で最も高く、次いで「自動車(自分で運転)」が 56.6%となっている。市全体と比較すると「徒歩」58.8%と「電車」26.3%、「タクシー」13.6%は高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感「まあよい」が 67.5%で最も高くなっている。次いで「あまりよくない」の 14.9%である。有病率は「高血圧」が 31.1%で最も高く、次いで「ない」が 18.9%である。

生活機能

各種リスク判定についてはいずれも市全体と比較して有意な差はなく、地域としては大きな問題はない。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 50.4%で最も高く、次いで「十分感じている」が 21.9%である。生きがいを感じる時は「友人や知人と食事・雑談している時」が最も高く 52.7%、次いで「孫など家族との団らんの時」が 49.7%である。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要性は「介護・介助は必要ない」が 81.6%、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 9.2%である。市全体と比較すると「介護・介助は必要ない」は 3 ポイントほど低く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は 3 ポイントほど高い。実践している介護予防のための取組では「栄養バランスのとれた食事をとる」が 64.5%で最も高く、次いで「散歩など、できるだけ歩くようにする」が 57.5%である。参加したい介護予防の取組は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 32.5%で最も高く、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 28.1%である。ただし、市全体と比較すると有意な差はない。

介護が必要となった際の生活様式については、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 35.1%と最も高くなっている。

【長糸小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が 93.3%で最も高くなっている。市全体との比較では「持家(一戸建て)」は 10 ポイントほど高い。持家・賃貸を問わず一戸建てが多い地域であると言える。家族構成は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 33.9%で最も高くなっている。一方で市全体と比較すると「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」は低く、「息子・娘との 2 世帯」や「その他」の家族構成が高くなっている。暮らしの経済状況は市全体と比較し「やや苦しい」31.7%が 7 ポイントほど高くなっている。

外出時の移動手段としては「自動車(自分で運転)」が 66.5%で最も高い。一方、「徒歩」は 29.9%と、他小学校区と比較して低くなっている。また、「病院や施設のバス」は 7.6%で有意に高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感「あまりよくない」が市全体より 4 ポイントほど高く、他小学校区と比較して最も高くなっている。有病率は「高血圧」が 46.0%、次いで「目の病気」が 19.2%である。また、「心臓病」についても 13.8%で市全体と比較し有意に高くなっている。肥満度は「肥満体重」が市全体と比較してやや高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」該当が 39.7%で市全体よりも 7 ポイントほど高くなっており、「運動機能低下」24.1%、「口腔機能」28.1%、「閉じこもり」21.0%、「転倒リスク」40.6%等でも市全体を上回っている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 47.8%、「十分感じている」が 25.4%である。生きがいを感じる時は「友人や知人と食事、雑談している時」が 59.1%で最も高く、次いで「孫など家族との団らんの時」が 54.9%である。市全体と比較すると、「仕事に打ち込んでいる時」が 47.0%で市全体よりも高くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要状況は「介護・介助は必要ない」が 82.6%で最も高く、市全体と比較して大きな差はない。介護予防のために行っている取組としては「栄養バランスのとれた食事をとる」は半数以上の回答者が取り組んでいる。参加したい介護予防の取組としては「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 30.4%で最も高く、市全体と比較して 7 ポイントほど低くなっている。

介護が必要となった際の生活様式としては「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 34.8%で最も多く回答されている。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 16.1%である。

【雷山小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が88.2%で最も多い地域である。家族構成としては「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が最も高く30.8%である。暮らしの経済状況は「ふつう」が56.9%、次いで「やや苦しい」が27.5%である。外出の際の移動手段は、「自動車(自分で運転)」が61.1%で最も高く、次いで「徒歩」が38.4%である。

健康状態

主観的健康感については「まあよい」が69.7%で最も多く回答されており、次いで「あまりよくない」が15.2%である。有病率については「高血圧」が51.2%、「目の病気」が18.5%となっている。市全体との比較では「高血圧」は7ポイントほど高くなっている。肥満度は「普通体重」が68.7%で高い。市全体と比較すると「低体重」が4.7%と低くなっている。

生活機能

「生活機能低下」については市全体並みであるが、「口腔機能低下」該当者は26.1%と市全体よりも高い。また、「閉じこもり」該当者についても24.8%と市全体よりも高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が44.5%、「十分感じている」が26.5%である。生きがいを感じる時は「孫など家族との団らんの時」が61.3%で最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」が49.3%である。市全体と比較すると、「他人から感謝された時」が34.7%で市全体よりも高くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要性はほぼ市全体並みであり、85.8%の回答者が「介護・介助は必要ない」と回答している。介護予防のために実践していることは「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」などであり、これらの取組は雷山小学校区の回答者の半数以上が実践している。市全体との比較では「趣味や地域活動に取り組む」が18.5%と低くなっていることが特徴である。参加したい介護予防の取組では、「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が35.1%と最も高くなっている。

介護が必要となった際の生活様式としては「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が34.1%で最も高くなっている。

4 二丈圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

「持家(一戸建て)」の割合が志摩圏域に次いでが高く、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が少ない地域である。「夫婦2人暮らし(配偶者 65歳以上)」世帯が多い地域であり、また、「その他」の割合が他圏域と比較し高くなっている。多様な家族構成の世帯が存在する圏域であると言える。暮らしの経済状況としては「ふつう」が61.8%であり、他圏域と比較し最も高い。

移動手段としては「自動車(自分で運転)」が最も高く61.0%、「自動車(人にのせてもらう)」も市全体よりも高くなっている。そのため、「路面バス」、「タクシー」などは市全体と比較しやや低くなっている。

自治会・町内会への非参加率は33.7%であり、他圏域と比較し最も低く、自治会・町内会への参加が行われている地域である。

主観的健康感では「とてもよい」の回答が他の圏域より多く、有病率については「ない」が14.9%とわずかながらではあるが他圏域よりも高くなっている。一方、「高血圧」が47.0%、「筋骨格の病気」が11.3%とともに他の圏域と比較して最も高くなっているとともに、肥満度は「肥満体重」が21.9%と市全体よりも高くなっている。

生活機能の低下状態をみると「生活機能低下」該当率は31.9%となっており、市全体よりもやや低くなっている。これは「運動機能低下」、「閉じこもり」、「転倒リスク」、「栄養改善」、「虚弱」などにも当てはまる。

介護予防のため実践している取組において、「特に実践していることはない」が12.9%で他の圏域と比較して最も高くなっており、その他のほとんどの取組に関しては市全体の平均を下回っている。

介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が35.4%で最も高く、他圏域と比較しても最も高い。

(2) 小学校区ごとの特性

【一貴山小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が多い地域であり 89.0%である。家族構成は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 44.0%で最も高い。市全体と比較すると「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」が 2.4%で低くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 61.9%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 25.2%である。外出する際の移動手段としては、「自動車(自分で運転)」が最も高く 63.8%、次いで「徒歩」が 41.0%である。市全体との比較では「路線バス」が 5.2%で低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感「まあよい」が 69.5%で最も高くなっている。有病率では「高血圧」が 44.8%、次いで「目の病気」が 17.1%である。肥満度については「普通体重」が 59.5%であり、市全体と比較して低くなっている。

生活機能

「生活機能低下」については市全体並みであるが、「口腔機能低下」該当者は 24.3%と市全体よりも高い。また、「認知症リスク」該当者についても 55.7%と市全体よりも高くなっている。

地域活動 生きがい

町内会・自治会への参加頻度では「参加していない」が 33.3%であり、市全体よりも低くなっている。町内会・自治会活動が活発な地域であると言える。現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 47.1%で最も高く、次いで「十分感じている」が 29.0%となっている。生きがいを感じる時は「おいしい物を食べている時」が 52.5%で最も高く、次いで「孫など家族との団らんの時」の 51.9%である。

介護予防・終末期に関する希望

介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が 86.7%で最も高い。市全体と比較すると「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 4.3%で低くなっている。実践している介護予防の取組としては「栄養バランスのとれた食事をとる」と「散歩など、できるだけ歩くようにする」は半数以上の回答者が取り組んでいる。参加したい介護予防の取組は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 37.1%で最も高くなっている。介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 31.9%で最も高い。市全体との比較では「自宅で家族中心に介護を受けたい」が 13.8%で市全体よりも高くなっている。

【深江小学校区】

暮らしの状況

暮らしの状況「持家(一戸建て)」に居住する回答者が 83.4%と最も高い。家族構成は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 39.8%で最も多いが、市全体と比較すると「1 人暮らし」が 10.0%と低くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 61.6%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 24.6%である。

外出時の移動手段は「自動車(自分で運転)」が 60.7%、「徒歩」が 56.4%である。市全体と比較すると「自転車」が 20.4%と高くなっている。一方、「路線バス」は 6.6%と低くなっている。町内会・自治会への参加頻度は「参加していない」が 31.3%と市全体よりも低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感については「まあよい」が 69.2%で最も高い。次いで「あまりよくない」の 17.1%である。有病率は「高血圧」が 50.2%で最も高く、次いで「目の病気」が 21.8%である。市全体と比較すると「心臓病」が 8.5%と低くなっている。

生活機能

各種リスク判定については市全体と比較すると、「非該当」が高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 49.8%で最も高く、次いで「十分感じている」が 27.5%である。生きがいを感じる時は「孫など家族との団らんの時」が 55.2%で最も高く、次いで「おいしい物を食べている時」が 49.1%となっている。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要性は「介護・介助は必要ない」が 83.9%で最も高くなっている。実践している介護予防のための取組として、「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」については半数以上の回答者が行っている。参加したい介護予防の取組は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が最も高く 37.4%、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 26.5%である。

介護が必要となった際の生活様式としては、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 35.1%と最も高くなっている。

【福吉小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が多く、家族構成としては「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が多い地区である。暮らしの経済状況は「ふつう」が62.0%で、次いで「やや苦しい」が19.0%である。

外出する際の移動手段は「自動車(自分で運転)」が58.5%で、次いで「徒歩」が40.0%である。市全体と比較すると「病院や施設のバス」が8.8%と高くなっている。一方、「徒歩」40.0%、「自転車」7.8%、「路線バス」1.0%、「タクシー」2.4%などは市全体と比較して低くなっており、自動車移動が習慣化した地区であると言える。回答者の心配事や愚痴を聞いてくれる人としては「配偶者」が59.0%で最も高い。市全体との比較では「別居の子ども」40.5%、「兄弟姉妹、親戚、親、孫」37.6%で高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感「まあよい」が60.0%で最も高くなっている。有病率では「高血圧」が45.9%、次いで「糖尿病」、「目の病気」が17.1%である。

生活機能

各種リスク判定については市全体並みであり、有意な差はない。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が42.0%で最も高く、次いで「十分感じている」が28.8%である。生きがいを感じる時は「孫など家族との団らんの時」が54.5%で最も高く、次いで「おいしい物を食べている時」が53.8%である。市全体との比較では「仕事に打ち込んでいる時」が40.7%で高くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

介護・介助の必要状況は「介護・介助は必要ない」が最も高く81.5%となっている。実践している介護予防のための取組では「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」で半数を超えている。介護が必要になった際の生活様式では「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が27.3%で最も高くなっている。市全体との比較では「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が21.5%で高くなっている。

最期を迎える場所の希望は「自宅」が39.0%で最も高く、市全体と比較しても高くなっている。

5 志摩圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

「持家(一戸建て)」が非常に多い地域であり、回答者の92.2%が「持家(一戸建て)」である。市全体と同じような家族構成の地域ではあるが、「その他」の割合が他圏域と比較し高くなっていることから、二丈圏域と同様、多様な家族構成の世帯が存在する圏域であると言える。暮らしの経済状況は「ふつう」が59.7%で最も多い回答となっている。

外出時の移動手段としては、「自動車(自分で運転)」が最も高く67.4%となっており、他圏域と比較して最も高い。また、他圏域の割合との比較では「路面バス」の割合も高くなっている。一方、「徒歩」は38.0%で他圏域と比較し最も低くなっている。

自治会・町内会への参加状況は他圏域と比較し、「週1回」以上の頻度が高くなっており、他圏域と比較すると頻繁に自治会・町内会活動へ参加する人の多い地域であると言える。

新聞や本、雑誌の閲覧、健康についての情報への関心などで判定する知的能動性が「低い」と判定された対象者は24.8%であり、他圏域と比較し最も高い。

主観的健康感では「まあよい」の回答が最も多い。有病率では「高血圧」が44.8%、「目の病気」が20.0%と市全体の平均より高くなっている。肥満の状況を見ると「肥満体重」が25.7%であり、他圏域と比較して最も高くなっている点は注意が必要である。

「生活機能低下」該当率は31.3%と全圏域で最も低く、「虚弱」、「口腔機能低下」該当者でも市全体よりもやや低くなっている。一方、「認知症リスク」該当者は58.3%と全圏域の中で最も高い。

介護予防のため実践している取組では、「趣味や地域活動に取り組む」が26.3%と他の圏域と比較して最も高くなっているものの、その他の取組に関しては市全体の平均を下回っている項目が多く、特に「栄養バランスのとれた食事をする」は55.5%と全圏域の中で最も低い。

介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が35.4%で最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が17.7%となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

【可也小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が多く、「持家(集合住宅)」や「民間賃貸住宅(集合住宅)」が少ない地区である。暮らしの経済状況としては、「ふつう」が最も高く61.0%、次いで「やや苦しい」が23.3%である。

外出する際の移動手段は、「自動車(自分で運転)」が最も高く64.1%である。市全体との比較では「路線バス」が17.0%と高くなっている。一方、「自転車」11.7%と低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感については「まあよい」が69.5%で最も高く、次いで「あまりよくない」が12.1%となっている。有病率では「高血圧」が46.2%で最も高く、次いで「目の病気」が20.2%である。

生活機能

「生活機能低下」判定では一般高齢者が68.6%で市全体よりも高くなっており、生活機能低下者が27.8%と低くなっている。「認知症リスク」、「転倒リスク」判定では、該当が4ポイントほど市全体よりも低くなっている。

地域活動 生きがい

町内会・自治会の参加頻度は「年に数回」が38.1%で最も高く、次いで「参加していない」が35.9%である。市全体と比較すると「参加していない」は市全体よりも4ポイントほど低く、「年に数回」は高くなっている。回答者が病気の際、看病や世話をしてくれる人は「配偶者」が65.0%で最も高くなっている。市全体との比較では「近隣」4.5%が有意に高くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

介護・介助の必要状況については、「介護・介助は必要ない」が87.9%で最も高くなっている。実践している介護予防の取組としては、「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」などの取組は回答者の半数以上が実践している。参加したい介護予防の取組は「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が35.9%、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が24.7%である。

介護が必要になった際の生活様式については「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が41.7%で市全体よりも8ポイントほど高くなっている。反対に、「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」は2.2%で市全体より有意に低くなっている。

【桜野小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が 92.7%と多い地区である。家族構成では「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が最も高く 29.1%である。市全体と比較すると「その他」が 24.1%と高くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 56.8%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 21.8%である。

外出時の移動手段としては「自動車(自分で運転)」が最も高く 68.6%である。市全体と比較すると「病院や施設のバス」が 5.9%と高く、「徒歩」31.4%、「自転車」10.9%は市全体よりも低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感「まあよい」が 66.8%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 18.6%となっている。有病率では「高血圧」が 46.4%で最も高く、次いで「目の病気」が 20.0%である。

生活機能

「認知症リスク」判定は該当が 60.5%であり、市全体と比較しても 6 ポイントほど高くなっている。

地域活動 生きがい

町内会・自治会への参加頻度は「参加していない」が 32.3%で最も高くなっている。看病・世話してくれる人としては「配偶者」が 58.6%と最も高い。市全体との比較では「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 20.9%で 5 ポイントほど高くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

介護・介助の必要状況については「介護・介助は必要ない」が 84.5%で最も高くなっている。実践している介護予防の取組は「栄養バランスのとれた食事をとる」、「健康診断などを定期的に受ける」、「十分な睡眠をとる」が高くなっており、回答者の半数が実践している。

介護が必要になった際の生活様式は、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 29.1%で最も高くなっている。

【引津小学校区】

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が 90.0%と最も高く、「持家(一戸建て)」が多い地域である。家族構成としては「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 39.0%で最も高いものの、市全体と比較すると「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」は低くなっている。一方、「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」は 6.0%で市全体と比較すると高くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 60.5%で最も高く、次いで「やや苦しい」の 21.5%である。

健康状態

回答者の主観的健康状態は「まあよい」が 64.5%で最も高く、次いで「あまりよくない」の 18.0%である。有病率は「高血圧」が 41.5%、次いで「目の病気」が 19.5%である。市全体と比較すると「呼吸器の病気」が 7.0%で高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」判定率は 35.0%で、市全体と比較してやや高い。市全体と比較して「口腔機能」は 4 ポイントほど、「認知症リスク」は 12 ポイントほど、「転倒リスク」は 6 ポイントほど高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 40.5%で最も高くなっており、次いで「十分感じている」が 35.0%である。生きがいを感じる時は「孫など家族との団らんの時」が 55.0%、次いで「おいしい物を食べている時」が 44.4%である。

参加したい自主的活動では「健康・スポーツ」が 30.5%で最も高く、次いで「活動・参加したいものはない」が 29.5%である。市全体との比較では「生活環境改善」が 18.0%で市全体よりも高くなっている。参加したい団体では、「町内会・自治会」が 25.4%、「老人クラブ」が 17.5%で市全体よりも高くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

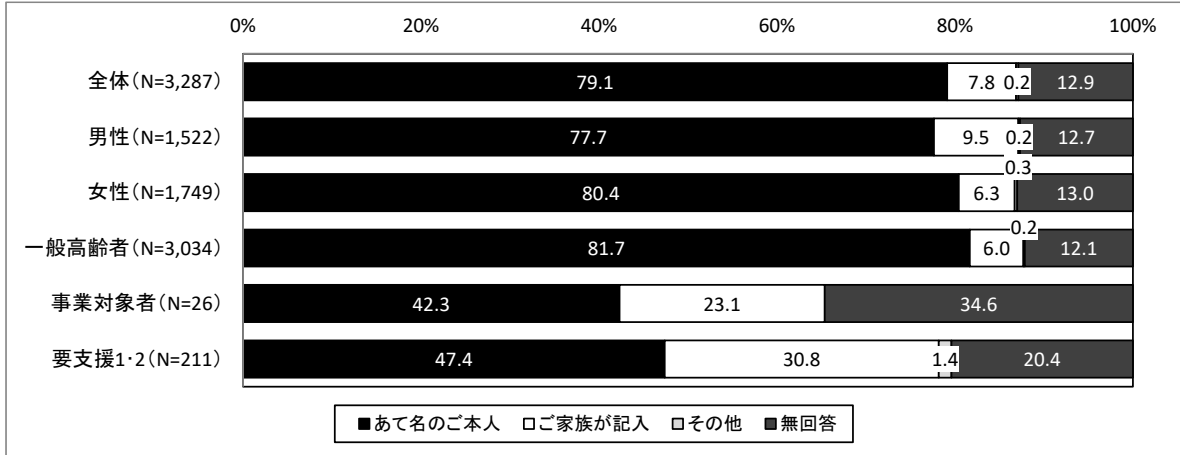
介護・介助の必要状況については「介護・介助は必要ない」が 83.5%で最も高くなっている。実践している介護予防の取組は「栄養バランスのとれた食事をとる」が 57.0%で最も高く、次いで「健康診断などを定期的に行う」が 55.0%となっている。介護が必要になった際の生活様式は、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 35.0%で最も高くなっている。

最期を迎えたい場所の希望は「病院などの医療機関」が 38.0%で最も高く、次いで「自宅」が 37.0%である。市全体との比較では「特別養護老人ホームなどの福祉施設」が 1.5%で高くなっている。

IV 集計結果

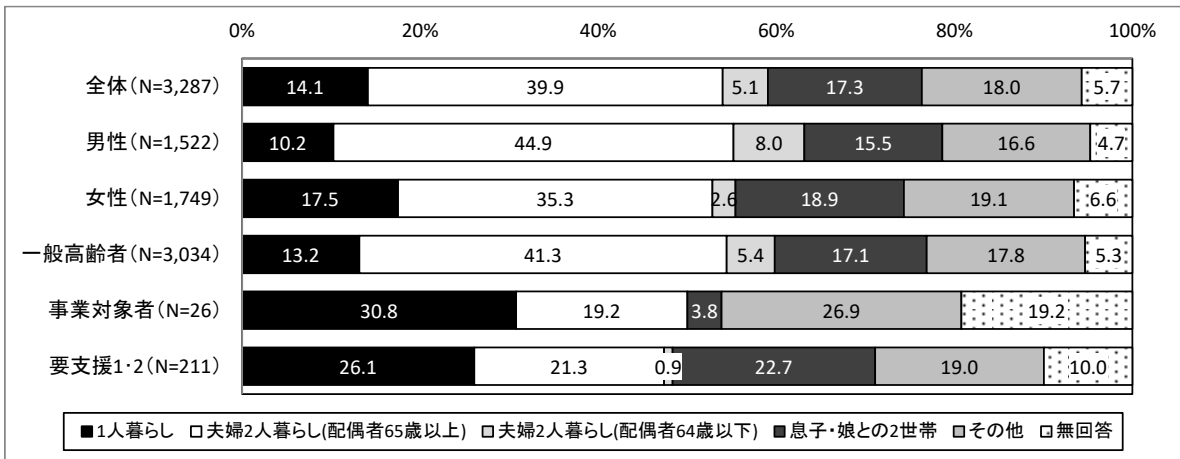
IV 集計結果

回答者について

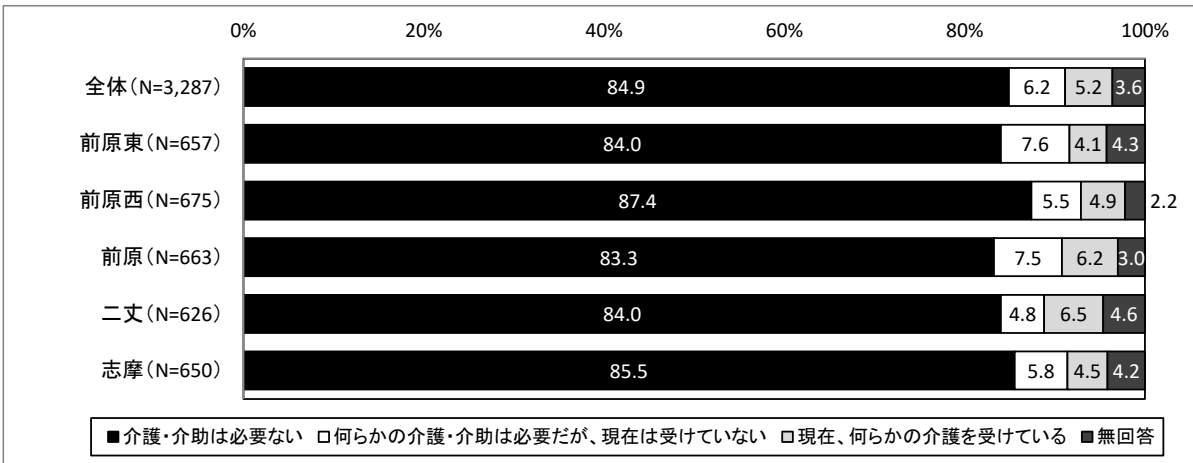


問1 あなたのご家庭や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

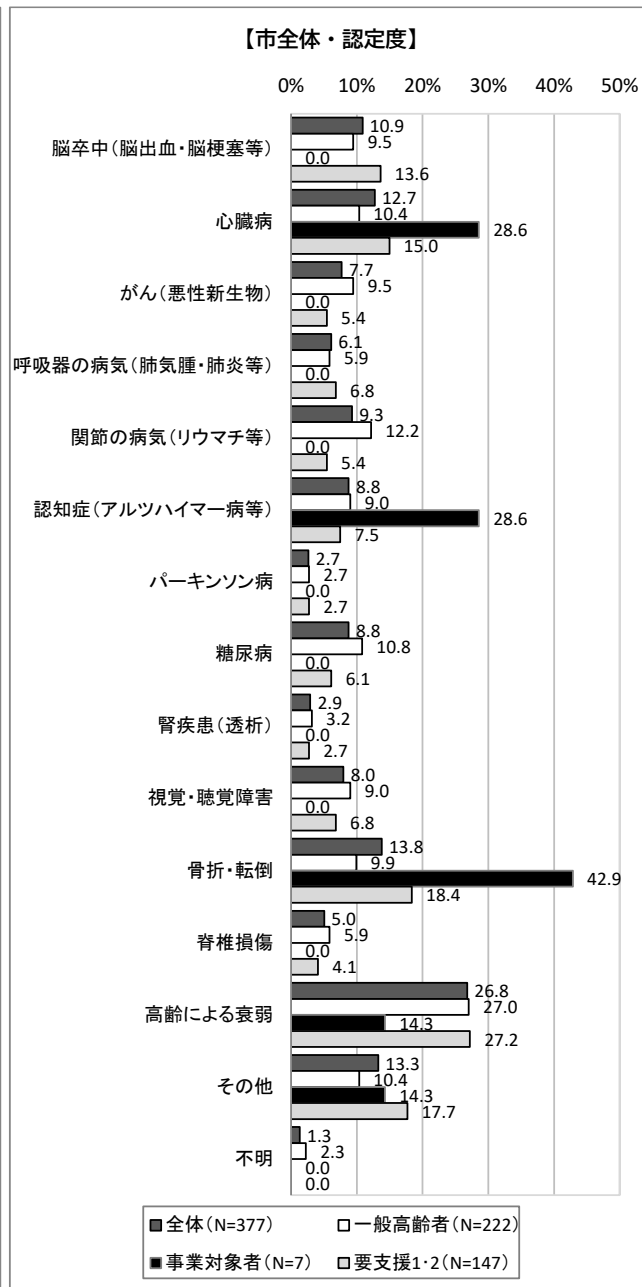
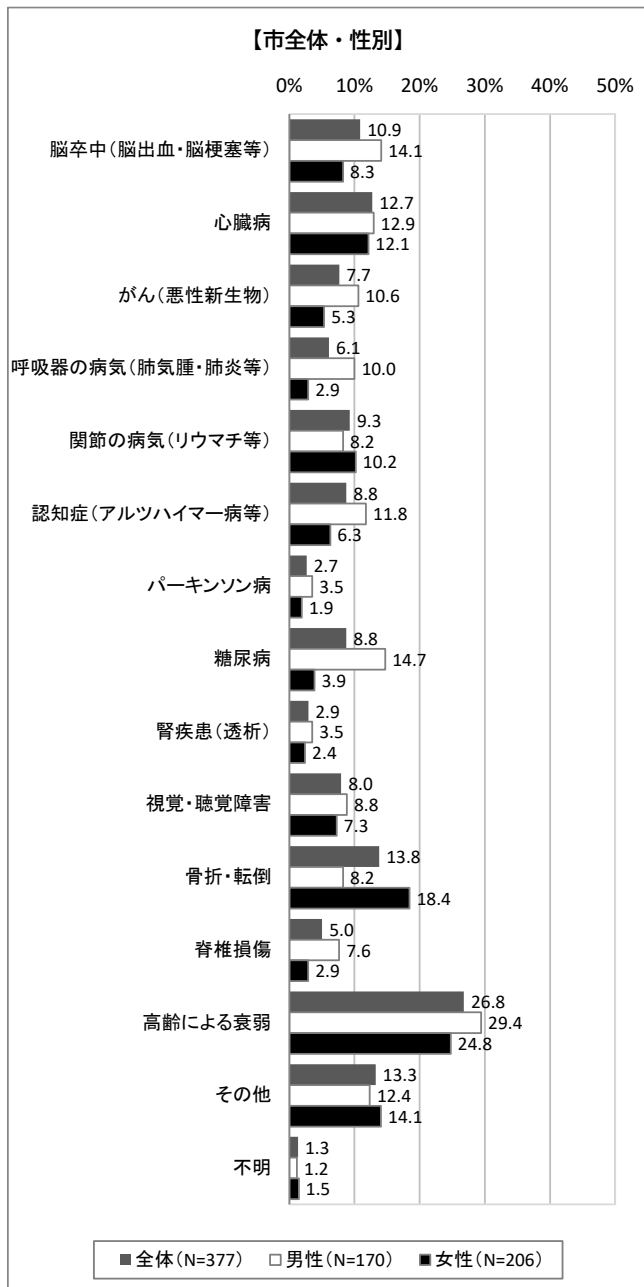


(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか



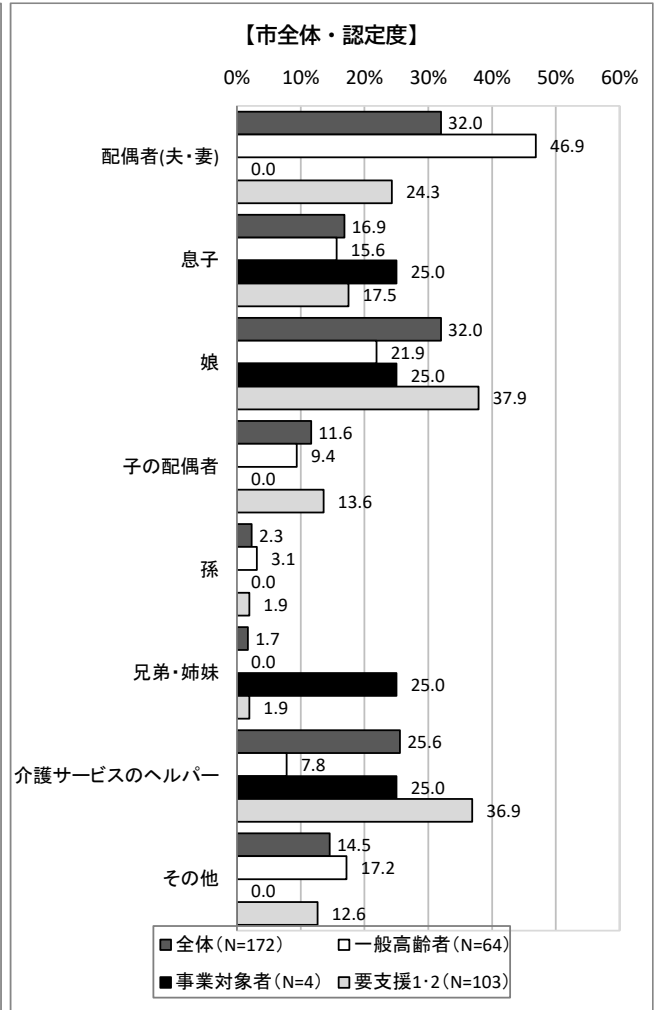
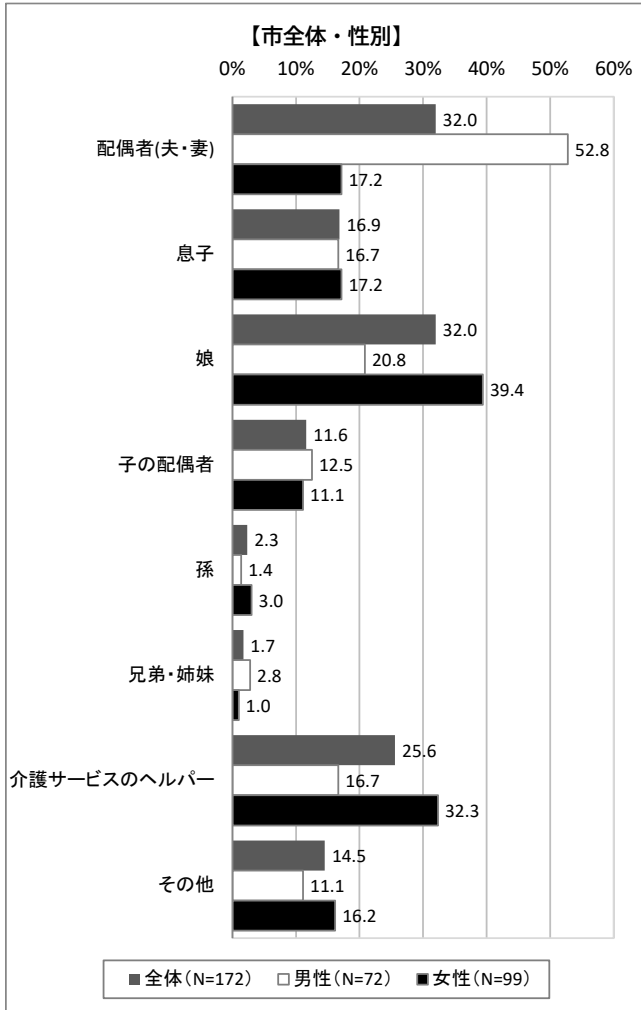
(2)において、「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ

① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (いくつでも)

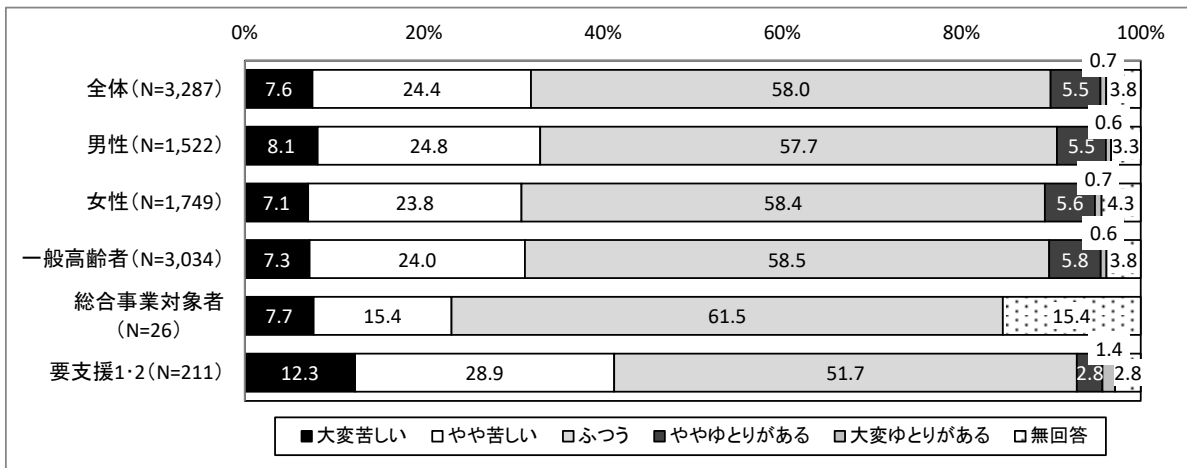


(2)において、「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ

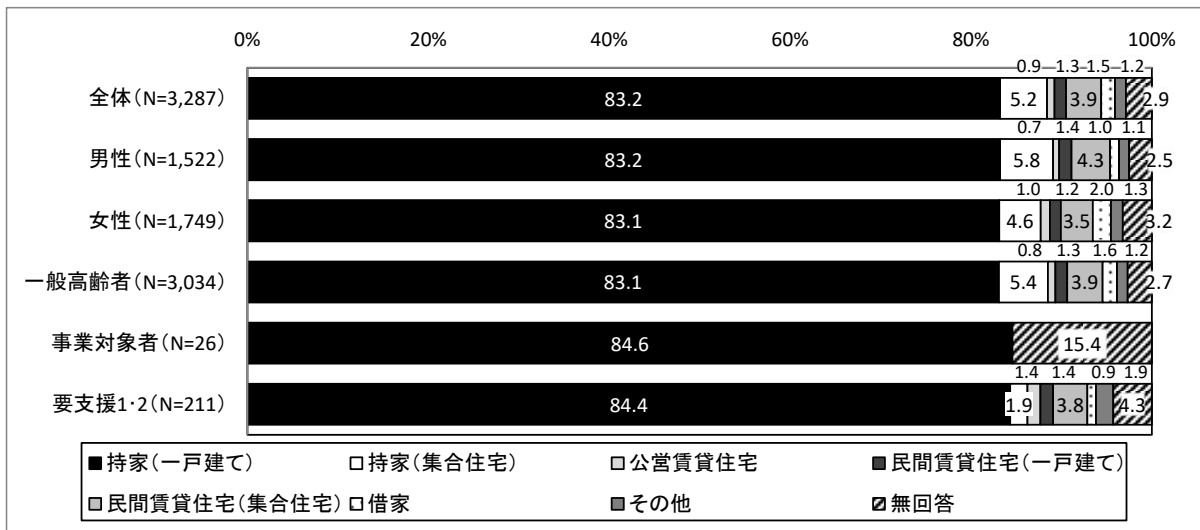
② 主にどなたの介護・介助を受けていますか (いくつでも)



(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

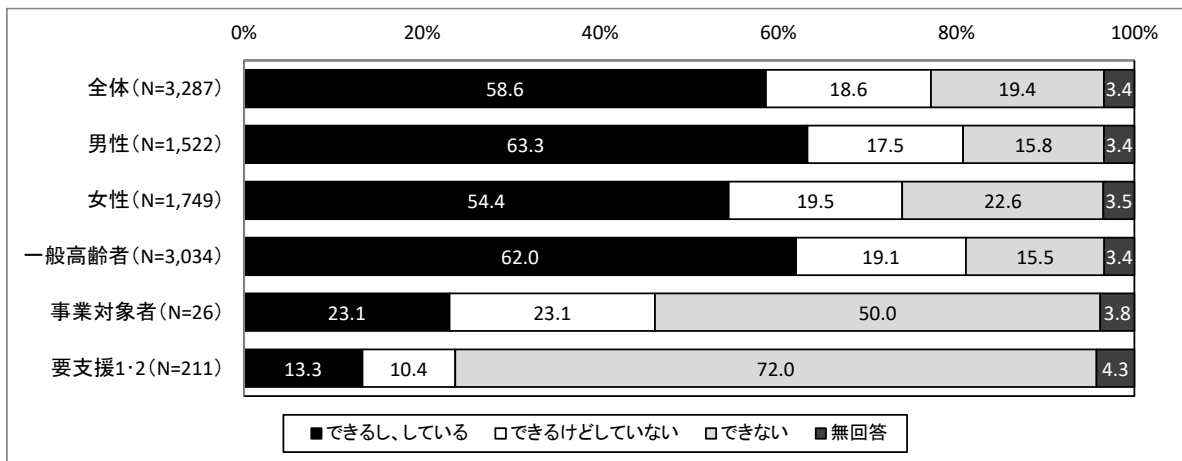


(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

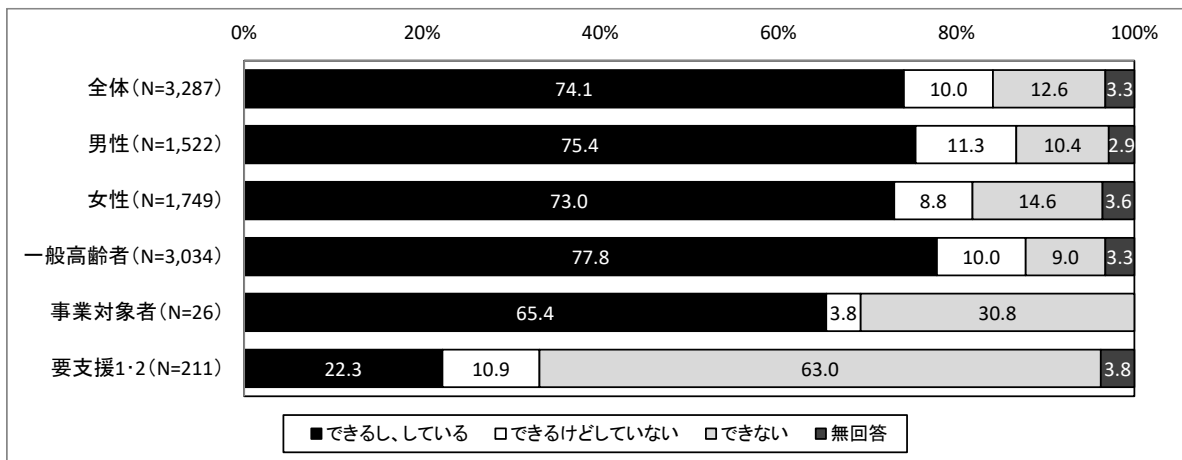


問2 からだを動かすことについて

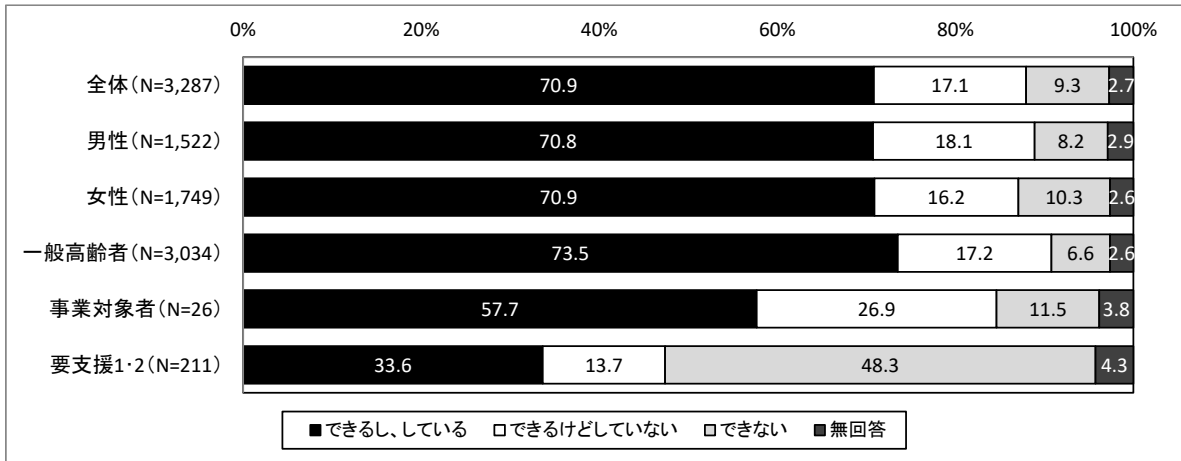
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか



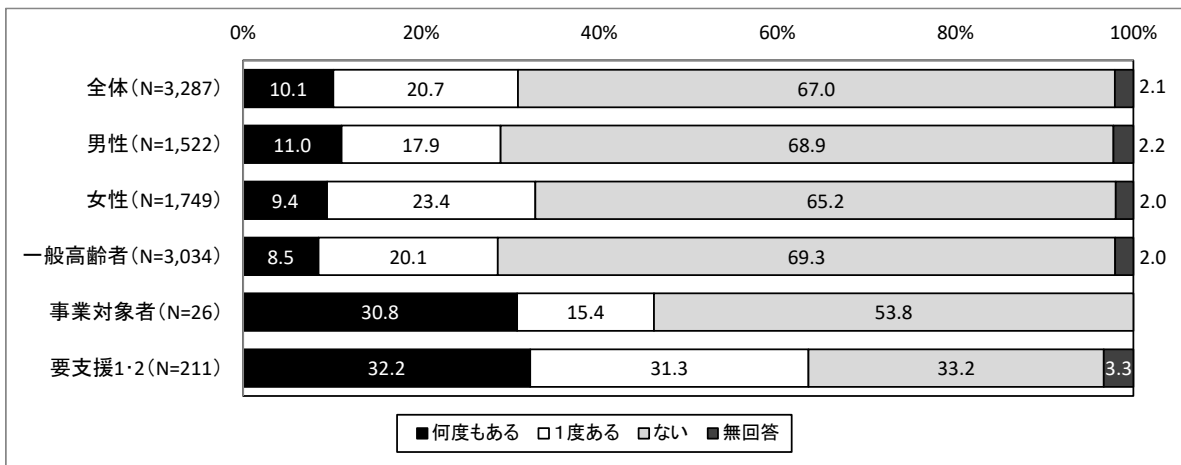
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか



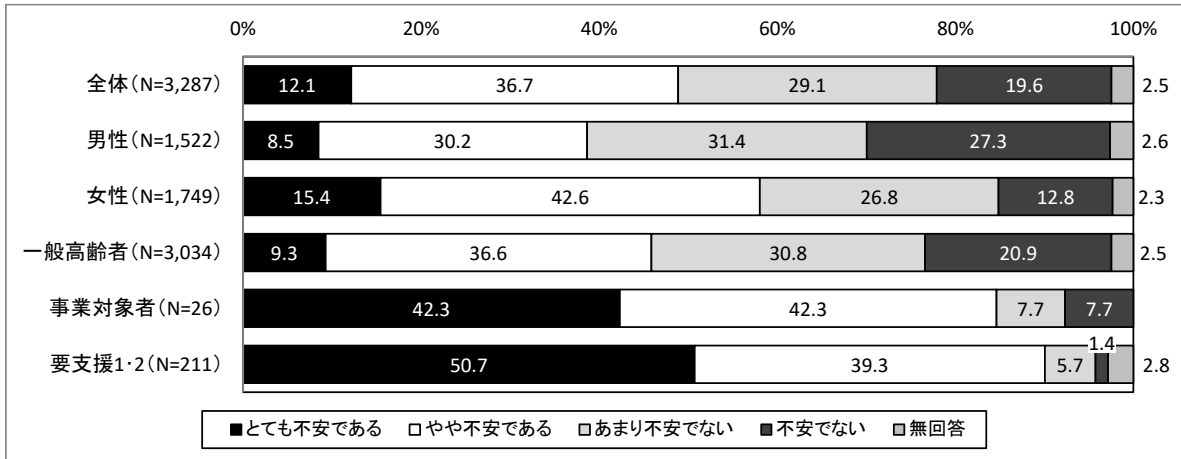
(3) 15分位続けて歩いていますか



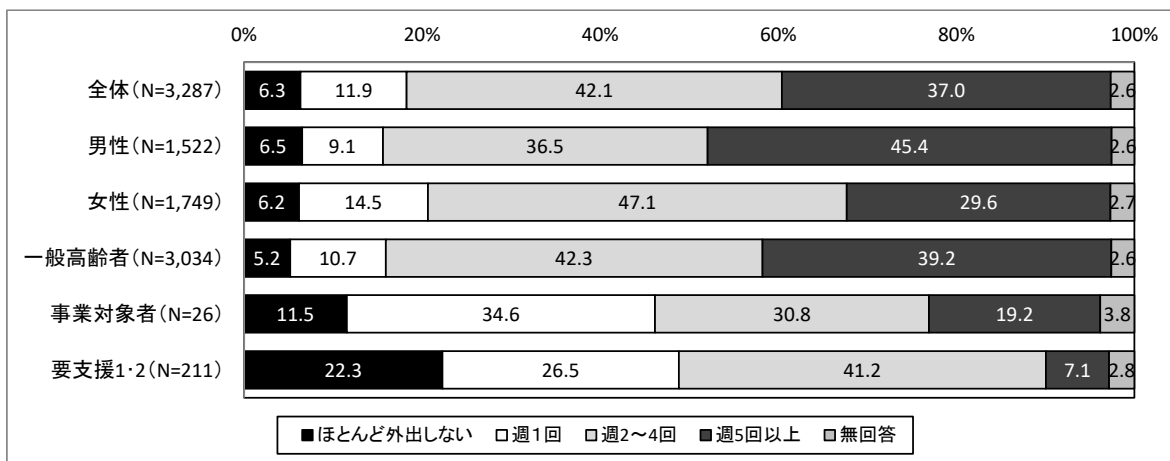
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか



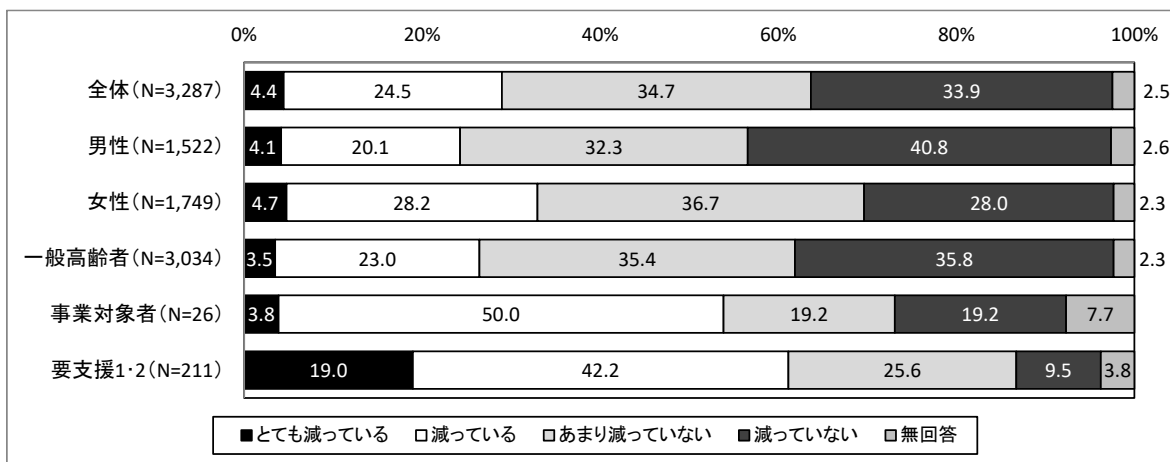
(5) 転倒に対する不安は大きいですか



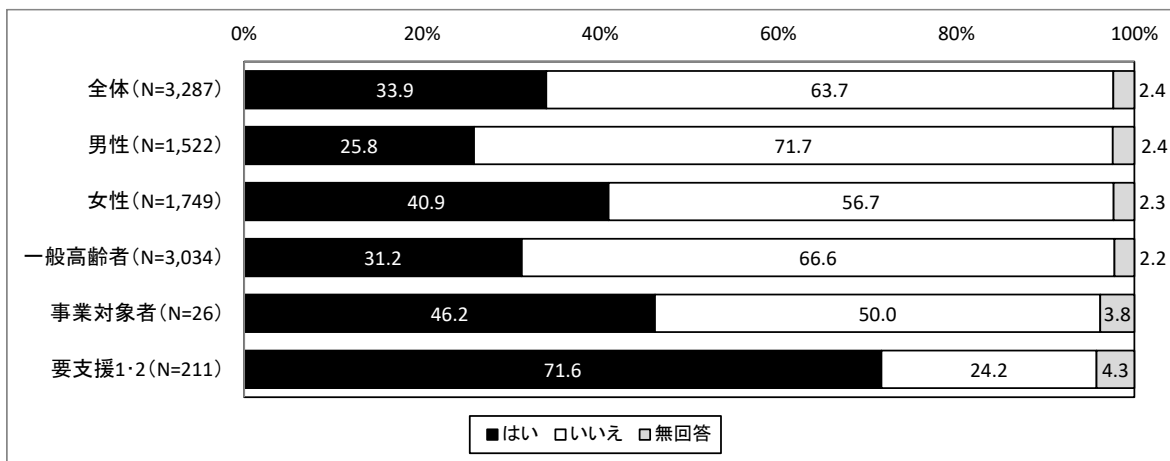
(6) 週に1回以上は外出していますか



(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

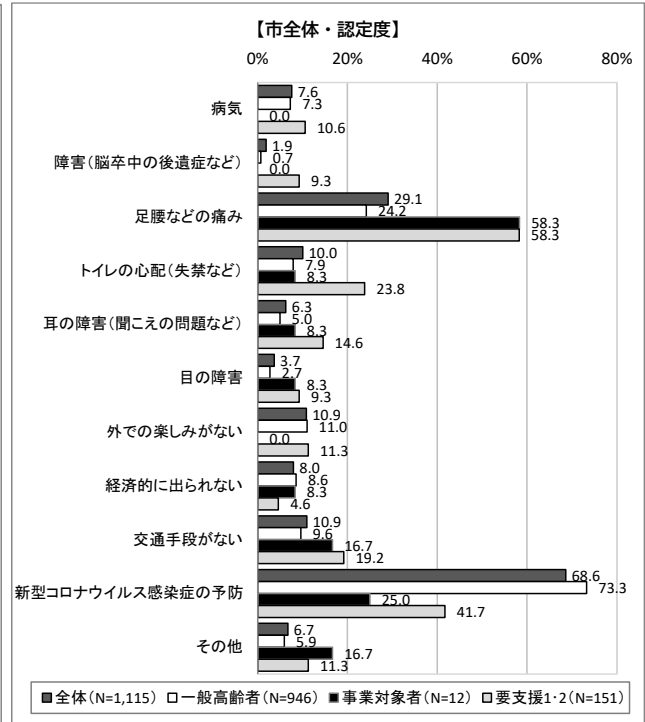
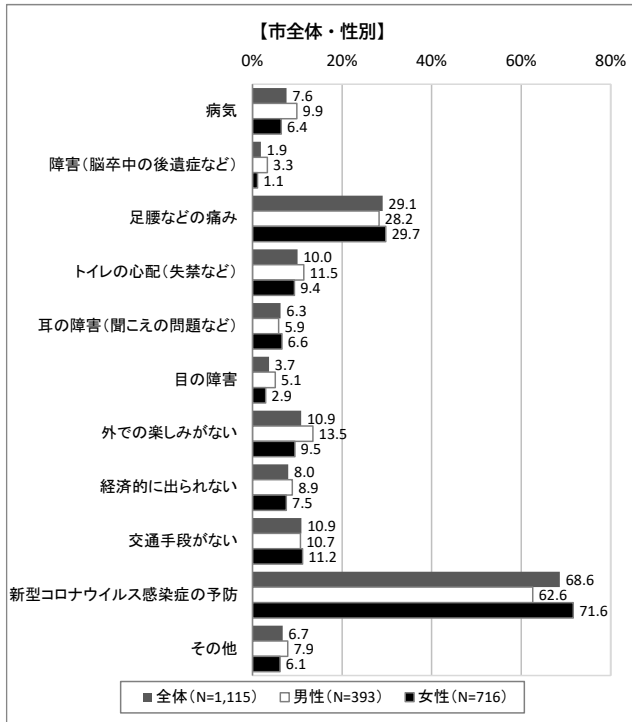


(8) 外出を控えていますか

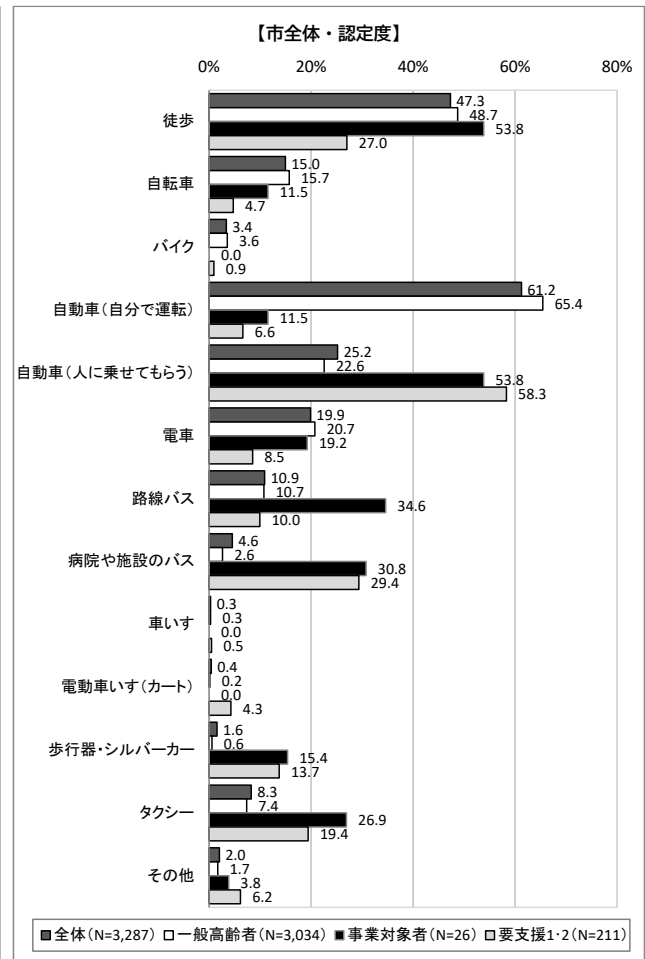
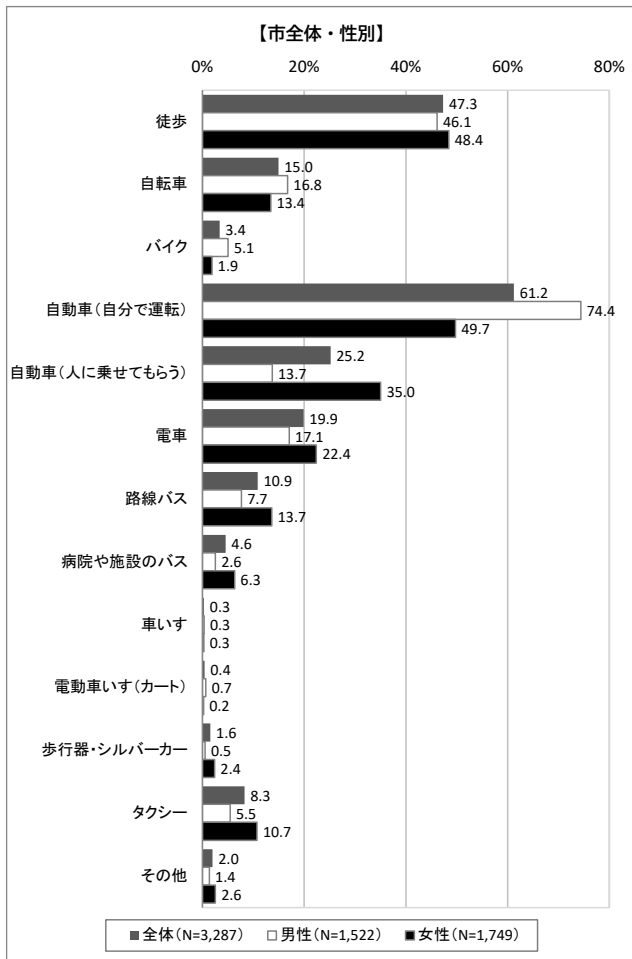


(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ

① 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

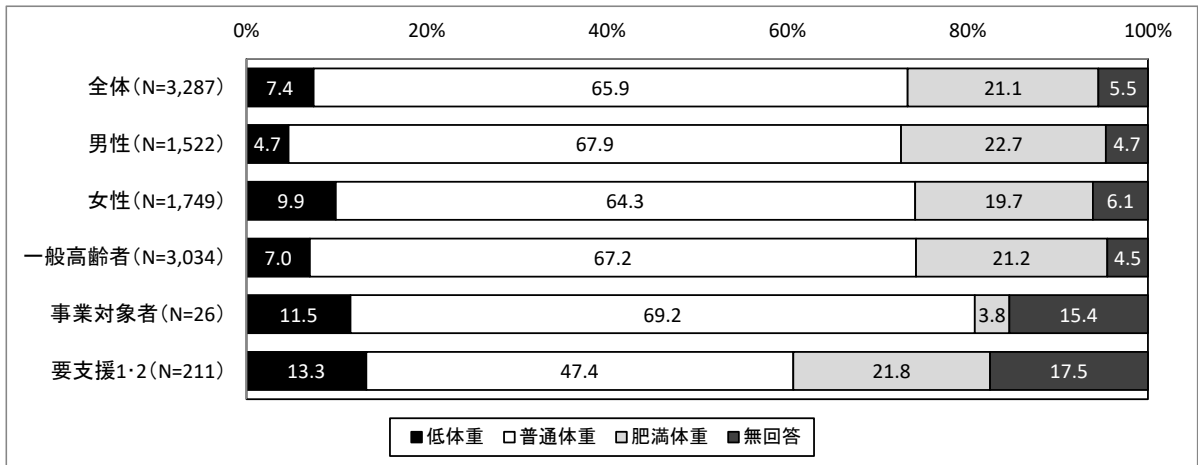


(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)



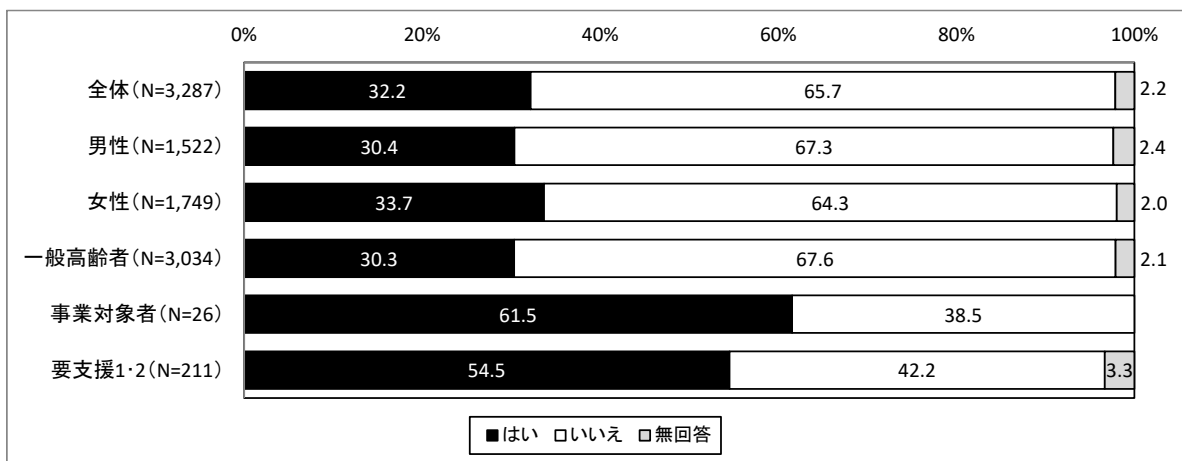
問3 食べることについて

(1) 身長・体重（肥満度：BMI＝体重 kg÷（身長 m×身長 m））

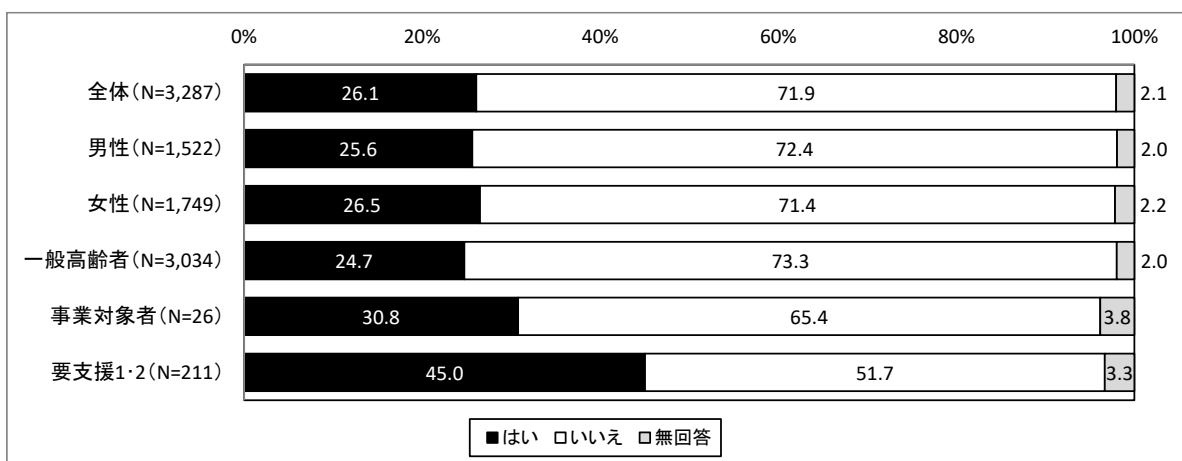


※低体重：BMI 18.5未満 普通体重：BMI 18.5以上25未満 肥満体重：BMI 25以上

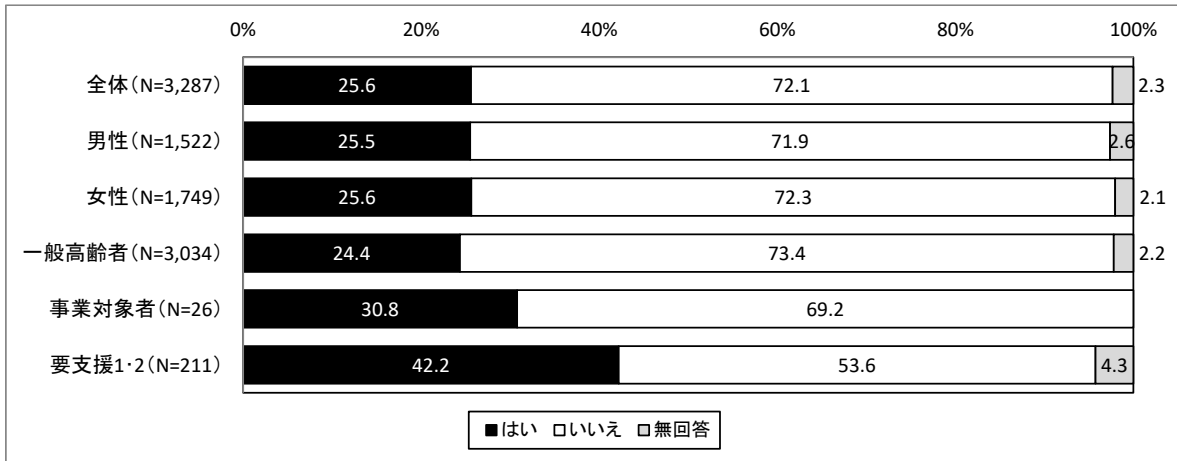
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか



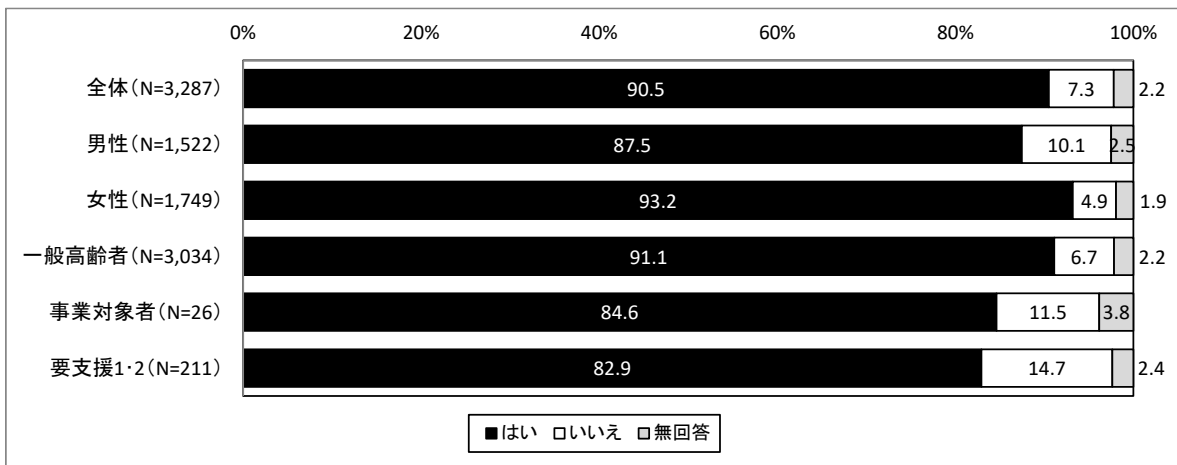
(3) お茶や汁物等でむせることがありますか



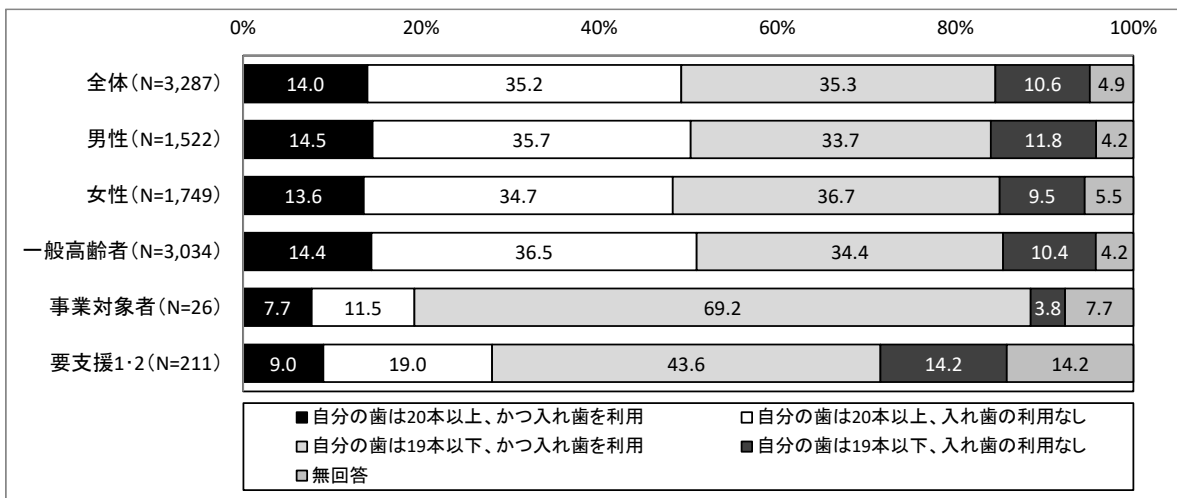
(4) 口の渇きが気になりますか



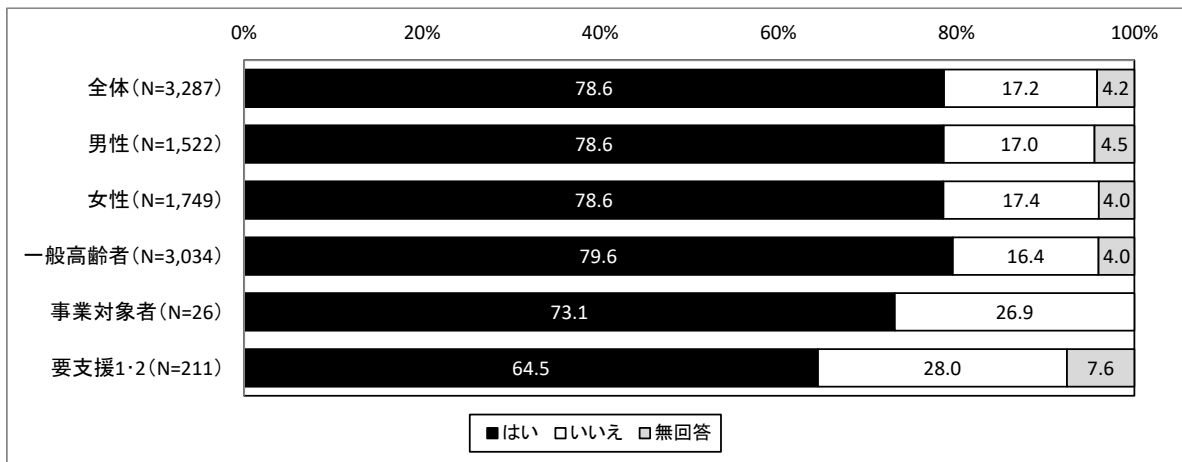
(5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか



(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です)

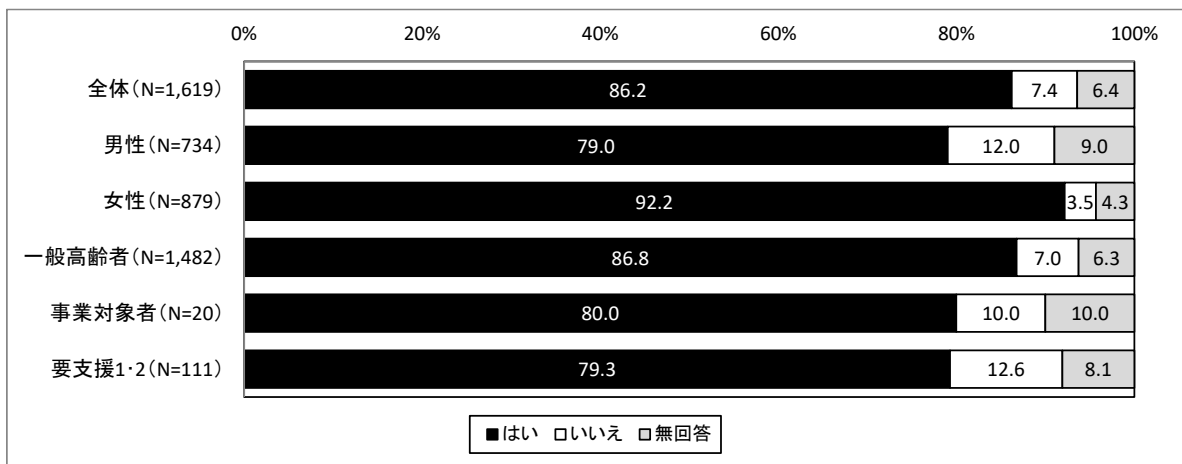


① 噛み合わせは良いですか

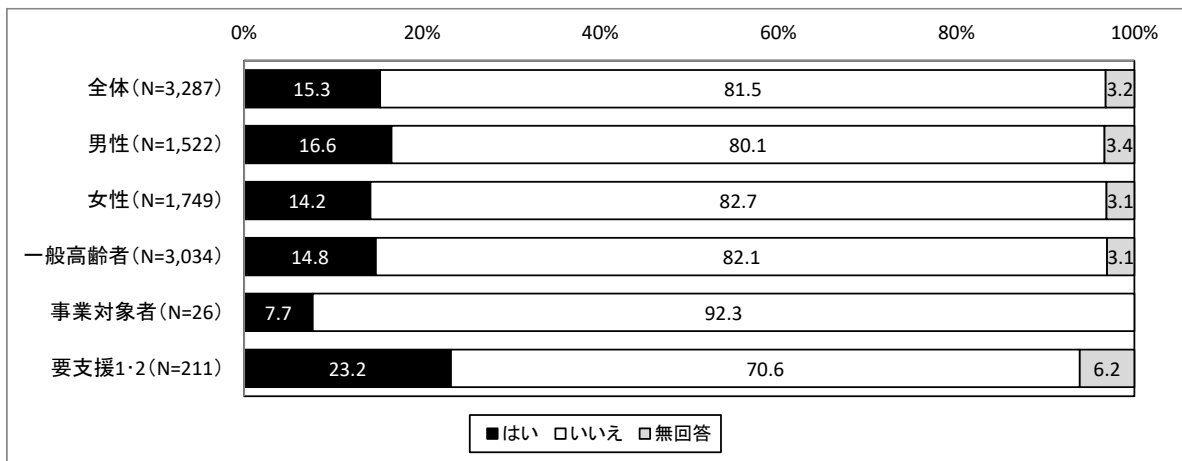


(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ

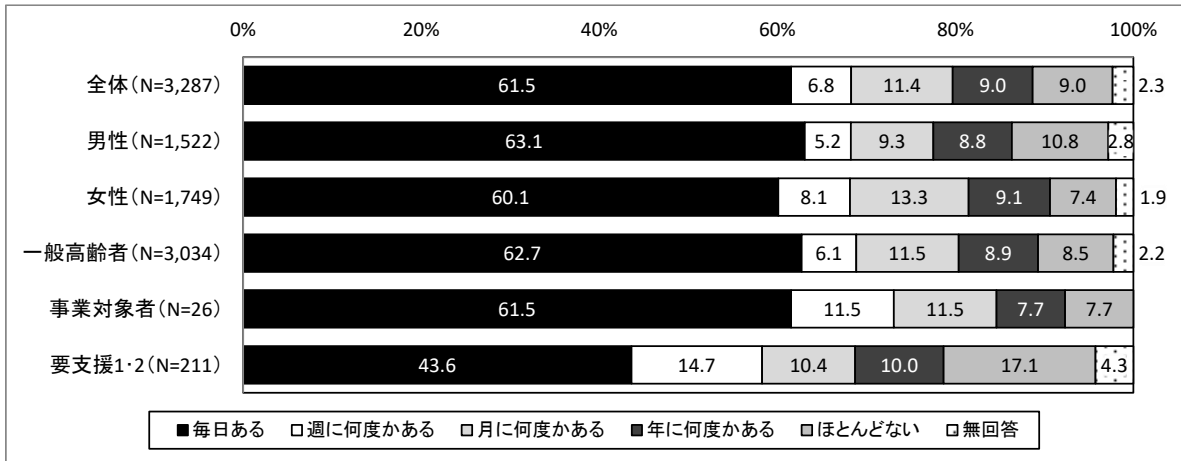
② 毎日入れ歯の手入れをしていますか



(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか

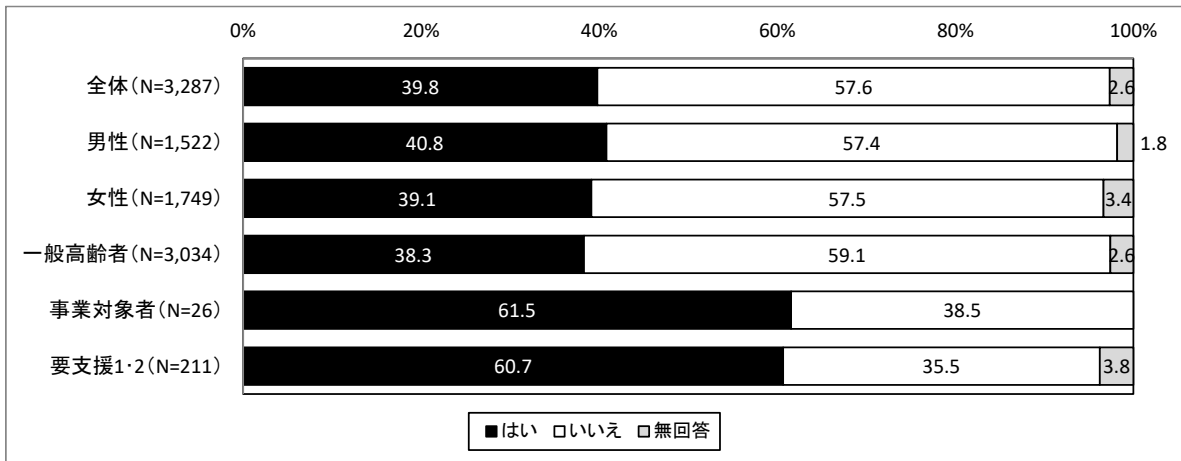


(8) どなたかと食事をとる機会がありますか

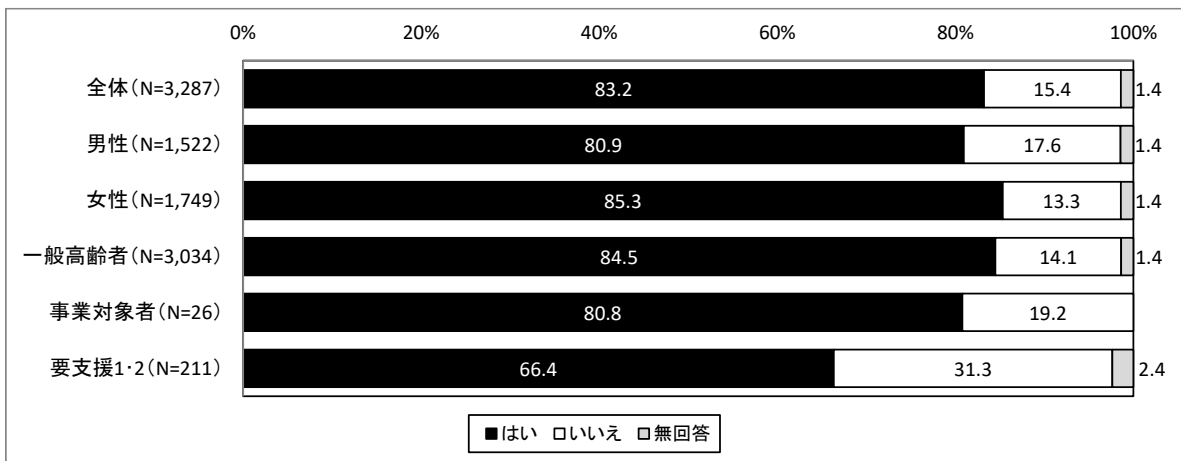


問4 毎日の生活について

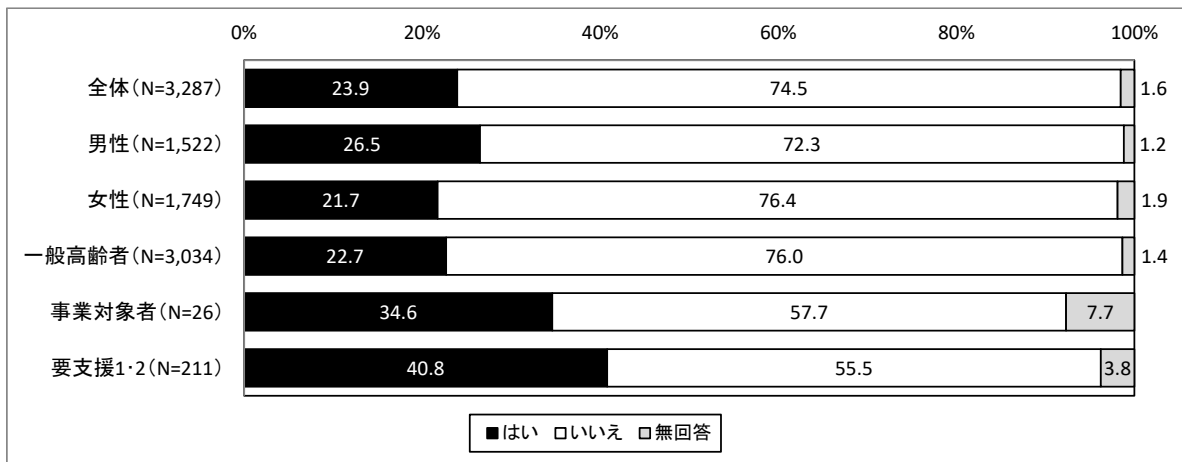
(1) 物忘れが多いと感じますか



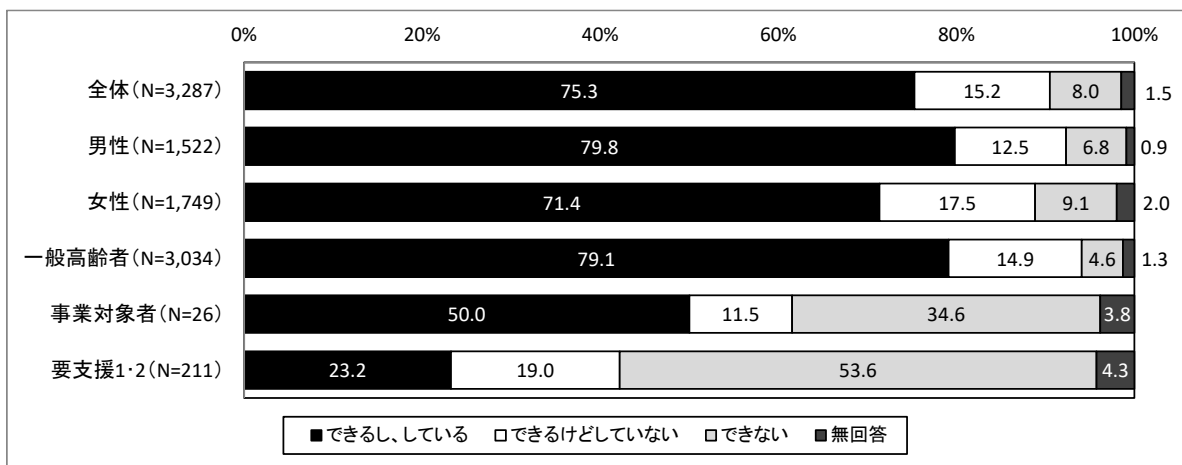
(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか



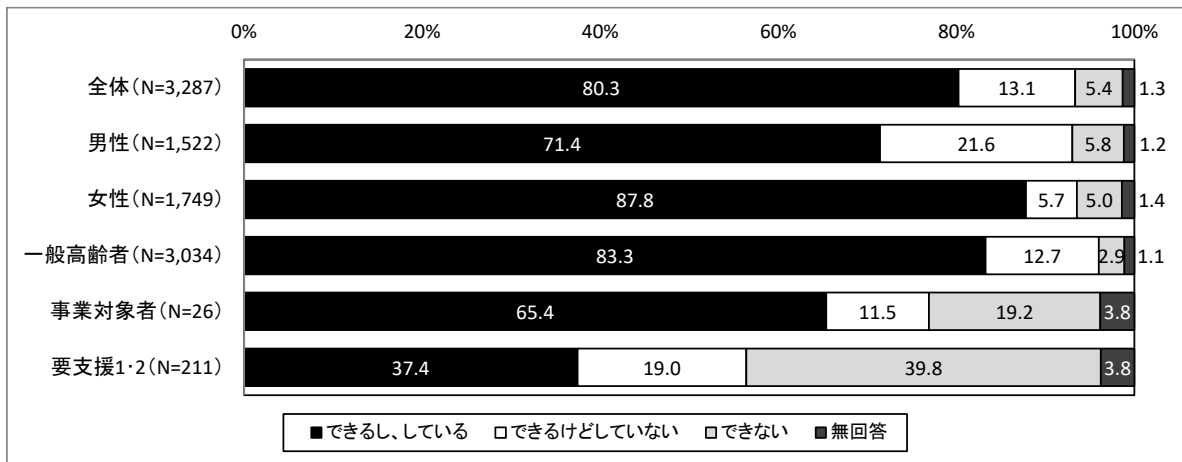
(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか



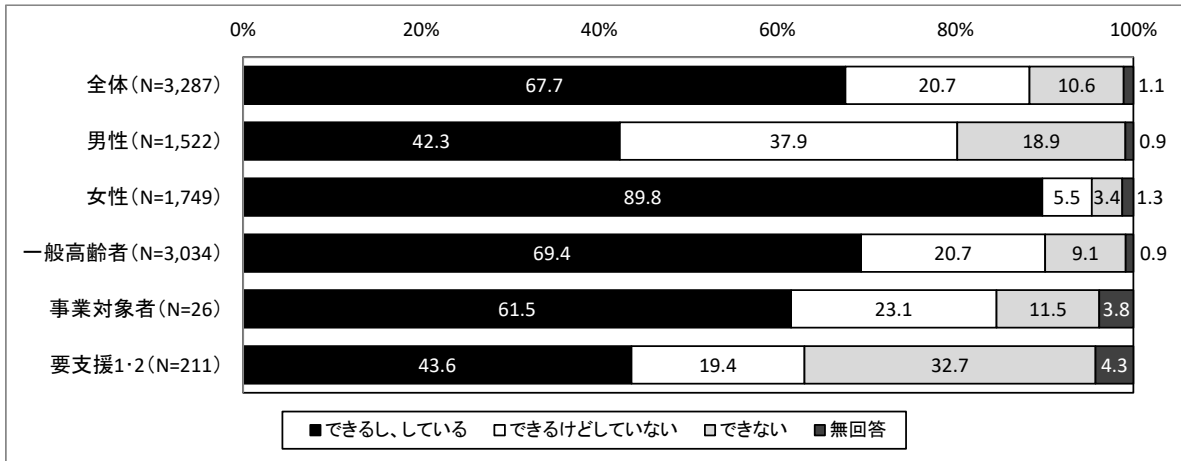
(4) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）



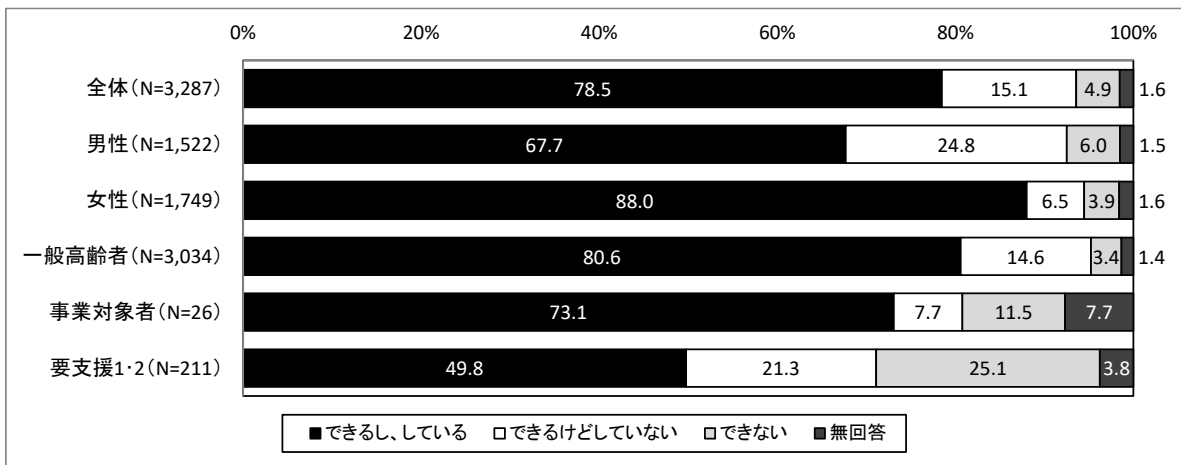
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか



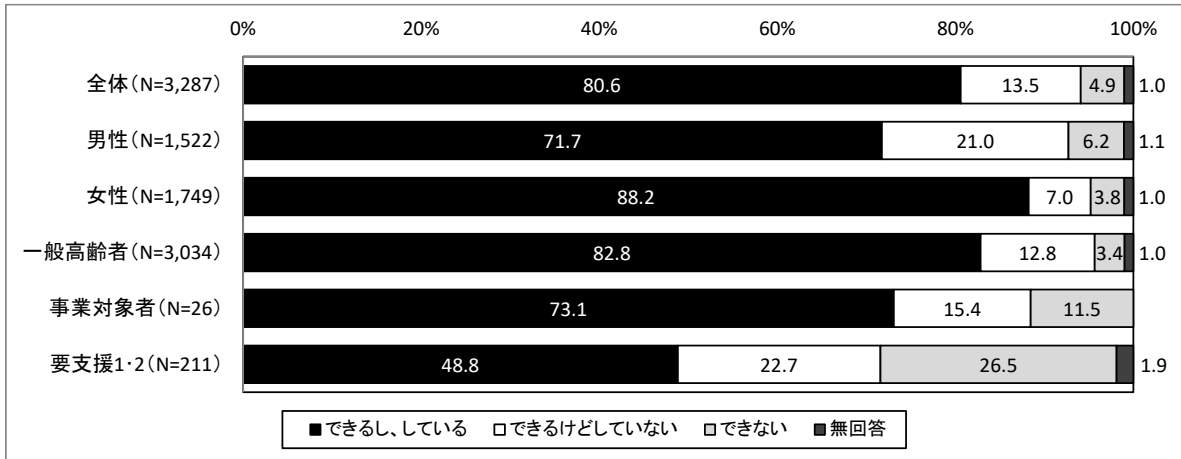
(6) 自分で食事の用意をしていますか



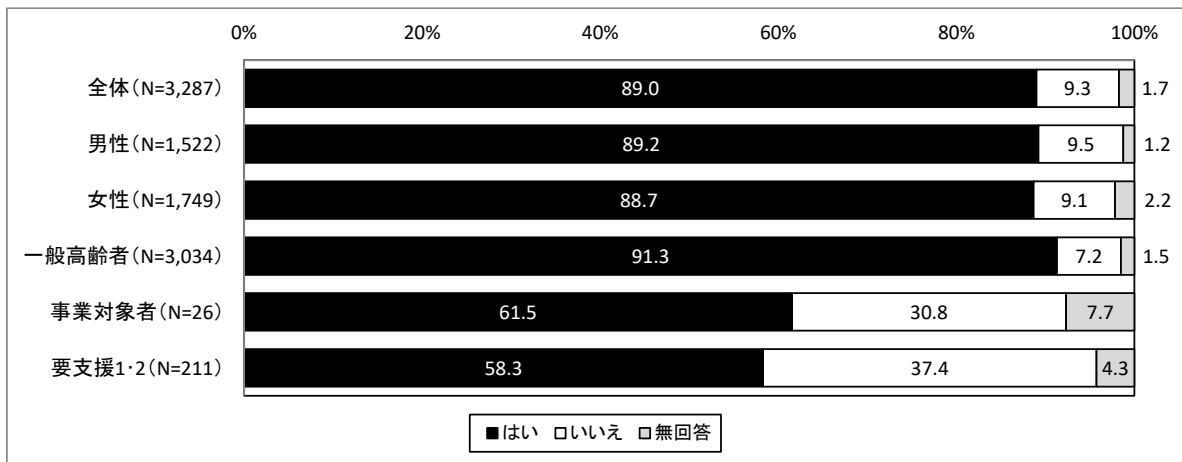
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか



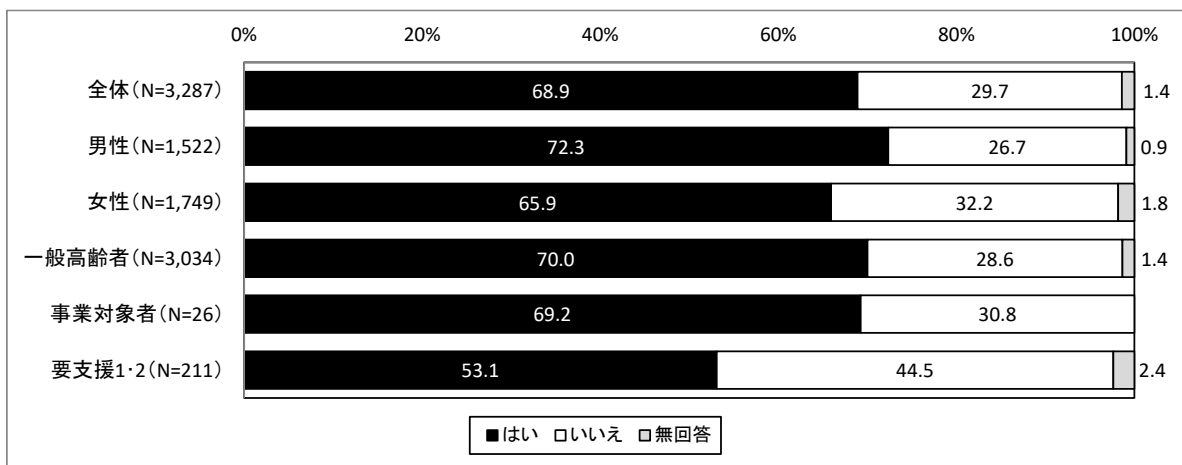
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか



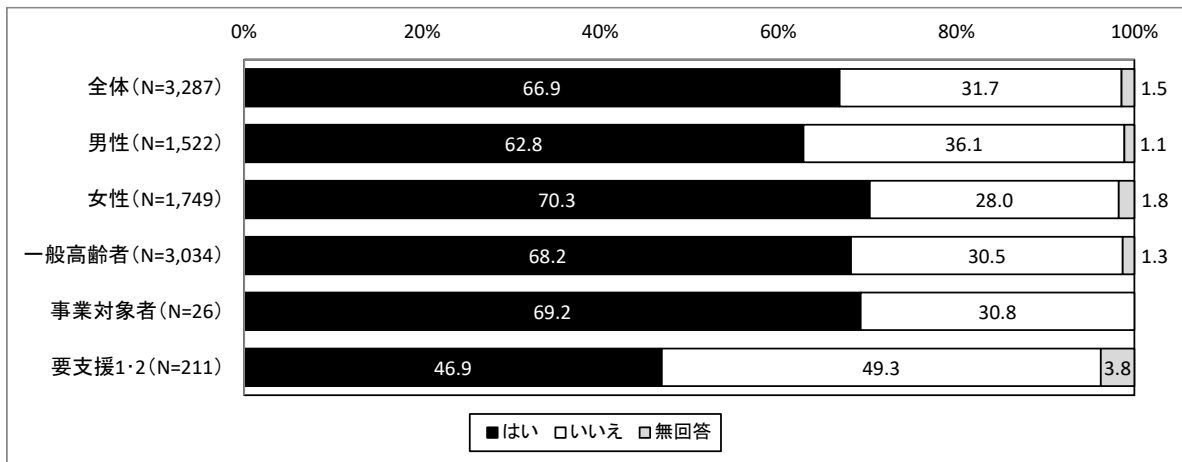
(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか



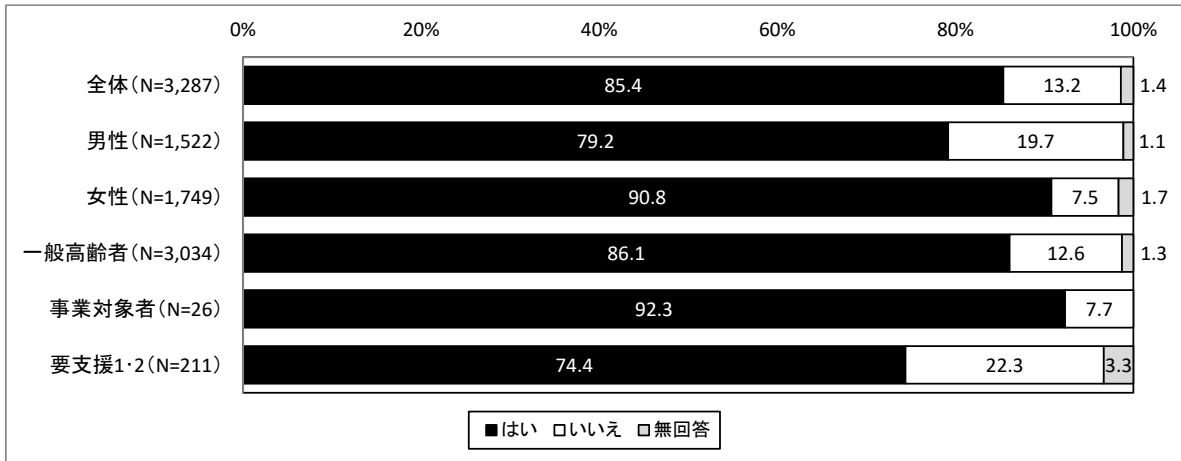
(10) 新聞を読んでいますか



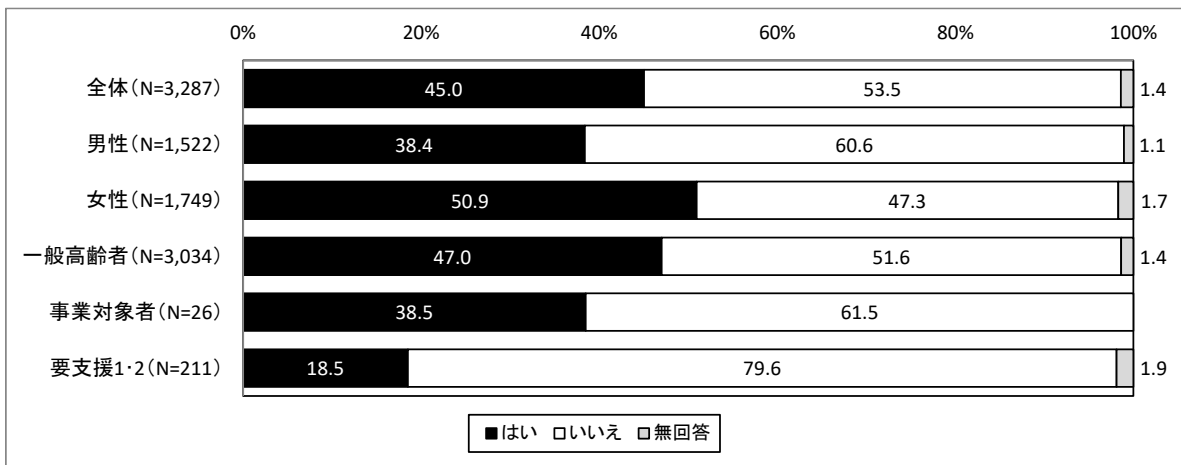
(11) 本や雑誌を読んでいますか



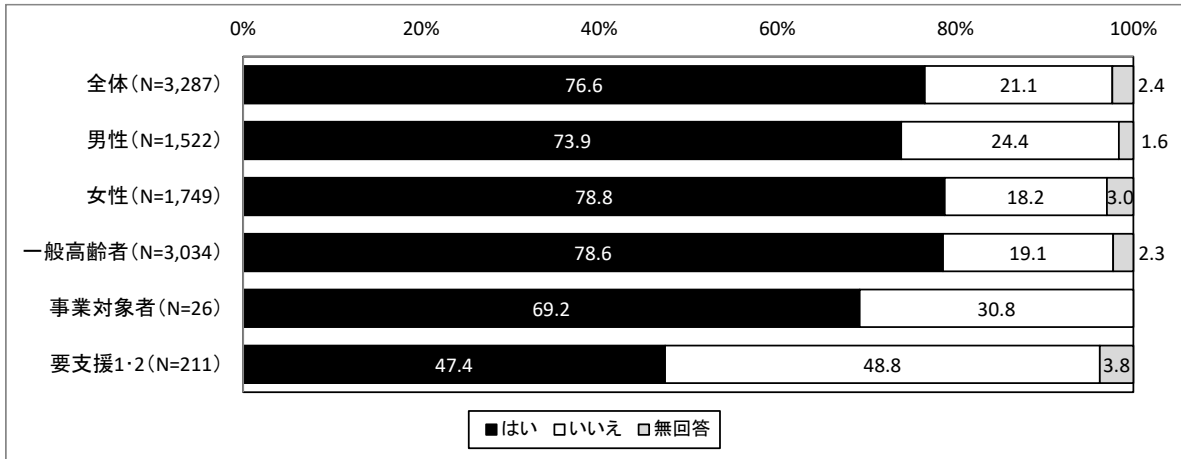
(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか



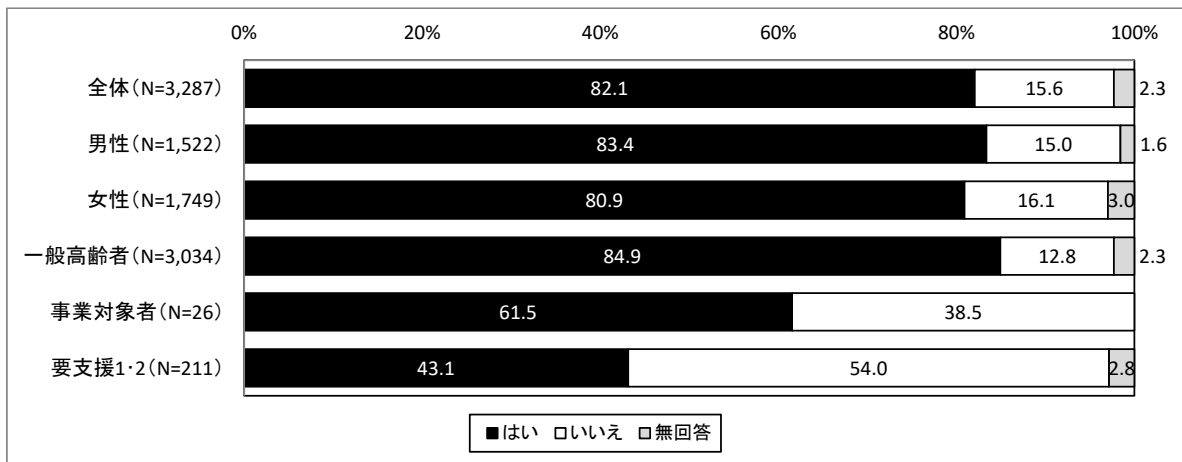
(13) 友人の家を訪ねていますか



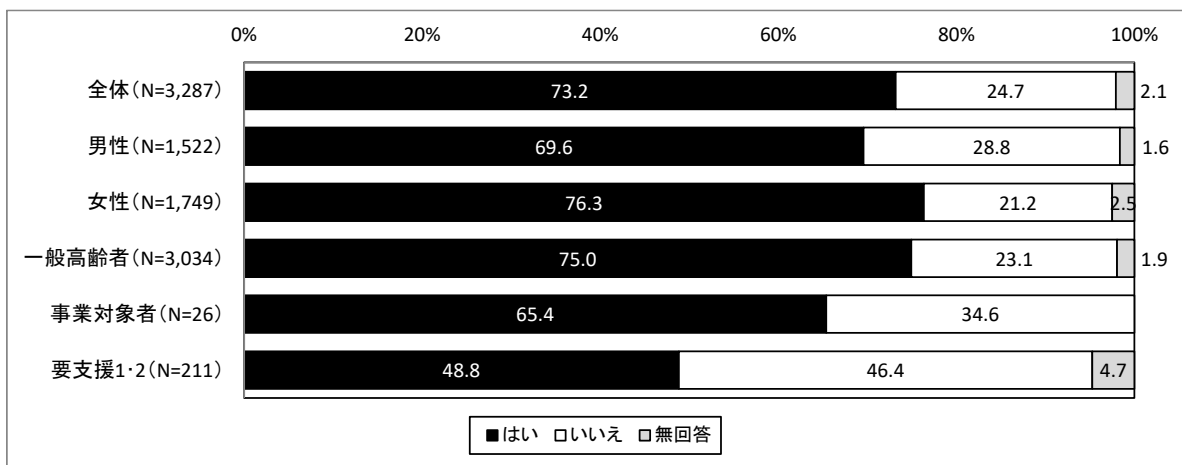
(14) 家族や友人の相談にのっていますか



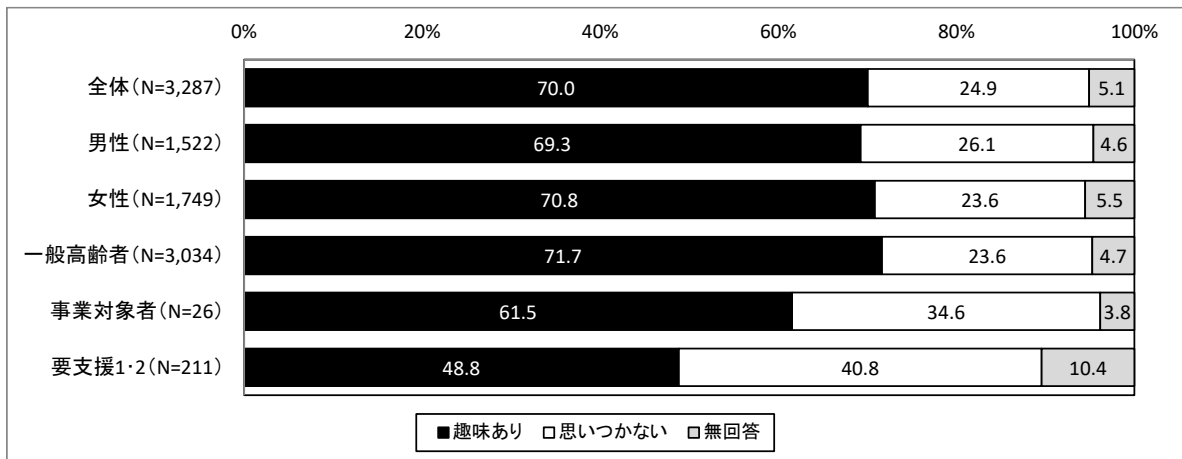
(15) 病人を見舞うことができますか



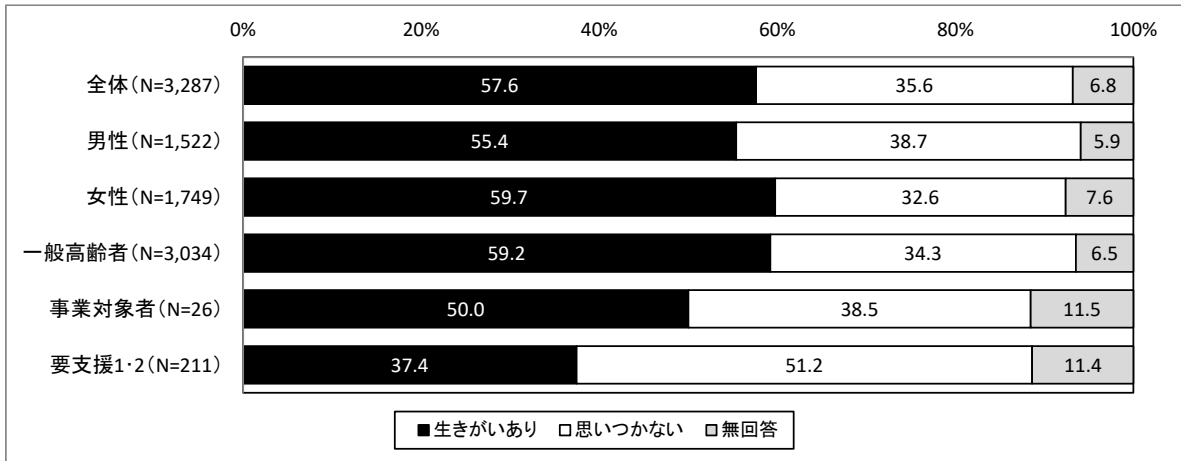
(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか



(17) 趣味はありますか



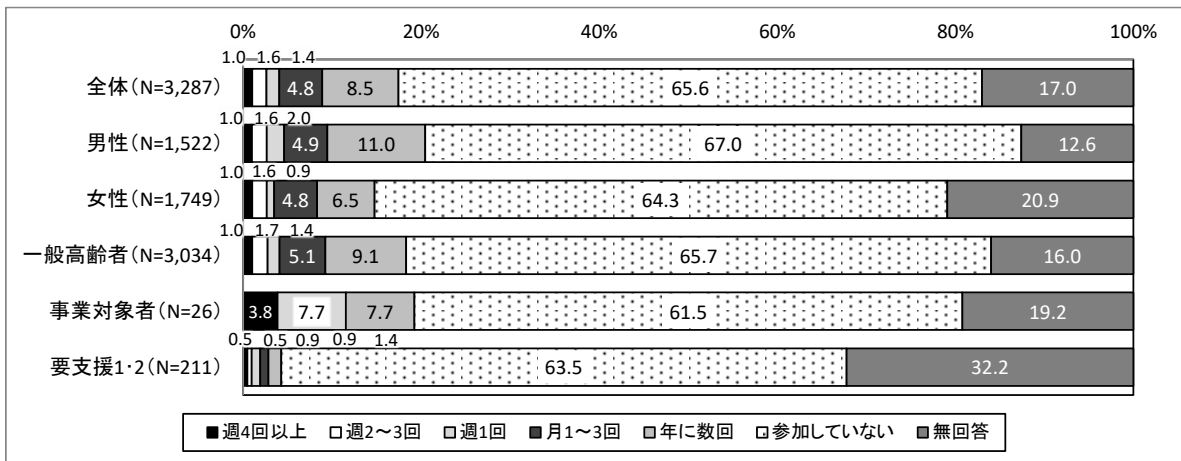
(18) 生きがいはありますか



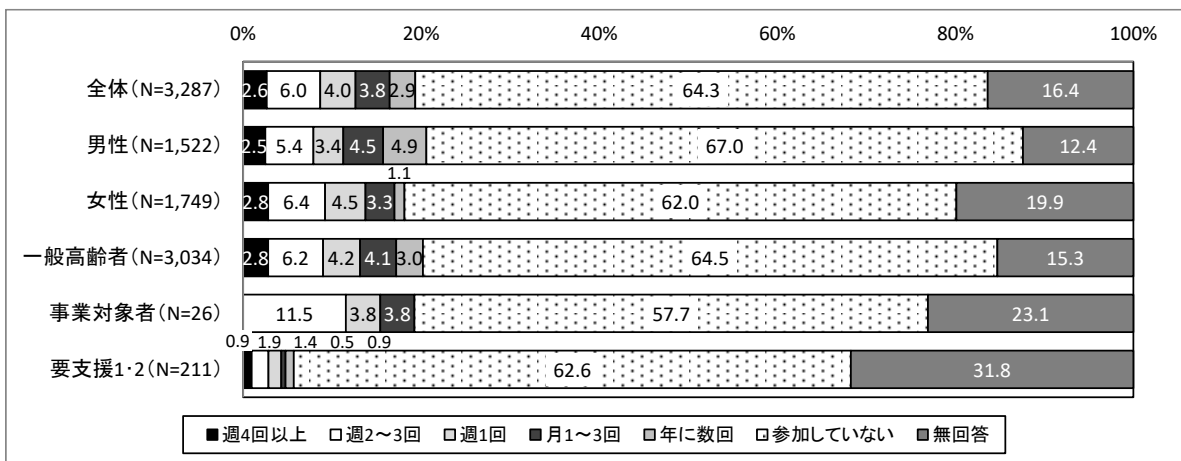
問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

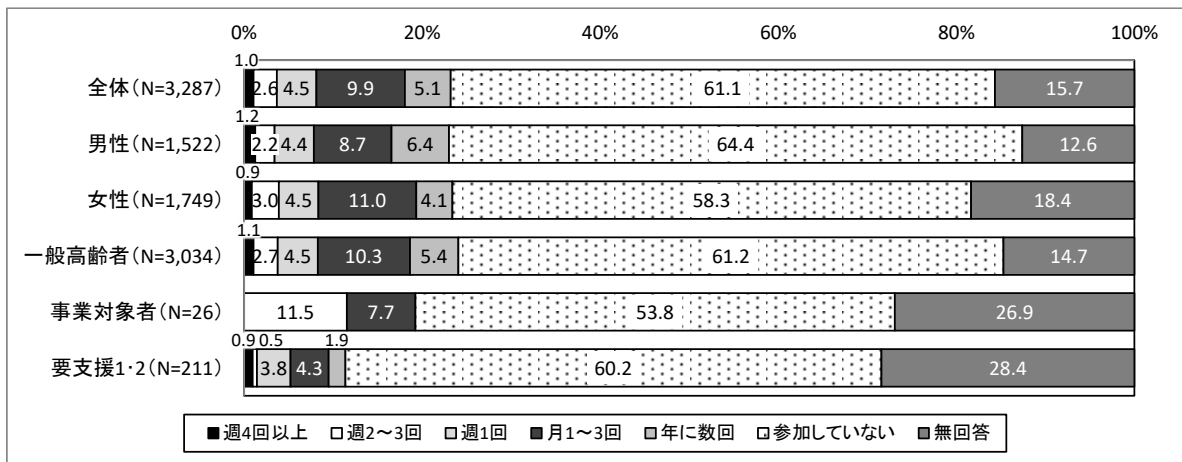
① ボランティアのグループ



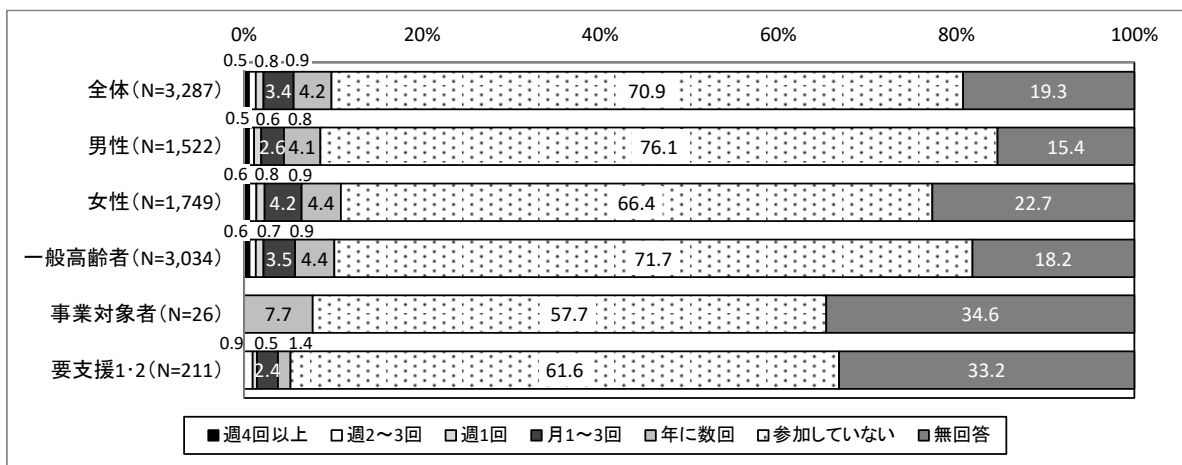
② スポーツ関係のグループやクラブ



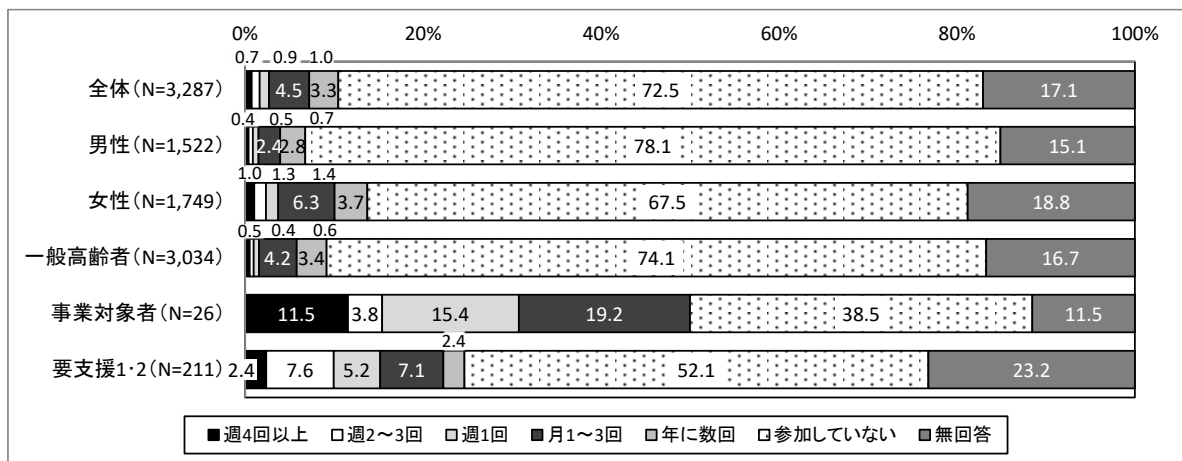
③ 趣味関係のグループ



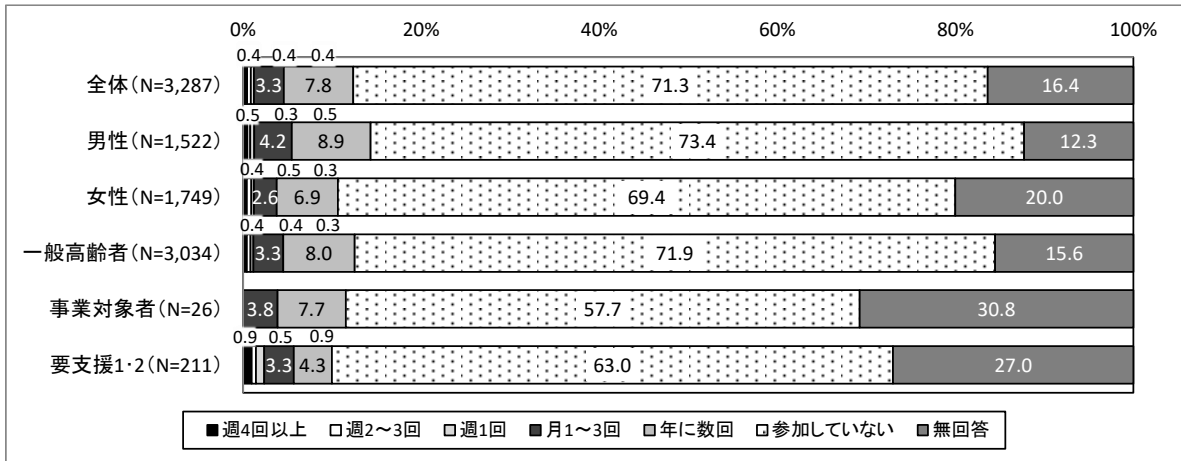
④ 学習・教養サークル



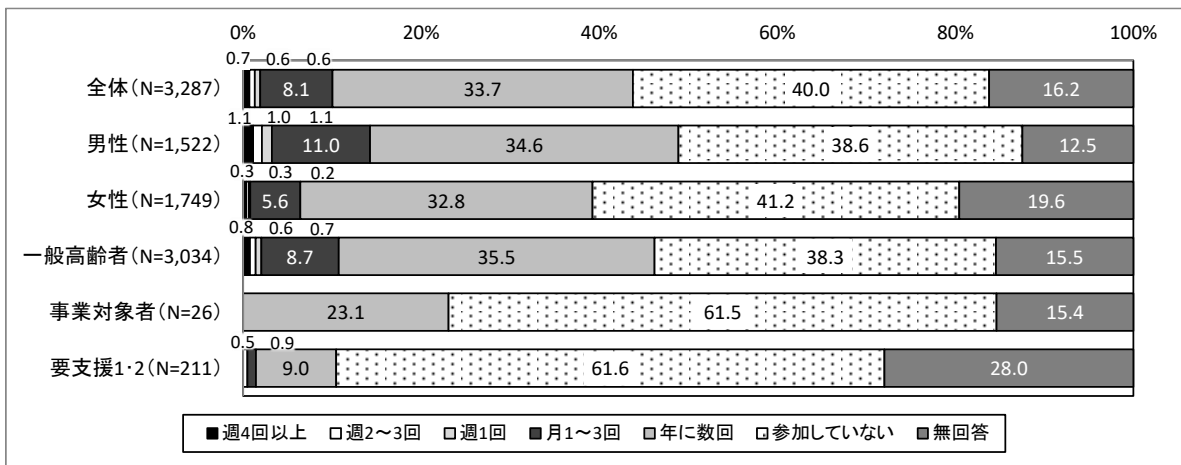
⑤ 介護予防のための通いの場 (ふれあい生きいきサロン、地域ささえあい通いの場など)



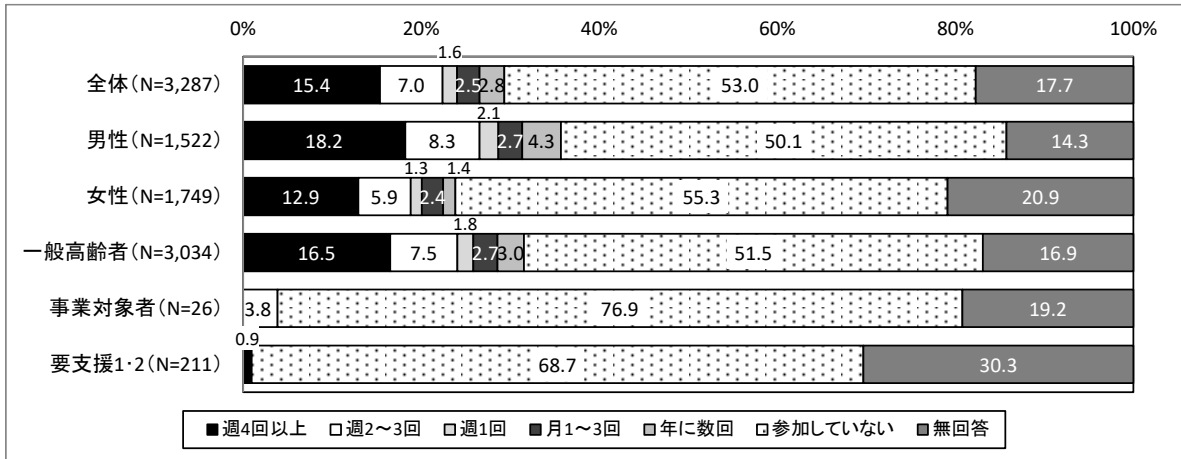
⑥ 老人クラブ



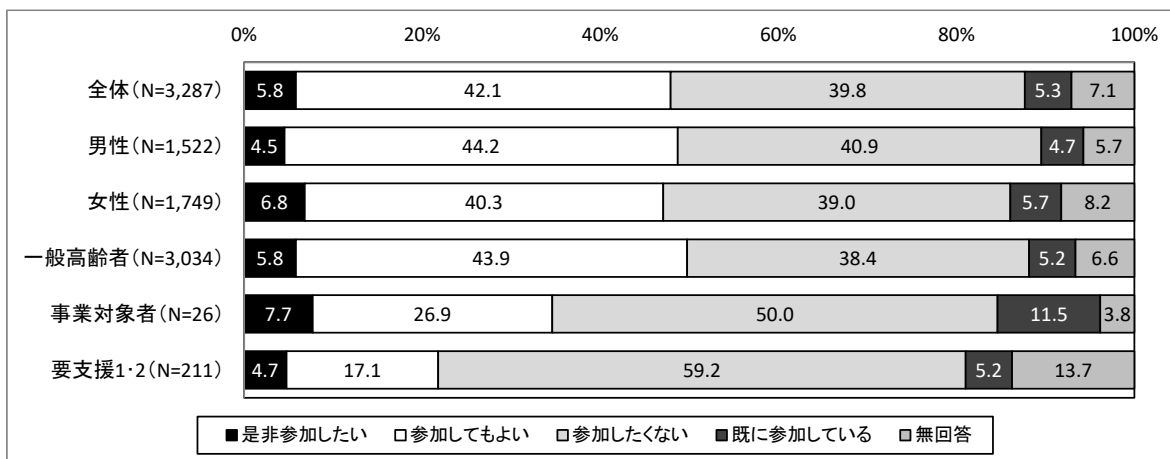
⑦ 町内会・自治会



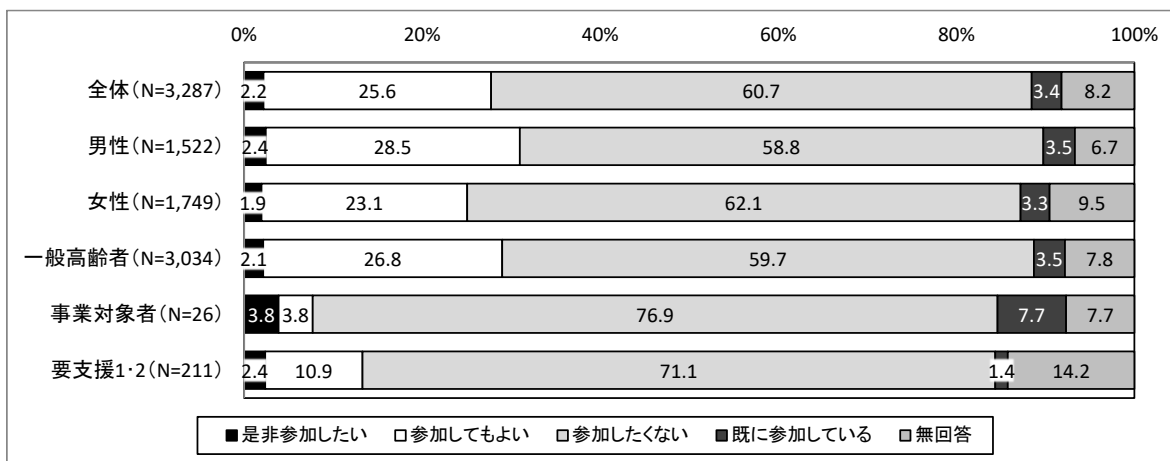
⑧ 収入のある仕事



(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

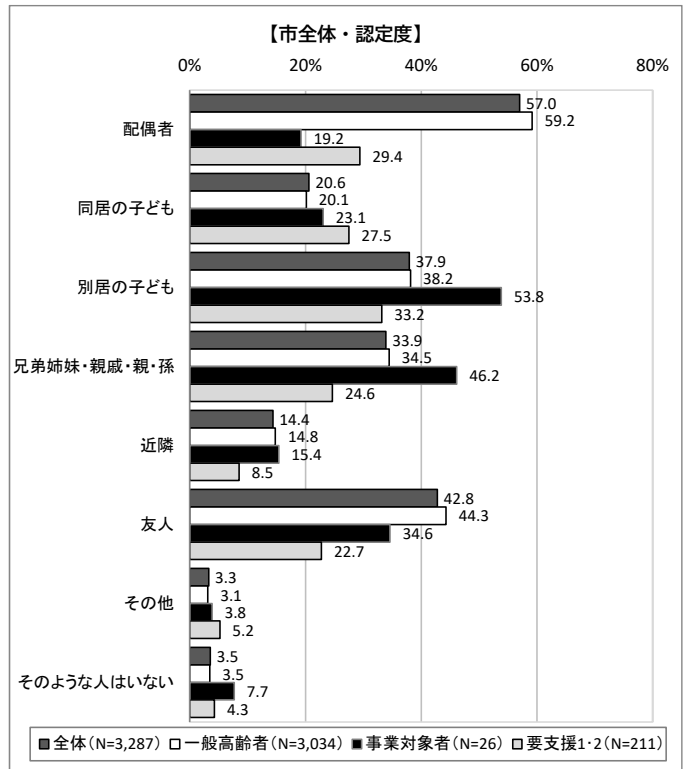
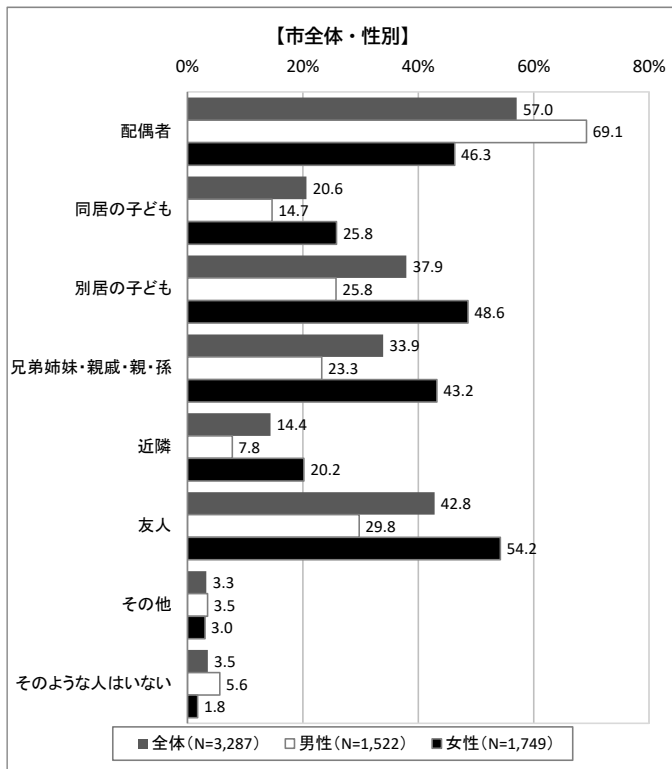


(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営 (お世話役)として参加してみたいと思いますか。

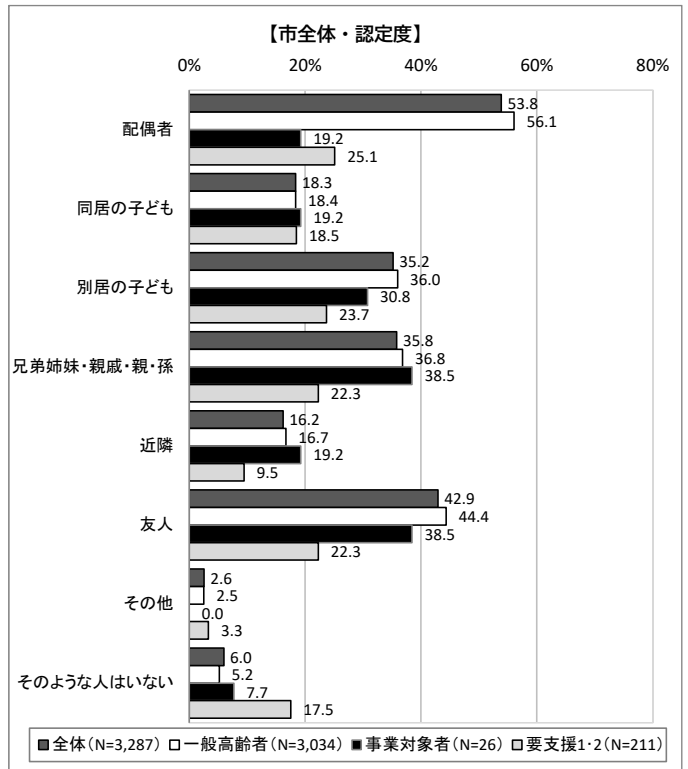
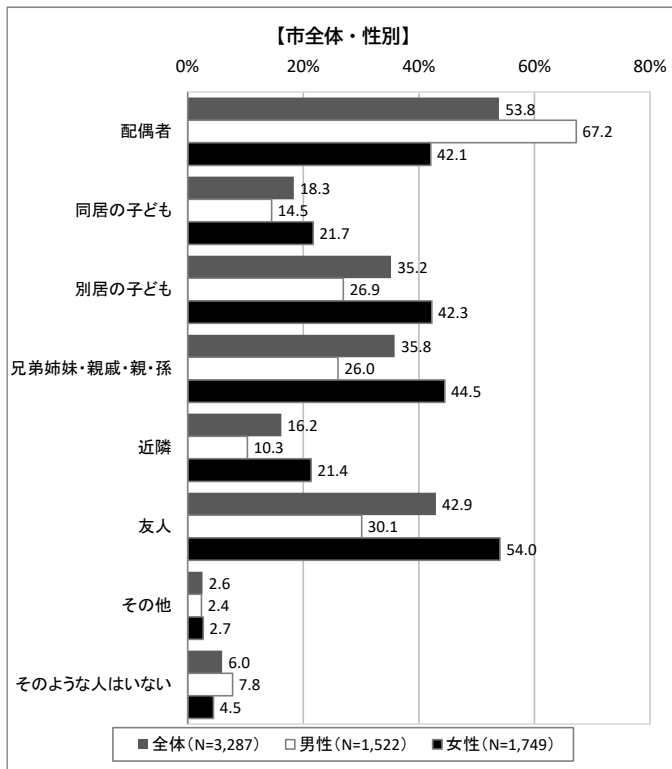


問6 たすけあいについて あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

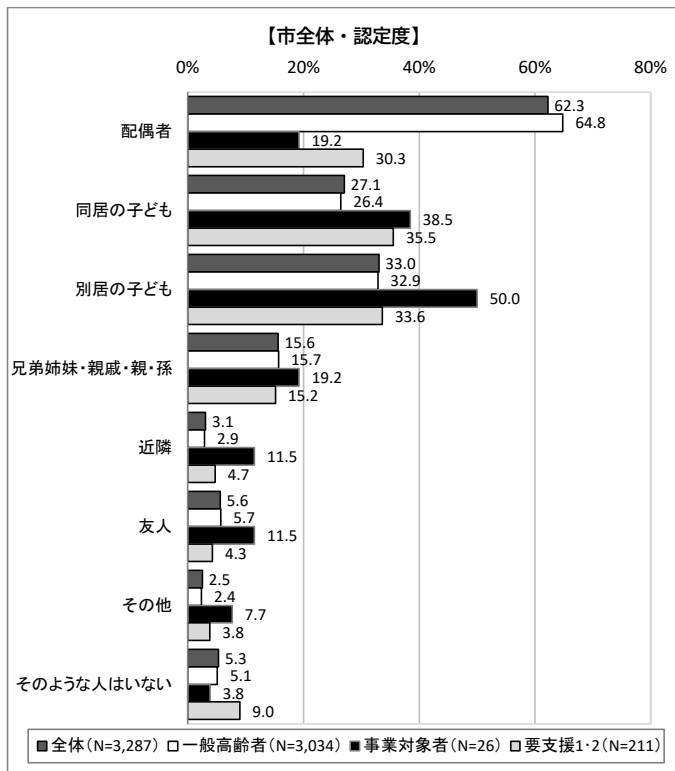
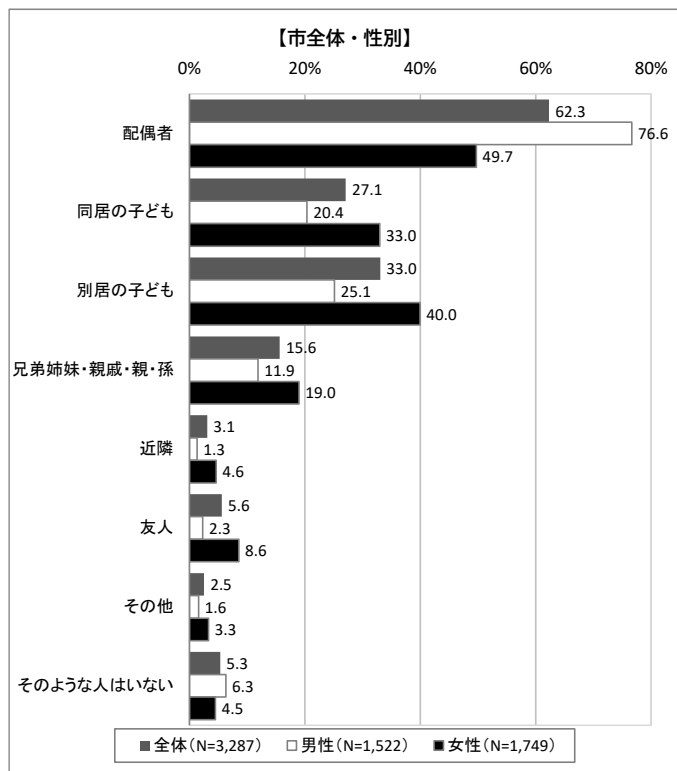
(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)



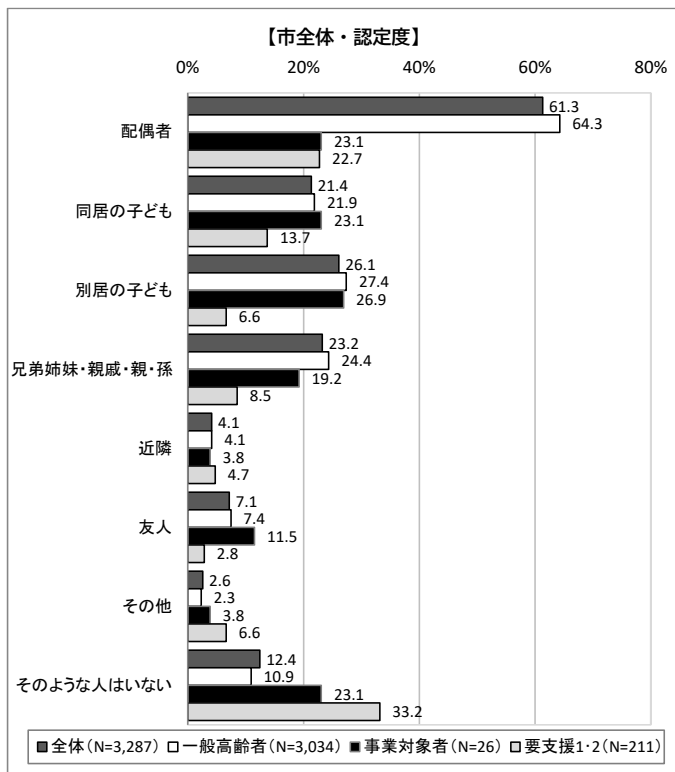
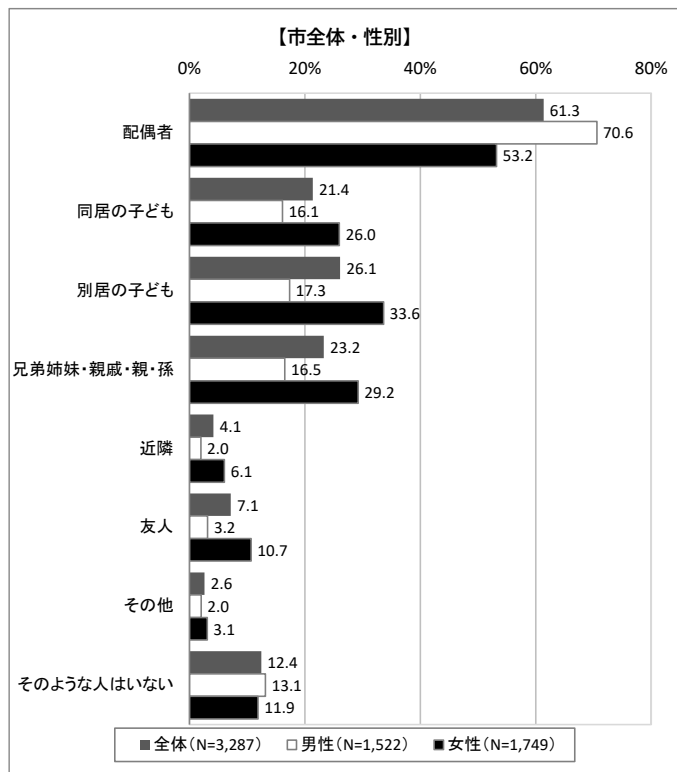
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)



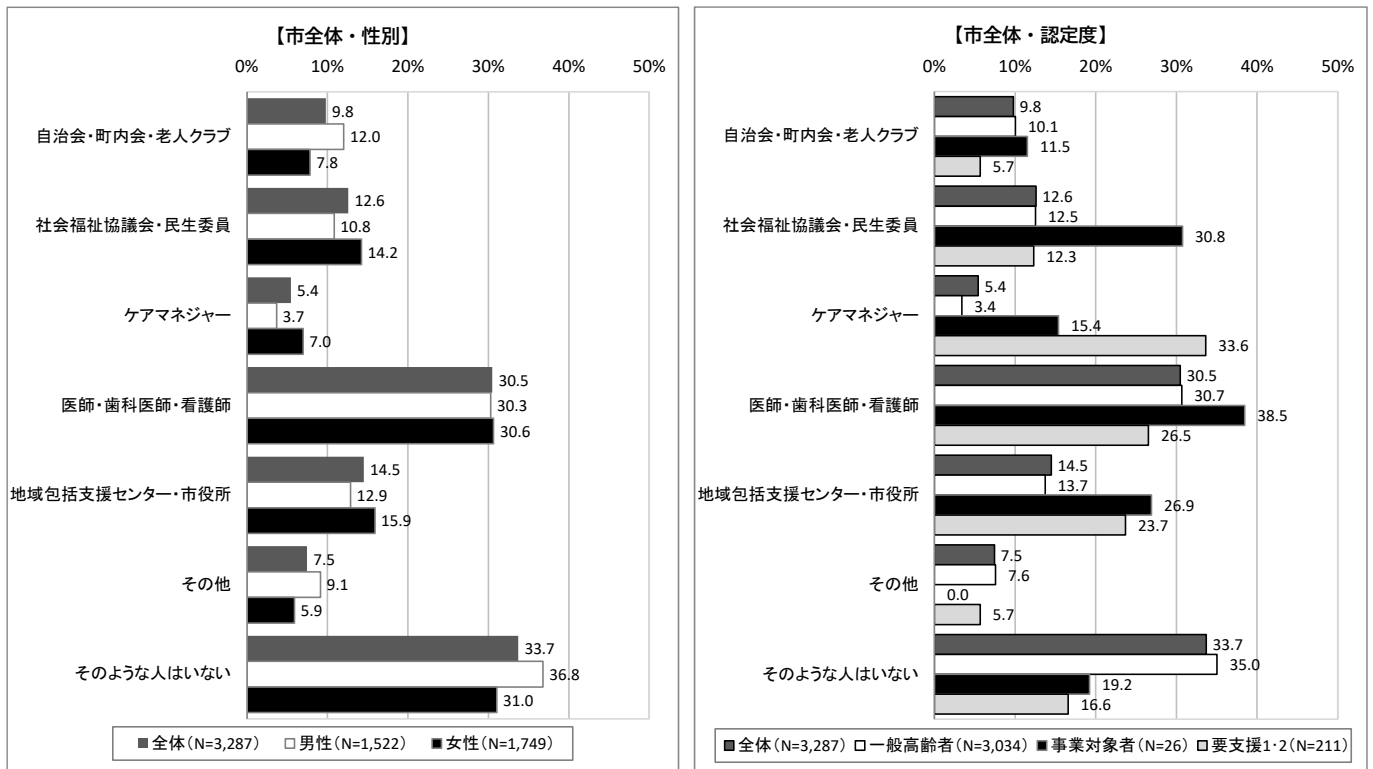
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）



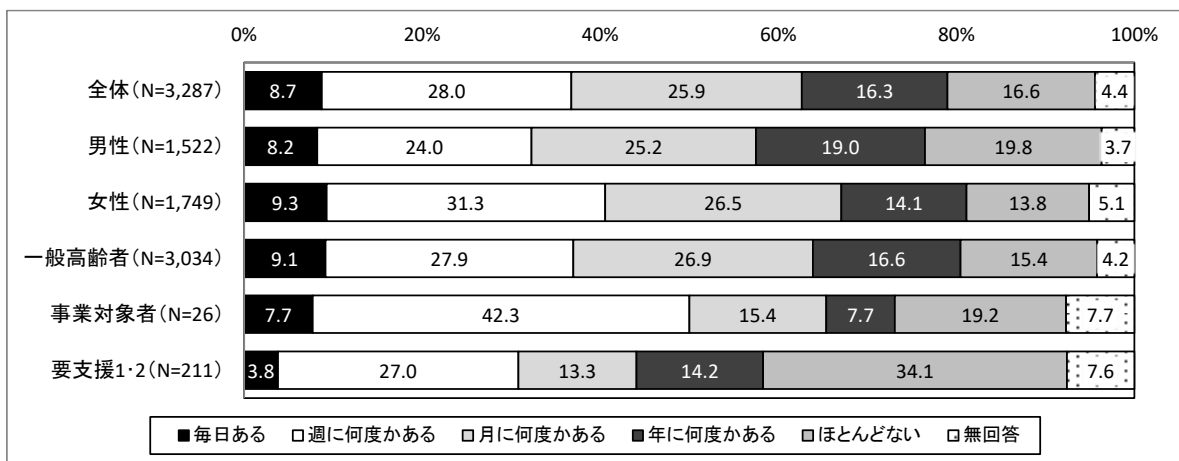
(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）



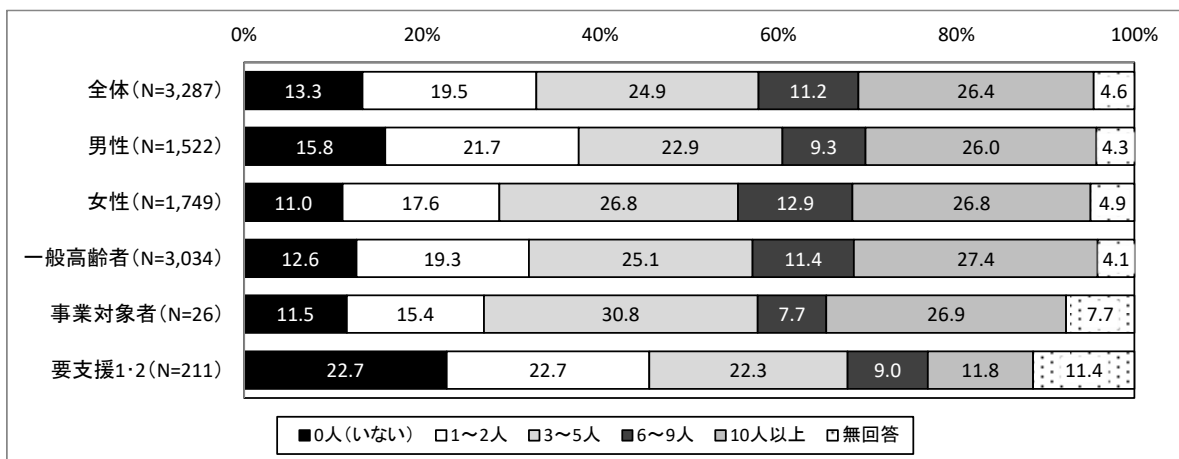
(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)



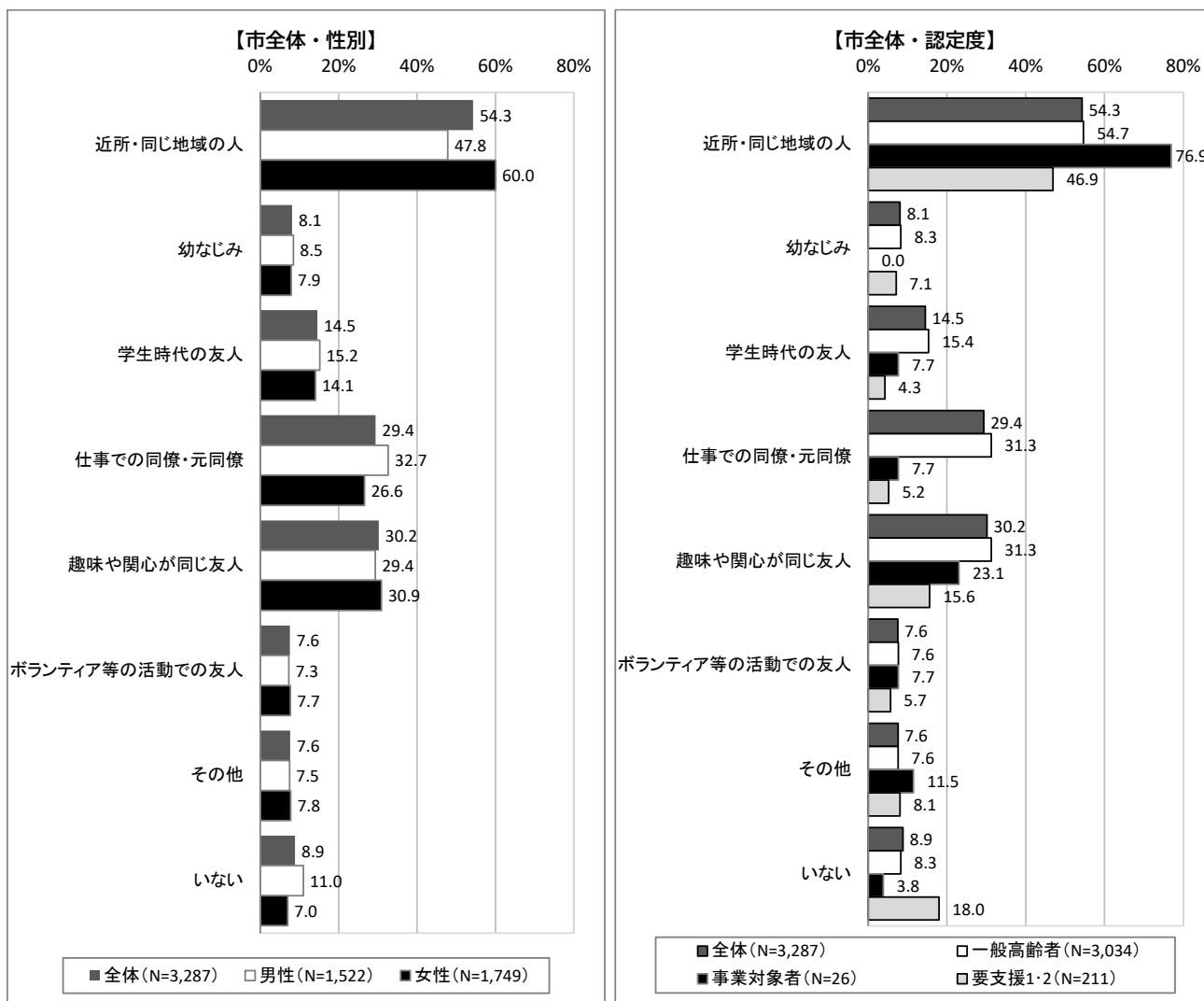
(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか



(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか
 同じ人には何度会っても1人と数えることとします

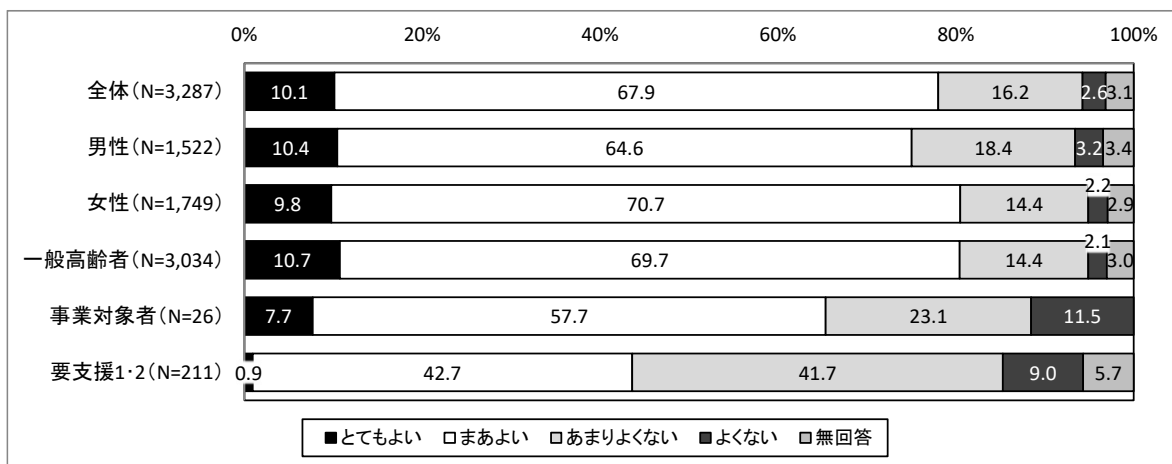


(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも)

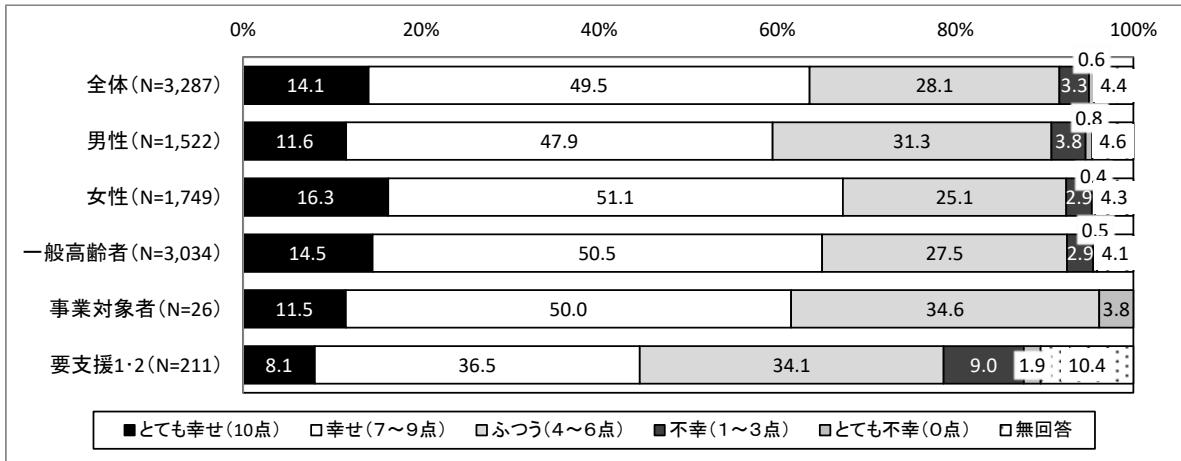


問7 健康について

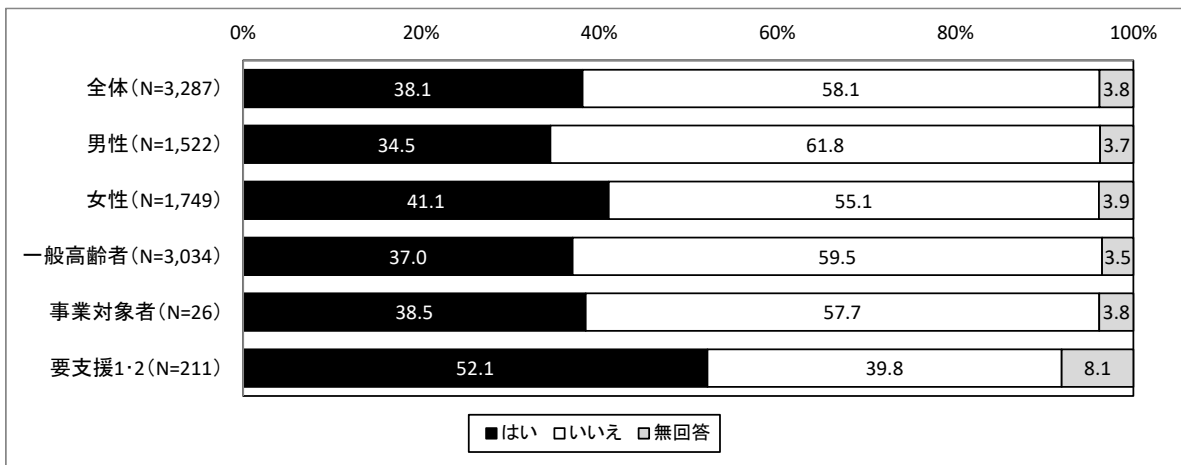
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか



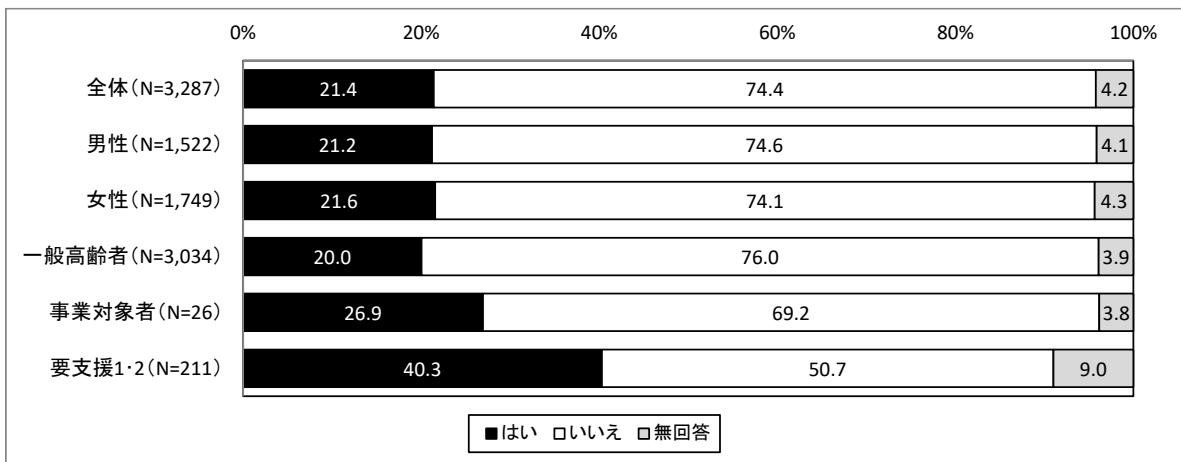
(2) あなたは、現在どの程度幸せですか



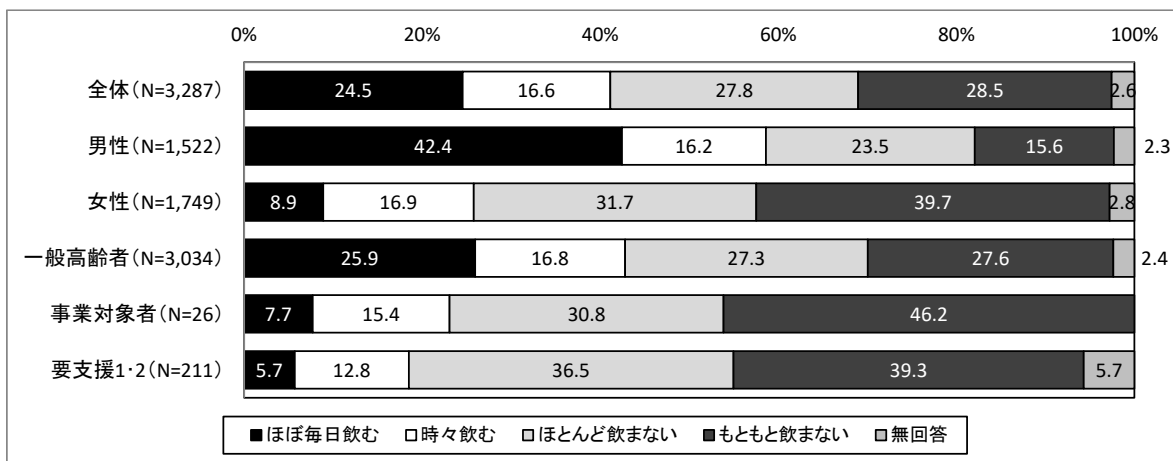
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか



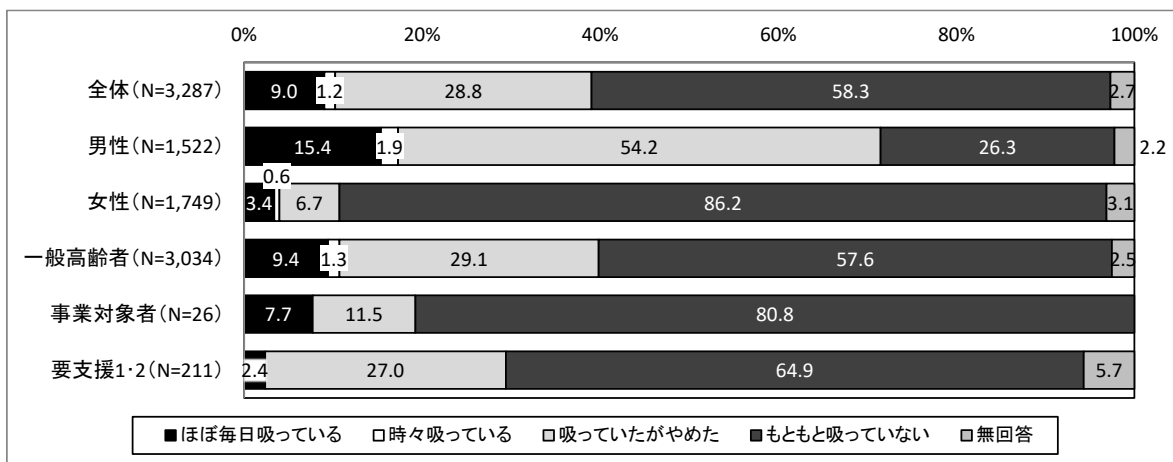
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか



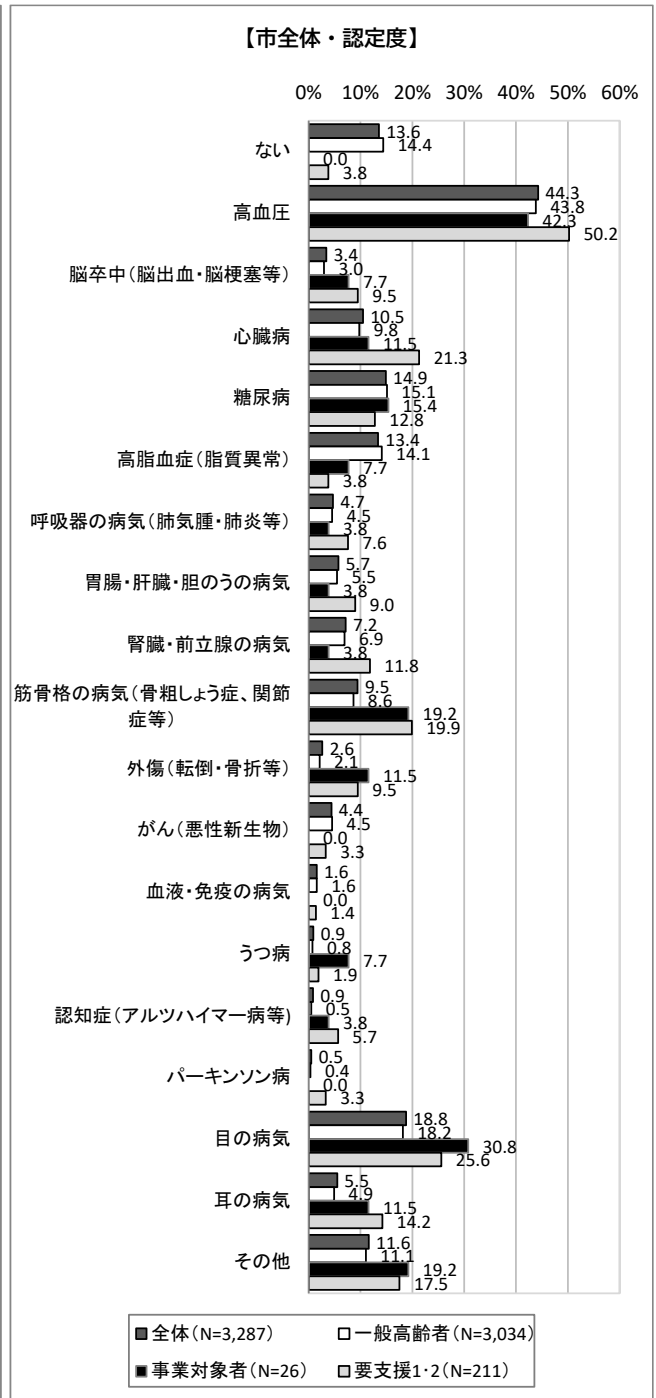
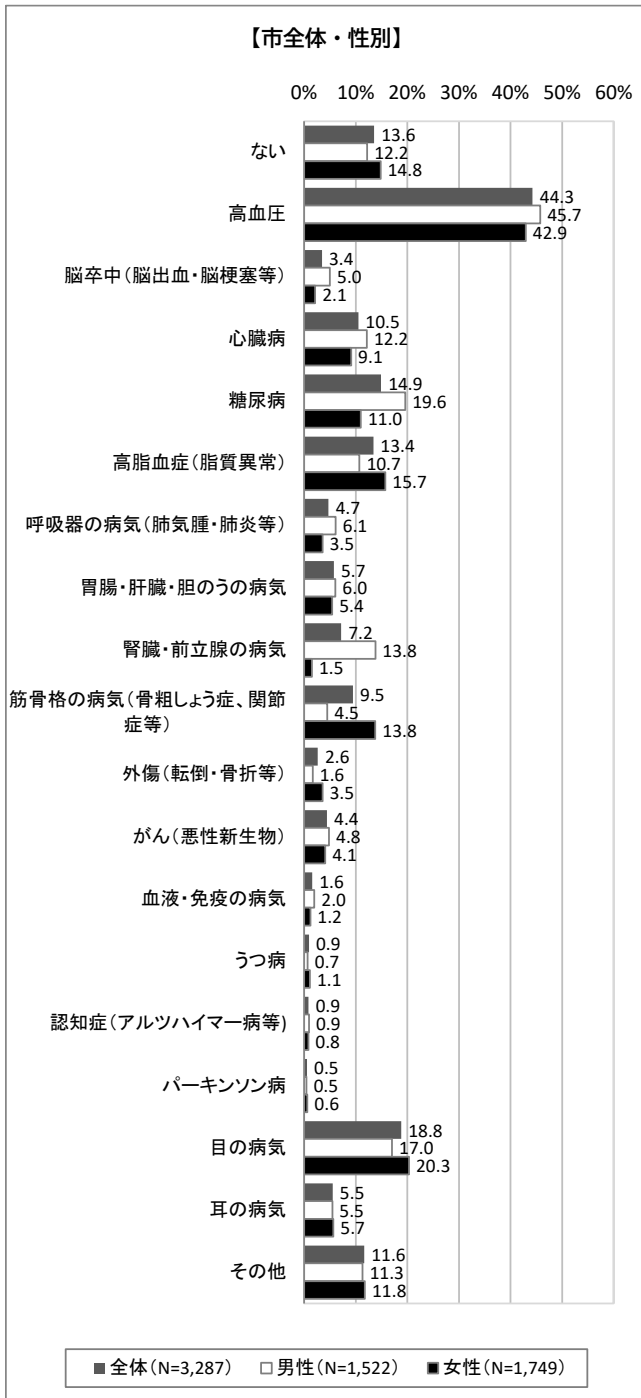
(5) お酒は飲みますか



(6) タバコは吸っていますか

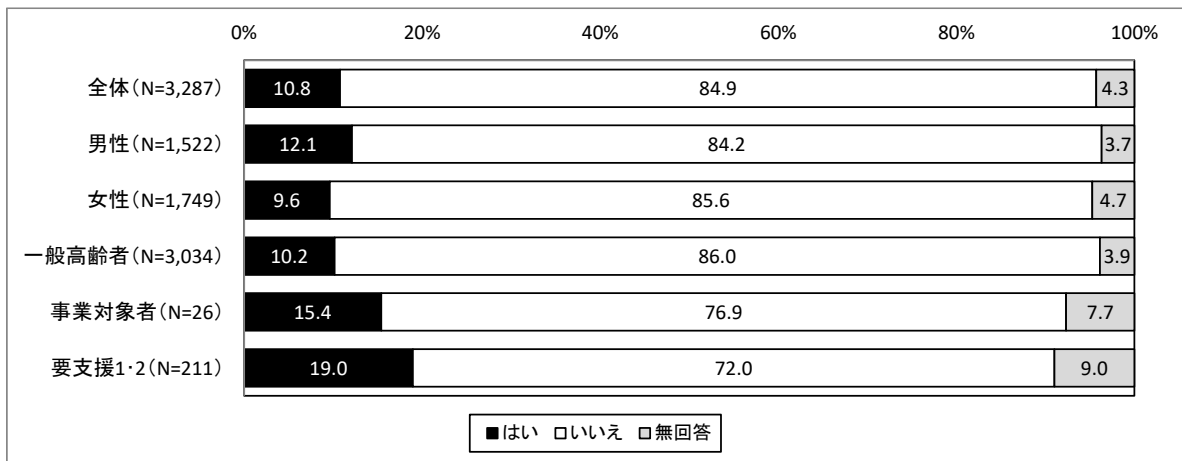


(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

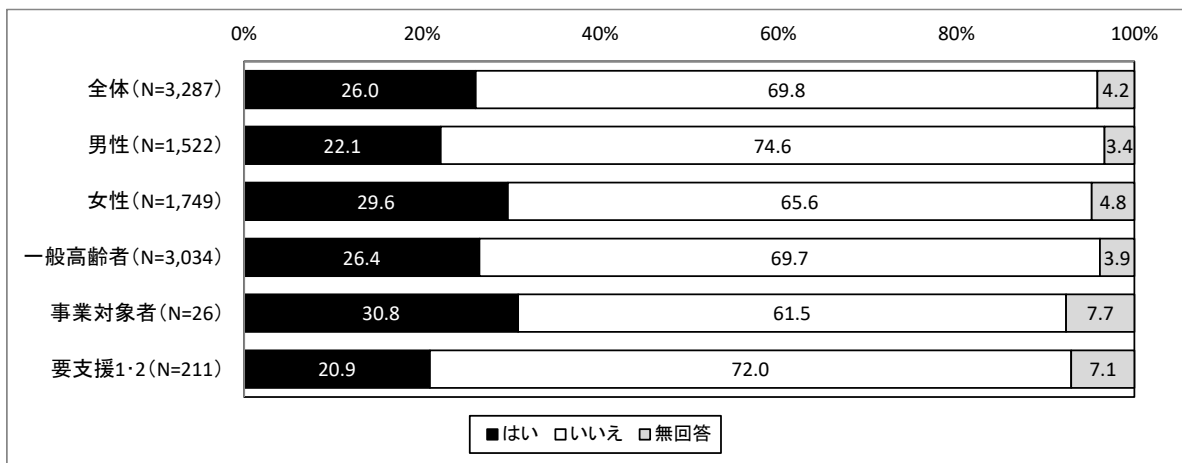


問8 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

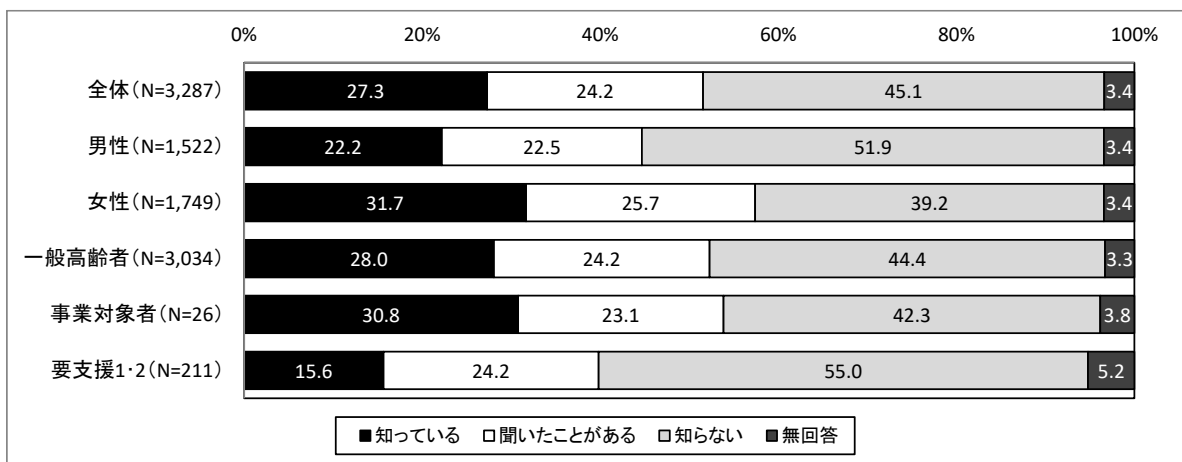


(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

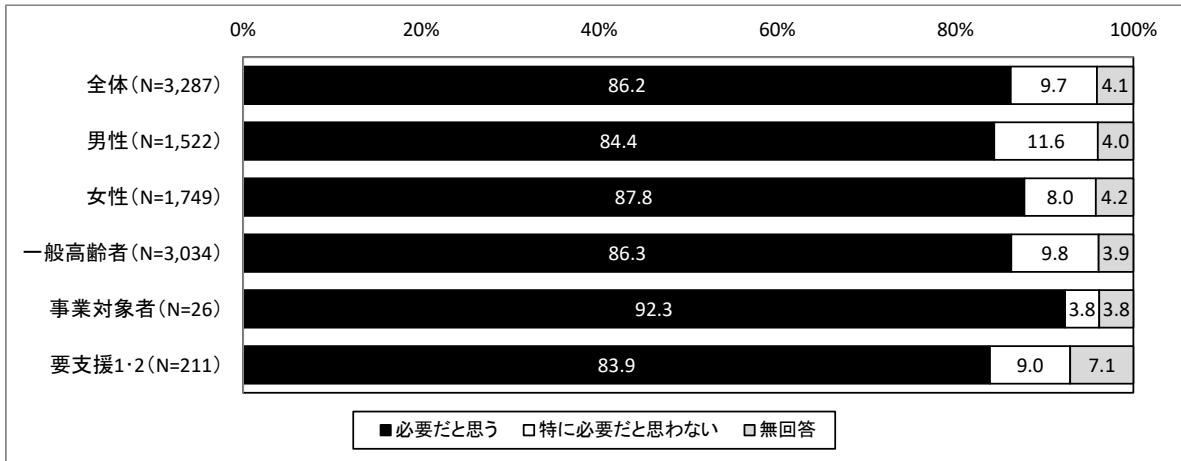


問9 介護予防について

(1) フレイル（加齢とともに身体機能や認知機能が低下して虚弱となった状態）という言葉を知っていますか

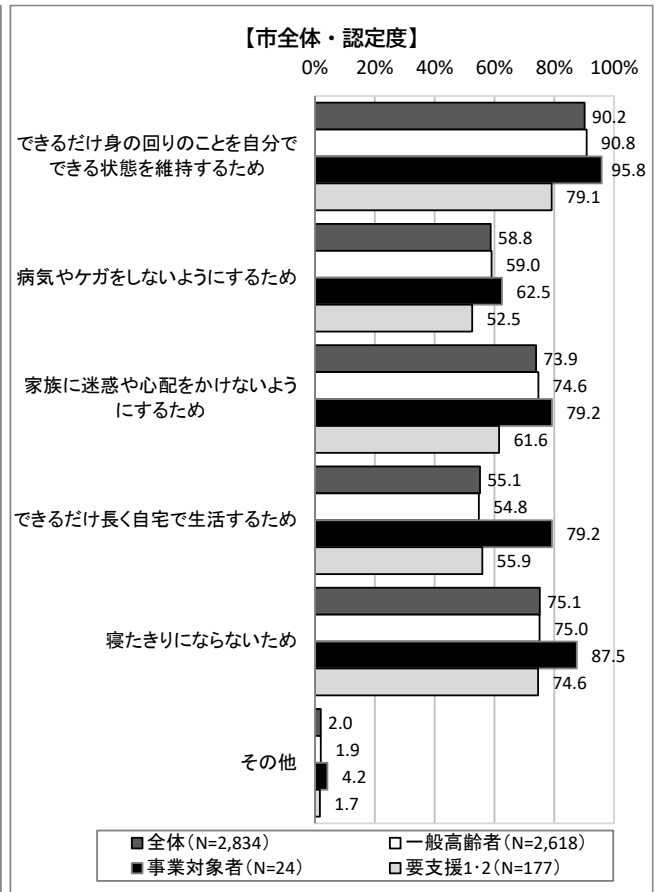
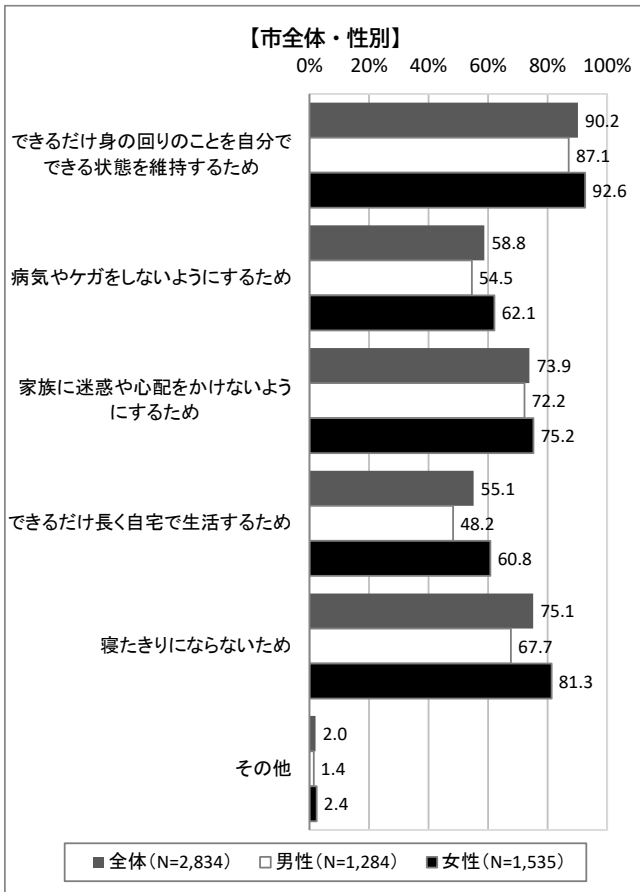


(2) 介護予防（介護を必要とする状態を防ぐこと）は、必要だと思いますか

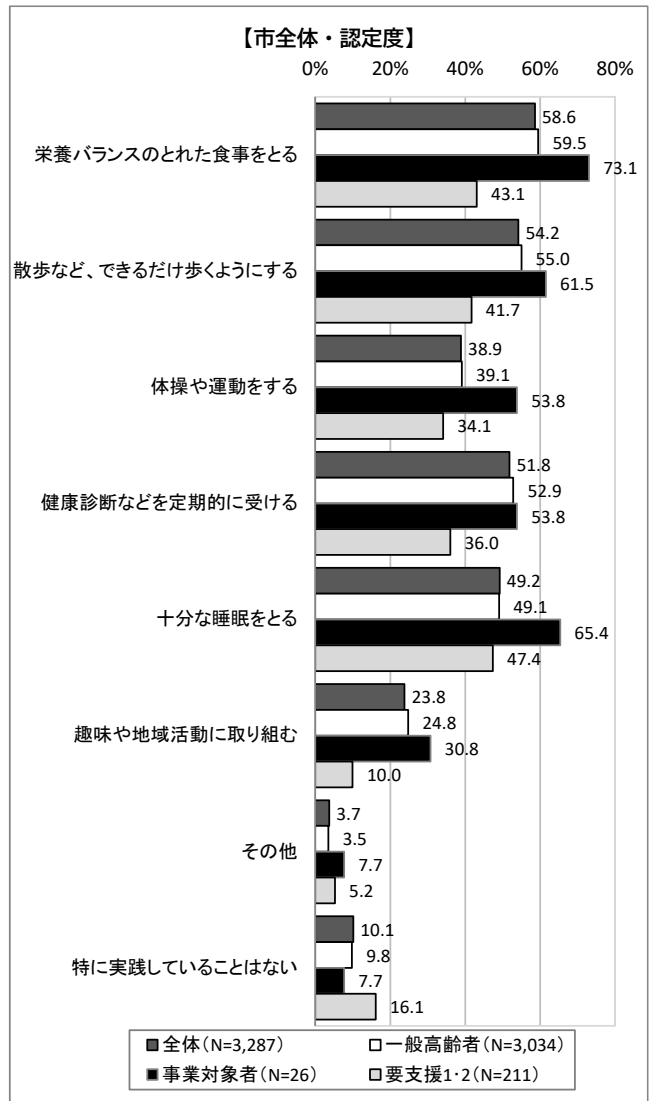
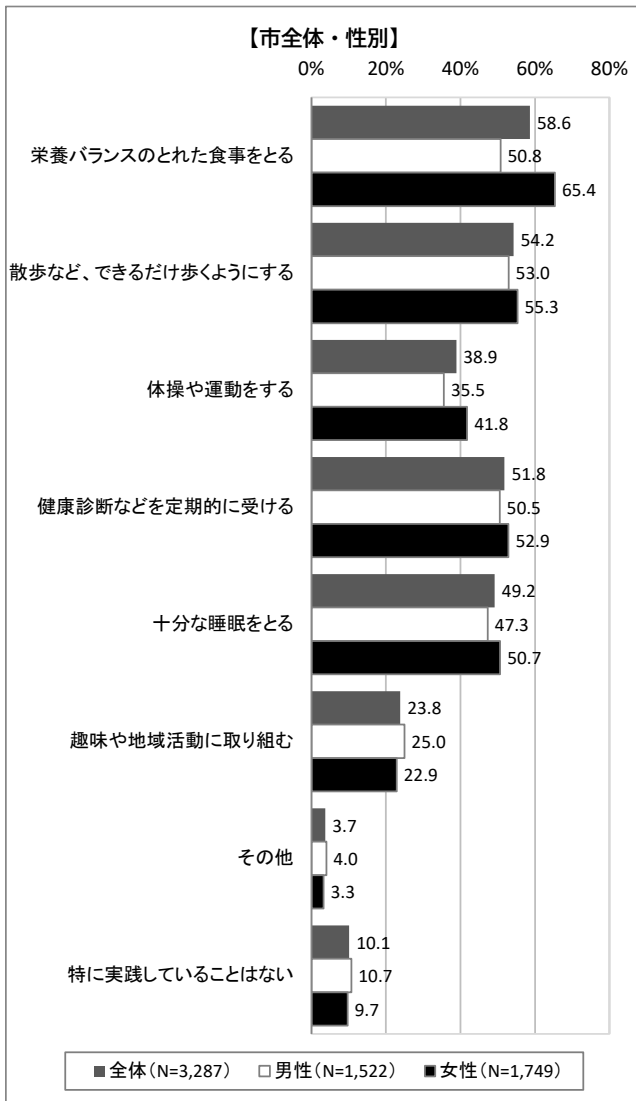


(2)において、「1. 必要だと思う」の方のみ

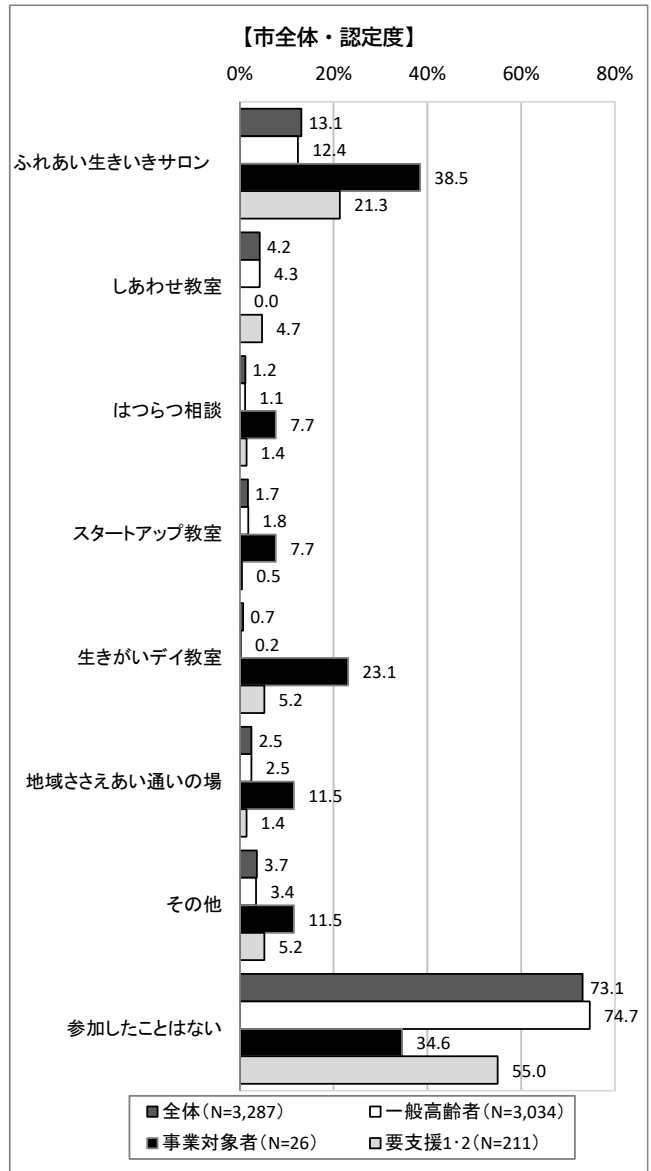
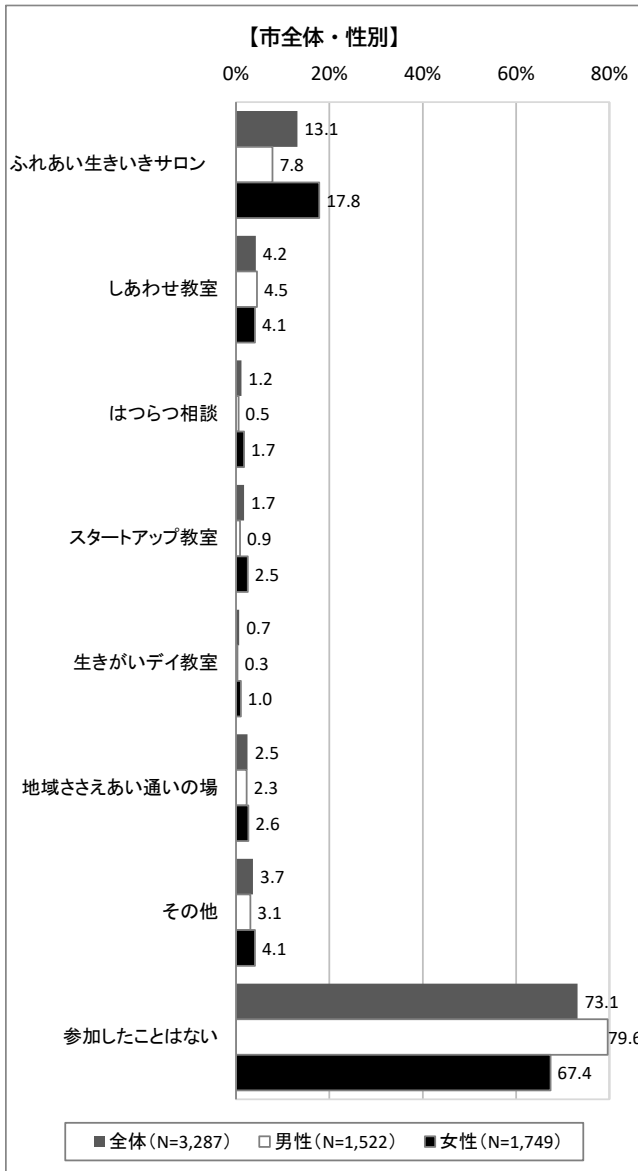
① 介護予防は、どうして必要だと思いますか（いくつでも）



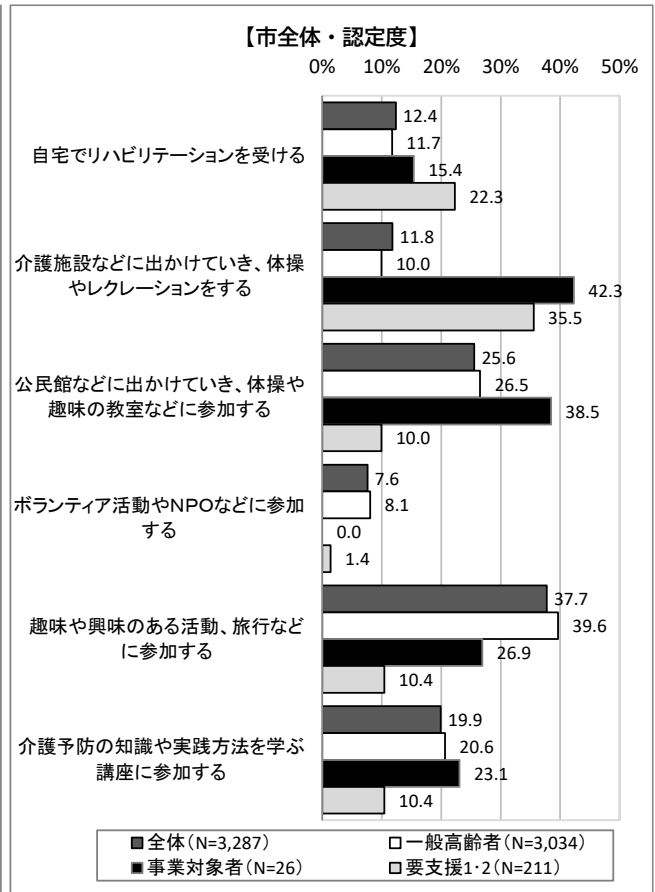
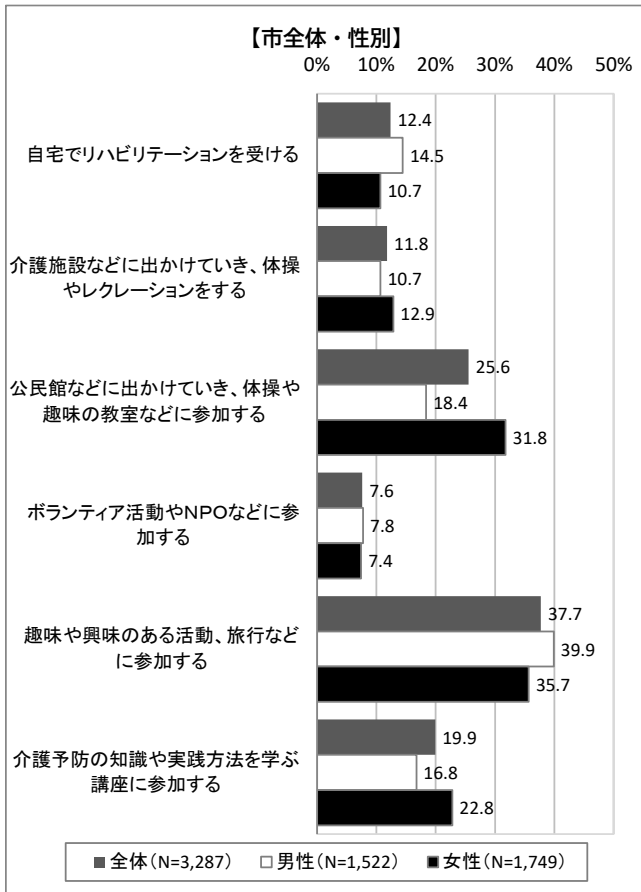
(3) あなたが介護予防のために実践しているものは何ですか（いくつでも）



(4) あなたはこれまで介護予防を目的とした事業に参加したことはありますか (いくつでも)

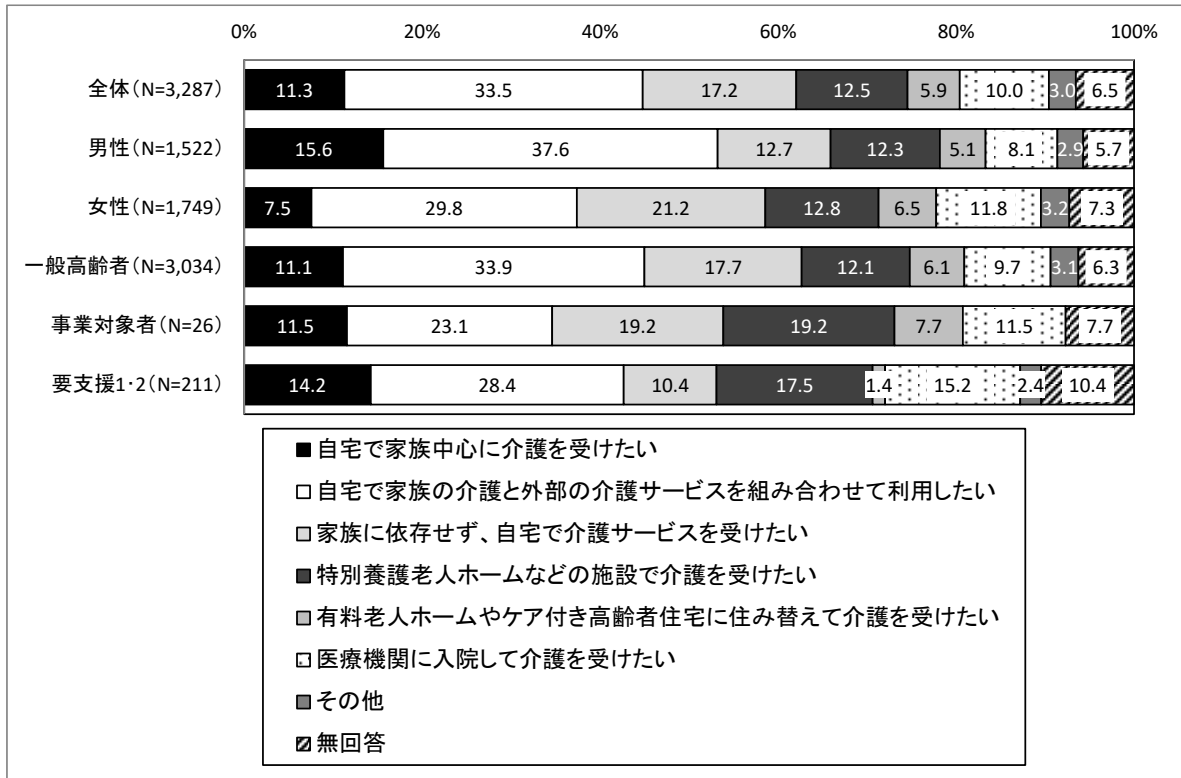


(5) あなたはどのような介護予防の取組に参加したいですか（いくつでも）

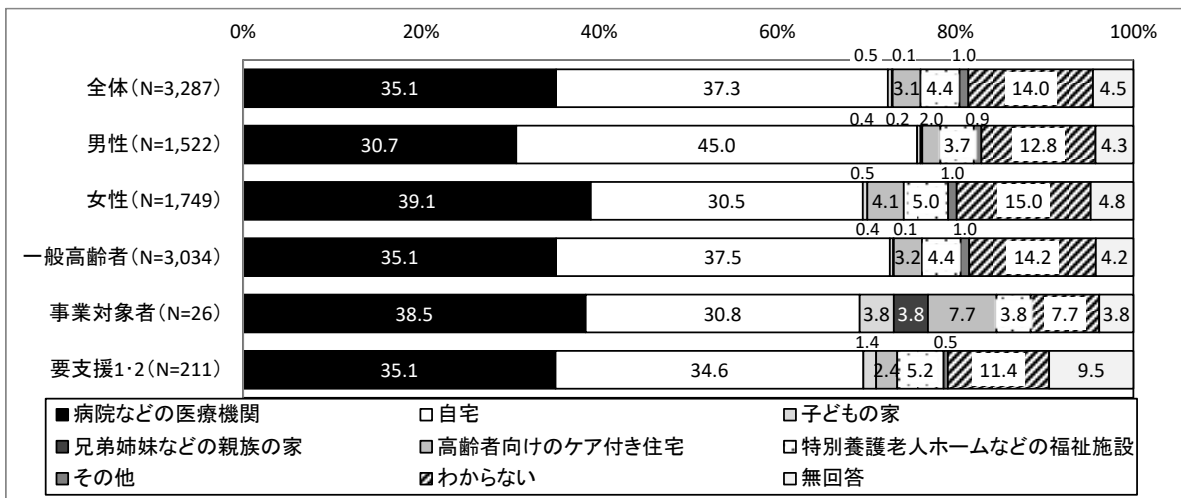


問 10 地域での支援・高齢者福祉サービスについて

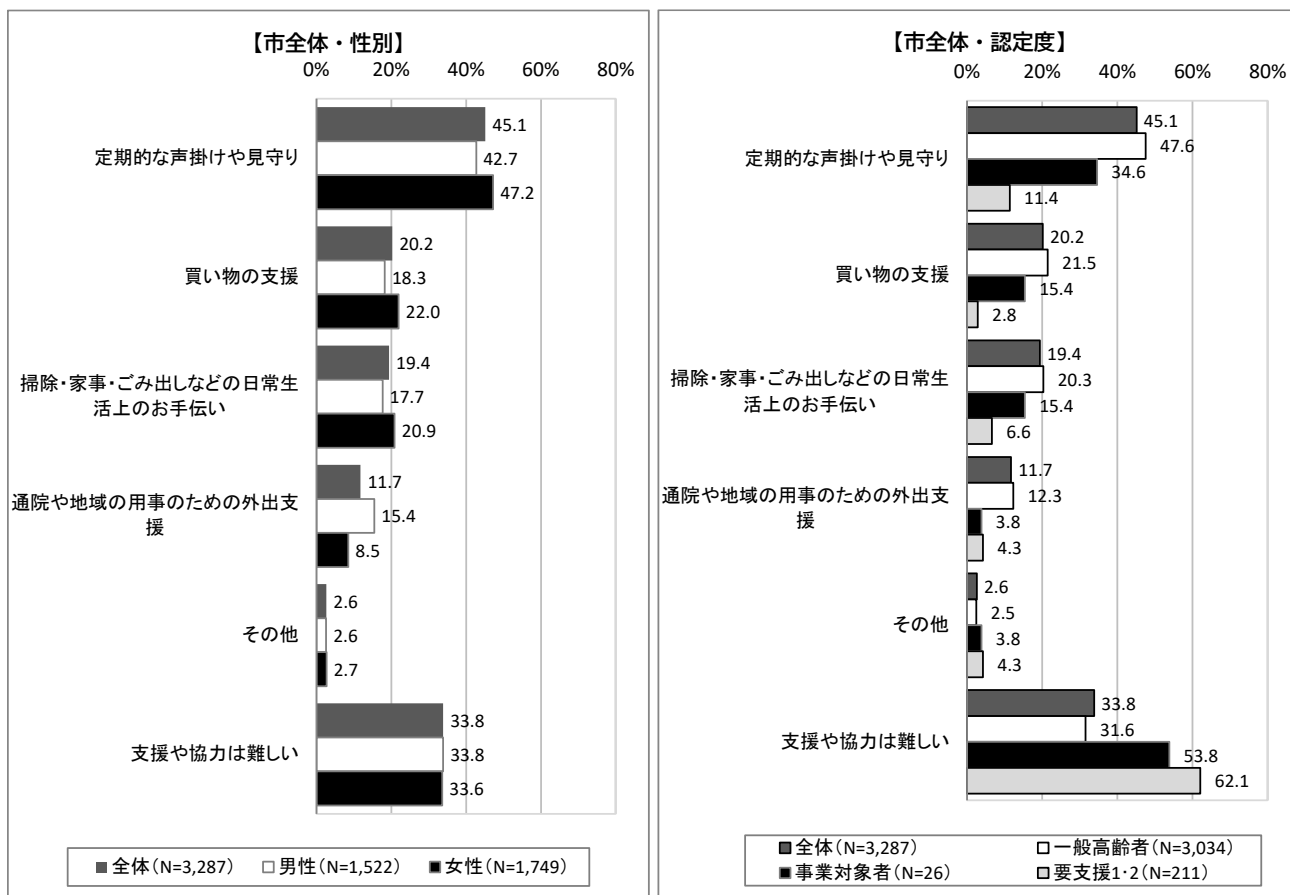
(1) 自分に介護が必要となったら、どうしますか



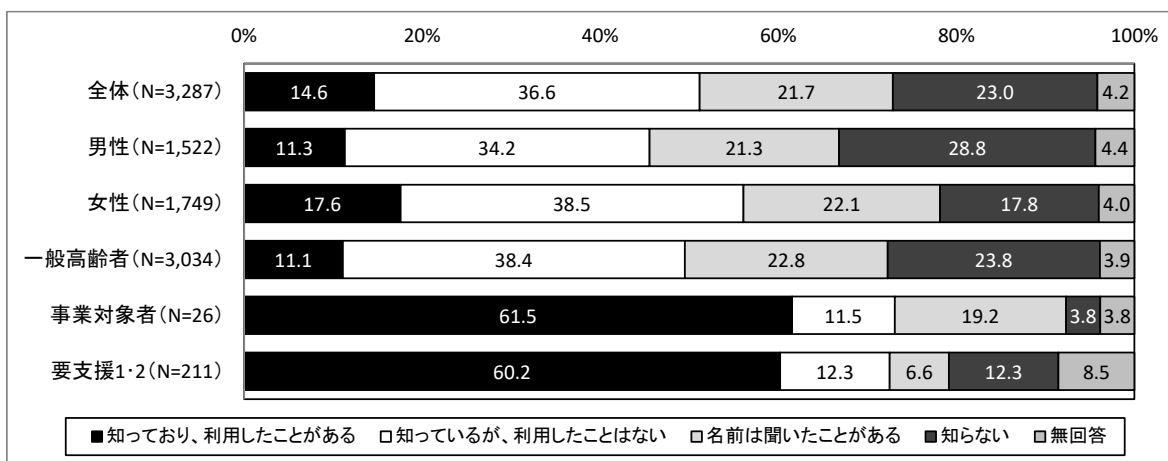
(2) 万一、あなたが治る見込みがない病気になった場合、最期はどこで迎えたいですか



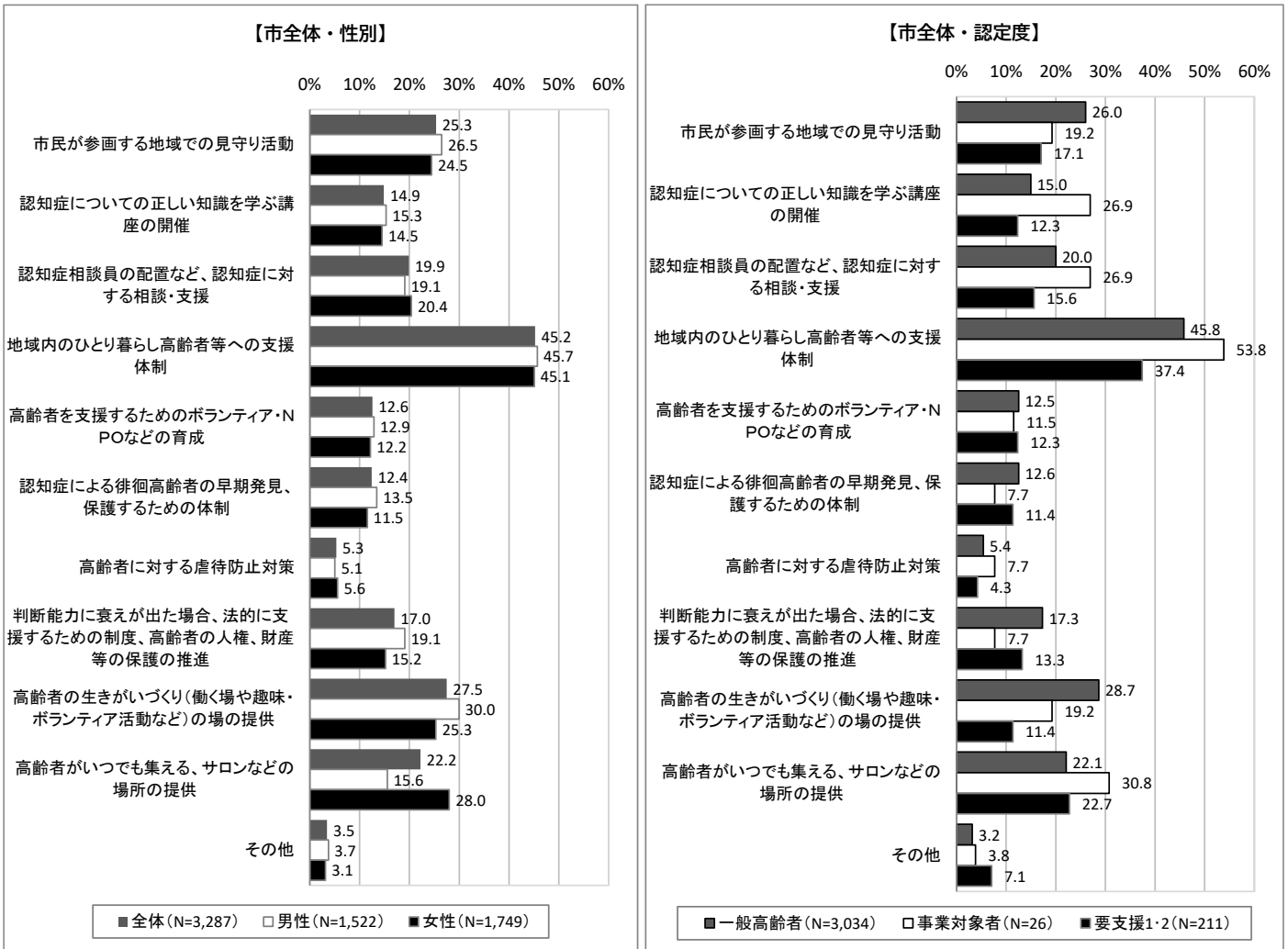
(3) あなたが地域で支援や協力をするとしたら、どのようなことができると思いますか



(4) 住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、介護、医療、福祉、健康などの様々な支援や相談業務を行う「地域包括支援センター」をご存知ですか

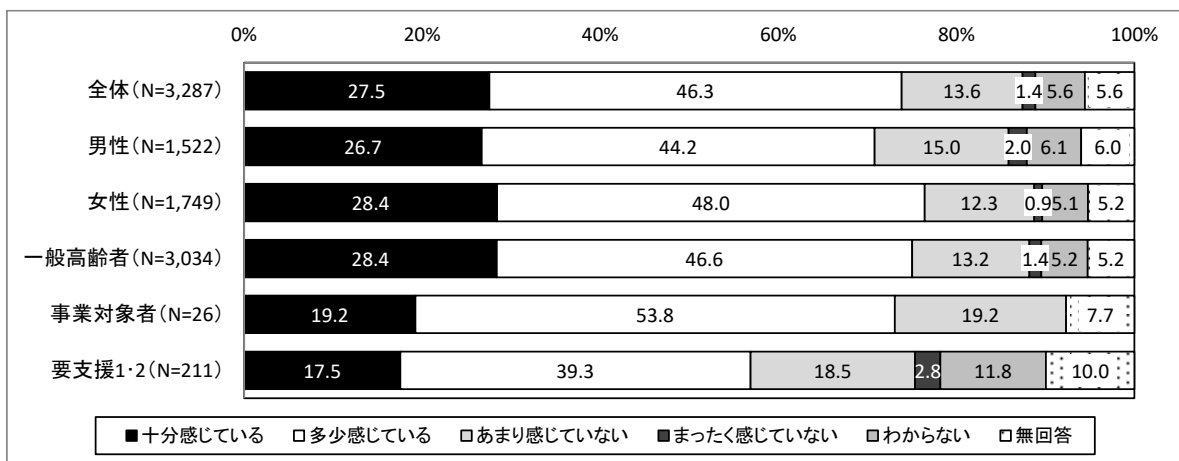


(5) 高齢化に対応するため、どのような活動・体制の充実が必要と考えますか（3つまで）



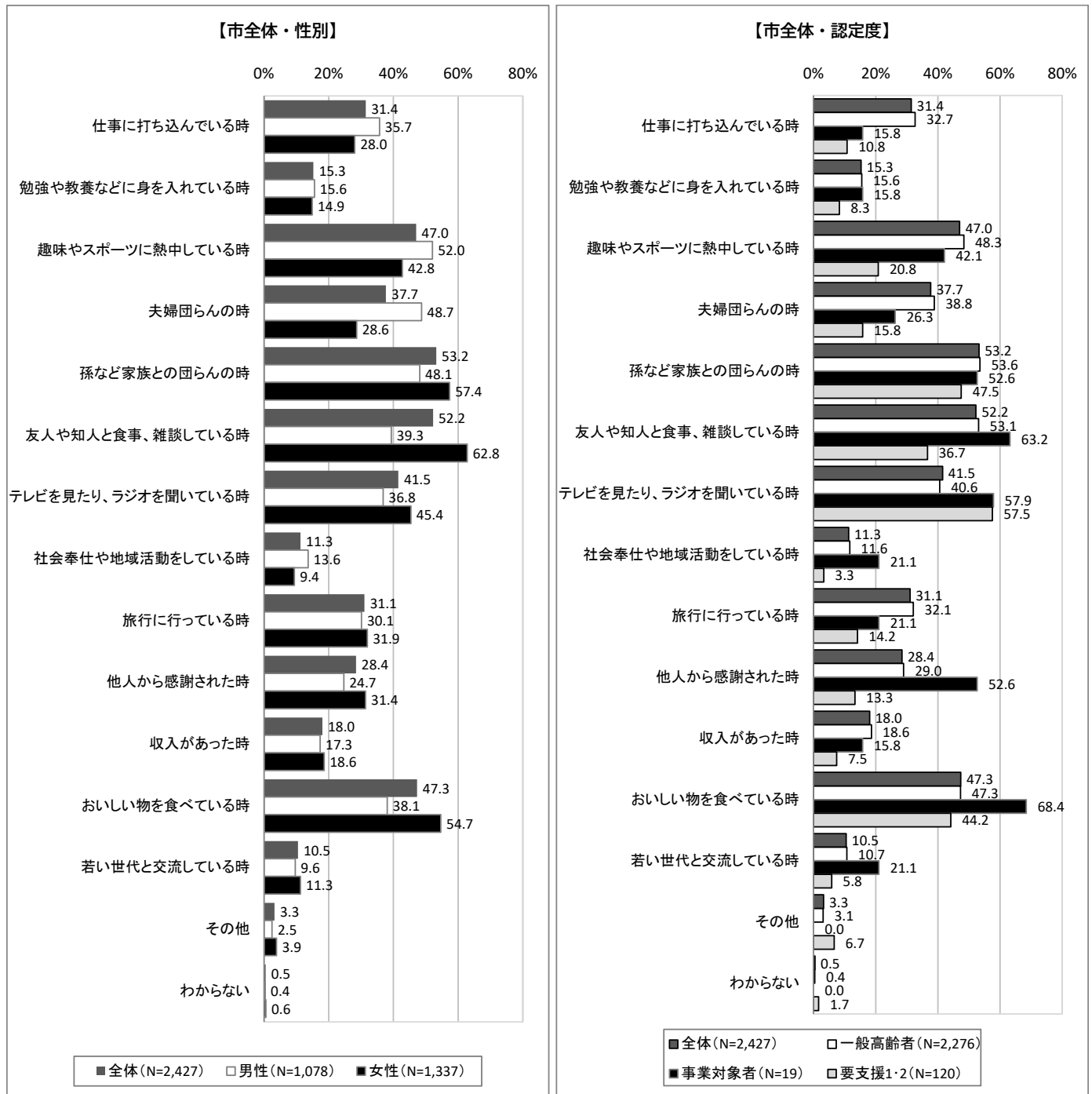
問 11 地域社会への参加等に関する意識について

(1) あなたは、現在、どの程度生きがい(喜びや楽しみ)を感じていますか

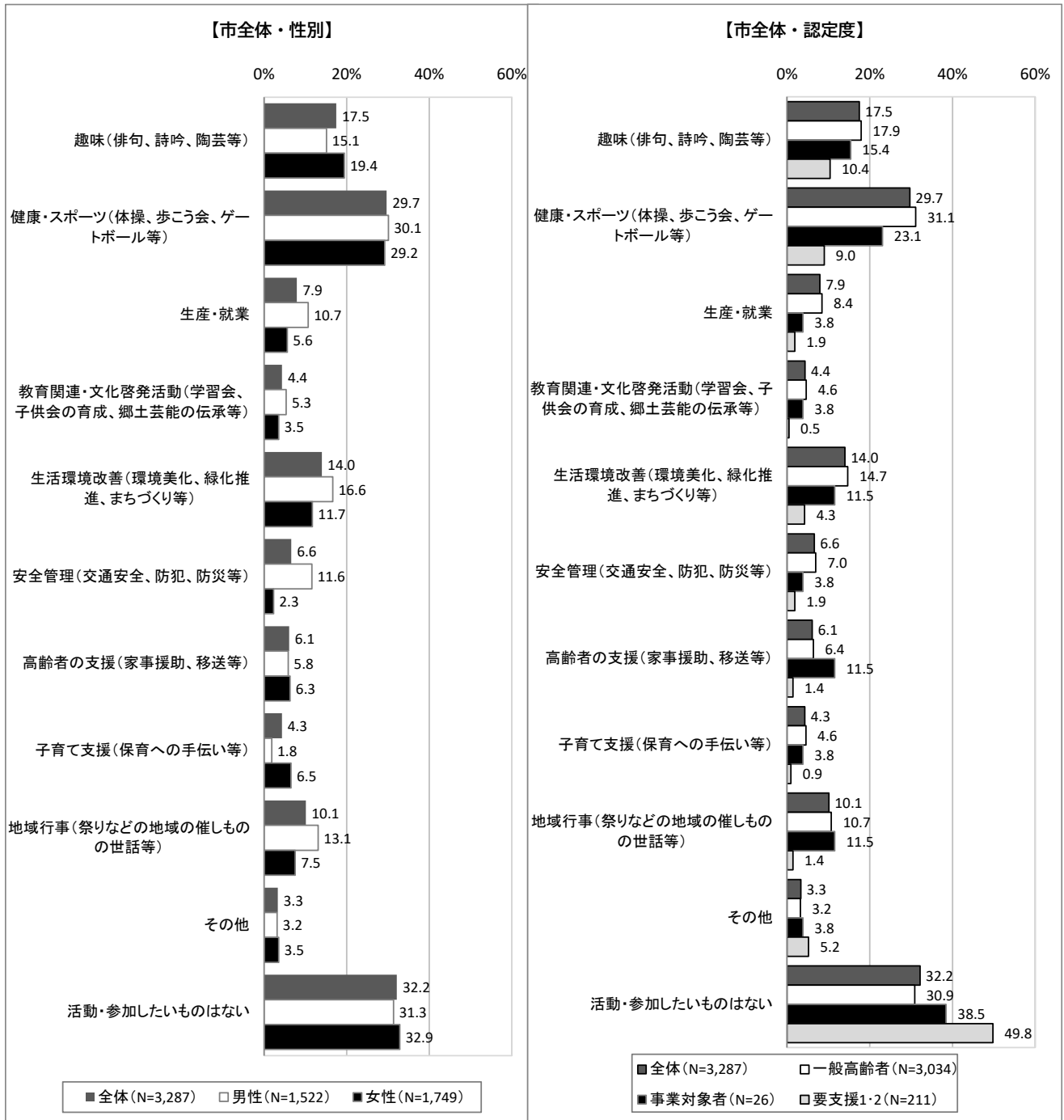


(1)において、「1. 十分感じている」または「2. 多少感じている」の方のみ

① あなたが生きがい（喜びや楽しみ）を感じるのはどのようなときですか（いくつでも）

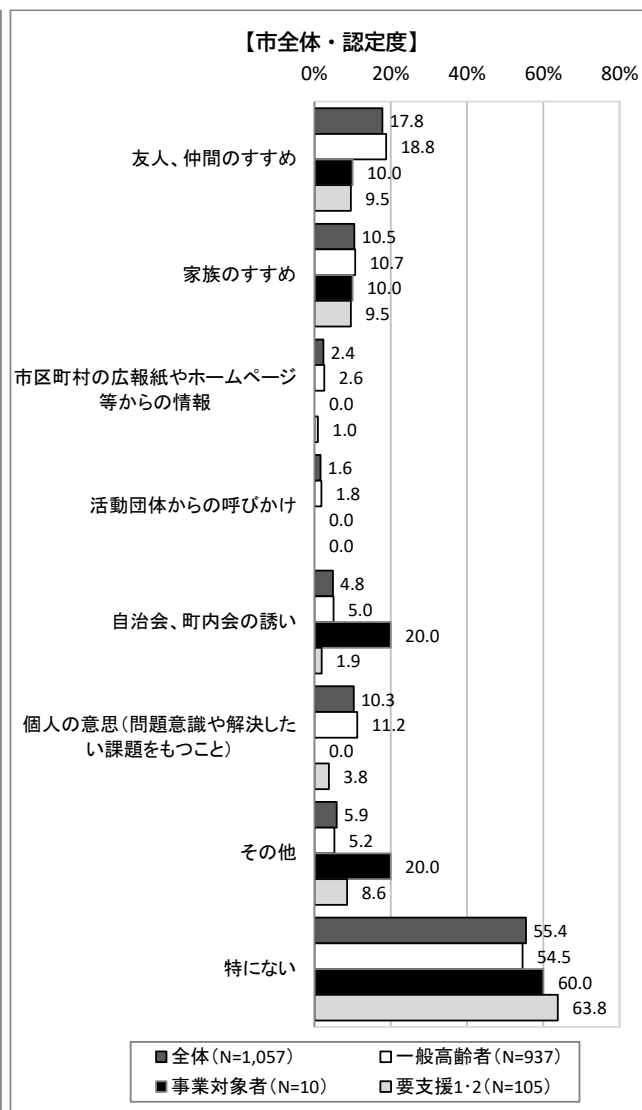
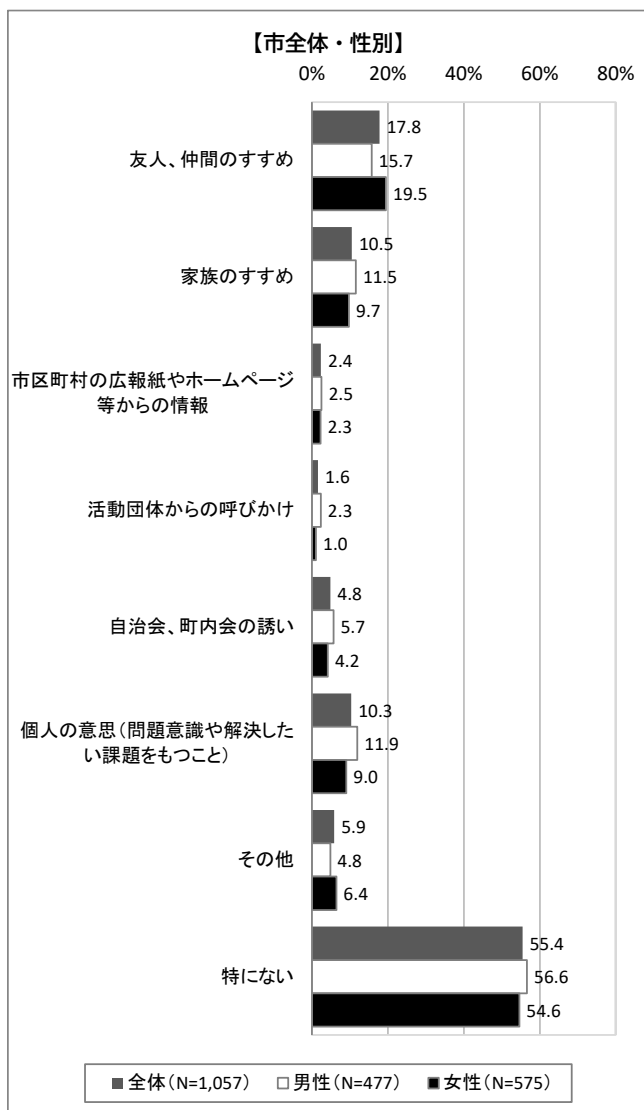


(2) あなたは、個人または友人と、あるいはグループや団体で、自主的に行われている次のような活動を行いたい、または参加したいと思いますか（いくつでも）



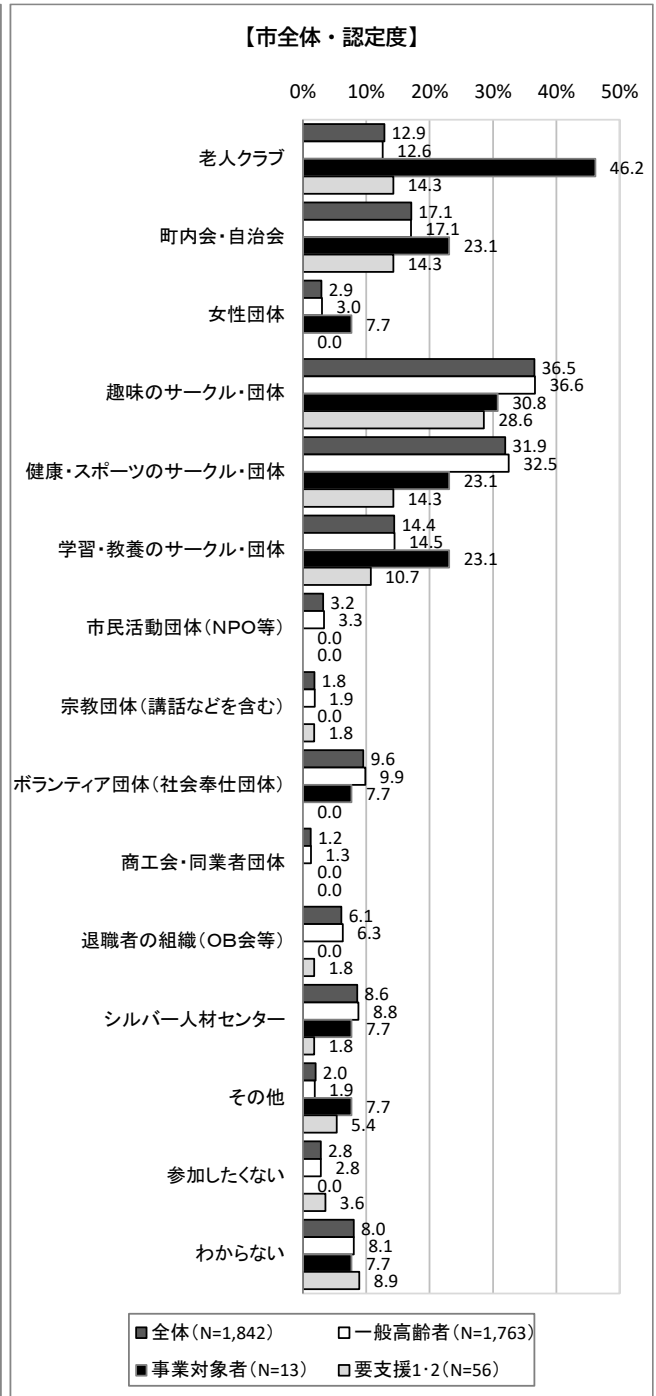
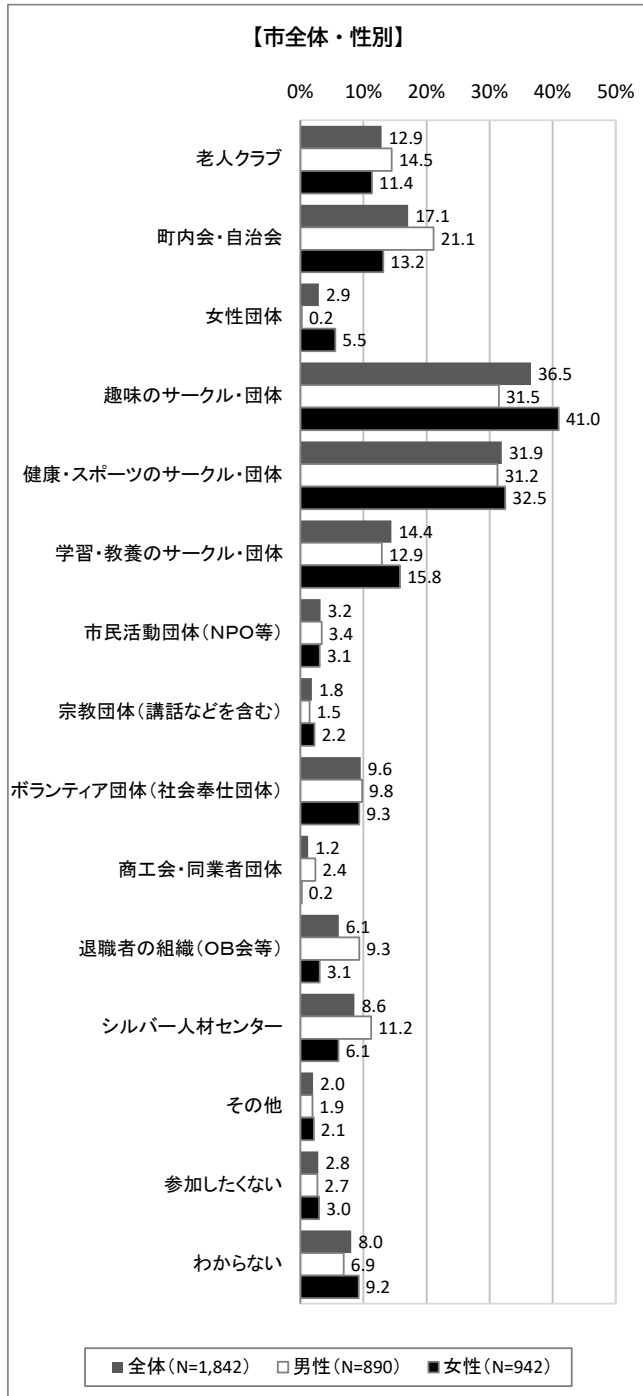
(2)において、「11. 活動・参加したいものはない」の方のみ

① あなたは、どのようなきっかけがあれば、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている活動に参加すると思いますか（いくつでも）

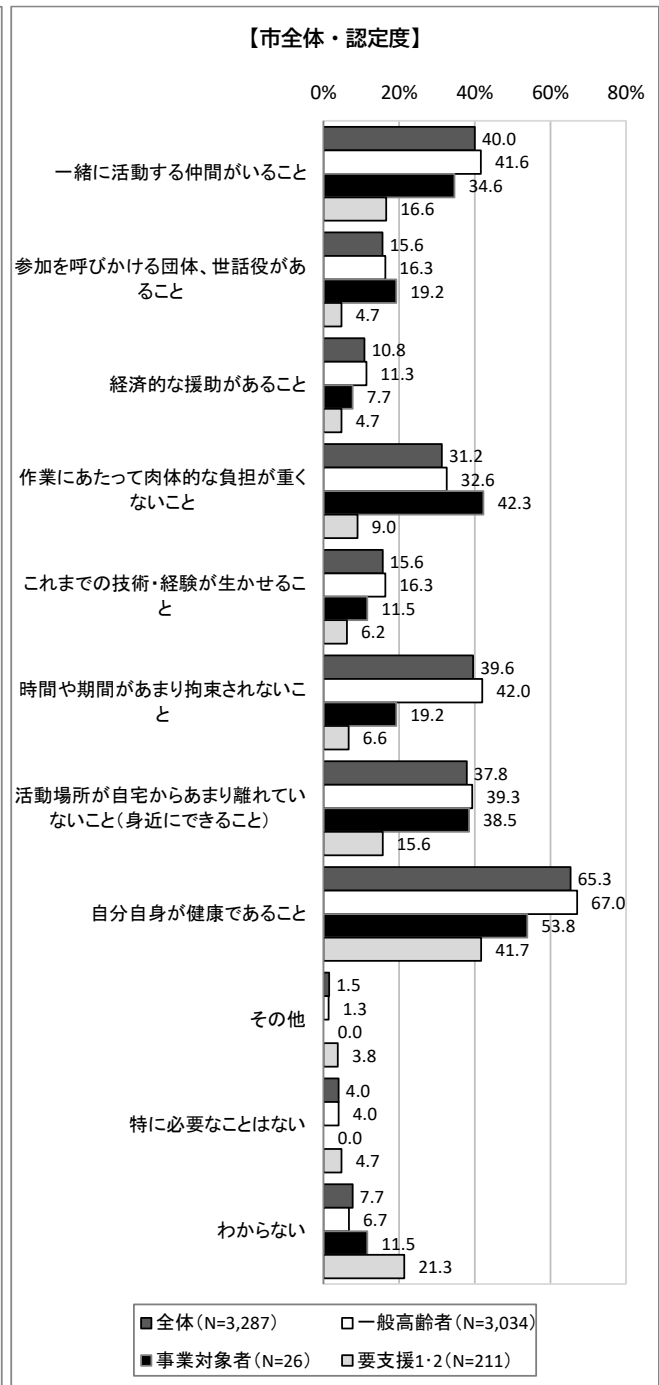
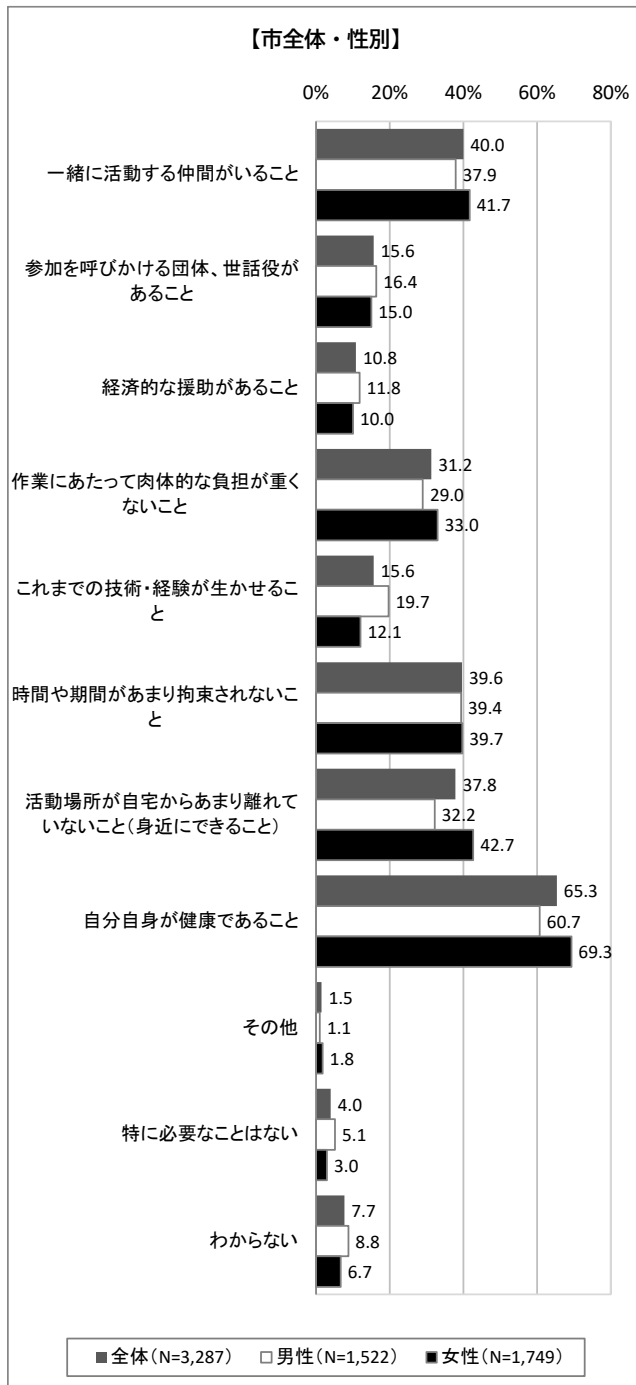


(2)において、「11. 活動・参加したいものはない」以外の方のみ

② あなたが、参加したい団体や組織がありますか (いくつでも)



(3) 地域の奉仕活動にあなたが実際に参加するには、どのような条件が必要だと思いますか
(いくつかでも)



令和4年度
糸島市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
調査結果報告書

発行年月 令和5年3月

発行：糸島市 健康福祉部 介護・高齢者支援課
〒819-1192 福岡県糸島市前原西一丁目1番1号

TEL：092-332-2070（直通）

FAX：092-321-1139